令 和 2 年 度 授 業 計 画

－幼 児 教 育 学 科－

岡山短期大学

幼児教育学科の教育方針

建学の精神「教育三綱領」

自律創生：道徳心を備えた実践的な行動力を修得する。

信念貫徹：目標を達成する継続的な学びと努力を実践する。

共存共栄：社会人の基礎力を修得し進んで世界の平和に貢献する。

教育理念

岡山短期大学の教育理念は、学生一人ひとりが強い信念をもち、それぞれが志した学習目標を達成し、本学で修得した知識、技能および免許・資格を活かした進路を確実に得、本学および社会の発展に寄与する人材を育てることである。そしてそのために、本学はアセスメント・ポリシーに基づく高等教育の質保証を図り、保育者養成の教育目標を達成することを使命とする。

教育目標

幼児教育施設（幼稚園、保育所、幼保連携型認定こども園）の現場で、幼児教育（環境を通して行う教育）とは何かを考え、「資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を意識し、保育指針の「乳児・１歳以上３歳未満児の保育」を理解し、乳児期の保育や子どもの育ちをとらえて、乳児期への学びの連続性を考えることができる保育者を養成する。

本学科の保育者養成の教育目標

①Society 5.0 時代の AI に代表される技術革新の進歩や IoT の広がり、世界のグローバル化や流動化など、日本社会や世界の状況の 20 年後の将来に対応できる力の基礎を育むことができる保育者を養成する。

②幼児教育において育みたい「資質・能力」の三つの柱「知識及び技能の基礎」・「思考力、判断力、表現力等の基礎」・「学びに向かう力、人間性等」を育成することのできる保育者を養成する。

③幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（１０の姿）「健康な心と体」「自立心」「協同性」「道徳性・規範意識の芽生え」「社会生活との関わり」「思考力の芽生え」「自然との関わり・生命尊重」「数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚」「言葉による伝え合い」「豊かな感性と表現」を育むことに向けて指導ができる保育者を養成する。

④すべての子どもが安心して過ごせるよう、子どもの気持ちに寄り添い、子どもの生活状況や実態に合わせて気持ちが前向きになるよう満たすような働きかける養護と幼児教育を一体的に展開するために、保育の実際を評価し保育を改善し続けることができる保育者を養成する。

更に、卒業後の目標として、次の、公務員となる公務員養成コース、及び Society 5.0

時代の保育者となるSociety 5.0保育者養成コースを設ける。

公務員養成コース

基礎教育科目の「公務員講座（A)」「公務員講座（B)」で公務員試験出題科目を集中的に学習すると共に、「卒業予備研究(B)」「卒業研究（A)」を通して集中的に公務員試験受験のための社会人基礎力を獲得し公務員試験に合格する。

Society 5.0保育者養成コース

基礎教育科目の「ソサエティ 5.0 理解」「情報処理基礎」「情報処理演習」「ICT リテラシー（A)」及び「ICTリテラシー（B)」の学習を通してSociety 5.0時代の保育者に必要な ICT 技術を修得すると共に、「卒業予備研究(B)」「卒業研究（A)」「卒業研究（B)」で「模擬保育室」「保育相談実践室」のSociety 5.0化を研究しSociety 5.0時代の保育者になる。

学生の学習成果

本学で学ぶ学生の卒業時の学習成果は、建学の精神「教育三綱領」の基に、自律した信念のある社会人となることである。

学科の専門学習では、Society 5.0時代の現場に即応する保育者（幼稚園教諭・保育士）になるため、学科の教育課程（基礎教育科目および専門教育科目）の学習をとおして、次の学習成果を獲得する。

Ⅰ．専門的学習成果

幼児教育施設（幼稚園、保育所、幼保連携型認定こども園）の現場で、幼児教育（環境を通して行う教育）とは何かを考え、「資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を意識し、保育指針の「乳児・１歳以上３歳未満児の保育」を理解し、乳児期の保育や子どもの育ちをとらえて、乳児期への学びの連続性を考えることができる能力を獲得する。

Ⅱ．汎用的学習成果

社会人として求められる態度、信念、意見、価値、コミュニケーション能力を獲得する。社会人としての責任を果たすために必要な倫理観や価値観、自己管理の能力を、また職業生活や社会生活で必要な情報リテラシーや数量的スキル、人との関わりに必要な論理的思考、自己表現、他者理解、問題解決の能力を獲得する。

卒業認定・学位授与の方針

学位：短期大学士（幼児教育学）

Society 5.0時代の現場に即応する保育者になるため、学科の教育課程（基礎教育科目および専門教育科目）の学習を通して科目の単位を修得し、学則に規定する卒業に必要な単位を修得した者に学位を授与する。

卒業認定の際に獲得していることを求める学習成果は次のとおりである。

Society 5.0時代の現場に即応できる保育者に求められる専門的学習成果と社会人・職業人として求められる汎用的学習成果を獲得している。

教育課程編成・実施の方針

卒業要件として学生が修得すべき単位数について、学生が1学期に履修科目として登録することができる単位数の上限を 30 単位とするため、基礎教育科目及び専門教育科目と合わせた単位の上限を 30 単位とし、可能な限り 25 単位に近づけるように科目を開講する。

専門教育科目の編成と実施

幼稚園教諭二種免許状取得に必要な科目と、保育士資格取得に必要なカリキュラムを編成する。

授業の実施は、専門的学習成果のみではなく汎用的学習成果をも獲得できるように実施する。

基礎教育科目の編成と実施

免許法施行規則の第６６条の６に定める科目と共に、卒業後、公務員となる公務員養成コース及びSociety 5.0時代の保育者となるSociety 5.0保育者養成コースに必要な授業科目を編成する。

意欲ある学生に対して図書館司書および社会教育主事任用資格を取得できる科目を編成し、実施する。

入学者受け入れの方針

本学に入学する人物には、次のような資質・能力を求める。

・自分のなりたい保育者像が明確である。

・子どもが好きで、心身ともに健康で、何事にも積極的である。

・幼稚園教諭免許と保育士資格の両方を取得し、卒業後保育者として就業する。

・本学での学習に必要な一定水準の学力を身に付けている。

・体育や図画工作、音楽が好きで、特にピアノについては、基礎技能を身に付けようと努力できる。

履修にあたって

必修科目……各学科の教育目標を達成する為に必ず履修しなければなりません。１科目でも不認定になると卒業できませんので、授業の教育目標・教育方法・単位認定基準をよく読んで、授業のアウトラインをつかんで履修して下さい。

選択必修科目……一定の授業科目群のなかから自分で履修する授業科目を選択することができますが、その授業科目群に定められた必修単位数は必ず修得しなければなりません。

選択科目……自分の目的にあわせて選択履修することができます。授業の内容をみて興味のある授業科目や、自分の希望する職業また取得したい資格に必要な知識、技術と照らしあわせながら選択して下さい。

カリキュラム表及び担当教員掲載頁一覧					
注 1)一般教育科目					
授業科目	必修	選択	計	担当教員名	職名
	注 2)	注 3)		注 4)	注 5)

注１）一般教育科目について具体的に自分の学年でどの授業科目がいつ開講されているかは、「学生 のしおり」の授業科目時間配当表を参照して下さい。

注２）単位数が記載されている科目は必修科目です。１単位でも落とすと卒業できません。又、２つ以 上の授業科目にわたって単位数が記載されている場合は、選択必修科目でその区分の選択科目のな かから、定められた必修単位数を修得しなければなりません。

注３）注２）に単位数の記載がない授業科目で、ここに単位数が記載されている科目は選択科目です。 各資格取得に必要な科目もありますので、詳しくは「学生のしおり」を参照して下さい。

注４）各授業科目の担当教員名とその授業科目のシラバス掲載頁を明記しています。一つの授業科目　を複数の教員が担当している場合もありますので、必ず時間割で自分のクラスの担当教員名を確認し て下さい。

注５）岡山学院大学の教員、非常勤の教員は職名の後に（兼）と記載してあります。

カリキュラム表及び担当教員掲載頁一覧

基礎教育科目

授業科目	必修	選択	計	担当教員名	職名	掲載頁	備考
ソサエティ5.0理解		2	2	尾崎　聡	教　授	Ⅰ－1	
倉敷学		2	2	尾崎　聡	教　授	Ⅰ－6	
グローバル研修		1	1	原田　博史 都田　修兵	教　授 講　師		
文学		2	2	開講せず			
国際文化史		2	2	開講せず			
日本国憲法		2	2	近　勝彦	教　授（兼）	Ⅰ－10	
社会学		2	2	開講せず			
経済学		2	2	開講せず			
教育学		2	2	開講せず			
心理学		2	2	開講せず			
統計学		2	2	開講せず			
環境保全学		2	2	開講せず			
基礎数学		2	2	開講せず			
物理学		2	2	開講せず			
化学		2	2	開講せず			
生物学		2	2	開講せず			
生理学	１０	2	2	開講せず			
情報処理基礎		2	2	原田　俊孝	講　師	Ⅰ－14	
情報処理演習		1	1	原田　俊孝	講　師	Ⅰ－20	
ICTリテラシー（Ａ）		1	1	原田　俊孝	講　師	Ⅰ－23	
ICTリテラシー（Ｂ）		1	1	原田　俊孝	講　師	Ⅰ－29	
キャリアガイダンス		2	2	尾崎　聡 浦上　博文 都田　修兵	教　授 教　授 講　師	Ⅰ－34	
英語（Ａ）		1	1	濵田佐保子	教　授	Ⅰ－38	
英語（Ｂ）		1	1	濵田佐保子	教　授	Ⅰ－42	
体育実技		1	1	吉田　升	助　教	Ⅰ－46	
体育理論		1	1	吉田　升	助　教	Ⅰ－49	
基礎音楽		1	1	大羽　敬子	講　師（兼）	Ⅰ－51	
公務員講座（Ａ）		1	1	学科教員		Ⅰ－55	
公務員講座（Ｂ）		1	1	学科教員		Ⅰ－60	
ボランティア活動(A)		1	1	開講せず			
ボランティア活動(B)		1	1	開講せず			
クラブ活動(A)		1	1	学科教員			

ク　ラ　ブ　活　動(B)		1	1	学科教員			
保　育　者　基　礎　演　習		2	2	浦上　博文	教　授	Ⅰ－65	
合　　計	１０	２５	２５				

専門教育科目							
授業科目	必修	選択	計	担当教員名	職名	掲載頁	備考
教育心理学	2		2	大賀　恵子	教　授	Ⅱ－1	
特別支援の方法と理解		1	1	鈴木　久子 大賀　恵子	教　授 教　授	Ⅱ－6	
発達心理学Ⅰ		2	2	大賀　恵子	教　授	Ⅱ－11	
発達心理学Ⅱ		2	2	開講せず			
発達心理学Ⅲ		2	2	開講せず			
臨床心理学（Ａ）		1	1	鈴木　久子	教　授	Ⅱ－16	
臨床心理学（Ｂ）		1	1	開講せず			
社会心理学		2	2	鈴木　久子	教　授	Ⅱ－19	
教師論		2	2	都田　修兵	講　師	Ⅱ－23	
教育原理	2		2	都田　修兵	講　師	Ⅱ－30	
教育制度論		2	2	都田　修兵	講　師	Ⅱ－37	
幼児理解及び保育相談		2	2	大賀　恵子	教　授	Ⅱ－44	
事前・事後指導		1	1	都田　修兵	講　師	Ⅱ－49	
幼稚園教育実習		4	4	都田　修兵	講　師		
教職実践演習（幼稚園）		2	2	浦上　博文 鈴木　久子 都田　修兵	教　授 教　授 講　師	Ⅱ－52	
社会福祉		2	2	松尾　冀	教　授（兼）	Ⅱ－55	
子ども家庭支援論		2	2	大賀　恵子	教　授	Ⅱ－59	
子育て支援		1	1	大賀　恵子	教　授	Ⅱ－64	
子ども家庭福祉		2	2	松尾　冀	教　授（兼）	Ⅱ－69	
保育者論	2		2	都田　修兵	講　師	Ⅱ－72	
保育原理Ⅰ	2		2	都田　修兵	講　師	Ⅱ－78	
保育原理Ⅱ		2	2	都田　修兵	講　師	Ⅱ－85	
乳児保育Ⅰ		2	2	山本婦佐江	准教授	Ⅱ－91	
乳児保育Ⅱ		1	1	山本婦佐江	准教授	Ⅱ－95	
社会的養護Ⅰ		2	2	新田　満穂	教　授(兼)	Ⅱ－99	
障害児保育		2	2	鈴木　久子	教　授	Ⅱ－102	
社会的養護Ⅱ		1	1	新田　満穂	教　授(兼)	Ⅱ－106	
保育実践演習		2	2	大賀　恵子 山本婦佐江	教　授 准教授	Ⅱ－109	
保育実習Ⅰ		4	4	大賀　恵子 山本婦佐江	教　授 准教授		
保育実習指導Ⅰ		2	2	大賀　恵子 山本婦佐江 濵田佐保子	教　授 准教授 教　授	Ⅱ－112	
保育実習Ⅱ		2	2	濵田佐保子	教　授		

保育実習指導Ⅱ		1	1	大賀　恵子 山本婦佐江 濵田佐保子	教　授 准教授 教　授	Ⅱ－115	
子どもの保健		2	2	野々上敬子	准教授（兼）	Ⅱ－118	
子どもの健康と安全		1	1	野々上敬子	准教授（兼）	Ⅱ－120	
子どもの食と栄養		2	2	高槻　悦子	准教授（兼）	Ⅱ－122	
保育内容総論	1		1	福野　裕美	准教授（兼）	Ⅱ－125	
教育課程論及び教育方法・技術論	2		2	都田　修兵 山本婦佐江 原田　俊孝 福野　裕美	講　師 准教授 講　師 准教授（兼）	Ⅱ－130	
幼児と健康	1		1	吉田　升	助　教	Ⅱ－137	
「幼児と健康」の指導法	2		2	吉田　升	助　教	Ⅱ－141	
幼児と人間関係	1		1	尾崎　聡	教　授	Ⅱ－145	
「幼児と人間関係」の指導法	2		2	尾崎　聡	教　授	Ⅱ－150	
幼児と環境	1		1	鈴木　久子	教　授	Ⅱ－156	
「幼児と環境」の指導法	2		2	鈴木　久子	教　授	Ⅱ－160	
幼児と言葉	1		1	浦上　博文	教　授	Ⅱ－164	
「幼児と言葉」の指導法	2		2	浦上　博文	教　授	Ⅱ－169	
幼児と表現Ⅰ	1		1	吉田　升	助　教	Ⅱ－174	
「幼児と表現Ⅰ」の指導法	1		1	吉田　升	助　教	Ⅱ－178	
幼児と表現Ⅱ	1		1	関野　智子	准教授	Ⅱ－182	
「幼児と表現Ⅱ」の指導法	1		1	関野　智子	准教授	Ⅱ－187	
幼児と音楽Ⅰ（Ａ）		1	1	白神　厚子 河原　真理 荒木　淳子 門田　晶子	教　授 講　師（兼） 講　師（兼） 講　師（兼）	Ⅱ－193	
幼児と音楽Ⅰ（Ｂ）		1	1	白神　厚子 河原　真理 荒木　淳子 門田　晶子	教　授 講　師（兼） 講　師（兼） 講　師（兼）	Ⅱ－197	
幼児と音楽Ⅰ（Ｃ）	1		1	白神　厚子 河原　真理 荒木　淳子 門田　晶子	教　授 講　師（兼） 講　師（兼） 講　師（兼）	Ⅱ－201	
幼児と音楽Ⅰ（Ｄ）	1		1	白神　厚子 河原　真理 荒木　淳子 門田　晶子	教　授 講　師（兼） 講　師（兼） 講　師（兼）	Ⅱ－205	
幼児と音楽Ⅱ（Ａ）	1		1	大羽　敬子	講　師（兼）	Ⅱ－209	
幼児と音楽Ⅱ（Ｂ）		1	1	大羽　敬子	講　師（兼）	Ⅱ－213	
幼児と体育（Ａ）	1		1	吉田　升	助　教	Ⅱ－217	
幼児と体育（Ｂ）	1		1	吉田　升	助　教	Ⅱ－220	

幼児と図画工作	1		1	関野　智子	准教授	Ⅱ－223	
図画特修（Ａ）		1	1	開講せず			
図画特修（Ｂ）		1	1	開講せず			
児童文学		2	2	開講せず			
児童文化		2	2	尾崎　聡	教　授	Ⅱ－229	
卒業予備研究（Ａ）		1	1	開講せず			
卒業予備研究（Ｂ）		1	1	学科教員			
卒業研究（Ａ）		1	1	学科教員			
卒業研究（Ｂ）		1	1	学科教員			
合計	３２	７１	１０３				

<table>
<tr><td colspan="8">令　和　２　年　度　教　育　計　画</td></tr>
<tr><td>科目名</td><td>ソサエティ 5.0 理解</td><td>授業回数</td><td>15</td><td>単位数</td><td>2</td><td>担当教員</td><td>尾崎聡</td></tr>
<tr><td colspan="8">質問受付の方法：e-mail は osaki@owc.ac.jp、オフィスアワーは研究室（B308）0910～1040</td></tr>
<tr><td>教育目標と学生の学習成果</td><td colspan="7">【教育目標】
① 来るべきソサエティ 5.0（超スマート社会）の概要と特色を理解する。ソサエティ 5.0 とは我が国が目指すべき未来社会の姿である。コンピュータが作り出すシミュレートされたサイバー空間（仮想世界）と目の前の生々しいフィジカル空間（現実世界）が遊離するのでなく社会全体で上手に融合し、膨大な知的情報に基づいて生産や生活が営まれるので時間や労力の無駄がなく、長年の社会的課題（少子高齢化、地方の過疎化、経済的格差）が次々に解決され、倫理や道徳がしっかりしているので犯罪が無くなり、人間性が最重視される社会である。例えば現在でも家電製品、建物、乗り物、おもちゃなど日常的なものから、医療や介護の用具から兵器に至る特殊なものまで、あらゆるものに AI が搭載され、それらがつながり、集中的に管理されている。次なる数十年後の我々人間はどのような生活を営み、どのような人生を送るようになっているのか、次世代を担う子ども達にはどのような影響があり、保育者はどのような環境設定や教育をすればよいのか等についても考察し、将来の役に立てる。
② 人間とは何か、人間に求められる倫理や道徳は何かについて知り、じっくりと繰り返し考え、大学生として必要な初歩的な教養形成をはかる。

【学生の学習成果】
専門的学習成果：将来、仕事をしながら生きていくのに必要な「課題発見力、解決力、コミュニケーション力」を身に付ける。
汎用的学習成果：仕事だけでなく、社会生活、家庭生活も含めた人生の営み全体に必要な「態度・信念・意見」と教養を身に付ける。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">教育方法</td><td>授業の進め方</td><td colspan="6">（講義・演習・実験・実習・実技）
担当教員が準備し、進行させていく講義である。受講生の専門領域を配慮して授業のラインナップを構成し、題材を準備する。授業中は対話という双方向的要素も取り入れて受講生の頭脳を活性化させながら進めていく。</td></tr>
<tr><td>予習・復習</td><td colspan="6">1 回の授業に対して予習・復習が義務付けられる。学問の性格上、簡単には正解にたどりつけない。ゆっくり考えて良いし、何回も考え直してよい。</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="6">特にテキストは指定しないが、毎回参考資料をプリントで配布する。</td></tr>
</table>

学習評価の方法	【達成基準】 ①来るべきソサエティ5.0（超スマート社会）の概要と特色、今後数十年間の人類の生活や人間の生き方、加えて次世代を担う子ども達への影響や保育者としての役割について理解している。(筆記試験の50%) ②人類とは何か、人間とは何か、人間に求められる倫理や道徳は何かについて知り、じっくりと繰り返し省察出来ており、大学生として必要な初歩的な教養が形成されている。（筆記試験の50%） 以上を筆記試験において証明すること。 【評価方法】 ・専門的学習成果 筆記試験：授業領域に関する用語や事例の説明および数百字の論述を課する（70%） シャトルカード：授業領域等への興味・関心、理解について評価に入れる（30%） ・汎用的学習成果 授業態度を評価する。但し、半期における人間的成長についても配慮する。
注意事項	参考図書は古今東西の名著から毎回指示する
授業回数別教育内容	
1回	■講義内容：ソサエティ5.0とは何か ■作業：①ソサエティ（Society）5.0の言葉の意味と実例を検索してみよう。 ②親しみを感じる具体例を書き出してみよう。(例）IoT（Internet of Things　様々なモノがインターネットに接続され、その結果、モノがインターネットのようにつながる)、AI(Artficial Intelligence 人工知能)、ロボット（robot 人に代わって労働する機械） ■考察：ソサエティ5.0の善い面（期待できることなど）と悪い面（心配なことなど）を考えてみよう。(例）身代わりロボット（自分の代わりに学校に行ってくれる→自分の代わりにコンサートに行っといてくれる→自分の代わりにデートしておいてくれる…） ■復習（幼児教育・保育とのかかわり）：ソサエティ 5.0 が解決する保育問題をスマホで調べてノートに書き挙げておく。 ■次回予習：スマホで次回の講義内容を検索してキーワードを３つノートに書き挙げておく。
2回	■講義内容：ソサエティ5.0前史　4.0情報社会 ■作業：①情報社会の意味と実例を検索してみよう ②親しみを感じる具体例を書き出してみよう。(例）インターネット、掲示板、ブログ、SNS、オフ会、ネットゲーム、コントローラー（左右の６本指を自由に操る子供たち） ■考察：情報社会の善い面（期待できることなど）と悪い面（心配なことなど）を考えてみよう。（例）ユートピア的情報社会、サイバーパンク、ネット予約 ■復習（幼児教育・保育とのかかわり）：情報社会が解決する保育問題をスマホで調べてノートに書き挙げておく。 ■次回予習：スマホで次回の講義内容を検索してキーワードを３つノートに書き挙げておく。
3回	■講義内容：ロボット、無人ロボット・支援ロボット→労働環境改善と危険回避 ■作業：①ロボット（robot）の言葉の意味と実例を検索してみよう ②親しみを感じる具体例を書き出してみよう。(例）ロボット（人に代わって労働するタイプ、人間が働かなくてもよい)、アンドロイド（容姿を誰かにそっくりに作っているタイプ、死んだ人の代わり)、オートマタ（自動人形、自分の意思はないタイプ、外形は重視)。 ■考察： ロボットの善い面（期待できることなど）と悪い面（心配なことなど）を考えてみよう。(例)介護支援ロボット、保育支援ロボット、ロボット兵士 ■復習（幼児教育・保育とのかかわり）：ロボットが解決する保育問題をスマホで調べてノートに書き挙げておく。 ■次回予習：スマホで次回の講義内容を検索してキーワードを３つノートに書き挙げておく。

4 回	■講義内容： AI(人工知能)　情報分析の負担軽減 ■作業：①AI（Artficial Intelligence）の言葉の意味と実例を検索してみよう ②親しみを感じる具体例を書き出してみよう。(例）お掃除ロボット（ルンバ)、自動運転、Siri（Speech Interpretation and Recognition Interface)、感情のあるロボット Pepper(ペッパー)、将棋 AI（PONANZA) ■考察： AI の善い面（期待できることなど）と悪い面（心配なことなど）を考えてみよう。 ■復習（幼児教育・保育とのかかわり)：AI が解決する保育問題をスマホで調べてノートに書き挙げておく。 ■次回予習：スマホで次回の講義内容を検索してキーワードを３つノートに書き挙げておく。
5 回	■講義内容： IoT（Internet of Things)　情報・知識の共有 ■作業：①IoT の言葉の意味と実例を検索してみよう ②親しみを感じる具体例を書き出してみよう。(例）自動操縦、自動車のインターネット化、旅先からスマホで遠隔操作できる猫トイレ…、 ■考察：IoT の善い面（期待できることなど）と悪い面（心配なことなど）を考えてみよう。 （例）旅先からスマホで家の中をモニタリングする、子どもや認知症高齢者の現在地や行動履歴を常時監視できる GPS アイテム、子ども・家族…ペット…恋人の常時監視 ■復習（幼児教育・保育とのかかわり)：IoT が解決する保育問題をスマホで調べてノートに書き挙げておく。(例）インターネットに繋がった布団（睡眠把握） ■次回予習：スマホで次回の講義内容を検索してキーワードを３つノートに書き挙げておく。
6 回	■講義内容：Maas(次世代交通サービス)、CASE（コネクティッド・自動運転・シェアリング・電動化)、 ■作業：①CASE(Connected・Automated・Shared・Electric)や MaaS（Mobility as a Service）の言葉の意味と実例を検索してみよう ②親しみを感じる具体例を書き出してみよう。(例）自動操縦、自動車のインターネット化、旅先からスマホで遠隔操作できる猫トイレ ■考察：CASE や MaaS の善い面（期待できることなど）と悪い面（心配なことなど）を考えてみよう。例①車を所有しないで都市生活・田舎生活（スマホ決済）　例②財布を持たずスマホひとつで旅行　例③高齢者がスマホひとつでドア・ツー・ドアの通院 ■復習（幼児教育・保育とのかかわり)：CASE や MaaS が解決する保育問題をスマホで調べてノートに書き挙げておく。(例）インターネットに繋がった布団（睡眠把握） ■次回予習：スマホで次回の講義内容を検索してキーワードを３つノートに書き挙げておく。
7 回	■講義内容： VR（Virtual　Reality)　医療支援 VR ソフト「オザイリクス」(Osirix）内臓を３D で表現し医師・看護師・技術者でイメージ共有、手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」(VR ソフトと組み合わせてミリ以下の手術、GPS で臓器の裏側まで把握) ■作業：①VR の言葉の意味と実例を検索してみよう ②親しみを感じる具体例を書き出してみよう。(例）観光客誘致、名古屋城問題、「お城の天守閣を木造復元するのがよいか、スマホをかざして VR で出現させて、戦場体験までできるのがよいか」 ■考察：VR の善い面（期待できることなど）と悪い面（心配なことなど）を考えてみよう。 （例）３D 画像を使った手術支援ロボット（ダ・ヴィンチ)、ゲーム依存、引きこもり ■復習（幼児教育・保育とのかかわり)：VR が解決する保育問題をスマホで調べてノートに書き挙げておく。 ■次回予習：スマホで次回の講義内容を検索してキーワードを３つノートに書き挙げておく。

8 回	■講義内容：ドローン（drone 蜂)、輸送物流効率化と地域格差是正、GPS ■作業：①ドローンという言葉の意味と実例を検索してみよう ②親しみを感じる具体例を書き出してみよう。(例）トイドローン、ドローン芸人、宅配ドローン、『スローな武士にしてくれ』(ＮＨＫのクローンスタッフが４Ｋスーパースローカメラを搭載したドローンで撮影する) ■考察：ドローンの善い面（期待できることなど）と悪い面（心配なことなど）を考えてみよう。（例）災害救助ドローン、医療ドローン、殺人ドローン、無人戦闘航空機、観光ドローン ■復習（幼児教育・保育とのかかわり）：ドローンが解決する保育問題をスマホで調べてノートに書き挙げておく。 ■次回予習：スマホで次回の講義内容を検索してキーワードを３つノートに書き挙げておく。
9 回	■講義内容：ビッグデータ、(例）携帯電話位置情報から地域住民の動きを把握（コロナウィルス感染対策）→都市封鎖、購入履歴・閲覧履歴→購入提案（刻々と入ってくる商品情報→あなたはこの商品を買うべき！)、信用調査（瞬時にカード作成)、クラウドからのデータ入手、 ■作業：①ビッグデータ言葉の意味と実例を検索してみよう ②親しみを感じる具体例を書き出してみよう。(例）PASMO、Suica、ICOCA、ドライブカメラ ■考察：ビッグデータの善い面（期待できることなど）と悪い面（心配なことなど）を考えてみよう。(例）マイナンバー、若者定住、 ■復習（幼児教育・保育とのかかわり）：ビッグデータが解決する保育問題をスマホで調べてノートに書き挙げておく。 ■次回予習：スマホで次回の講義内容を検索してキーワードを３つノートに書き挙げておく。
10 回	■講義内容：ウェアラブル、モニタリング ■作業：①ウェアラブル言葉の意味と実例を検索してみよう ②親しみを感じる具体例を書き出してみよう。(例）スマートウォッチ、GPS 内蔵の学生服、服のディスプレイ化、ウェアラブル端末 Moff Band ■考察： ウェアラブル、モニタリングの善い面（期待できることなど）と悪い面（心配なことなど）を考えてみよう。(例）ウェアラブル健康管理アイテム、子どもや恋人の常時監視 ■復習（幼児教育・保育とのかかわり）：ウェアラブル、モニタリングが解決する保育問題をスマホで調べてノートに書き挙げておく。 ■次回予習：スマホで次回の講義内容を検索してキーワードを３つノートに書き挙げておく。
11 回	■講義内容：在宅勤務 ■作業：①在宅勤務の言葉の意味と実例を検索してみよう ②親しみを感じる具体例を書き出してみよう。(例）新海作品『秒速 5 センチメートル』の主人公（心を病んだあと、在宅勤務) ■考察：在宅勤務の善い面（期待できることなど）と悪い面（心配なことなど）を考えてみよう。 ■復習（幼児教育・保育とのかかわり）：在宅勤務が解決する保育問題をスマホで調べてノートに書き挙げておく。 ■次回予習：スマホで次回の講義内容を検索してキーワードを３つノートに書き挙げておく。
12 回	■講義内容：超スマート社会、“スマートな” ■作業：①“スマート”という言葉の意味と実例を検索してみよう。賢い、おしゃれ、ハイテクな、精密で高感度な、情報処理機能を持った、高度に知的な ②親しみを感じる具体例を書き出してみよう。(例）スマートフォン、スマートウォッチ、 ■考察：スマートの善い面（期待できることなど）と悪い面（心配なことなど）を考えてみよう。（例） ■復習（幼児教育・保育とのかかわり）：スマートにが解決する保育問題をスマホで調べてノートに書き挙げておく。 ■次回予習：スマホで次回の講義内容を検索してキーワードを３つノートに書き挙げておく。

13回	■講義内容：地域創生、地域連携とソサエティ 5.0 ■作業：①“地域創生”“地域連携”という言葉の意味と実例を検索してみよう。 ②親しみを感じる具体例を書き出してみよう。（例）過疎、過密、『ポツンと一軒家』、スラム街、田舎生活、山村留学、『人生の楽園』、『ドキュメント 72 時間』 ■考察：地域創生、地域連携の善い面（期待できることなど）と悪い面（心配なことなど）を考えてみよう。（例） ■復習（幼児教育・保育とのかかわり）：地域創生、地域連携が解決する保育問題をスマホで調べてノートに書き挙げておく。 ■次回予習：スマホで次回の講義内容を検索してキーワードを３つノートに書き挙げておく。
14回	■講義内容：倫理と道徳、倫理学（善・悪の学）、道徳論 ■作業：①法、倫理、道徳を検索してみよう ②親しみを感じる具体例を書き出してみよう。（例）犯罪、「赤信号みんなで渡れば怖くない」、チケット転売、文春砲、 ■考察：倫理の善い面（期待できることなど）と悪い面（心配なことなど）を考えてみよう。（例）抑圧、フロイトの幼児道徳論 ■復習（幼児教育・保育とのかかわり）：法、倫理、道徳（良い・悪い、本当・うそ、きれい・汚い）が解決する保育問題をスマホで調べてノートに書き挙げておく。 ■次回予習：スマホで次回の講義内容を検索してキーワードを３つノートに書き挙げておく。
15回	■講義内容：人類学（人間と猿）と人間学（人間と神）、ソサエティ 5.0 と人間存在について　（例）ソサエティ 5.0 時代の文学・音楽・映画、AI が創造して AI が鑑賞する、すなわち人間は万物を創造だけでよい神になるのか ■作業：①類人猿、ヒト、ホモ・サピエンス、現生人類、人間、神を検索してみよう ②興味を感じる具体例を書き出してみよう。 ■考察：人類や人間が行ったり発明してきた善と悪について考えてみよう。（例）技術開発、環境破壊、兵器の発明、文芸の創造、単なる生殖でなく愛という価値の創造、 ■復習（幼児教育・保育とのかかわり）：保育内容で人間性が解決する保育問題をスマホで調べてノートに書き挙げておく。

<table>
<tr><td colspan="8">令　和　２　年　度　教　育　計　画</td></tr>
<tr><td>科目名</td><td>倉敷学</td><td>授業回数</td><td>15</td><td>単位数</td><td>2</td><td>担当教員</td><td>尾崎聡</td></tr>
<tr><td colspan="8">質問受付の方法：e-mail は osaki@owc.ac.jp、オフィスアワーは研究室（B308）0910～1040</td></tr>
<tr><td>教育目標と学生の学習成果</td><td colspan="7">【教育目標】
　大学・短大の立地する倉敷の各地域、社会、歴史、生活、産業について、その概要と特色を理解する。加えて過去の考察と未来予測をして、分析力と思考力とを身につける。さらに郷土愛を育む。倉敷は山・川・海・平野などの自然や陸海の交通に恵まれ、商工農水産業が揃って発達し、歴史・文化・芸術の伝統が継承され、教育や福祉が充実して子育てのしやすい町といわれている。実地の教材に関しても高梁川流域の生活や瀬戸大橋、水島工業地帯、アイビースクエア、ジーンズストリート、桃やマスカットなどフルーツ農園、むかし下津井回船問屋、美観地区、大原美術館、旧倉敷幼稚園舎、語らい座大原本邸など豊富であり、大学・短大時代に倉敷で学んで教養豊かな人間になることを目指す。
【学生の学習成果】
専門的学習成果：地域の歴史、文化、生活、産業などについて教師としての教養を身に着けること
汎用的学習成果：郷土愛のある人間になること</td></tr>
<tr><td rowspan="3">教育方法</td><td>授業の進め方</td><td colspan="6">（講義・演習・実験・実習・実技）
担当教員が準備し、進行させていく講義であるが、実地も取り入れたい。授業中は対話という双方向性的も取り入れて受講生の頭脳を活性化させながら進めていく。</td></tr>
<tr><td>予習・復習</td><td colspan="6">1 回の授業に対して予習・復習が義務付けられる。予習・復習・課題の成果は授業内容などに関する感想をシャトルカードに記述することとする。予習と復習のウェイトは変化しても構わない。</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="6">特にテキストは指定しないが、毎回参考資料をプリントで配布する。</td></tr>
<tr><td>学習評価の方法</td><td colspan="7">【達成基準】
・大学・短大の立地する倉敷の各地域、社会、歴史、生活、産業について、その概要と特色について理解している。（筆記試験の 50%）
・郷土愛が育っていること。自分が生まれ育った地域、青春時代に過ごした地域、大人になって働き、家族をつくり、終の棲家になる地域、友人の住んでいる地域、すべての地域に関する関心を育てる。（筆記試験の 50%）
以上を筆記試験において証明すること。
【評価方法】
・専門的学習成果
筆記試験：授業領域に関する用語や事例の説明および数百字の論述を課する（70%）
シャトルカード：授業領域等への興味・関心、理解について評価に入れる（30%）
・汎用的学習成果
授業態度を評価する。但し、半期の人間的成長も加味する。</td></tr>
<tr><td>注意事項</td><td colspan="7">参考図書は折にふれて指示する</td></tr>
</table>

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	■ガイダンス：教育目標、教育方法、単位認定、半期の講義計画について予告し、受講者と合意する。 ■講義内容：倉敷学の概要と郷土愛の大切さについて知る ■予習：倉敷の人口について調べてくる ■（倉敷の過去と未来予測）倉敷ほどの都市でも将来は人口減少に苦しみ、貧困化するのか。 ■作業:スマホで倉敷の人口など数字で見た倉敷を検索してみる。世界における倉敷の位置、日本における倉敷の位置について考える。 ■復習：各自が自分の郷土について、思いつく事柄や言葉をノートに書きあげる。例えば名産品など単語の羅列でもよい。
2 回	■講義内容：倉敷の位置と地勢（北は総社、南は瀬戸内海、東は岡山・早島・玉野、西は矢掛・浅口。高梁川と瀬戸内海と山・丘陵と平野・干拓地） ■予習：倉敷の中で面白そうな地域や場所を調べてきて、本日のシャトルカードに報告する ■（倉敷の過去と未来予測）倉敷最強のパワースポット由加山はどのようにしてできたのか。倉敷のパワースポットはどのように移っていくのか。 ■作業：スマホの“画像”で倉敷の自然や人工的風景（国立公園鷲羽山、新幹線スペースも確保している瀬戸大橋、デートスポット水島臨海工業地帯夜景など）を検索してみる。動画でもよい『峠（TOUGE）vol.38』など。 ■復習：倉敷の地域の中から、例えば遠足で子どもを連れて行ってみたい地域や場所を整理してノートにまとめる
3	■講義内容：倉敷の名所（名勝・旧蹟から“聖地”や隠れ家まで） ■予習：倉敷の“聖地”パワースポットがどこどこにあるのかを調べてきて、本日のシャトルカードに報告する ■（倉敷の過去と未来予測）倉敷市が聖地化を狙った『ひるね姫』は成功したのか。最近では『推し武道』にも倉敷の各所が登場している。倉敷の名所はどうなっていくのか。 ■復習：倉敷の山川海などの中から例えば遠足で子どもを連れて行ってみたいものを整理してノートにまとめる。
4	■講義内容：倉敷の産物（農林水産物から工業製品まで） ■予習：刀剣乱舞にも登場する倉敷ゆかりの青江の名刀“狐ヶ崎為次”を調べてきて、本日のシャトルカードに報告する。 ■（倉敷の過去と未来予測）青江の名刀・倉敷紡績・倉敷イオンとなぜ高梁川河口部が繁栄したか（鉄と薪と川と港）。新産業都市の中でなぜ水島工業地帯だけが残ったか。 ■作業：授業内で指示する ■復習：倉敷の産物で子どもを連れて見学してみたいものを整理してノートにまとめる
5	■講義内容：倉敷の文化と芸術（大原美術館と倉敷考古館と倉敷民藝館） ■予習：大原美術館にはどんな所蔵物があるのかを調べてきて、本日のシャトルカードに報告する。 ■（倉敷の過去と未来予測）なぜ倉敷のような地方都市に世界の名品が集まった（大原美術館）のか。倉敷美観地区の美術館や博物館は素通りされてしまう施設になっていくのか。 ■作業：授業内で指示する ■復習：倉敷の文化（民芸でもよい）や芸術（音楽でもよい）の中で子どもを連れて見学してみたいものを整理してノートにまとめる
6	■講義内容：倉敷の文化財　日本遺産　桃太郎編　（面白題材）桃太郎とうらじゃ ■予習：桃太郎の故郷は何県なのかを調べてきてシャトルカードに報告する ■（倉敷の過去と未来予測）：授業内で指示する ■作業：授業内で指示する ■復習：倉敷の文化財の中で子どもを連れて遠足などで見学してみたいものを整理してノートにまとめる

7	■講義内容：倉敷の衣食住　食道楽編①　（面白題材）エビ・ままかり・さわら、海の幸とばら寿司、魚介ラーメン ■予習：ばら寿司の上に乗っているネタはどんなものなのかを調べてきてシャトルカードに報告する。 ■（倉敷の過去と未来予測）：授業内で指示する ■作業：授業内で指示する ■復習：倉敷の行事食を給食に取り入れるとしたら何がよいかをまとめてノートに報告する
8	■講義内容：倉敷の歴史文化とくらし（村の生活・干拓地の生活） ■予習：干拓地とはどのようなものかを調べてきて、本日のシャトルカードに報告する。 ■（倉敷の過去と未来予測）：授業内で指示する ■作業：授業内で指示する ■復習：村の生活（地元でもよい）を子どもと見学するならどのような学習にしたいか調べてノートにまとめる。
9	■講義内容：倉敷の歴史文化とくらし（高梁川流域の生活） ■予習：Google Map で高梁川の奥地にはどのような町や村があるのかを調べてきて、本日のシャトルカードに報告する。町や村の名前でよい。動画でもよい『峠（TOUGE）vol.39』など。 ■（倉敷の過去と未来予測）：授業内で指示する ■作業：授業内で指示する ■復習：大きな川の流域（地元でもよい）を子どもと見学するならどのような学習にしたいか調べてノートにまとめる。
10回	■講義内容：倉敷の歴史文化とくらし（瀬戸内海の生活） ■予習：海辺の生活で興味のあるスポットを調べてきてシャトルカードに書く ■（倉敷の過去と未来予測）：授業内で指示する ■作業：授業内で指示する ■遠足などで子どもと海辺の地域（地元でもよい）に行く場合、どのような学習にしたいかを考えてノートに書いてみよう。
11回	■講義内容：倉敷の災害の歴史　（題材）完全水没しない水屋構造の家々（大学周辺の古い農家） ■予習：日本各地における近年の災害をひとつ取り上げて調べてシャトルカードに書く ■（倉敷の過去と未来予測）：授業内で指示する ■作業：授業内で指示する ■復習：倉敷に住む場合、どのような災害に気を付けたらよいかまとめて、ノートに書く。
12	■講義内容：倉敷の経済と産業　繊維編　（面白題材）国産ジーンズ第１号 ■予習：ジーンズ生地であるデニムとはどのようなものかを調べてきてシャトルカードに報告する。 ■（倉敷の過去と未来予測）：授業内で指示する ■作業：授業内で指示する ■復習：倉敷デニムはどのようにして生まれたのかを整理してノートにまとめる。
13	■9 回・10 回連続 ■授業内容：実地見学。ジーンズミュージアム（またはジーンズストリート）見学 公共の交通機関でジーンズの故郷児島へ行って、繊維業界でも再び注目されている商品ジーンズについて勉強する。 ■予習：ジーンズのどこに注目するかひとつ考えてくる。後日シャトルカードに書く。
14	■9 回・10 回連続 ■授業内容：実物の国産ジーンズ第１号（将来、国宝になるかもしれない）を見る。付加価値を作り、売れ行きを回復させた秘訣である「ユーズド加工技術」を見る。 ■復習：本日見学した中で発見したことをノートに書いておく。

15 回	■講義内容：倉敷の暮らしと祭り（茶屋町の鬼、うらじゃ、素隠居、だんじり） ■予習： 倉敷のまつりで興味のあるものをひとつ選んで調べてきてシャトルカードに書く ■（倉敷の過去と未来予測）：授業内で指示する ■作業：授業内で指示する ■復習：祭り（地元のものでもよい）を保育所や幼稚園に呼ぶとしたら、何が良いかを考えてノートに書く ■まとめとテストについて

令　和　２　年　度　教　育　計　画							
科目名	日本国憲法	授業回数	15	単位数	2	担当教員	近　勝彦
質問受付：毎月曜日午後４時１０分―午後５時						e-mail： dark-blue@star.nifty.jp	

教育目標と学生の学習成果		教育目標：憲法は、「最高法規である（98 条）」であり、すべての法の最高規範である。この観念は、近代市民革命の頃から現れたことからしても、国民の基本的な人権を擁護し、国家の統治権力に制限を課したものである。この見方は、日本国憲法の構成にもみてとれる。すなわち、きわめて大きく内容を分けると、国民の「基本的人権の保障」と「統治機構とその権能」について書かれているのである。そこでまずは、憲法の基本的概念とその意義および基礎理論を理解する必要があろう。 学生の学習成果：幼児教育は、国民の教育権に関わっている。その活動には、様々な法律が関わっている。そこで、まずは基礎的な法概念や法知識を学ぶことが必要であろう。そのうえで、個別事件の判例の理解や法律解釈がおこなえる応用力の獲得を成果と考える。
教育方法	授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） 日本国憲法の基本的な考え方や内容を知る必要がある。そのためには、憲法の主要な条文をやはり読む必要があろう。しかし、法学部の学生ではないので、精緻な条文の解釈というよりは、現代に起きている法律問題の解決のために、憲法がどのように機能しているのかという視点で講義を進める。そこで、最低限度の条文の解釈を試みた後に、主要な憲法事件（判例）を取り上げて、じっくりと講義していくことにする。また、公務員試験や民間会社の社会科学系の一般知識試験としてもよく出題されるので、内容を網羅するように授業を進めたい。講義の終了時に「シャトルカード」に授業内容についての質問や感想を求める。次回の講義時に、質問等の回答を記入して返却する。これによって、各々の学習進行状況を確認しながら講義を進める。
	予習・復習	毎回講義した条文を筆記するとともに、予習としては、次回の章を読んでくる。「シャトルカード」により効果的な復習を促進する。
	テキスト	『日本国憲法講義ノート』（小野高速印刷）
学習評価の方法		憲法の基本的な理解の習得を目指す。さらには、主要な条文の概念や法用語を習得する。なお、講義の期間中に、憲法全文を読んでいく（上記テキストの中にも出ている）。なお、評価方法としては、期末試験(70%)、レポート(30%)。
注意事項		

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	オリエンテーション：憲法を学ぶ意義と基本的な考え方 法となにかを考える リーガルマインドと感覚の差の意味
2 回	・講義内容：憲法の歴史と各国の憲法の歴史について 基本的人権獲得の歴史 ・予習内容：次回の箇所を読んでおく ・復習事項および課題：「日本国憲法はいかなる淵源をもっているか」
3 回	・講義内容：人権とは 人権の主体とその制限 ・予習内容：次回の箇所を読む ・復習事項および課題：「マクリーン事件」
4 回	・講義内容：法の下の平等について 実質的平等とは何かを学ぶ ・予習内容：次回の箇所を読む ・復習事項および課題：「尊属殺重刑違憲判決」
5 回	・講義内容：思想・良心の自由について 精神的自由の内容とその制約 ・予習内容：次回の箇所を読む ・復習事項および課題：「三菱樹脂事件」
6 回	・講義内容：宗教の自由について 宗教活動の意義と課題 ・予習内容：次回の箇所を読む ・復習事項および課題：「政教分離の意義と課題」
7 回	・講義内容：表現の自由について 権利の侵害と自由 ・予習内容：時間の箇所を読む ・復習事項および課題：「名誉毀損と表現の自由」
8 回	・講義内容：社会権について 生存権の本質と現代的意義 ・予習内容：次回の箇所を読む ・復習事項および課題：「社会保障と労働者の権利」

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
9 回	・講義内容：経済的自由について 二重の基準の理論 ・予習内容：次回の箇所を読む ・復習事項および課題：「所得格差と公平性」
10 回	・講義内容：平和憲法と国際社会について 国際社会の危機と国家の安全 ・予習内容：次回の箇所を読む ・復習事項および課題：「平和主義と現実国際社会の課題」
11 回	・講義内容：国会について 国権の最高機関性と権能 ・予習内容：次回の箇所を読む ・復習事項および課題：「法律を作る過程」
12 回	・講義内容：裁判所について 違憲立法審査権 ・予習内容：次回の箇所を読む ・復習事項および課題：「訴訟とそのプロセス」
13 回	・講義内容：内閣について ・予習内容：次回の箇所を読む ・復習事項および課題：「内閣制度と大統領制」
14 回	・講義内容：地方自治体について ・予習内容：次回の箇所を読む ・復習事項および課題：「自治体の意義と道州制」
15 回	講義内容：憲法のまとめ 復習内容：主要論点を整理する ・・復習事項および課題：「人権と統治機構の総括」

令　和　２　年　　度　　教　　育　　計　　画							
科目名	情報処理基礎	授業回数	15	単位数	２	担当教員	原田俊孝
質問受付の方法：M棟１階事務室で「随時」受け付ける							

教育目標と学生の学習成果	教育目標： AI に代表される技術革新の進歩や IoT の広がり、世界のグローバル化や流動化など、日本社会や世界の状況の 20 年後の将来に対応できる力の基礎を育むことができる保育者を養成するために、①コンピュータの基礎、②情報の形態と収集の方法、③インターネットの仕組と Web システム、④情報の伝達、⑤セキュリティーと法令遵守及び⑥ICT 活用の問題解決について学ぶ。 学生の学習成果： 教育目標に記載した①～⑥の専門的学習成果と価値・意見・情報リテラシー・数量的スキルを授業とおして獲得する。	
教育方法	授業の進め方	(講義・演習・実験・実習・実技) テキストの第１章から第４章、第９章、第 10 章を 15 回の講義する。
	予習・復習	テキストにより授業内容を復習し、次回のシラバスの授業計画をテキストで予習すること。
	テキスト	改訂新版　よくわかる情報リテラシー　岡本敏雄監修　技術評論社
学習評価の方法	定期試験により 100 点満点で評価する。 ただし、授業回毎に、授業態度により 1 点から 3 点の間で減点をする。 1 点減点の場合：私語の注意をしても私語を止めない場合。 2 点減点の場合：睡眠の注意をしても睡眠を止めない場合。 3 点減点の場合：受講態度の注意をしても受講態度を正さない場合。	
注意事項	参考図書: 学生のための思考力・判断力・表現力が身に付く情報リテラシー　FOM 出版	

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	オリエンテーション：シラバスの説明 第1章　コンピュータの基礎 <u>ハードウェアとソフトウェア</u> 　コンピュータの仕組み 　　1.身の回りのコンピュータ　2.コンピュータの機能と仕組み　3.コンピュータでの情報の表し方 <u>周辺機器とインターフェイス</u> 　　1.コンピュータとインターフェイス　2.いろいろな周辺機器 <u>ソフトウェア</u> 　オペレーティング・システムの機能と仕組み 　　1.OSの働き　2.パーソナルコンピュータ以外のOS 　アプリケーションソフトの機能と仕組み 　　1.Webブラウザ　2.電子メール　3.オフィス・スイート　4.リアルタイムコミュニケーションソフト　5.メディア・プレーヤ
2 回	第1章　コンピュータの基礎 情報システム 　情報システムの種類と機能 　　1.勘定系システム　2.POS システム　3.住民基本台帳ネットワーク　4.地理情報システム　5.図書館システム　6.e ラーニングシステム 　ネットワークの機能と仕組み 　　1.ネットワークとは　2.ネットワークの機能　3.ネットワークの構成　4.ネットワークを構成する機器　5.ネットワークでのコンピュータの接続方法　6.ネットワークで情報を通信する際の約束事：プロトコル
3 回	第 2 章　情報の形態と収集の方法 情報の形態 　文書情報 　　1.文字コード　2.文書の構造とコンピュータ 　音声情報 　　1.音声情報のデジタル化　2.音声のデジタル化の例　3.音声データの圧縮 　画像情報 　　1.静止画　2.動画 情報蓄積の形態 　コンピュータと OS 　インターネットとプロトコル 　クラウドと仮想化 クラウド環境の情報 　クラウド環境の仕組みとメリット 　クラウド環境のデメリットと問題点

4 回	第2章　情報の形態と収集の方法 検索エンジン 　ディレクトリ型 　ロボット型 情報収集の技術 　文書情報の検索技術 　　1.又書の要約技術　2.文書間の依存関係表示 　音声情報と画像情報の検索技術 　　1.音声認識技術　2.画像認識技術 情報収集の応用 　面情報収集の効用 　情報収集の問題点 　　1.情報収集の三つの問題点　2.情報を収集するときのポイント
5 回	第3章　インターネットの仕組みとWebシステム インターネットの概要 　インターネットとは 　インターネットの性質 通信機能の階層化 　階層化のイメージ 　インターネットにおける通信機能の階層化 IPアドレスの仕組み 　IPアドレス(IPv4)の構造 　IPアドレスとネットワーク 　グローバルIPアドレスとプライベートIPアドレス 　IPアドレスを自動的に割り当てる仕組み
6 回	第3章　インターネットの仕組みとWebシステム パケット通信の仕組み 　パケットとは 　パケット通信の利点 　パケットのカプセル化 通信の経路を選ぶ仕組み 　経路制御とルータ 　経路制御の例 　ルーティングテーブル データを確実に送り届ける仕組みと素早く送り届ける仕組み 　データを確実に送り届けるTCP 　高速な通信を行うUDP 　ポート番号

7 回	第3章　インターネットの仕組みとWebシステム アプリケーション層のプロトコル 　アプリケーション層のプロトコルの具体例 　名前解決(DNS)の仕組み 直接接続する機器の通信 　プロトコル層の最下位の部分 　イーサネット 　無線LAN Webアプリケーションの仕組み 　Webアプリケーションの基本的な仕組み 　ユーザIDとパスワードを共通化する仕組み 　外部のサイトの機能を組み合わせる仕組み 　　1.Web API　2.マッシュアップ クラウドコンピューティング 　クラウドコンピューティングによるサービス 　クラウドコンピューティングの利点と課題
8 回	第4章　情報の伝達 ソーシャルネットワーキングサービス 　ソーシャルネットワーキングサービスとは 　ソーシャルネットワーキングサービスの仕組み 　ソーシャルネットワーキングサービスの利用 　　1.Facebook　Facebookへのアクセスと登録　Facebookの利用 　　2.TwitterTwitterへのアクセスと登録　つぶやぎの投稿　他のユーザをフォロー ブログ 　ブログとは 　ブログの仕組み 　プログの利用　プロクへのアクセスと登録　プログの利用
9 回	第4章　情報の伝達 電子掲示板 　電子掲示板とは 　電子掲示板の仕組み 　電子掲示板の利用　電子掲示板へのアクセスと利用　電子掲示板への投稿 電子メール 　電子メールの仕組み 　　1電子メールとメールサーバ　2メールアドレス　3メールの構成　4メーラ 　電子メールの利用　Gmall使用のためのGoogleアカウントの取得　メールの作成と送信 　メールの受信

10 回	第 4 章　情報の伝達 ソーシャルメディア 　ソーシャルメディアとは 　さまざまなソーシャルメディア 　レコメンドシステム 　インターネットサービスの発展とソーシャルメディア 電子書籍 　電子書籍とは 電子書籍の仕組みと利用
11 回	第 9 章　セキュリティと法令順守 情報セキュリティ 　情報セキュリティとは 　情報漏えいの落とし穴 　　1. 情報漏えいの原因　2. 漏えいされている個人情報　3. 情報漏えい対策における 10 の落とし穴 情報漏えい対策法 　ウイルス/スパイウェアの侵入とその経路 　　1. どこから侵入してくるか?　2. どういう悪さをするか? 3. どんな環境が侵入されやすいか? 　クライアント/サーバ/ネットワーク対策 　不正侵入に対する対策法 　　1. ポート・スキャンによるシステム調査　2. アクセス権を取得　3. システムの変更
12 回	第 9 章　セキュリティと法令順守 インターネット社会の特性 　インターネット社会 　架空請求 　ネットいじめ 　スパムメール 　商品やサービス販売を装った詐欺 情報社会の法令 　情報モラルとは 　個人情報 　知的財産権 　　1. 産業財産権　2. 著作権　3. その他 デジタルコミュ=ケーション 　ネットワーク上のモラルとマナー 　情報の信頼性や信遞性 　情報発信者の責任と相手への配慮

13 回	第 10 章　ICT 活用の問題解決 問題解決の基本的手順と ICT の役割 　問題解決とは何か 　問題解決の基本的な手順 　問題解決におけるコンピュータの役割 　問題解決と情報通信ネットワークの役割 情報を客観的にとらえる 　数値データを視覚化する 　統計的手段を利用して評価する 　2 つの要素の間の関連性を評価する
14 回	第 10 章　ICT 活用の問題解決 インターネットを利用した情報発信 　インターネットには国境がない 　個人による情報発信 　ナレッジ・コミュニティの利用 　ソーシャルメディアの活用 問題解決におけるシミュレーションの利用 　シミュレーションとコンピュータ 　携帯電話の料金を安く上げる 　肥満度(BMI)をチェックして適正体重を見つける
15 回	まとめ

<table>
<tr><td colspan="8">令　和　２年　度　教　育　計　画</td></tr>
<tr><td>科目名</td><td>情報処理演習</td><td>授業回数</td><td>15</td><td>単位数</td><td>1</td><td>担当教員</td><td>原田俊孝</td></tr>
<tr><td colspan="8">質問受付の方法：M棟１階事務室で「随時」受け付ける</td></tr>
<tr><td>教育目標と学生の学習成果</td><td colspan="7">教育目標：
AI に代表される技術革新の進歩や IoT の広がり、世界のグローバル化や流動化など、日本社会や世界の状況の 20 年後の将来に対応できる力の基礎を育むことができる保育者を養成するために、①レポートの作成と編集、②情報の活用及び③プレゼンテーションの方法について学び、思考力、判断力、表現力を身に付ける情報リテラシーを演習する。

学生の学習成果：
教育目標に記載した①～③の専門的学習成果と価値・意見・情報リテラシー・数量的スキルを授業とおして獲得する。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">教育方法</td><td>授業の進め方</td><td colspan="6">（講義・演習・実験・実習・実技）
テキストを 15 回で演習する。</td></tr>
<tr><td>予習・復習</td><td colspan="6">テキストにより授業内容を復習し、次回のシラバスの授業計画をテキストで予習すること。</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="6">学生のための思考力・判断力・表現力が身に付く情報リテラシー　FOM 出版</td></tr>
<tr><td>学習評価の方法</td><td colspan="7">課題 50 点、定期試験 50 点の合計 100 点満点で評価する。
ただし、授業回毎に、授業態度により 1 点から 3 点の間で減点をする。
1 点減点の場合：私語の注意をしても私語を止めない場合。
2 点減点の場合：睡眠の注意をしても睡眠を止めない場合。
3 点減点の場合：受講態度の注意をしても受講態度を正さない場合。</td></tr>
<tr><td>注意事項</td><td colspan="7">参考図書:
情報処理基礎のテキスト「改訂新版　よくわかる情報リテラシー　岡本敏雄監修　技術評論社」第５章、第６章、第９章、第８章</td></tr>
</table>

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	オリエンテーション レポートの作成と編集 レポートの型について理解し、その違いを説明できる。 感想文の特性を理解し、レポートとの違いを説明できる。 論文の特性を理解し、レポートとの違いを説明でぎる。
2 回	レポートの作成と編集 レポート作成の基本的な流れを理解し、手順を説明でぎる。 情報収集の必要性を理解し、説明できる。 情報収集の具体的な方法を理解し、説明できる。
3 回	レポートの作成と編集 収集した情報を引用する際の記載方法を理解し、説明でぎる。 文献リストの記載方法を理解し、説明でぎる。
4 回	レポートの作成と編集 レポートを構成する基本要素を理解し、章立てを考えることができる。 レポートの文体のルールを理解し、説明でぎる。 わかりやすい文章を書くためのポイントを理解し、説明でぎる。
5 回	レポートの作成と編集 メリハリのある構成にするためのポイントを理解し、説明でぎる。 提出するために必要なレポートの体裁を理解し、説明でぎる。 レポート作成に便利な Word の機能について理解し、実際に操作できる。
6 回	情報の活用 データとは何かについて理解し、説明できる。 定量データと定性データの違いを理解し、説明できる。 データ活用の流れを理解し、説明できる。る。
7 回	情報の活用 並べ替えやグループ化の特徴を理解し、説明できる。 計算の種類や特徴を理解し、説明できる。 集計の種類や特徴を理解し、説明できる。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
8 回	情報の活用 グラフを使って、データを視覚化する利点を理解し、説明でぎる。 数値を比較するのに適したグラフの種類を理解し、説明でぎる。
9 回	情報の活用 推移を見るのに適したグラフの種類を理解し、説明でぎる。 比率を見るのに適したグラフの種類を理解し、説明できる。 分布を見るのに適したグラフの種類を理解し、説明できる。
10 回	情報の活用 バランスを見るのに適したグラフの種類を理解し、説明でぎる。 グラフの効果的な表現方法を理解し、説明できる。 データ活用に便利な ExceL の機能について理解し、実際に操作でぎる。
11 回	プレゼンテーションの方法 プレゼンテーションとは何かについて理解し、説明できる。 プレゼンテーションの実施形式を理解し、説明でぎる。 プレゼンテーションの基本的な流れを理解し、説明できる。
12 回	プレゼンテーションの方法 プレゼンテーションのストーリーの組み立て方のポイントを理解し、説明できる。 プレゼンテーション資料を作成する際のポイントを理解し、説明できる。
13 回	プレゼンテーションの方法 箇条書きによる表現方法を理解し、発表資料の訴求力を高める工夫ができる。 表よる表現方法を理解し、発表資料の訴求力を高める工夫がでぎる。 グラフよる表現方法を理解し、発表資料の訴求力を高める工夫ができる。
14 回	プレゼンテーションの方法 画像による表現方法を理解し、発表資料の訴求力を高める工夫ができる。 図解よる表現方法を理解し、発表資料の訴求力を高める工夫がでぎる。 色による表現方法を理解し、発表資料の訴求力を高める工夫がでぎる。
15 回	プレゼンテーションの方法 リハーサルの必要性やリハーサルの手順を理解し、説明できる。 発表の流れを理解し、説明できる。 配布資料を作成する際の注意点を理解し、説明できる。 資料作成に便利な PowerPoint の機能について理解し、実際に操作できる。

<table>
<tr><td colspan="8">令　和　２　年　　度　　教　　育　　計　　画</td></tr>
<tr><td>科目名</td><td>ICT リテラシー (A)</td><td>授業回数</td><td>15</td><td>単位数</td><td>1</td><td>担当教員</td><td>原田俊孝</td></tr>
<tr><td colspan="8">質問受付の方法：M棟事務室で随時受け付ける。 OH:月曜日 9 時～17 時</td></tr>
<tr><td>教育目標と学生の学習成果</td><td colspan="7">教育目標：
AI に代表される技術革新の進歩や IoT の広がり、世界のグローバル化や流動化など、日本社会や世界の状況の 20 年後の将来に対応できる力の基礎を育むことができる保育者を養成することを目標とする。
具体的には、情報処理基礎及び情報処理演習で修得した情報機器の活用（タイピング）を基礎として、①ワードの基礎と応用、②エクセルの基礎及び応用、③パワーポイントの基礎、④情報セキュリティとテーマに分け、より実践的な情報機器の活用法を修得する。

学生の学習成果：
教育目標に記載した①～④の専門的学習成果と価値・意見・情報リテラシー・数量的スキルを授業とおして獲得する。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">教育方法</td><td>授業の進め方</td><td colspan="6">（講義・演習・実験・実習・実技）
情報処理基礎および情報処理演習などで学習した基礎能力をさらに深化させる。
パーソナルコンピュータを活用しながら、要点を絞って説明する。
特に、タイピングは 10 分で 400 文字以上を打てるようになることを目的とする。
※授業の性質上、文書作成模擬問題は授業の進捗状況によって変わることがある。</td></tr>
<tr><td>予習・復習</td><td colspan="6">授業回毎に予習と復習を設ける</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="6">日本情報処理検定協会「日本語ワープロ検定試験模擬問題集２・準２級編」
エクセルとパワーポイントは、適宜資料を配布する。</td></tr>
</table>

学習評価の方法	① タッチタイピングテスト（10 分）（100 点×13 回） 300 文字を合格点（70 点）として、350 文字以上 400 文字未満で 80 点、400 文字以上 450 文字未満で 90 点、450 文字以上を 100 点満点とする。反対に、200 文字以上 300 文字未満は 60 点、200 文字未満は 50 点とする。（打ち間違いは、1 文字に対して 3 文字減とする。） ② 第 7 回目のワード演習テストを 100 点満点で評価する。（50 分）（100 点） ③ 第 11 回目のエクセル演習テストを 100 点満点で評価する。（60 分）（100 点） ④ 第 15 回目のパワーポイント演習テスト（出来栄え：50 点　発表：50 点）を 100 点満点で評価する。（100 点） 「①の平均値、②の素点、③の素点、④の素点」の平均値が総合評価とする。（小数点以下は切り捨て） ただし、授業回毎に、授業態度により 1 点から 3 点の間で減点をする。 1 点減点の場合：私語の注意をしても私語を止めない場合。 2 点減点の場合：睡眠の注意をしても睡眠を止めない場合。 3 点減点の場合：受講態度の注意をしても受講態度を正さない場合。 ※もし、やむえない事情によりタッチタイピングテストを欠席した場合でも、授業外のタッチタイピングテストを実施することを認める。ただし、条件として、担当教員の監督の下、①履修生が担当教員にタッチタイピングテストを実施したい旨を直接担当教員に申し出ること、②授業外での実施であり、いかなる理由があろうとも授業中の実施は認めない、③授業外のタッチタイピングテストは最大 5 回までとする。
注意事項	参考図書 エクセル：日本情報処理検定協会「情報処理技能検定試験表計算模擬問題集　２級」 情報セキュリティ：「IPA 独立行政法人 情報処理推進機構：情報セキュリティ」 https://www.ipa.go.jp/security/
授業回数別教育内容	
1 回	オリエンテーション：教育目標と学生の学習成果、教育方法、学習評価の方法、注意事項について説明 タッチタイピング練習→文書作成 タッチタイピングのポイント、文書作成のポイント（情報処理基礎の復習） 予習：速度模擬問題 NO1、文書作成模擬問題 NO1、文書作成模擬問題 NO2 をする。（予習中わからないところがあれば、必ずチェックしておくこと） 復習：ワードの「ホーム」、「挿入」、「レイアウト」

授　業回　数　別　教　育　内　容	
2 回	【速度模擬問題 N01、文書作成模擬問題 N01、文書作成模擬問題 N02】 速度模擬問題 N01　→　文書作成模擬問題 N01、文書作成模擬問題 N02 文書作成模擬問題 N01、文書作成模擬問題 N02 の中からポイントとなるところを説明・練習をする 予習：速度模擬問題 N02、文書作成模擬問題 N03、文書作成問題 N04 をする。（予習中わからないところがあれば、必ずチェックしておくこと） 復習：速度模擬問題 N01 の反復練習（10 分を自分で測り、スラッシュ（スラッシュの上には日付を書く）をする）
3 回	タッチタイピングテスト①：速度模擬問題 N01 【速度模擬問題 N02、文書作成模擬問題 N03、文書作成模擬問題 N04】 速度模擬問題 N02　→　文書作成模擬問題 N03、文書作成模擬問題 N04 文書作成模擬問題 N03、文書作成模擬問題 N04 の中からポイントとなるところを説明・練習をする。 予習：速度模擬問題 N03、文書作成模擬問題 N05、文書作成模擬問題 N06 をする。（予習中わからないところがあれば、必ずチェックしておくこと） 復習：速度模擬問題 N02 の反復練習（10 分を自分で測り、スラッシュ（スラッシュの上には日付を書く）をする）
4 回	タッチタイピングテスト②：速度模擬問題 N02 【速度模擬問題 N03、文書作成模擬問題 N05、文書作成模擬問題 N06】 速度模擬問題 N03　→　文書作成模擬問題 N05、文書作成模擬問題 N06 文書作成模擬問題 N05、文書作成模擬問題 N06 の中からポイントとなるところを説明・練習をする。 予習：速度模擬問題 N04、文書作成模擬問題 N07、文書作成模擬問題 N08 をする。（予習中わからないところがあれば、必ずチェックしておくこと） 復習：速度模擬問題 N03 の反復練習（10 分を自分で測り、スラッシュ（スラッシュの上には日付を書く）をする）

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
5 回	タッチタイピングテスト③：速度模擬問題 N03 【速度模擬問題 N04、文書作成模擬問題 N07、文書作成模擬問題 N08】 速度模擬問題 N04　→　文書作成模擬問題 N07、文書作成模擬問題 N08 文書作成模擬問題 N07、文書作成模擬問題 N08 の中からポイントとなるところを説明・練習をする 予習：速度模擬問題 N05、文書作成模擬問題 N09、文書作成模擬問題 N010 をする。（予習中わからないところがあれば、必ずチェックしておくこと） 復習：速度模擬問題 N04 の反復練習（10 分を自分で測り、スラッシュ（スラッシュの上には日付を書く）をする）
6 回	タッチタイピングテスト④：速度模擬問題 N04 【速度模擬問題 N05、文書作成模擬問題 N09、文書作成模擬問題 N010】 速度模擬問題 N05　→　文書作成模擬問題 N09、文書作成模擬問題 N010 文書作成模擬問題 N09、文書作成模擬問題 N010 の中からポイントとなるところを説明・練習をする 予習：エクセルの単純計算、関数計算、相対参照、絶対参照、グラフ作成の操作について整理する。 復習：速度模擬問題 N05 の反復練習と第 1 回から第 6 回までの文書作成模擬問題の要点を見直す。（10 分を自分で測り、スラッシュ（スラッシュの上には日付を書く）をする）
7 回	タッチタイピングテスト⑤：速度模擬問題 N05 【ワード演習テスト、エクセルの基礎】 ワード演習テスト：文書作成模擬問題 N01～N010 の中から 2 問 エクセルの基礎…エクセルの単純計算、関数計算、相対参照、絶対参照、グラフ作成 予習：配布資料の表計算 N01、N02 をする。（予習中わからないところがあれば、必ずチェックしておくこと）
8 回	タッチタイピングテスト⑥：速度模擬問題 N06 【表計算　N01、N02】 表計算 N01、N02 の中からポイントとなるところを説明・練習をする。 予習：配布資料の表計算 N03、N04 をする。（予習中わからないところがあれば、必ずチェックしておくこと）

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
9 回	タッチタイピングテスト⑦：速度模擬問題 N07 【表計算　N03、N04】 表計算 N03、N04 の中からポイントとなるところを説明・練習をする。 予習：配布資料の表計算 N05、N06 をする。（予習中わからないところがあれば、必ずチェックしておくこと）
10 回	タッチタイピングテスト⑧：速度模擬問題 N08 【表計算　N05、N06】 表計算 N05、N06 の中からポイントとなるところを説明・練習をする。 復習：第 8 回から第 10 回までの表計算の要点を見直す。 予習：「IPA 独立行政法人 情報処理推進機構：情報セキュリティ」のウェブサイトを閲覧し「情報セキュリティ対策」の概要を調べる。
11 回	タッチタイピングテスト⑨：速度模擬問題 N09 【エクセル演習テスト、情報セキュリティの基礎】 エクセル演習テスト：表計算 N01～N06 の中から 2 問 情報セキュリティに基礎（内部的要因と外部的要因） 予習：情報セキュリティの 3 要素について調べてくる。パワーポイントの操作について確認する。
12 回	タッチタイピングテスト⑩：速度模擬問題 N010 【情報セキュリティ、パワーポイント】 情報セキュリティ 情報漏えい対策法 インターネット社会の特性 デジタルコミュニケーション パワーポイントの基礎 【パワーポイントの作成】 パワーポイントの基礎を理解する 情報セキュリティについて、パワーポイントでまとめる

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
13 回	タッチタイピングテスト⑪：速度模擬問題 N011 【情報セキュリティ、パワーポイント】 情報セキュリティ 情報漏えい対策法 インターネット社会の特性 デジタルコミュニケーション パワーポイントの基礎 【パワーポイントの作成】 情報セキュリティについて、パワーポイントでまとめる
14 回	タッチタイピングテスト⑫：速度模擬問題 N012 【情報セキュリティ、パワーポイント】 情報セキュリティ 情報漏えい対策法 インターネット社会の特性 デジタルコミュニケーション パワーポイントの基礎 【パワーポイントの作成と発表】 情報セキュリティについて、パワーポイントでまとめる
15 回	タッチタイピングテスト⑬：速度模擬問題 N013 【情報セキュリティ、パワーポイント】 情報セキュリティ 情報漏えい対策法 インターネット社会の特性 デジタルコミュニケーション パワーポイントの基礎 【パワーポイントの作成と発表】 情報セキュリティについて、パワーポイントでまとめる まとめ

<table>
<tr><td colspan="8">令　和　　2　　年　　度　　教　　育　　計　　画</td></tr>
<tr><td>科目名</td><td>ICT リテラシー(B)</td><td>授業回数</td><td>15</td><td>単位数</td><td>1</td><td>担当教員</td><td>原田俊孝</td></tr>
<tr><td colspan="8">質問受付の方法：M棟事務室で随時受け付ける。 OH:月曜日 9 時～17 時</td></tr>
<tr><td>教育目標と学生の学習成果</td><td colspan="7">教育目標：
AI に代表される技術革新の進歩や IoT の広がり、世界のグローバル化や流動化など、日本社会や世界の状況の 20 年後の将来に対応できる力の基礎を育むことができる保育者を養成することを目標とする。
具体的には、情報処理基礎及び情報処理演習、ICT リテラシー（A）で修得した情報機器の活用（タイピング）を基礎として、①ワードの応用、②保育現場での情報機器の活用とテーマに分け、より実践的な情報機器の活用法を修得する。

学生の学習成果：
教育目標に記載した①～④の専門的学習成果と価値・意見・情報リテラシー・数量的スキルを授業とおして獲得する。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">教育方法</td><td>授業の進め方</td><td colspan="6">（講義・演習・実験・実習・実技）
情報処理基礎および情報処理演習などで学習した基礎能力をさらに深化させる。
パーソナルコンピュータを活用しながら、要点を絞って説明する。
特に、タイピングは 10 分で 450 文字以上を打てるようになることを目的とする。
※授業の性質上、文書作成模擬問題は授業の進捗状況によって変わることがある。</td></tr>
<tr><td>予習・復習</td><td colspan="6">授業回毎に予習と復習を設ける</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="6">日本情報処理検定協会「日本語ワープロ検定試験模擬問題集２・準２級編」
エクセルとパワーポイントは、適宜資料を配布する。</td></tr>
</table>

学習評価の方法	① タッチタイピングテスト（10 分）（100 点×13 回） 400 文字を合格点（70 点）として、450 文字以上 500 文字未満で 80 点、500 文字以上 550 文字未満で 90 点、550 文字以上を 100 点満点とする。反対に、300 文字以上 400 文字未満は 60 点、300 文字未満は 50 点とする。（打ち間違いは、1 文字に対して 3 文字減とする。） ② 第 7 回目のワード演習テストを 100 点満点で評価する。（50 分）（100 点） ③ 第 8 回から第 13 回の演習物（各 100 点） ④ 情報問題と情報モラルのレポート（各 100 点） 「①の平均値、②の素点、③の平均点、④の平均点」の平均値が総合評価とする。（小数点以下は切り捨て） ただし、授業回毎に、授業態度により 1 点から 3 点の間で減点をする。 1 点減点の場合：私語の注意をしても私語を止めない場合。 2 点減点の場合：睡眠の注意をしても睡眠を止めない場合。 3 点減点の場合：受講態度の注意をしても受講態度を正さない場合。 ※もし、やむえない事情によりタッチタイピングテストを欠席した場合でも、授業外のタッチタイピングテストを実施することを認める。ただし、条件として、担当教員の監督の下、①履修生が担当教員にタッチタイピングテストを実施したい旨を直接担当教員に申し出ること、②授業外での実施であり、いかなる理由があろうとも授業中の実施は認めない、③授業外のタッチタイピングテストは最大 5 回までとする。
注意事項	参考図書 エクセル：日本情報処理検定協会「情報処理技能検定試験表計算模擬問題集　２級」 情報セキュリティ：「IPA 独立行政法人 情報処理推進機構：情報セキュリティ」 https://www.ipa.go.jp/security/

授業回数別教育内容	
1回	オリエンテーション：教育目標と学生の学習成果、教育方法、学習評価の方法、注意事項について説明 タッチタイピング練習→文書作成 タッチタイピングのポイント、文書作成のポイント（情報処理基礎の復習） 予習：速度模擬問題 N011、2 級文書作成模擬問題 N01、2 級文書作成模擬問題 N02 をする。（予習中わからないところがあれば、必ずチェックしておくこと） 復習：ワードの「ホーム」、「挿入」、「レイアウト」「表示」

2 回	【速度模擬問題 N011、2 級文書作成模擬問題 N01、2 級文書作成模擬問題 N02】 速度模擬問題 N011　→　2 級文書作成模擬問題 N01、2 級文書作成模擬問題 N02 2 級文書作成模擬問題 N01、2 級文書作成模擬問題 N02 の中からポイントとなるところを説明・練習をする 予習：速度模擬問題 N012、2 級文書作成模擬問題 N03、2 級文書作成問題 N04 をする。（予習中わからないところがあれば、必ずチェックしておくこと） 復習：速度模擬問題 N011 の反復練習（10 分を自分で測り、スラッシュ（スラッシュの上には日付を書く）をする）
3 回	タッチタイピングテスト①：速度模擬問題 N011 【速度模擬問題 N012、2 級文書作成模擬問題 N03、2 級文書作成模擬問題 N04】 速度模擬問題 N012　→　2 級文書作成模擬問題 N03、2 級文書作成模擬問題 N04 2 級文書作成模擬問題 N03、2 級文書作成模擬問題 N04 の中からポイントとなるところを説明・練習をする。 予習：速度模擬問題 N013、2 級文書作成模擬問題 N05、2 級文書作成模擬問題 N06 をする。（予習中わからないところがあれば、必ずチェックしておくこと） 復習：速度模擬問題 N012 の反復練習（10 分を自分で測り、スラッシュ（スラッシュの上には日付を書く）をする）
4 回	タッチタイピングテスト②：速度模擬問題 N012 【速度模擬問題 N013、2 級文書作成模擬問題 N05、2 級文書作成模擬問題 N06】 速度模擬問題 N013　→　2 級文書作成模擬問題 N05、2 級文書作成模擬問題 N06 2 級文書作成模擬問題 N05、2 級文書作成模擬問題 N06 の中からポイントとなるところを説明・練習をする。 予習：速度模擬問題 N014、2 級文書作成模擬問題 N07、2 級文書作成模擬問題 N08 をする。（予習中わからないところがあれば、必ずチェックしておくこと） 復習：速度模擬問題 N013 の反復練習（10 分を自分で測り、スラッシュ（スラッシュの上には日付を書く）をする）

5 回	タッチタイピングテスト③：速度模擬問題 N013 【速度模擬問題 N014、2 級文書作成模擬問題 N07、2 級文書作成模擬問題 N08】 速度模擬問題 N014　→　2 級文書作成模擬問題 N07、2 級文書作成模擬問題 N08 2 級文書作成模擬問題 N07、2 級文書作成模擬問題 N08 の中からポイントとなるところを説明・練習をする 予習：速度模擬問題 N015、2 級文書作成模擬問題 N09、2 級文書作成模擬問題 N010 をする。（予習中わからないところがあれば、必ずチェックしておくこと） 復習：速度模擬問題 N014 の反復練習（10 分を自分で測り、スラッシュ（スラッシュの上には日付を書く）をする）
6 回	タッチタイピングテスト④：速度模擬問題 N014 【速度模擬問題 N015、2 級文書作成模擬問題 N09、2 級文書作成模擬問題 N010】 速度模擬問題 N015　→　2 級文書作成模擬問題 N09、2 級文書作成模擬問題 N010 2 級書作成模擬問題 N09､2 級文書作成模擬問題 N010 の中からポイントとなるところを説明･練習をする 予習：エクセルの単純計算、関数計算、相対参照、絶対参照、グラフ作成の操作について整理する。 復習：速度模擬問題 N015 の反復練習と第 1 回から第 6 回までの文書作成模擬問題の要点を見直す。（10 分を自分で測り、スラッシュ（スラッシュの上には日付を書く）をする）
7 回	タッチタイピングテスト⑤：速度模擬問題 N015 【ワード演習テスト、保育現場でのパソコンの活用①　全体編】 ワード演習テスト：2 級文書作成模擬問題 N01～N010 の中から 2 問 保育現場を想定した情報機器の活用の演習を行う（先輩から「保育環境」の活用状況を理解する） 予習：ワードの図の挿入する方法を再度理解すること（描画キャンパスやグループ化）
8 回	タッチタイピングテスト⑥：速度模擬問題 N016 【保育現場でのパソコンの活用②　ワード編】 ワードを使って、保育現場を想定した情報機器の活用の演習を行う。

9 回	タッチタイピングテスト⑦：速度模擬問題 N017 【保育現場でのパソコンの活用③　ワード編】 ワードを使って、保育現場を想定した情報機器の活用の演習を行う。
10 回	タッチタイピングテスト⑧：速度模擬問題 N018 【保育現場でのパソコンの活用④　ワード編】 ワードを使って、保育現場を想定した情報機器の活用の演習を行う。
11 回	タッチタイピングテスト⑨：速度模擬問題 N019 【保育現場でのパソコンの活用⑤　エクセル編】 エクセルを使って、保育現場を想定した情報機器の活用の演習を行う。
12 回	タッチタイピングテスト⑩：速度模擬問題 N020 【保育現場でのパソコンの活用⑥　エクセル編】 エクセルを使って、保育現場を想定した情報機器の活用の演習を行う。
13 回	タッチタイピングテスト⑪：速度模擬問題 N021 【保育現場でのパソコンの活用⑦　エクセル編】 エクセルを使って、保育現場を想定した情報機器の活用の演習を行う。
14 回	タッチタイピングテスト⑫：速度模擬問題 N022 【情報問題と情報モラル】 情報問題と情報モラルについて理解する
15 回	タッチタイピングテスト⑬：速度模擬問題 N023 【情報問題と情報モラル】 情報問題と情報モラルについて理解する まとめ

令　和　2　年　度　教　育　計　画							
科目名	キャリアガイダンス	授業回数	15	単位数	2	担当教員	尾崎　聡・浦上博文 都田修兵
質問受付の方法：　B 棟 308 研究室　土曜日 13：00～14：00　その他休憩時随時							

教育目標と学生の学習成果		＜教育目標＞ 　子どもたちが育つ社会環境の変化に加え、産業・経済の構造的変化、雇用の多様化・流動化等は、子どもたち自らの将来のとらえ方にも大きな変化をもたらしている。子どもたちは、自分の将来を考えるのに役立つ理想とする大人のモデルが見付けにくく、自らの将来に向けて希望あふれる夢を描くことも難しくなってきている。 　また、環境の変化は、子どもたちの心身の発達にも影響を与え始めている。たとえば、身体的には早熟傾向にあるが、精神的・社会的側面の発達はそれに伴っておらず遅れがちであるなど、全人的発達がバランス良く促進されにくくなっている。具体的には、人間関係をうまく築くことができない、自分で意思決定できない、自己肯定感をもてない、将来に希望をもつことができない、といった子どもの増加などがこれまでも指摘されてきた。 　このような現状をふまえ、本科目は、これまでの自らの視野を広げ、進路を具体化し、それまでに育成した社会的・職業的自立に必要な能力や態度を専門分野の学習を通じて伸長・深化させていくことを目的とし、多様なキャリア形成に共通して必要な能力や態度の育成と、これらの育成を通じた勤労観や職業観等の価値観の形成・確立のための基礎を培う。 ＜学生の学習成果＞ 専門的学習成果：社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力（「人間関係形成・社会形成能力」、「自己理解・自己管理能力」、「課題対応能力」、「キャリアプランニング能力」）を身につける。 汎用的学習成果：社会的・職業的自立に向け、「意欲」、「態度」、「他者理解力」、「対話能力」を身につける。
教育方法	授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） ・授業回数別授業内容に沿った講義後、演習をおこなう。 ・演習は個人又は集団で実施する。
	予習・復習	予習 　・シラバスを読んで各回のテーマにまつわる自分のキャリアを思い出しておく。 復習 　・授業中に課題が提示された場合は、課題を提出する。 　・授業後に講義内容を復習し、講義内容を中心に応用力をつける。
	テキスト	配布資料（レジュメ・ワークシート） ※授業開始時に配布する。
学習評価の方法		自分自身のキャリアプランニングをおこない、将来の就職に関連することに積極的に取り組んでいるかに重点をおき、以下の配点によって学習評価を行う。 （1）専門的学習成果（50 点） ○「履歴書」作成と提出（30 点） 　本学規定の「履歴書」の様式にあわせて、個人の情報や「免許・資格」、「長所・短所」、「趣味・特技」、「自己ＰＲ」、「志望動機」を記入し、提出する。なお、記入内容に不備がある者については、不備を修正等行ったうえで、再提出する。 ○「進路希望調査票」の作成と提出（20 点） 　自身の進路について考えながら、「進路希望調査票」を作成し、提出する。なお、記入内容に不備がある者については、不備を修正等行ったうえで、再提出する。

	（２）汎用的学習成果（50 点） ○模擬集団面接（10 点） 数人編成のグループごとに模擬集団面接を実施する。なお、面接官は授業担当者２人で担当し、学生それぞれに対して「Ａ：5 点、Ｂ：4 点、Ｃ：3 点」の３段階評価により評価を行い、面接官２人の評価を合計する。 ※模擬集団面接を欠席した者については、後日模擬面接を実施する。 ○グループディスカッション（10 点） グループ別にグループディスカッションを実施する。評価については、ディスカッションへの参加及びワークシートへの記入によって行う。 ※グループディスカッションを欠席した者については、レポート課題を課し、最大 8 点満点による評価を行う。 ○シャトルカード（2 点×15 回＝30 点） シャトルカードにその授業における学びや疑問、感想を記入し、それを授業担当者が評価する。記入が不十分な者については減点する。 また、授業担当者が受講態度に問題がある者と判断した者については、保育者になる者の倫理観が不十分であるとして、下記のとおりのケースに応じた減点を行う。 １）私　語（1 点） ２）居眠り（1 点） ３）携　帯（3 点）
注意事項	＜参考文献＞ 中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）」（平成 23 年 1 月 31 日）。 URL：http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/__icsFiles/afieldfile/2011/02/01/1301878_1_1.pdf 神長美津子（監修）・米谷美和子ほか（著）『キラッと光る保育者のマナー』ひかりのくに、2005。 森眞理ほか『保育者のマナー』チャイルド本社、2006。 塩谷香（監著）『保育者のマナーと常識』少年写真新聞社、2012。 横山洋子ほか『保育者のためのお仕事マナーBook』学研プラス、2015。 中野悠人ほか『先輩が教えてくれる！　新人保育士のきほん』翔泳社、2016。 ※そのほか適宜、授業内で参考文献を示す。
授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1回	○授業の進め方についての説明（尾崎・都田） ・キャリアガイダンスの授業計画を解説する。 （教育目標と学習成果、授業の進め方、具体的な授業内容、評価の方法など） ・キャリア支援室紹介 ・公務員対策講座説明 ・「履歴書」の書き方（第１回目　学歴・職歴） 学習成果：授業回数別教育内容に関して理解する。 復習事項：本時の内容を復習する。
2回	○求人票の見方と就労について（外部講師・尾崎・都田） ・経営形態（社会福祉法人・株式会社・NPO 法人、認可・無認可） ・勤務形態（正職・嘱託・臨時） ・給与（基本給・諸手当・所得税・手取り） 学習成果：経営形態や勤務形態、給与などについて学ぶ。 予習事項：就職についての質問などを考えてくる。 復習事項：本時の内容を復習する。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
3回	○本学における学び、就職活動とその状況（尾崎・都田） ・種別（幼稚園、保育所、こども園、施設、その他） ・規模と働き方（大規模園・中規模園・小規模園、院内保育・企業内保育） ・活動時期と活動日について ・内定までのプロセスについて（実習、見学、ボランティア、面接、試験について） ・就職先の探し方について 実習先、求人票、教員の紹介、親や地元関係者の紹介、市町村ごとの社会福祉協議会の就職 紹介コーナー、ネット人材バンクを利用する時の注意など。 学習成果：就職活動とその状況について学ぶ。 予習事項：自分の就職について考えてくる。 復習事項：本時の内容を復習する。
4回	○「履歴書」の書き方（２回目）（尾崎・都田） 履歴書の書き方、とくには長所・短所、趣味・特技、自己ＰＲについて、これまでの学校生活で得た知識・技能を書き出しまとめる。 学習成果：自分の個性を理解し、これまでの経験を具体化することによって履歴書の自己 PR 欄が書けるようになる。 予習事項：長所・短所、趣味・特技、自己ＰＲについて考えてくる。 復習事項：長所・短所、趣味・特技、自己ＰＲの書き方について復習する。
5回	○「履歴書」の書き方（３回目）（尾崎・都田） 履歴書の書き方、とくには志望動機について、保育者になろうと思った動機などについてまとめる。 学習成果：各自が保育者への道を再発見し、実習への課題や自己課題を具体化することによって履歴書の志望動機欄が書けるようになる。 予習事項：志望動機について考えてみる。 復習事項：志望動機の書き方について復習する。
6回	○就職について（１）（試験対策編）（尾崎・都田） 保育者として、幼稚園や保育所（園）、各種施設などに就職する際の試験（専門試験やＳＰＩ）について具体的に理解する。さらにその際に、「研究倫理」についても理解する。 学習成果：就職する際の試験（専門試験やＳＰＩ）について具体的に理解する。 予習事項：園の就職試験について調べてくる。 復習事項：就職する際の試験（専門試験やＳＰＩ）について復習する。
7回	○就職について（２）（試験対策編）（尾崎・都田） 保育者として、幼稚園や保育所（園）、各種施設などに就職する際の試験（作文・小論文）に具体的に理解する。 学習成果：就職する際の試験（作文・小論文）に具体的に理解する。 予習事項：園の就職試験について調べてくる。 復習事項：就職する際の試験（作文・小論文）について復習する。
8回	○就職に関するマナー講座（１）（尾崎・都田） ・面接における入退室のマナーを学ぶ。 ・話し方、聞き方を学ぶ（敬語）。 学習成果：面接時のマナーについて理解する。 予習事項：面接時のマナーについて考えてくる。 復習事項：面接時のマナーについて復習する。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
9 回	○就職に関するマナー講座（２）（尾崎・都田） ・企業への電話でのマナーを学ぶ。 ・企業への書類作成のマナーを学ぶ（添え状、封筒の表書き、裏書）。 学習成果：就職活動に必要なマナーが身につく。 予習事項：電話や書類作成のマナーについて考えてくる。 復習事項：電話や書類作成のマナーについて復習する。
10 回	○就職について（３）（尾崎・都田） ・就職試験における個人面接及び集団面接の基礎的事項を理解する。 学習成果：個人面接及び集団面接の基礎的事項を学ぶ。 予習事項：面接の際に重要だと思うことを考えてくる。 復習事項：個人面接及び集団面接の基礎的事項について復習する。
11 回	○就職について（４）（尾崎・浦上・都田） ・就職試験における集団面接を想定しての模擬面接の演習を行う。 ※集団面接は試験官役を教員２名が担当する。 学習成果：模擬面接を通して、社会的・職業的自立のための能力を身につける。 予習事項：模擬面接での応答をイメージしてくる。 復習事項：模擬面接を通して、自身の課題を見つける。
12 回	○就職について（５）（尾崎・浦上・都田） ・就職試験における集団面接を想定しての模擬面接の演習を行う。 ※集団面接は試験官役を教員２名が担当し、総評をおこなう。 学習成果：模擬面接を通して、社会的・職業的自立のための能力を身につける。 予習事項：模擬面接での応答をイメージしてくる。 復習事項：模擬面接を通して、自身の課題を見つける。
13 回	○就職について（６）（尾崎・都田） ・就職試験におけるグループディスカッションの基礎的事項を理解する。 学習成果：グループディスカッションの基礎的事項を学ぶ。 予習事項：グループディスカッションの際に重要だと思うことを考えてくる。 復習事項：グループディスカッションの基礎的事項について復習する。
14 回	○就職について（７）（尾崎・都田） ・就職試験におけるグループディスカッションを想定してのグループディスカッションを行う。 学習成果：グループディスカッションを通して、社会的・職業的自立のための能力を身につける。 予習事項：グループディスカッシでの応答をイメージしてくる。 復習事項：グループディスカッシを通して、自身の課題を見つける。
15 回	○就職について（８）、総括（尾崎・都田） ・就職試験におけるグループディスカッションを想定してのグループディスカッションを行う。 ・本科目の総括を行う。 学習成果：グループディスカッションを通して、社会的・職業的自立のための能力を身につける。 本授業の総括を行い、今後の自身のキャリアについて考えてみる。 予習事項：グループディスカッシでの応答をイメージしてくる。 復習事項：グループディスカッシを通して、自身の課題を見つける。

令　和　２　　年　　度　　教　　育　　計　　画							
科目名	英語（A）	授業回数	15	単位数	1	担当教員	濵田 佐保子
質問受付の方法: オフィスアワー：月曜日１限、研究室：M509、　sahoko@owc.ac.jp							

教育目標と学生の学習成果		教育目標： 国際化が急速に進んでいる今日、英語力を身につけることは不可欠である。次のことを目標とする。 １．読むことを基盤として、英語の総合力を向上させるために基本的な文法、構文把握、語彙を強化する。 ２．異文化に親しみ、理解を深める。 ３．子供の小学校での英語活動に備えて、保育の現場で英語を取り入れた活動を指導できるようになるための能力を養い、アイディアを身につける。 ４．グループ活動を通じて、英語で意思疎通を行う力を養う。 学生の学習成果： 専門的学習成果として、教育目標に記載した力を身につけ、大学初級レベルの英文を自力で理解する力を養う。 汎用的学習成果として、人間関係力（自己表現、他者理解、問題解決）を涵養する。
教育方法	授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） 1. 文法項目の重点を解説する。 2.「基本問題」を解答してもらう。→解説する。 3.「発展問題」を解答してもらう。→解説する。 4.「長文問題」の和訳と問題をしてもらう。→解説する。(1から4は予習を前提として授業を行う。) 5. グループ活動を行う。(保育の現場での指導につながる基本語彙の修得、ことば遊び、歌、行事を題材にした活動など)
	予習・復習	・毎授業前に、「授業回数別教育内容」に記された予習を求める。 ・毎授業後に、「授業回数別教育内容」に記された復習を求める。 ・復習を行ったかどうかは単語テストや指名により、予習については授業中に発言を求めることやノートチェックにより確認する。
	テキスト	・佐藤哲三、愛甲ゆかり、2013、*English Primer*, Revised Edition、南雲堂 ・プリント教材
学習評価の方法		以下の４つの学習成果について、おおよそ「①②③が 95%、④が 5%」の割合で評価する。 ① 英語の総合力向上　② 異文化への理解 ③ 保育の現場での英語の指導力養成　④ 英語で意思疎通を行う力の養成 学習評価は次のように行う。 １．復習テスト：40 点（100 点満点×0.4）　２．定期試験：40 点（100 点満点×0.4） ３．小テスト：10 点（10 点満点×2 回×0.5）４．ノート提出：5 点(1 回または 2 回) ５．グループ活動：5 点　６．テキスト等忘れ物：減点 0.5 点 ７．受講態度などに問題がある場合、１件につき１点減点とする。
注意事項		参考図書 「基礎からよくわかる英文法」綿貫陽、旺文社、２００２年。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1回	オリエンテーション：授業の進め方、成績評価の方法などを理解する。 演習内容：自己紹介を題材とした活動を行い、自己紹介の時に頻出する語彙・表現を習得し、使えるようにする。 学習成果：自己紹介に関するやりとりを英語で行える。 予習事項：問題演習と指定した部分の和訳
2回	演習内容: Unit 1　Be 動詞　電話での会話を題材として英語力を養う。 グループ活動を通じて、英語で意思疎通することを体験する。 学習成果：英語力を向上させ、Be 動詞と電話での会話を正しく理解し、簡単な英語で意思疎通でき、保育の現場での英語指導力を養う。 予習事項：問題演習と指定した部分の和訳 復習事項：間違えた部分を中心とした見直しと語彙の暗記
3回	演習内容：Unit 2　一般動詞（現在）　イギリスにおける留学生活の１日の様子を題材として英語力を養う。 グループ活動を通じて、英語で意思疎通することを体験する。 学習成果：英語力を向上させ、一般動詞とイギリスにおける留学生の１日を説明した英文を正しく理解し、簡単な英語で意思疎通でき、保育の現場での英語指導力を養う。 予習事項：問題演習と指定した部分の和訳 復習事項：間違えた部分を中心とした見直しと語彙の暗記
4回	演習内容：Unit 2　一般動詞（現在）　イギリスにおける留学生活の１日の様子を題材として英語力を養う。 グループ活動を通じて、英語で意思疎通することを体験する。 学習成果：英語力を向上させ、一般動詞とイギリスにおける留学生の１日を説明した英文を正しく理解し、簡単な英語で意思疎通でき、保育の現場での英語指導力を養う。 予習事項：問題演習と指定した部分の和訳 復習事項：間違えた部分を中心とした見直しと語彙の暗記
5回	演習内容：Unit 3　一般動詞（過去）　電車の切符にまつわる話を題材として英語力を養う。 グループ活動を通じて、英語で意思疎通することを体験する。 学習成果：英語力を向上させ、一般動詞（過去）と電車の切符にまつわる話を正しく理解し、簡単な英語で意思疎通でき、保育の現場での英語指導力を養う。 予習事項：問題演習と指定した部分の和訳 復習事項：間違えた部分を中心とした見直しと語彙の暗記

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
6 回	演習内容：Unit 3　一般動詞（過去）　電車の切符にまつわる話を題材として英語力を養う。 グループ活動を通じて、英語で意思疎通することを体験する。 小テストにより、語彙と重点項目の確認をする。 学習成果：英語力を向上させ、一般動詞（過去）と電車の切符にまつわる話を正しく理解し、簡単な英語で意思疎通でき、保育の現場での英語指導力を養う。 予習事項：問題演習と指定した部分の和訳 復習事項：間違えた部分を中心とした見直しと語彙の暗記
7 回	演習内容：Unit 4 進行形　　動物がさらされている危機を題材として英語力を養う。 グループ活動を通じて、英語で意思疎通することを体験する。 学習成果：英語力を向上させ、進行形と動物がさらされている危機について英文を正しく理解できる。試験範囲の語彙を身につける。 復習事項：復習テストに備えて、第７回までの学習内容を間違えた問題（箇所）を中心に復習しておく。(指定したプリントからも出題される)
8 回	演習内容：第７回目までに学習したことの総復習を行い、重要なポイントを確認する。 復習テスト テキスト・ノート提出 学習成果：第７回目までに学習したことを、体系的に理解できる。 予習事項：　問題演習と指定した部分の和訳 復習事項：　復習テストで難しかった箇所の見直し
9 回	演習内容 ：復習テストで間違いが多かった問題について解説する。 Unit 5　未来形　　道案内についての対話を題材として英語力を養う。 グループ活動を通じて英語で意思疎通することを体験する。 学習成果：英語力を向上させ、未来形と道案内についての対話を正しく理解し、簡単な英語で意思疎通でき、保育の現場での英語指導力を養う。 予習事項：問題演習と指定した部分の和訳 復習事項：間違えた部分を中心とした見直しと語彙の暗記
10 回	演習内容：Unit 6　助動詞　　英語の学習方法についての説明を題材として英語力を養う。 グループ活動を通じて、英語で意思疎通することを体験する。 学習成果：英語力を向上させ、助動詞と英語学習方法についての説明文を正しく理解し、簡単な英語で意思疎通でき、保育の現場での英語指導力を養う。 予習事項：問題演習と指定した部分の和訳 復習事項：間違えた部分を中心とした見直しと語彙の暗記

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
11回	演習内容：Unit 7　名詞・冠詞　　イギリス旅行についての英文を題材として英語力を養う。 グループ活動を通じて、英語で意思疎通することを体験する。 学習成果：英語力を向上させ、名詞・冠詞とイギリス旅行についての英文を正しく理解し、簡単な英語で意思疎通でき、保育の現場での英語指導力を養う。 予習事項：問題演習と指定した部分の和訳 復習事項：間違えた部分を中心とした見直しと語彙の暗記
12回	演習内容：Unit 7　名詞・冠詞　　イギリス旅行についての英文を題材として英語力を養う。 グループ活動を通じて、英語で意思疎通することを体験する。 学習成果：英語力を向上させ、名詞・冠詞とイギリス旅行についての英文を正しく理解し、簡単な英語で意思疎通でき、保育の現場での英語指導力を養う。 予習事項：問題演習と指定した部分の和訳 復習事項：間違えた部分を中心とした見直しと語彙の暗記
13回	演習内容：Unit 8　代名詞　　英語学習についての会話を題材として英語力を養う。 グループ活動を通じて、英語で意思疎通することを体験する。 小テストにより語彙と文法の重点項目を確認する。 学習成果：英語力を向上させ、代名詞と英語学習についての会話を正しく理解し、簡単な英語で意思疎通でき、保育の現場での英語指導力を養う。 予習事項：問題演習と指定した部分の和訳 復習事項：間違えた部分を中心とした見直しと語彙の暗記
14回	演習内容：Unit 8　代名詞　　英語学習についての会話を題材として英語力を養う。 グループ活動を通じて、英語で意思疎通することを体験する。 学習成果：英語力を向上させ、代名詞と英語学習についての会話を正しく理解し、簡単な英語で意思疎通でき、保育の現場での英語指導力を養う。 予習事項：問題演習と指定した部分の和訳 復習事項：間違えた部分を中心とした見直しと語彙の暗記
15回	演習内容：Unit 9 前置詞　　ボーイスカートについての英文を題材にして英語力を養う。 試験範囲の語彙の復習を行う。 学習成果：英語力を向上させ、前置詞とボーイスカウトの英文を正しく理解する。試験範囲の語彙を身につけることができる。 復習事項：第9回から第15回までの学習内容を復習しておく。指定した範囲の和訳と指定したプリントも出題される。

令　和　２　年　度　教　育　計　画							
科目名	英語（B）	授業回数	15	単位数	1	担当教員	濵田 佐保子
質問受付の方法：オフィスアワー：月曜日１限、研究室: M509、　sahoko@owc.ac.jp							

教育目標と学生の学習成果

教育目標：

国際化が急速に進んでいる今日、英語力を身につけることは不可欠である。次のことを目標とする。

１．読むことを基盤として、英語の総合力を向上させるために基本的な文法、構文把握、語彙を強化する。
２．異文化に親しみ、理解を深める。
３．子供の小学校での英語活動に備えて、保育の現場で英語を取り入れた活動を指導できるようになるための能力を養い、アイディアを身につける。
４．グループ活動を通じて、英語で意思疎通を行う力を養う。

学生の学習成果：

専門的学習成果として、教育目標に記載した力を身につけ、大学初級レベルの英文を自力で理解する力を養う。

汎用的学習成果として、人間関係力（自己表現、他者理解、問題解決）を涵養する。

教育方法

授業の進め方	（講義・演習、実験、実習、実技） 1. 1. 文法項目の重点を解説する。 2. 「基本問題」を解答してもらう。→解説する。 3.「発展問題」を解答してもらう。→解説する。 4. 「長文問題」の和訳と問題をしてもらう。→解説する。(1 から 4 は予習を前提として授業を行う。) 5. グループ活動を行う。(保育の現場での指導につながる基本語彙の修得、ことば遊び、歌、行事を題材にした活動など)
予習・復習	・毎授業前に、「授業回数別教育内容」に記された予習を求める。 ・毎授業後に、「授業回数別教育内容」に記された復習を求める。 ・復習を行ったかどうかは単語テストや指名により、予習については授業中に発言を求めることにより確認する。
テキスト	佐藤哲三、愛甲ゆかり、2013、*English Primer*, Revised Edition、南雲堂 ・プリント教材

学習評価の方法

以下の４つの学習成果について、おおよそ「①②③が 95%、④が 5%」の割合で評価する。

① 英語の総合力向上　　② 異文化への理解
③ 保育の現場での英語の指導力養成　　④ 英語で意思疎通を行う力の養成

学習評価は次のように行う。

１．復習テスト：40 点（100 点満点×0.4）　２．定期試験：40 点（100 点満点×0.4）
３．小テスト：10 点（10 点満点×2 回×0.5）４．ノート提出：5 点(１回または２回)
５．グループ活動：5 点　６．テキスト等忘れ物：減点 0.5 点
７．受講態度などに問題がある場合、減点とする。

注意事項

参考図書

「基礎からよくわかる英文法」綿貫陽、旺文社、２００２年。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1回	オリエンテーション：授業の進め方、成績評価の方法などを理解する。 演習内容：性格を題材として英語力を養う。 学習成果：この授業についての目的、進め方、方針を理解する。性格を表現する時によく用いる語彙、表現を習得する。 予習事項：問題演習と指定した部分の和訳
2回	演習内容： Unit 10 形容詞・副詞　　村にやってきたサーカスについての体験を題材として英語力を養う。 グループ活動を通じて、英語で意思疎通することを体験する。 学習成果：英語力を向上させ、形容詞・副詞、サーカスについての体験を書いた英文を正しく理解し、簡単な英語で意思疎通でき、保育の現場での英語指導力を養う。 予習事項：問題演習と指定した部分の和訳 復習事項：間違えた個所を中心とした見直しと語彙の暗記
3回	演習内容：Unit 10 形容詞・副詞　　村にやってきたサーカスにまつわる体験を題材として英語力を養う。 グループ活動を通じて、英語で意思疎通することを体験する。 学習成果：英語力を向上させ、形容詞・副詞、サーカスについての体験を書いた英文を正しく理解し、保育の現場での英語指導力を養う。 予習事項：問題演習と指定した部分の和訳 復習事項：間違えた個所を中心とした見直しと語彙の暗記
4回	演習内容： Unit 11　比較　　イギリスの地理についての英文を題材として英語力を養う。 グループ活動を通じて、英語で意思疎通することを体験する。 学習成果：英語力を向上させ、比較とイギリスの地理についての英文を正しく理解し、簡単な英語で意思疎通でき、保育の現場での英語指導力を養う。 予習事項：問題演習と指定した部分の和訳 復習事項：間違えた個所を中心とした見直しと語彙の暗記
5回	演習内容：Unit 11　比較　　イギリスの地理についての英文を題材として英語力を養う。 グループ活動を通じて、英語で意思疎通することを体験する。 学習成果：英語力を向上させ、比較とイギリスの地理についての英文を正しく理解し、簡単な英語で意思疎通でき、保育の現場での英語指導力を養う。 予習事項：問題演習と指定した部分の和訳 復習事項：間違えた個所を中心とした見直しと語彙の暗記

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
6 回	演習内容：Unit 12　命令文・感嘆文　　道で出会った友人との会話を題材として英語力を養う。地図を理解する。 グループ活動を通じて、英語で意思疎通することを体験する。**小テスト**により、語彙と重点項目の確認を行う。 学習成果：英語力を向上させ、命令文・感嘆文と道で出会った友人との会話を正しく理解し、簡単な英語で意思疎通でき、保育の現場での英語指導力を養う。 予習事項：問題演習と指定した部分の和訳 復習事項：間違えた個所を中心とした見直しと語彙の暗記
7 回	演習内容：Unit 13　接続詞（1）　Charles Chaplin の人生を題材として英語力を養う。地図を理解する。 グループ活動を通じて保育の現場での英語指導力を養う。 学習成果：英語力を向上させ、接続詞と Charles Chaplin の人生についての英文を正しく理解できる。試験範囲の語彙を習得できる。 復習事項：復習テストに備えて第７回までの学習内容を間違えた問題（箇所）を中心に復習しておく。(指定したプリントも含む)
8 回	演習内容：第７回目までの学習したことの総復習を行い、重要なポイントを確認する。 **復習テスト** テキスト・ノート提出 学習成果：第７回目までに学習したことを、体系的に理解できる。 予習事項：　問題演習と指定した部分の和訳 復習事項：　復習テストで難しかった箇所の見直し
9 回	演習内容：Unit 14　不定詞（1）・動名詞（1）　将来の夢についての会話を題材として英語力を養う。 グループ活動を通じて、保育の現場での英語指導力を養う。 学習成果：英語力を向上させ、不定詞・動名詞と将来の夢についての会話を正しく理解し、簡単な英語で意思疎通ができ、保育の現場での英語指導力を養う。 予習事項：問題演習と指定した部分の和訳 復習事項：間違えた個所を中心とした見直しと語彙の暗記
10 回	演習内容：Unit 14　不定詞（1）・動名詞（1）　将来の夢についての会話を題材として英語力を養う。 グループ活動を通じて、保育の現場での英語指導力を養う。 学習成果：英語力を向上させ、不定詞・動名詞と将来の夢についての会話を正しく理解し、簡単な英語で意思疎通でき、保育の現場での英語指導力を養う。 予習事項：問題演習と指定した部分の和訳 復習事項：間違えた個所を中心とした見直しと語彙の暗記

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
11回	演習内容：Unit 15　受動態　　日本人の少年のオーストラリアでの生活を題材として英語力を養う。 グループ活動を通じて、英語で意思疎通することを体験する。 学習成果：英語力を向上させ、受動態と日本人の少年のオーストラリアでの生活を説明した英文を正しく理解し、簡単な英語で意思疎通でき、保育の現場での英語指導力を養う。 予習事項：問題演習と指定した部分の和訳 復習事項：間違えた個所を中心とした見直しと語彙の暗記
12回	演習内容：Unit 15 受動態　　日本人の少年のオーストラリアでの生活を題材として英語力を養う。 グループ活動を通じて、英語で意思疎通することを体験する。 学習成果：英語力を向上させ、受動態と日本人の少年のオーストラリアでの生活を説明した英文を正しく理解し、簡単な英語で意思疎通でき、保育の現場での英語指導力を養う。 予習事項：問題演習と指定した部分の和訳 復習事項：間違えた個所を中心とした見直しと語彙の暗記
13回	演習内容：Unit 16　完了形　　日本人の少年のイギリスでの経験を題材として英語力を養う。 グループ活動を通じて、英語で意思疎通することを体験する。 小テストにより、語彙と重点項目の確認をする。 学習成果：英語力を向上させ、完了形と日本人の少年のイギリスでの経験を正しく理解し、簡単な英語で意思疎通でき、保育の現場での英語指導力を養う。 予習事項：問題演習と指定した部分の和訳 復習事項：間違えた個所を中心とした見直しと語彙の暗記
14回	演習内容：Unit17　接続詞（Ⅱ）　日本での観光案内を依頼している手紙文を題材として英語力を養う。 試験範囲の語彙の復習を行う。 グループ活動を通じて、英語で意思疎通することを体験する。 学習成果：英語力を向上させ、接続詞と日本での観光案内を依頼している手紙文を正しく理解し、簡単な英語で意思疎通でき、保育の現場での英語指導力を養う。 予習事項：問題演習と指定した部分の和訳 復習事項：間違えた個所を中心とした見直しと語彙の暗記
15回	演習内容：Unit18　5つの基本文型　　レストランでの出来事を題材として英語力を養う。 試験範囲の語彙の復習を行う。 学習成果：英語力を向上させ、5つの基本文型とレストランでの出来事を書いた英文を正しく書ける。試験範囲の語彙を身につける。 復習事項：定期試験に備えて、第9回から第15回までの学習内容を復習しておく。指定した範囲の和訳と指定したプリントも出題される。

令　和　２　年　　度　　教　　育　　計　　画							
科目名	体育実技	授業回数	15	単位数	1	担当教員	吉田　升

質問受付の方法：

教育目標と学生の学習成果		教育目標： 　体育実技を通して、体力や技能の向上を図り、仲間と体を動かす楽しさを味わうことでコミュニケーション能力を身につける。また、生涯にわたってスポーツを行う生活習慣を身につける。 学生の学習成果 ・専門的学習成果：１　基礎技能の向上及び試合ができる技能・能力が身に付く。 　　２　日常生活に必要な体力を養う。 ・汎用的学習成果：スポーツ活動に積極的に参加し、実践する態度が身につく。コミュニケーション能力や自己管理能力が身につく。
教育方法	授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） ・６種目の球技を実践する。 ・体力維持の為、筋力トレーニングを行う。 ・それぞれの球技のルールを説明し、基礎技能の練習や試合を行う。 ・グループ編成で授業を進めていく。 ・用具の管理を当番制で行う。
	予習・復習	予習：球技種目のルールの把握を行う。 復習：シャトルカードにて授業の振り返りを行う。
	テキスト	特に設けない。
学習評価の方法		専門的学習成果 バドミントン 15 点　卓球 15 点　　硬式テニス 15 点 バスケットボール（またはバレーボール）　15 点 技能、ルール理解の評価を行う。 汎用的学習成果 課題レポートの提出とその内容　10 点 スポーツ活動に参加する態度　20 点 グループ活動での参加態度　10 点 学習評価より、遅刻・早退１回につき２点減点、体操着を忘れた 場合は３点減点、見学の場合は授業内容についてのレポートを提出する。 また、受講態度に問題があった場合は、社会人としての倫理観が十分でないとして評価から減点する。
注意事項		遅刻について：準備運動終了後入室した場合、怪我などの心配があるので、指導者の指示に従って授業に参加すること。 見学者について：授業内容を見学用紙に記入すること。 トイレ等で退室する場合、入室時に帰ってきたことを伝えること。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	オリエンテーション 　授業の進め方、安全に対する留意点、学習評価の方法、施設、用具の使い方について説明する。 基礎運動 　ストレッチ、ランニング、腹筋、背筋などの実技を行う。 学習評価 　授業の進め方及び学習評価の方法を理解する。毎回の授業において基礎運動を行うことにより体力が身に付くことを理解する。
2 ・ 3 回	ソフトバレーボール ・基礎技能の習得：アンダーパス　オーバーパスの技能習得をする。 ・ルールの説明：２ゲーム先取で行う。１ゲーム 15 点、１対１の場合は３ゲーム目を行う。 　ただし３ゲーム目は５点で勝敗を決める。 ・試合：チームごと対戦相手を決め交流を図る。 学習評価 　基礎技能の向上及びルールを理解することにより試合を円滑に進めることが出来る。 　対戦相手と交流を図ることでコミュニケーション能力が身に付く。
4 ・ 5 ・ 6 回	硬式テニス ・基礎技能の習得：ストローク、サーブ、レシーブの技能習得をする。 ・２人組、４人組で打ち合いを行う。 学習成果 　基礎技能の向上及び試合が出来る能力が身に付く。
7 回	バドミントン ・基礎技能の習得：ストローク、ハイクリヤー、スマッシュ、ドロップ、サーブの技能習得をする。 ルールの説明：実践を交えながらルールの理解を行う。 学習成果 　基礎技能の向上及び試合ができる技能・能力が身に付く。 予習事項：ダブルスのルールを調べてノートに記す。
8 ・ 9 回	バドミントン ・試合（ダブルス）：リーグ戦を行う（グループごと）。 学習成果 　試合戦術が向上する 　積極的に実践する態度が身に付く。
10 回	バドミントン ・試合（ダブルス） 　リーグ戦を行う（グループごと） 　・ルール説明：実践を交えながら 　　ルールの理解を行う ・2 種目のローテーションで授業を進める記す 卓球 ・基礎技能の習得 サーブ　ストロークの技能習得をする。 学習成果 バドミントン：試合戦術が向上する。他グループと交流することでコミュニケーション能力が身に付く。 卓球：基礎技能の向上及び試合ができる技能・能力が身に付く。 予習事項：ダブルスのルールを調べてノートに

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
11 回	バドミントン ・実技評価 戦術、基礎技能の向上などを評価する。 ・2 種目のローテーションで授業を進める 学習成果 　バドミントン：練習してきた成果を発揮できる能力が身に付く（自己実現） 　卓球：試合に積極的に参加し、実践する態度を身に付ける。他学生との交流を図り、体を動かす楽しさを味わうことやコミュニケーション能力が身に付く。 卓球 ・試合（ダブルス）：リーグ戦を行う。
12 回	バドミントン ・試合（ダブルス）リーグ戦を行う。 ・2 種目のローテーションで授業を進める。 学習成果 　バドミントン：戦術を考えることで、協力し合う態度が身に付く。 　卓球：練習してきた成果が発揮できる能力が身に付く（自己実現） 卓球 ・実技評価 サーブと 10 回以上のラリーの実技評価をする。
13 ・ 14 回	バスケットボール ・基礎技能の習得：チェスト等のパス　ジャンプ・ドリブルシュートの技能習得をする。 ・ルールの説明：実践を交えながらルールを理解する。 ・試合：グループ編成を行い、交流戦を行う。 学習成果 　基礎技能の向上及び試合ができる技能・能力が身に付く。戦術を考えることで、協力し合う態度、価値観、意見などの自己表現力が身に付く。 予習事項：ルールを調べノートに記す。
	バレーボール ・基礎技能の習得：サーブ、レシーブ、オーバー・アンダーハンドパスを習得する。 ・ルールの説明：実践を交えながらルールの理解をする。 ・試合：グループ編成を行い、交流戦を行う。 学習成果 　基礎技能の向上および試合ができる技能・能力が身に付く。戦術を考えることで、協力し合う態度、価値観、意見などの自己表現力が身に付く。
	実技評価 ・バレーボール：レシーブの実技評価を行う。 ・バスケットボール：ドリブルシュートの実技評価を行う。 どちらかを選択し、実技評価を受ける。 学習成果 　練習してきた成果を発揮できる能力が身に付く（自己実現）。
15 回	バスケットボール：グループ編成を行い、交流戦を行う。 学習成果 　勝つ喜び、負ける悔しさなどを共感する態度やコミュニケーション能力が身に付く。

令　和　２　年　度　教　育　計　画							
科目名	体育理論	授業回数	８	単位数	１	担当教員	吉田　升
質問受付の方法：							

教育目標と学生の学習成果		教育目標： １．体力の保持・増進に係る科学的な運動処方及び生涯体育の必要性に対する理解 ２．現代社会における心身の健康を取り巻く諸問題に対する理解 ３．健康生活の構築を図るための有効なアプローチに対する理解 学生の学習成果： ・専門的学習成果として、上記３項目の教育目標を達成できるようにする。 ・汎用的学習成果として、積極的に体力の保持・増進を図るための「価値・意見」を形成すると共に、「論理的思考力」を身につける。
教育方法	授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） 上述の教育目標及び学習成果を達成するために、シラバスに示すテーマ以外にも、健康を脅かす喫緊の課題が有れば、その内容を盛り込んで講義を展開する。 また、講義内容にかかわらず、以下の項目を重視して授業を進める。 １．取り扱う全テーマについて、自らの問題として関心を持って捉える姿勢を育む。 ２．毎回、講義を通して感じたことや考えたこと等をシャトルカードに記すことを求め、記述された内容を講義に反映させる。 ３．問答式授業を採用し、積極的な発表や質疑応答等を通して授業を活性化する。
	予習・復習	予習：毎時間、次回講義における主要な内容について予習を課す。 復習：毎時間、講義内容における重要な項目について復習を課す。
	テキスト	・テキストは使用せず、講義内容に即したプリントを使用して講義を進める。 ＊補助教材として、VTR や DVD を適宜使用する。
学習評価の方法		下記３点の学習成果について、「専門的学習成果」として、「１」・「２」は「筆記試験（80点／１回実施）」および「課題（14 点／７回提出（各２点）」、「３」は「レポート（６点／１回提出）」によって評価する。「汎用的学習成果」については、「遅刻・早退」１回につき「３点」を減ずる（公共交通機関の乱れによる遅刻は減点しない／ただし欠席届に証明書（遅延等）が添付されている場合に限る）。また、「態度・信念」の点検として、受講中の私語や非協力的態度等の問題行動について複数回の注意の後も改善がみられない場合、各授業における当該事態１回につき「３点」を減ずる。さらに、「価値・意見」の点検として、シャトルカードに各回の講義内容のテーマについてコメントを記すことを課し、十分に記されていない場合は「３点」を減ずる。 １．体力の保持・増進に係る科学的な運動処方及び生涯体育の必要性に対する理解 ２．現代社会における心身の健康を取り巻く諸問題に対する理解 ３．健康生活の構築を図るための有効なアプローチに対する理解
注意事項		参考図書等 ・緒方正名編『健康科学概論』朝倉書店、1992 年。 ・田口貞善・山地啓司編『運動・健康とからだの秘密』近代科学者、1998 年。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	■オリエンテーション 教育目標と学生の学習成果、教育方法、学習評価の方法について説明する。 ■講義内容［現代社会における心身を取り巻く諸問題］ 講義テーマに沿って現代に生きる我々が抱える心身をとりまく諸問題について解説する。 ＊学習成果：心身の問題や課題について自らのこととして捉える意識を獲得する。 【予習】運動の種類と具体的運動種目の予習① 【復習】現代人の心身の問題や課題の復習
2 回	■講義内容［運動の生理］ 筋収縮様式と運動・スポーツの種類（有酸素・無酸素運動）との連関性について解説する。 ＊学習成果：運動・スポーツによる身体への具体的な効力について理解する。 【予習】「あがり」が引き起こす心身の変化について予習② 【復習】有酸素運動の効用と運動実践の必要性について復習　　【提出】予習①
3 回	■講義内容［運動の心理］ タイミング事態・行動の特質、「あがり」の生理的メカニズムと対策について解説する。 ＊学習成果：運動を支える心理や具体的に講じることのできる対策について理解する。 【予習】ストレスによって引き起こされる病気の種類について予習③ 【復習】「あがり」のメカニズムと具体的な対策について復習　　【提出】予習②
4 回	■講義内容［ストレス］ ストレス発生のメカニズムと生理的変化、引き起こされるストレス病について解説する。 ＊学習成果：ストレスのメカニズムと回避・解消法の知識について理解する。 【予習】アルコールが大脳に及ぼす影響について予習④ 【復習】ストレスのメカニズムと回避・解消法の実際について復習　　【提出】予習③
5 回	■講義内容［薬物・飲酒］ 薬物とアルコールについて、依存性や依存のメカニズム、危険性について解説する。 ＊学習成果：薬物依存・アルコール依存の危険性と実生活に生かす意識について理解する。 【予習】脳梗塞の原因について予習⑤ 【復習】薬物依存・アルコール依存の危険性について復習　　【提出】予習④
6 回	■講義内容［脳の再生と発達］ 脳の再生と発達について、「VTR／秘められた復元力～発達と再生～」視聴により解説する。 ＊学習成果：日常において脳梗塞等を引き起こす要因及び再生への働きかけを理解する。 【予習】「HIV」と「AIDS」について予習⑥ 【復習】生活習慣の見直しについて復習　　【提出】予習⑤
7 回	■講義内容［後天性免疫不全症候群（AIDS)］ AIDS 発症のメカニズムと感染ルート、主な感染経路、感染防止策について解説する。 ＊学習成果：AIDS が決して他人事でない現実と日常での防止の必要性について理解する。 【予習】妊娠・出産における母親の心理的変化について予習⑦ 【復習】AIDS 発症のメカニズムと社会的課題について復習　　【提出】予習⑥
8 回	■講義内容［妊娠・出産］ 生命誕生について、「DVD／驚異の小宇宙(1)人体～生命の誕生～」の視聴により解説する。 ＊学習成果：妊娠・出産に伴う心身の変化を通して「生命の尊厳」について理解する。 【提出】予習⑦　【レポート】DVD の視聴から得られた知見

令　和　２　年　度　教　育　計　画							
科目名	基礎音楽	授業回数	15	単位数	1	担当教員	大羽敬子
質問受付の方法: Ｓ－Ｔシャトルカード、授業時間の前後							

教育目標と学生の学習成果

〈教育目標〉
音楽表現に必要な基礎知識を習得し、保育・教育現場で実践できる表現技能を身につけ、自ら音楽表現の楽しさを味わうことを目標とする。

1. 楽譜を読むために必要な基礎知識を習得する。
2. 習得した読譜力を、歌唱・ピアノ演奏における表現の向上に結びつける。
3. 実践的な応用力を身につけ、歌唱表現を楽しむことができる。

〈学生の学習成果〉
専門的学習成果：　教育目標に掲げた 3 項目について習得し、歌唱やピアノ演奏などの音楽表現に活かせるようになる。

教育方法

授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） ・テキストや配布プリントを用いて講義を行う。 ・講義内容に沿って演習を行う。 ・知識の理解度を確認するために小テストを実施する。
予習・復習	・授業前にテキスト該当ページを読んでおくことが望ましい。 ・授業後に演習内容の復習を求める。
テキスト	テキストＡ　「この一冊でわかる　ピアノ実技と楽典　増補版」　音楽之友社 テキストＢ　「こどものうた　200」　チャイルド本社

学習評価の方法

専門的学習成果について、以下の配分で判断し、学習評価を行う。

1. 授業への取り組み（課題提出を含む）　20%
2. 小テスト　（①～⑩）　20%
3. 学期末筆記試験　60%

なお、小テスト（①～⑩）については、出題範囲を前回授業内容とし、授業内で実施する。
課題提出については、第 13 回～第 15 回授業内で作った伴奏楽譜を提出するものとする。

注意事項

参考図書：各自の持っているピアノ教本
注意事項：授業の特性として、欠席した場合は、次回授業内容が分かり難くなるので注意する。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	＜オリエンテーション＞ 授業の進め方、スケジュール、学習評価の方法について説明する。 音楽歴、読譜力等についてのアンケート調査をする。 ＜音楽の学び方＞　テキストＡ　P6～48 ・授業内容　保育士・幼稚園教諭に必要な音楽基礎の学び方、心構えについて認識する。 ・学習成果　読譜力を身につけることの必要性を認識できる。 知識理解にとどまらず、実際に歌唱や楽器演奏で表現できるようになることが重要であることを認識できる。 ・復習課題　テキストを再度熟読し、音楽の学び方を確認する。
2 回	＜楽譜について＞　テキストＡ　P50～51、テキストＢ ・授業内容　楽譜の意味、五線、小節、音部記号と譜表、楽譜と鍵盤の位置について理解する。 音の高低を意識する練習をする。 ・学習成果　楽譜とは何かを認識できる。 楽譜と鍵盤の位置を認識することができる。 音の高低を意識できるようになる。 ・復習課題　実際に鍵盤楽器で音を聴いて確認する。 音の高低を声に出して練習する。
3 回	・小テスト① ＜音名と階名＞　テキストＡ　P52～55、テキストＢ ・授業内容　音名、半音と全音、変化記号、異名同音、臨時記号とナチュラルについて理解する。 階名について理解し、簡単な楽譜を用いて階名唱の練習をする。 ・学習成果　音の高さに関する知識を身につけることができる。 ・復習課題　階名唱を繰り返し練習し、慣れる。
4 回	・小テスト② ＜音符と休符＞　テキストＡ　P56、　テキストＢ ・授業内容　音符・休符の種類と名称、長さについて理解する。 わらべうたなどの楽譜を用いてリズム打ちの練習をする ・学習成果　音符・休符の長さに関する知識を身につけることができる。 正確なリズム打ちができるようになる。 ・復習課題　リズム打ちを繰り返し練習し、慣れる。
5 回	・小テスト③ ＜リズムと拍子＞　テキストＡ　P57～58，テキストＢ ・授業内容　拍子記号、拍子と強さ、弱起、シンコペーション、連符について理解する。 ・学習成果　拍子を理解して演奏の基礎を認識できる。 ・復習課題　授業で扱った曲を繰り返し練習していろいろな拍子に慣れる。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
6回	・小テスト④ ＜記号と標語＞　テキストＡ　P68～71、テキストＢ ・授業内容　記号と標語について、強弱に関するもの・速度に関するもの・奏法に関するもの・曲想に関するものを理解する。 反復記号について理解する。 ・学習成果　記号と標語について確認し、楽譜の指示通りに演奏できるようになる。 ・復習課題　ピアノ楽譜などで復習して、知識を定着させる。
7回	・小テスト⑤ ＜音階と調＞　テキストＡ　P59～67，テキストＢ ・授業内容　長音階と短音階について名称と構成音について理解する。 調子記号について理解する。 ・学習成果　いろいろな調の楽譜に対応できるようになる。 ・復習課題　音階について、実際に鍵盤楽器を用いて音を確かめる。
8回	・小テスト⑥ ＜読譜（1）＞　テキストＡ　P50～71、テキストＢ、配布プリント ・授業内容　実際に子どもの歌の楽譜を用いて、第１回～第７回までの内容を確認しながら楽譜を読む練習をする。 ・学習成果　簡単な初見演奏ができるようになる。 ・復習課題　授業で扱った楽譜について、繰り返し練習する。
9回	＜読譜（2）＞　テキストＡ　P50～71、テキストＢ、配布プリント ・授業内容　実際に子どもの歌の楽譜を用いて、第１回～第７回までの内容を確認しながら楽譜を読む練習をする。 ・学習成果　簡単な初見演奏ができるようになる。 ・復習課題　授業で扱った楽譜について、繰り返し練習する。
10回	＜音程（1）＞　テキストＡ P72～87、テキストＢ ・授業内容　音程について理解する 長短系の音程について理解し、実際に歌って響きを確かめる。 ・学習成果　2度、3度、6度、7度の音程について理解し、正確に歌う意識を持てるようになる。 ・復習課題　演習問題を再度確認する。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
11 回	・小テスト⑦ ＜音程（2）＞　テキストＡ　P72～87、テキストＢ ・授業内容　音程について理解する。 完全系の音程について理解し、実際に歌って響きを確かめる。 ・学習成果　1 度、4 度、5 度、8 度の音程について理解し、正確に歌う意識を持てるようになる。 ・復習課題　演習問題を再度確認する。
12 回	・小テスト⑧ ＜和音＞　テキストＡ　Ｐ88～98、テキストＢ ・授業内容　和音、主要三和音、メジャーコード、マイナーコード、セブンスコードについて理解する。 ・学習成果　コードネームによる簡易伴奏がつけられるようになる。 ・復習課題　演習問題を再度確認する。
13 回	・小テスト⑨ ＜コードネームと伴奏付け（1）＞　テキストＡ　Ｐ88～102、配布プリント ・授業内容　コードの種類と構成音を理解し、簡単な童謡のピアノ伴奏を考える。 ・課題提出　授業内で作成した楽譜を提出する。 ・学習成果　各自の演奏技能に応じたピアノ伴奏を考え、楽譜に書くことができるようになる。 ・復習課題　各自で考えたピアノ伴奏を練習し、さらに伴奏パターンを工夫する。
14 回	・小テスト⑩ ＜コードネームと伴奏付け（2）＞　テキストＡ　Ｐ88～102、配布プリント ・授業内容　伴奏パターンを工夫して、各自の演奏技能に応じたピアノ伴奏を考える。 ・課題提出　授業内で作成した楽譜を提出する。 ・学習成果　幼児の歌の伴奏がつけられるようになる。 ・復習課題　コードネームを見ながらピアノ伴奏を練習する。
15 回	＜移調と転調＞　テキストＡ　P67、配布プリント ・授業内容　移調と転調について理解する。 幼児の声域について知り、簡単な楽譜の移調をする。 ・課題提出　授業内で作成した楽譜を提出する。 ・学習成果　歌いやすい高さの調へ移調ができるようになる。 ・復習課題　第 1 回～第 15 回授業内容を総復習する。

<table>
<tr><td colspan="8">令　和　２　年　度　教　育　計　画</td></tr>
<tr><td>科目名</td><td>公務員講座（A）</td><td>授業回数</td><td>15</td><td>単位数</td><td>1</td><td>担当教員</td><td>都田　修兵
尾崎　聡</td></tr>
<tr><td colspan="8">質問受付の方法　（e-mail、オフィスアワー）：stsuda@owc.ac.jp、金曜日５限目</td></tr>
<tr><td>教育目標と学生の学習成果</td><td colspan="7">＜教育目標＞
本科目は、岡山短期大学の「公務員養成コース」を選択した学生の必修科目である。
公務員試験とは、公務員としての任用に適格と認められる候補者を選抜する目的で国や地方公共団体が実施する試験であり、公務員試験は国家機関職員である国家公務員を採用する「国家公務員試験」と、各地方公共団体職員である地方公務員を採用する「地方公務員試験」に大別される。
本科目は、とくに「地方公務員試験」（保育士・幼稚園教諭などの教員採用試験）を受験する学生を対象としたものである。地方公務員法第20条によれば「競争試験は、職務遂行の能力を有するかどうかを正確に判定することをもつてその目的とする。競争試験は、筆記試験により、若しくは口頭試問及び身体検査並びに人物性行、教育程度、経歴、適性、知能、技能、一般的知識、専門的知識及び適応性の判定の方法により、又はこれらの方法をあわせ用いることにより行うものとする。」とされている。
本科目は、主として「筆記試験」における「一般教養」（人文科学・自然科学・社会科学）の領域を扱うものであって、指定のテキストを用いて一般教養の問題を解きながら、「地方公務員試験」（保育士・幼稚園教諭などの教員採用試験）の傾向と対策を学ぶとともに、公務員として必要とされる資質・能力を育むことを目指すものである。

＜専門的学習成果＞
地方公務員試験及び公務員として必要とされる「一般教養」（人文科学・自然科学・社会科学）の内容について習得することである。

＜汎用的学習成果＞
公務員として必要とされる態度や信念を獲得する。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">教育方法</td><td>授業の進め方</td><td colspan="6">（講義・演習・実験・実習・実技）
・本科目は、「演習形式」による１５回の授業である。
・１５回の授業のなかで、「復習プリント」等を配布し、学生の理解が深まるように支援する。</td></tr>
<tr><td>予習・復習</td><td colspan="6">＜予習事項＞
毎授業回前に、「授業回数別教育内容」に記された予習を求める。

＜復習事項＞
毎授業回後に復習を求める。

※復習でわからないことがあった学生には、OH などを利用しながら、学習成果を高める援助を行う。</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="6">保育士試験研究会編『保育士・幼稚園教諭 採用試験問題集 2021 年度』実務教育出版、2020。
＊１年生後期科目「公務員講座（B）」でも使用する。</td></tr>
</table>

学習評価の方法	＜学習評価の方法＞ 学習評価の方法は以下のとおりである。 ●「専門的学習成果」については、「一般教養」（人文科学・自然科学・社会科学）の内容についての習得及び学習態度によって評価する。 （１）毎時間の予習及び復習プリント（5 点×11 回＝55 点） 毎時間テキストの該当箇所を解いてくること（予習）及び毎時間配布する復習プリントを解いて次回の授業時に提出すること（復習）によって得点とする。 （２）模擬試験の実施（5 点×3 回＝15 点） 授業内において「模擬試験」を実施する。この模擬試験への参加及び取り組みによって得点とする。なお、模擬試験当日欠席した者については、別途模擬試験を実施することとする。 ●「汎用的学習成果」については、公務員として必要とされる態度や信念を獲得の状況に基づき、評価を行う。 （３）シャトルカード（15 回×2 点＝30 点） 毎回の授業において、小論述課題を課す。この課題について、自分の考え等をシャトルカードに記入することによって得点とする。 （４）その他 ただし、学習評価の方法（１）（２）（３）以外に受講態度に問題があった者は、保育者としての倫理観が十分でないとして、 以下のケースに応じて減点することとする。 ・「過度の居眠り」及び「不必要な私語」（1 点） ・「無許可による携帯電話の使用（SNS 等）」（2 点） ●学習評価 「学則施行細則」第 7 条により、学習評価は 100 点法をもって採点し、80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可、60 点未満を不可とする。
注意事項	＜参考文献等＞ ●保育士採用試験情報研究会編著『スイスイわかる保育士採用　教養試験』一ツ橋書店。 ○保育士採用試験情報研究会編著『スイスイわかる保育士採用　専門試験』一ツ橋書店。 ●東京アカデミー編『教員採用試験対策　問題集１　一般教養Ⅰ［人文科学　自然科学］』七賀出版。 ●東京アカデミー編『教員採用試験対策　問題集２　一般教養Ⅰ［社会科学］』七賀出版。 ○東京アカデミー編『教員採用試験対策　問題集３　教職教養』七賀出版。 ●東京アカデミー編『教員採用試験対策　参考書　一般教養Ⅰ［人文科学］』七賀出版。 ●東京アカデミー編『教員採用試験対策　参考書　一般教養Ⅱ［社会科学］』七賀出版。 ●東京アカデミー編『教員採用試験対策　参考書　一般教養Ⅲ［自然科学］』七賀出版。 ○東京アカデミー編『教員採用試験対策　参考書　教職教養Ⅰ［教育原理・教育史］』七賀出版。 ○東京アカデミー編『教員採用試験対策　参考書　教職教養Ⅱ［教育心理・教育法規］』七賀出版。 ※上記の参考文献は各年度で出版されるもので、名称等変更になる可能性がある。 ※「●」＝「公務員講座（A）」の内容に関する参考文献を示す。 ※「○」＝「公務員講座（B）」の内容に関する参考文献を示す。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	○本時の目標 本科目の全体目標と授業スケジュール、成績評価等について理解するとともに、公務員試験についての基礎的な事項を理解する。 ○本時の活動 ・オリエンテーションを行う。 ・テキストで解説する。 ○予習及び復習事項 予習事項：テキストの該当箇所を読む。 復習事項：再度テキストの該当箇所及びノートを見ながら、本時の内容をおさえる。
2 回	○本時の目標 公務員試験における「一般教養」の出題範囲から、とくに「政治」「経済」「社会」に関しての理解を深める。 ○本時の活動 ・テキストの該当箇所の解説を行う。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所の問題を解いてくる。 ・復習事項：復習プリント①で復習する。
3 回	○本時の目標 公務員試験における「一般教養」の出題範囲から、とくに「地理」「日本史」「世界史」に関しての理解を深める。 ○本時の活動 ・テキストの該当箇所の解説を行う。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所の問題を解いてくる。 ・復習事項：復習プリント②で復習する。
4 回	○本時の目標 公務員試験における「一般教養」の出題範囲から、とくに「国語」「文学・芸術」に関しての理解を深める。 ○本時の活動 ・テキストの該当箇所の解説を行う。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所の問題を解いてくる。 ・復習事項：復習プリント③で復習する。
5 回	○本時の目標 公務員試験における「一般教養」の出題範囲から、とくに「思想」に関しての理解を深める。 ○本時の活動 ・テキストの該当箇所の解説を行う。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所の問題を解いてくる。 ・復習事項：復習プリント④で復習する。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
6回	○本時の目標 これまでの「一般教養」の内容についての模擬試験に取り組むことによって、自身の学びの状況等を把握するとともに、試験に向かう態度等を養う。 ○本時の活動 ・第１回模擬試験を受ける。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：第２回から第５回までの範囲を確認してくる。 ・復習事項：自身の学びの状況等を把握する。
7回	○本時の目標 公務員試験における「一般教養」の出題範囲から、とくに「数学」に関しての理解を深める。 ○本時の活動 ・テキストの該当箇所の解説を行う。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所の問題を解いてくる。 ・復習事項：復習プリント⑤で復習する。
8回	○本時の目標 公務員試験における「一般教養」の出題範囲から、とくに「物理」「化学」に関しての理解を深める。 ○本時の活動 ・テキストの該当箇所の解説を行う。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所の問題を解いてくる。 ・復習事項：復習プリント⑥で復習する。
9回	○本時の目標 公務員試験における「一般教養」の出題範囲から、とくに「生物」「地学」に関しての理解を深める。 ○本時の活動 ・テキストの該当箇所の解説を行う。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所の問題を解いてくる。 ・復習事項：復習プリント⑦で復習する。
10回	○本時の目標 これまでの「一般教養」の内容についての模擬試験に取り組むことによって、自身の学びの状況等を把握するとともに、試験に向かう態度等を養う。 ○本時の活動 ・第２回模擬試験を受ける。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：第７回から第９回までの範囲を確認してくる。 ・復習事項：自身の学びの状況等を把握する。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
11回	○本時の目標 公務員試験における「一般教養」の出題範囲から、とくに「文章理解（現代文)」「文章理解（古文)」に関しての理解を深める。 ○本時の活動 ・テキストの該当箇所の解説を行う。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所の問題を解いてくる。 ・復習事項：復習プリント⑧で復習する。
12回	○本時の目標 公務員試験における「一般教養」の出題範囲から、とくに「文章理解（英文)」に関しての理解を深める。 ○本時の活動 ・テキストの該当箇所の解説を行う。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所の問題を解いてくる。 ・復習事項：復習プリント⑨で復習する。
13回	○本時の目標 公務員試験における「一般教養」の出題範囲から、とくに「判断推理」に関しての理解を深める。 ○本時の活動 ・テキストの該当箇所の解説を行う。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所の問題を解いてくる。 ・復習事項：復習プリント⑩で復習する。
14回	○本時の目標 公務員試験における「一般教養」の出題範囲から、とくに「数的推理」「資料解釈」に関しての理解を深める。 ○本時の活動 ・テキストの該当箇所の解説を行う。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所の問題を解いてくる。 ・復習事項：復習プリント⑪で復習する。
15回	○本時の目標 これまでの「一般教養」の内容についての模擬試験に取り組むことによって、自身の学びの状況等を把握するとともに、試験に向かう態度等を養う。 ○本時の活動 ・第３回模擬試験を受ける。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：第１１回から第１４回までの範囲を確認してくる。 ・復習事項：自身の学びの状況等を把握する。

<table>
<tr><td colspan="9">令　和　２　年　度　教　育　計　画</td></tr>
<tr><td>科目名</td><td>公務員講座（B）</td><td>授業回数</td><td>15</td><td>単位数</td><td>1</td><td>担当教員</td><td colspan="2">都田　修兵
尾崎　聡</td></tr>
<tr><td colspan="9">質問受付の方法　（e-mail、オフィスアワー）：stsuda@owc.ac.jp、金曜日５限目</td></tr>
<tr><td>教育目標と学生の学習成果</td><td colspan="8">＜教育目標＞
本科目は、岡山短期大学の「公務員養成コース」を選択した学生の必修科目である。
公務員試験とは、公務員としての任用に適格と認められる候補者を選抜する目的で国や地方公共団体が実施する試験であり、公務員試験は国家機関職員である国家公務員を採用する「国家公務員試験」と、各地方公共団体職員である地方公務員を採用する「地方公務員試験」に大別される。
本科目は、とくに「地方公務員試験」（保育士・幼稚園教諭などの教員採用試験）を受験する学生を対象としたものである。地方公務員法第20条によれば「競争試験は、職務遂行の能力を有するかどうかを正確に判定することをもつてその目的とする。競争試験は、筆記試験により、若しくは口頭試問及び身体検査並びに人物性行、教育程度、経歴、適性、知能、技能、一般的知識、専門的知識及び適応性の判定の方法により、又はこれらの方法をあわせ用いることにより行うものとする。」とされている。
本科目は、主として「筆記試験」における「専門教養（教職教養）」（教育学、保育原理、法規等）の領域を扱うものであって、指定のテキストを用いて一般教養の問題を解きながら、「地方公務員試験」（保育士・幼稚園教諭などの教員採用試験）の傾向と対策を学ぶとともに、公務員として必要とされる資質・能力を育むことを目指すものである。

＜専門的学習成果＞
地方公務員試験及び公務員として必要とされる「専門教養（教職教養）」（教育学、保育原理、法規等）の内容について習得することである。

＜汎用的学習成果＞
公務員として必要とされる態度や信念を獲得する。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">教育方法</td><td>授業の進め方</td><td colspan="7">（講義・演習・実験・実習・実技）
・本科目は、「演習形式」による１５回の授業である。
・１５回の授業のなかで、「復習プリント」等を配布し、学生の理解が深まるように支援する。</td></tr>
<tr><td>予習・復習</td><td colspan="7">＜予習事項＞
毎授業回前に、「授業回数別教育内容」に記された予習を求める。

＜復習事項＞
毎授業回後に復習を求める。

※復習でわからないことがあった学生には、OH などを利用しながら、学習成果を高める援助を行う。</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="7">保育士試験研究会編『保育士・幼稚園教諭 採用試験問題集 2021 年度』実務教育出版、2020。
＊１年生前期科目「公務員講座（A）」で使用したテキストを引き続き使用する。</td></tr>
</table>

学習評価の方法	＜学習評価の方法＞ 学習評価の方法は以下のとおりである。 ●「専門的学習成果」については、「専門教養（教職教養）」（教育学、保育原理、法規等）の内容についての習得及び学習態度によって評価する。 （１）毎時間の予習及び復習プリント（5 点×11 回＝55 点） 毎時間テキストの該当箇所を解いてくること（予習）及び毎時間配布する復習プリントを解いて次回の授業時に提出すること（復習）によって得点とする。 （２）模擬試験の実施（5 点×3 回＝15 点） 授業内において「模擬試験」を実施する。この模擬試験への参加及び取り組みによって得点とする。なお、模擬試験当日欠席した者については、別途模擬試験を実施することとする。 ●「汎用的学習成果」については、公務員として必要とされる態度や信念を獲得の状況に基づき、評価を行う。 （３）シャトルカード（15 回×2 点＝30 点） 毎回の授業において、小論述課題を課す。この課題について、自分の考え等をシャトルカードに記入することによって得点とする。 （４）その他 ただし、学習評価の方法（１）（２）（３）以外に受講態度に問題があった者は、保育者としての倫理観が十分でないとして、 以下のケースに応じて減点することとする。 ・「過度の居眠り」及び「不必要な私語」（1 点） ・「無許可による携帯電話の使用（SNS 等）」（2 点） ●学習評価 「学則施行細則」第 7 条により、学習評価は 100 点法をもって採点し、80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可、60 点未満を不可とする。
注意事項	＜参考文献等＞ ●保育士採用試験情報研究会編著『スイスイわかる保育士採用　教養試験』一ツ橋書店。 ○保育士採用試験情報研究会編著『スイスイわかる保育士採用　専門試験』一ツ橋書店。 ●東京アカデミー編『教員採用試験対策　問題集１　一般教養Ⅰ［人文科学　自然科学］』七賀出版。 ●東京アカデミー編『教員採用試験対策　問題集２　一般教養Ⅰ［社会科学］』七賀出版。 ○東京アカデミー編『教員採用試験対策　問題集３　教職教養』七賀出版。 ●東京アカデミー編『教員採用試験対策　参考書　一般教養Ⅰ［人文科学］』七賀出版。 ●東京アカデミー編『教員採用試験対策　参考書　一般教養Ⅱ［社会科学］』七賀出版。 ●東京アカデミー編『教員採用試験対策　参考書　一般教養Ⅲ［自然科学］』七賀出版。 ○東京アカデミー編『教員採用試験対策　参考書　教職教養Ⅰ［教育原理・教育史］』七賀出版。 ○東京アカデミー編『教員採用試験対策　参考書　教職教養Ⅱ［教育心理・教育法規］』七賀出版。 ※上記の参考文献は各年度で出版されるもので、名称等変更になる可能性がある。 ※「●」＝「公務員講座（A）」の内容に関する参考文献を示す。 ※「○」＝「公務員講座（B）」の内容に関する参考文献を示す。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	○本時の目標 本科目の全体目標と授業スケジュール、成績評価等について理解するとともに、公務員試験についての基礎的な事項を理解する。 ○本時の活動 ・オリエンテーションを行う。 ・テキストで解説する。 ○予習及び復習事項 予習事項：テキストの該当箇所を読む。 復習事項：再度テキストの該当箇所及びノートを見ながら、本時の内容をおさえる。
2 回	○本時の目標 公務員試験における「専門教養（教職教養)」の出題範囲から、とくに「社会福祉」に関しての理解を深める。 ○本時の活動 ・テキストの該当箇所の解説を行う。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所の重要ポイントを確認し、問題を解いてくる。 ・復習事項：復習プリント①で復習する。
3 回	○本時の目標 公務員試験における「専門教養（教職教養）」の出題範囲から、とくに「児童家庭福祉」に関しての理解を深める。 ○本時の活動 ・テキストの該当箇所の解説を行う。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所の重要ポイントを確認し、問題を解いてくる。 ・復習事項：復習プリント②で復習する。
4 回	○本時の目標 公務員試験における「専門教養（教職教養)」の出題範囲から、とくに「保育の心理学」に関しての理解を深める。 ○本時の活動 ・テキストの該当箇所の解説を行う。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所の重要ポイントを確認し、問題を解いてくる。 ・復習事項：復習プリント③で復習する。
5 回	○本時の目標 公務員試験における「専門教養（教職教養)」の出題範囲から、とくに「保育原理」に関しての理解を深める。 ○本時の活動 ・テキストの該当箇所の解説を行う。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所の重要ポイントを確認し、問題を解いてくる。 ・復習事項：復習プリント④で復習する。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
6回	○本時の目標 これまでの「専門教養（教職教養）」の内容についての模擬試験に取り組むことによって、自身の学びの状況等を把握するとともに、試験に向かう態度等を養う。 ○本時の活動 ・第１回模擬試験を受ける。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：第２回から第５回までの範囲を確認してくる。 ・復習事項：自身の学びの状況等を把握する。
7回	○本時の目標 公務員試験における「専門教養（教職教養）」の出題範囲から、とくに「保育内容」に関しての理解を深める。 ○本時の活動 ・テキストの該当箇所の解説を行う。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所の重要ポイントを確認し、問題を解いてくる。 ・復習事項：復習プリント⑤で復習する。
8回	○本時の目標 公務員試験における「専門教養（教職教養）」の出題範囲から、とくに「子どもの保健」に関しての理解を深める。 ○本時の活動 ・テキストの該当箇所の解説を行う。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所の重要ポイントを確認し、問題を解いてくる。 ・復習事項：復習プリント⑥で復習する。
9回	○本時の目標 公務員試験における「専門教養（教職教養）」の出題範囲から、とくに「発達心理」に関しての理解を深める。 ○本時の活動 ・テキストの該当箇所の解説を行う。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所の重要ポイントを確認し、問題を解いてくる。 ・復習事項：復習プリント⑦で復習する。
10回	○本時の目標 これまでの「専門教養（教職教養）」の内容についての模擬試験に取り組むことによって、自身の学びの状況等を把握するとともに、試験に向かう態度等を養う。 ○本時の活動 ・第２回模擬試験を受ける。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：第７回から第９回までの範囲を確認してくる。 ・復習事項：自身の学びの状況等を把握する。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
11回	○本時の目標 公務員試験における「専門教養（教職教養）」の出題範囲から、とくに「教育学」に関しての理解を深める。 ○本時の活動 ・テキストの該当箇所の解説を行う。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所の重要ポイントを確認し、問題を解いてくる。 ・復習事項：復習プリント⑧で復習する。
12回	○本時の目標 公務員試験における「専門教養（教職教養）」の出題範囲から、とくに「保育原理」に関しての理解を深める。 ○本時の活動 ・テキストの該当箇所の解説を行う。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所の重要ポイントを確認し、問題を解いてくる。 ・復習事項：復習プリント⑨で復習する。
13回	○本時の目標 公務員試験における「専門教養（教職教養）」の出題範囲から、とくに「保育内容」に関しての理解を深める。 ○本時の活動 ・テキストの該当箇所の解説を行う。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所の重要ポイントを確認し、問題を解いてくる。 ・復習事項：復習プリント⑩で復習する。
14回	○本時の目標 公務員試験における「専門教養（教職教養）」の出題範囲から、とくに「法規」に関しての理解を深める。 ○本時の活動 ・テキストの該当箇所の解説を行う。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所の重要ポイントを確認し、問題を解いてくる。 ・復習事項：復習プリント⑪で復習する。
15回	○本時の目標 これまでの「専門教養（教職教養）」の内容についての模擬試験に取り組むことによって、自身の学びの状況等を把握するとともに、試験に向かう態度等を養う。 ○本時の活動 ・第３回模擬試験を受ける。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：第１１回から第１４回までの範囲を確認してくる。 ・復習事項：自身の学びの状況等を把握する。

<table>
<tr><td colspan="8">令　和　２　年　度　教　育　計　画</td></tr>
<tr><td>科目名</td><td>保育者基礎演習</td><td>授業回数</td><td>15</td><td>単位数</td><td>2</td><td>担当教員</td><td>浦上博文
学科教員等</td></tr>
<tr><td colspan="8">質問受付の方法（e-mail,オフィスアワー等）：授業後教室にて担当教員が受け付ける。</td></tr>
<tr><td>教育目標と学生の学習成果</td><td colspan="7">教育目標
使命感を備えた保育者を養成することを目指し、本授業ではその基礎となる以下の６点を目標とする。
①保育者養成校である本学の教育について理解する。
②保育・福祉現場の現状と課題について理解する。
③幼児指導の基本を修得する。
④保育者として求められる心と体の健康作りの方法を理解する。
⑤幼児の生命を守る技術を修得する。
⑥保育者になるための自己課題・克服方法を自覚する。
学生の学習成果
教育目標に掲げる６点及び保育者として求められる「態度（マナー・学習態度）・信念（保育者になろうとする信念・継続的な努力）」を修得する。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">教育方法</td><td>授業の進め方</td><td colspan="6">（講義・演習・実験・実習・実技）
・　教員による講義、本学卒業生による講演、保育施設の見学、救命法講習、幼児運動会等、多用な活動を通して学習する。
・　受講生は、毎回の学習成果を記述し提出する（課題・シャトルカード等）。</td></tr>
<tr><td>予習・復習</td><td colspan="6">・授業回数別教育内容に記載した予習・復習を求める。</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="6">・使用しない。
・適宜持参するものを指示する。あるいは資料を配付する。</td></tr>
<tr><td>学習評価の方法</td><td colspan="7">・各回担当教員が教育目標に掲げる６点の学習成果について、受講状況、シャトルカード・課題等の記述により受講生を個別に評価し、それらを集計する（１００満点）。
・全授業を通して「態度・信念」の評価を行い、問題行動が見られた際には担当教員が指導を行う。指導に従わず改善が見られない場合、評価点より減ずる（１回３点）。</td></tr>
<tr><td>注意事項</td><td colspan="7">参考図書等</td></tr>
</table>

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	○本時の目標 ・オリエンテーションにより、シラバスに記載された内容を理解する。 ○本時の活動 ・教員が、配付資料（シラバス・授業予定）を解説する。 ・学生が、講義による学習成果等について記述する。 ○本時の学習成果 ・本授業の概要を説明できる。 予習：シラバスを通読する。 復習：講義を振り返り、シラバスを確認する。
2 回	○本時の目標 ・保育者養成校である本学の教育（建学の精神「教育三綱領」、幼児教育学科の教育目標、本学科の保育者養成の教育目標、学生の学習成果、学位授与、教育課程編成・実施等）について理解する。 ○本時の活動 ・教員が、「学生のしおり」を用いて、講義する。 ・学生が、講義による学習成果等について記述する。 ○本時の学習成果 ・保育者養成校である本学の教育について要点を説明できる。 予習：「学生のしおり」の該当箇所を通読する。 復習：講義を振り返り、本学教育について認識を深める。
3 回	○本時の目標 ・保育現場の現状と課題について理解する。 ○本時の活動 ・本学卒業生保育士が、保育現場についての講演を行う。 ・学生が、講演による学習成果等について記述する。 ○本時の学習成果 ・保育現場の現状と課題について要点を説明できる。 予習：配付資料を通読する。 復習：講演を振り返り、目指す保育者像を考える。
4 回	○本時の目標 ・福祉現場の現状と課題について理解する。 ○本時の活動 ・本学卒業生施設保育士が、福祉現場についての講演を行う。 ・学生が、講演による学習成果等について記述する。 ○本時の学習成果 ・福祉現場の現状と課題について要点を説明できる。 予習：配付資料を通読する。 復習：講演を振り返り、目指す保育者像を考える。

5 回	○本時の目標 ・保育現場の現状と課題について理解する。 ○本時の活動 ・学生が保育現場を見学し、保育の現状と課題に関する講話を聴く。 ・学生が、見学と講話による学習成果等について記述する。 ○本時の学習成果 ・保育現場の現状と課題について要点を説明できる。 予習：配付資料を通読する。 復習：見学と講話を振り返り、目指す保育者像を考える。
6 回	○本時の目標 ・保育現場の現状と課題について理解する。 ○本時の活動 ・学生が保育現場を見学し、保育の現状と課題に関する講話を聴く。 ・学生が、見学と講話による学習成果について記述する。 ○本時の学習成果 ・保育現場の現状と課題について要点を説明できる。 予習：配付資料を通読する。 復習：見学と講話を振り返り、目指す保育者像を考える。
7 回	○本時の目標 ・子どもといっしょに運動会のリハーサルに参加し、各自の役割を理解する。 ○本時の活動 ・学生が、子どもといっしょに運動会のリハーサルに参加する。 ・学生が、リハーサルに関するコメントを記述する。 ○本時の学習成果 ・子どもといっしょに運動会での役割を説明できる。 予習：配付資料を通読する。 復習：子どもといっしょに運動会のリハーサルを振り返り、各自の役割を確認する。
8 回	○本時の目標 ・学生が子どもといっしょに運動会に参加し、幼児指導の基本を修得する。 ○本時の活動 ・学生が子どもといっしょに運動会に参加し、各自の役割を果たす。 ○本時の学習成果 ・子どもといっしょに運動会での学習成果を説明できる。 予習：配付資料を通読する。 復習：子どもといっしょに運動会を振り返り、学習成果を確認する。
9 回	○本時の目標 ・学生が子どもといっしょに運動会に参加し、幼児指導の基本を修得する。 ○本時の活動 ・学生が子どもといっしょに運動会に参加し、各自の役割を果たす。 ○本時の学習成果 ・子どもといっしょに運動会での学習成果を説明できる。 予習：配付資料を通読する。 復習：子どもといっしょに運動会を振り返り、学習成果を確認する。

10 回	○本時の目標 ・子どもといっしょに運動会に関する学習成果を明らかにする。 ・目指す保育者像をイメージする。 ○本時の活動 ・学生が、子どもといっしょに運動会に関する学習成果を記述する。 ・学生がこれまでの学習を振り返り、各自が目指す保育者像を文章にまとめる。 ・学生が、まとめた二つの課題に関するコメントを記述する。 ○本時の学習成果 ・子どもといっしょに運動会に関する学習成果を説明できる。 ・目指す保育者像について説明できる。 予習：これまでの配付資料を通読し、学習成果を振り返る。 復習：目指す保育者像に近づくための自己課題を考える。
11 回	○本時の目標 ・「保育者として求められる健康（心の健康）」について理解する。 ○本時の活動 ・教員が、配付資料を用いて心の健康について解説する。 ・学生が、講義による学習成果等について記述する。 ○本時の学習成果 ・「保育者として求められる健康（心の健康）」について要点を説明できる。 予習：配付資料を通読する。 復習：講義を振り返り、望ましい心の健康について考える。
12 回	○本時の目標 ・「保育者として求められる健康（食生活と健康）」について理解する。 ○本時の活動 ・教員が、配付資料を用いて食生活と健康について解説する。 ・学生が、講義による学習成果等について記述する。 ○本時の学習成果 ・「保育者として求められる健康（食生活と健康）」について要点を説明できる。 予習：配付資料を通読する。 復習：授業内容を振り返り、望ましい食生活について考える。
13 回	○本時の目標 ・小児の心肺蘇生法・ＡＥＤ等の基礎的な知識と技能を修得する ○本時の活動 ・学生が、救命救急法講習を受講する。 ・学生が、講習による学習成果等について記述する。 ○本時の学習成果 ・小児の心肺蘇生法・ＡＥＤ等の基礎的な知識を説明できるとともに実践できる。 予習：配付資料を通読する。 復習：講習を振り返り、心肺蘇生法・ＡＥＤ等の基礎的な知識と技能を確認する。

14 回	○本時の目標 ・小児の心肺蘇生法・ＡＥＤ等の基礎的な知識と技能を修得する ○本時の活動 ・学生が、救命救急法講習を受講する。 ・学生が、講習による学習成果等について記述する。 ○本時の学習成果 ・小児の心肺蘇生法・ＡＥＤ等の基礎的な知識を説明できるとともに実践できる。 予習：配付資料を通読する。 復習：講習を振り返り、心肺蘇生法・ＡＥＤ等の基礎的な知識と技能を確認する。
15 回	○本時の目標 ・保育者になるための自己課題・克服法を自覚する。 ○本時の活動 ・学生がこれまでの学習を振り返り、自己課題・克服法を文章にまとめる。 ○本時の学習成果 ・保育者になるための自己課題・克服法を説明できる 予習：配付資料を通読する。 復習：目指す保育者像、保育者になるための自己課題・克服法を確認する。

令　和　2　年　度　教　育　計　画							
科目名	教育心理学	授業回数	15	単位数	2	担当教員	大賀　恵子
質問受付の方法（e-mail,オフィスアワー等）： e-mail：ohga @owc.ac.jp、OH：土曜 2 限							

教育目標と学生の学習成果

教育目標　本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である

教育心理学の意義・目的，内容・領域について、子どもの姿や保育現場に結びつけながら子どもの心理や行動を理解し、適切な教育的活動ができる基礎的な知見や方法を概観する。それらの知識をもとに、保育者として乳幼児期の子どもたちへの働きかけの大切さを学び、教育における問題を解決に導く効果的な教育的対応及び保育実践のできる保育者の育成を目指す。次の 3 項目の習得を目標とする。

①子どもの生活や遊びを通した学習の過程等、保育上必要かつ有効な教育心理学の基本的事項
②子どもの心身の発達及び発達に即した教育的対応並びに保育実践
③保護者への育児支援まで含めた保育における発達援助

学生の学習成果

専門的学習成果：教育目標に掲げる 3 項目に関する基礎的知識を習得する。
汎用的学習効果：保育者としての使命感や倫理観を身につけるとともに、他者とのコミュニケーションを円滑に行えるような人間関係力を養う。

教育方法

授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） ・ 教育心理学の知識として不可欠なものについては講義形式で行う。 ・ 必要に応じて補充プリントを配布する。 ・ 授業内容の理解度確認のために、授業中に論述課題を実施する。
予習・復習	予習：毎授業前に「授業回数別教育内容」に記された予習を求める。 復習：毎授業後に復習を求め、そのポイントをまとめる。
テキスト	教育心理学―保育者をめざす人へ― 石井正子・松尾直博編著　樹村房

学習評価の方法

専門的学習成果

評価配分は 90 点で、期末試験（80 点）と論述課題（10 点）で測る。また、90 点は以下に示した 3 つの専門的学習成果について、おおよそ「①：②：③＝30 点：30 点：30 点」の比重をおく。
①学習過程等、保育上必要かつ有効な教育心理学の基本的事項を理解する。
②発達及び発達に即した教育的対応並びに保育実践について理解する。
③保護者への育児支援まで含めた発達援助の能力を養う。

汎用的学習成果

評価配分は 10 点であり、課題とその内容で測る。なお、受講態度などに問題があった受講生に対して、注意指導で改善が見られない場合、保育を学ぶ者としての倫理観が十分でないとして、ケースに応じて減点する。
以上の通り、専門的学習成果の評価配分は 90 点、汎用的学習成果の評価配分は 10 点、合計 100 点満点で最終評価を行う。

注意事項

参考図書等
よくわかる教育心理学　中澤　潤編　ミネルヴァ書房　　2011

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	＜オリエンテーション＞ 1. 本時の目標 本科目の授業スケジュールを確認し、教育心理学についての学びと保育の関連性を理解する。 2. 本時の活動 ・本科目の内容・進め方・成績評価の方法を確認する。 ・第１章　保育と教育心理学（1.保育者の役割と教育心理学／2.乳幼児期の学習と教育）について理解する。 3. 本時の学習成果 ・本科目の概要について理解し、保育と教育心理学のかかわり、乳幼児期の学習と教育の必要性が説明できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの目次で学習内容を確認しておく。 ・復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問できるようにしておく。
2 回	＜幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程①＞ 1. 本時の目標 幼児や児童の心身の発達を理解する。 2. 本時の活動 ・第 1 章　保育と教育心理学（3.さまざまな児童観と教育観／2.幼稚園や保育所における保育）について理解する。 3. 本時の学習成果 ・さまざまな児童観と教育観、幼稚園や保育所における保育について説明できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの目次で学習内容を確認しておく。 ・復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問できるようにしておく。
3 回	＜幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程②＞ 1. 本時の目標 ・幼児や児童の発達・及び学習の過程について基礎的な知識を身につける。 2. 本時の活動 ・第２章　発達と教育（1.発達を規定するもの／2.発達段階と発達課題）について理解する。 3. 本時の学習成果 ・発達を規定するもの、発達段階と発達課題について説明できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの目次で学習内容を確認しておく。 ・復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問できるようにしておく。
4 回	＜幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程③＞ 1. 本時の目標 ・乳幼児期から各時期における運動・言語・認知の発達・社会性について理解する。 2. 本時の活動 ・第２章　発達と教育（3.思考の発達と教育／4.ことばの発達と教育）について理解する。 3. 本時の学習成果 ・各時期における発達や社会性について説明できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの目次で学習内容を確認しておく。 ・復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問できるようにしておく。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
5 回	＜幼児、児童及び生徒の学習の過程①＞ 1. 本時の目標 ・さまざまな学習の形態や概念及びその過程の根拠から心理学における代表的理論の基礎を理解する。 2. 本時の活動 ・第 3 章　学習のしくみ（1.乳幼児と学習／2.さまざまな学習） 3. 本時の学習成果 ・学習の意義、さまざまな学習について説明できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの目次で学習内容を確認しておく。 ・復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問できるようにしておく。
6 回	＜幼児、児童及び生徒の学習の過程②＞ 1. 本時の目標 ・教育心理学の基礎的な考え方や用語を理解する。 2. 本時の活動 ・第 3 章　学習のしくみ（3.記憶／4.学習が成立する環境） 3. 本時の学習成果 ・記憶、学習が成立する環境について説明できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの目次で学習内容を確認しておく。 ・復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問できるようにしておく。
7 回	＜幼児、児童及び生徒の学習の過程③＞ 1. 本時の目標 ・心理学における代表的理論の基礎を理解し、やる気を育てるための方法をさぐる。 2. 本時の活動 ・第 4 章　やる気を育てる（1.やる気とは／2.いろいろなやる気―やる気の捉え方―） 3. 本時の学習成果 ・内外のやる気、外からのやる気の問題点について説明できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの目次で学習内容を確認しておく。 ・復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問できるようにしておく。
8 回	＜幼児、児童及び生徒の学習の過程④＞ 1. 本時の目標 ・幼児や児童の発達を踏まえた主体的な学習を支える指導の基礎となる考え方を理解する。 2. 本時の活動 ・第 4 章　やる気を育てる（3.内からのやる気の発達／4.内からのやる気をうばってしまう世界／5.内からのやる気を育てる） 3. 本時の学習成果 ・内からのやる気の発達、やる気を育てる際の留意点について説明できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの目次で学習内容を確認しておく。 ・復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問できるようにしておく。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
9 回	＜幼児、児童及び生徒の学習の過程⑤＞ 1. 本時の目標 ・幼児や児童の発達を踏まえた主体的な学習を支える指導における個人の発達をふまえた指導について理解する。 2. 本時の活動 ・第 5 章　個人差の理解（1.個人差と個性／2.知能とはなにか） 3. 本時の学習成果 ・個人差、知能について説明できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの目次で学習内容を確認しておく。 ・復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問できるようにしておく。
10 回	＜幼児、児童及び生徒の学習の過程⑥ 1. 本時の目標 ・教育現場における幼児の個人差を理解し、発達を踏まえた学習の支援の在り方について理解する。 2. 本時の活動 ・第 5 章　個人差の理解（3.性格とは何か／4.子どものあり方の理解と適応） 3. 本時の学習成果 ・性格は多様であることをふまえ、子どものあり方の理解と適応について説明できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの目次で学習内容を確認しておく。 ・復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問できるようにしておく。
11 回	＜幼児、児童及び生徒の学習の過程⑦＞ 1. 本時の目標 ・幼児にとっての主体的な学習を支える集団作りと人間関係について理解する。 2. 本時の活動 ・第 6 章　人間関係と社会化（1.人間関係の中で育つもの―人間関係の芽生え―／2.人間関係の広がりと環境／3.遊びと人間関係／4.道徳性と向社会的行動の発達） 3. 本時の学習成果 ・遊びの重要性、道徳性と向社会的行動の発達について説明できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの目次で学習内容を確認しておく。 ・復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問できるようにしておく。
12 回	＜幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程④＞ 1. 本時の目標 ・幼児の主体的な学習を支える学習評価の在り方や知能検査などについて理解する。 2. 本時の活動 ・第 7 章　特別な支援を要する子どもたち（1.特別な支援を要する子どもたち／2.障害の理解と受容） 3. 本時の学習成果 ・障害の理解と受容過程について理解し保育の中で気になる子どもへの対応について説明できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの目次で学習内容を確認しておく。 ・復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問できるようにしておく。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
13 回	＜幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程⑤＞ 1. 本時の目標 ・幼児の発達や特別の支援の必要な指導について理解する。 2. 本時の活動 ・第 7 章　特別な支援を要する子どもたち（3.さまざまなこころの問題／4.保育の中での支援） 3. 本時の学習成果 ・こころの問題への支援 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの目次で学習内容を確認しておく。 ・復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問できるようにしておく。
14 回	＜幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程⑥＞ 1. 本時の目標 ・幼児や児童の主体的な学習を支える動機づけを発達の特徴と関連付けて理解する。 2. 本時の活動 ・第 8 章　親の理解と子育て支援（1.現代社会と子育て支援／2.現代の親子関係） 3. 本時の学習成果 ・保育士の子育て支援、現代の親子関係について説明できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの目次で学習内容を確認しておく。 ・復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問できるようにしておく。
15 回	＜幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程と総復習＞ 1. 本時の目標 ・各発達段階における心理的特徴を重点的に理解する。 2. 本時の活動 ・第 8 章　親の理解と子育て支援（3.保育者に求められる役割／4.保育者のストレスとストレスマネージメント ・幼児、児童、及び生徒の心身の発達及び学習の過程の総復習 3. 本時の学習成果 ・本科目の学習成果を達成している。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：特になし。 ・復習事項：第 1 回から第 14 回の授業内容を整理し、期末考査に備える。

令　和　2　年　度　教　育　計　画							
科目名	特別支援の方法と理解	授業回数	15	単位数	1	担当教員	鈴木　久子 大賀　恵子
質問受付の方法（e-mail,オフィスアワー等）：e-mail: ohga@owc.ac.jp　　OH:水曜２限							

教育目標と学生の学習成果		教育目標　本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である 本科目の目的は、幼稚園教諭二種免許状取得のための「教職に関する科目」である。本科目では、通常学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとするさまざまな障害等により特別支援を必要とする幼児・児童及び生徒が学習活動に参加し生きる力を身につけていくことができるよう、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を習得することである。 学生の学習成果 専門的学習成果：教育目標に掲げる内容を習得する。 汎用的学習成果：教育目標に関する内容を理解し、対応能力を身につける。
教育方法	授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） 講義形式によって行い、受講者の理解を促進し、学習成果を確認するために授業中に論述課題を実施する。 授業時間外にもレポート課題を課す。
	予習・復習	予習：毎授業回前に「授業回数別教育内容」に記された予習を求める。 復習：基本的には授業で使用した資料・板書内容・プリントの見直しや整理、また、各回の授業で復習内容のポイントを示す場合がある。
	テキスト	柘植雅義・渡部匡隆・二宮信一・納富恵子［編］ 改訂版『はじめての特別支援教育』有斐閣アルマ 2016 年
学習評価の方法		評価配分に関して 以下の 3 つの学習成果について、習得度合いを等分に評価する。 ①特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達を理解する。 ②特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育課程や支援の方法を理解する。 ③障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上または生活上の困難への対応方法を理解する。 評価ツールに関して ・専門的学習成果：評価配分の合計 80 点は学期末に行う定期試験で測る。 ・汎用的学習成果：評価配分 20 点は課題で測る。授業内容に応じた論述課題を含む。
注意事項		参考図書 授業中に紹介する。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	＜オリエンテーション・特別支援教育の歴史＞ 1. 本時の目標 本科目の全体目標及び授業スケジュールを確認し、支援の必要性を理解する。 2. 本時の活動 ・本科目の内容・進め方・成績評価の方法を確認する。 ・特別支援教育の歴史と支援の必要性を理解する。 3. 本時の学習成果 ・本科目の概要について理解し、特別支援教育の歴史と支援の必要性が説明できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの目次で学習内容を確認しておく。 ・復習事項：講義内容を振り返り、特別支援教育の歴史と支援の必要性を確認する。
2 回	＜特別支援教育の理念と制度①＞ 1. 本時の目標 インクルーシブ教育システムや合理的配慮を学び、特別支援教育に関する制度の理念、仕組みを理解する。 2. 本時の活動 ・テキスト第 1 章を解説し、理解度を論述課題で確認する。 3. 本時の学習成果 ・インクルーシブ教育と合理的配慮について説明できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第 1 章を読んでおく。 ・復習事項：特別支援教育の理念に関する課題を仕上げる。
3 回	＜特別支援教育の理念と制度②＞ 1. 本時の目標 特別支援教育の現行制度や通級による指導及び自立活動の教育課程上の内容を理解する。 2. 本時の活動 ・テキスト第 2 章を解説し、理解度を論述課題で確認する。 3. 本時の学習成果 ・特別支援教育の現行制度や通級による指導及び自立活動の教育課程上の内容が説明できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第 2 章、特別支援教育学校の学習指導要領の内容を確認しておく。 ・復習事項：特別支援教育の仕組みに関する課題を仕上げる。
4 回	＜特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育課程と支援方法①＞ 1. 本時の目標 支援システムの構築の必要性と法的整備について理解する。 2. 本時の活動 ・テキスト第 3 章を解説し、理解度を論述課題で確認する。 3. 本時の学習成果 ・支援システムの構築の必要性と法的整備について説明することができる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第 3 章を読んでおく。 ・復習事項：本時内容に関する課題を作成する。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
5 回	＜特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育課程と支援方法②＞ 1. 本時の目標 特別な支援教育におけるコーディネーターの役割と専門性を理解する。 2. 本時の活動 ・テキスト第 4 章を解説し、理解度を論述課題で確認する。 3. 本時の学習成果 ・関係機関との連携し支援体制を構築することの必要性を理解できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第 4 章を読んでおく。 ・復習事項：特別支援教育コーディネーター・関係機関を確認する。
6 回	＜特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育課程と支援方法③＞ 1. 本時の目標 特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒に関する個別の指導計画及び教育支援計画を作成する意義と方法を理解する。 2. 本時の活動 ・テキスト第 5 章を解説し、理解度を論述課題で確認する。 3. 本時の学習成果 ・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に関する個別の指導計画及び教育支援計画を作成することができる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第 5 章を読んでおく。 ・復習事項：本時内容に関する課題（計画書）を作成する。
7 回	＜特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育課程と支援方法①＞ 1. 本時の目標 発達障害や軽度知的障害など特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する支援方法を確認し、例示することができる。 2. 本時の活動 ・テキスト第 6, 7 章を解説し、理解度を論述課題で確認する。 3. 本時の学習成果 ・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する支援方法について、例示することができる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第 6, 7 章を読んでおく。 ・復習事項：支援方法についてまとめる。
8 回	＜特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の心身の発達、心理的特性②＞ 1. 本時の目標 発達障害や軽度知的障害、情緒障害児・言語障害児の特性を理解する。 2. 本時の活動 ・テキスト第 8, 9 章を解説し、理解度を論述課題で確認する。 3. 本時の学習成果 ・発達障害や軽度知的障害、情緒障害児・言語障害児の特性を理解している。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第 8, 9 章を読んでおく。 ・復習事項：情緒障害児・言語障害児の特性と支援方法をまとめる。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
9 回	＜特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の心身の発達、心理的特性③＞ 1. 本時の目標 視覚障害児・聴覚障害児・肢体不自由児・病弱児の特性を理解する。 2. 本時の活動 ・テキスト第 10, 11 章を解説し、理解度を論述課題で確認する。 3. 本時の学習成果 ・視覚障害児・聴覚障害児・肢体不自由児・病弱児の特性を理解している。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第 10, 11 章を読んでおく。 ・復習事項：視覚障害児・聴覚障害児・肢体不自由児・病弱児の特性をまとめる。
10 回	＜特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握や支援＞ 1. 本時の目標 特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上または生活上の困難や組織的な対応の必要性を理解する。 2. 本時の活動 ・テキスト第 12 章を解説し、理解度を論述課題で確認する。 3. 本時の学習成果 ・特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上または生活上の困難や組織的な対応の必要性を理解できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第 12 章を読んでおく。 ・復習事項：特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上または生活上の困難や組織的な対応の必要性を確認する。
11 回	＜特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握、保護者との連携＞ 1. 本時の目標 保護者の障害受容とストレスなど、保護者の心理状態を把握し、支援の必要性を確認する。 2. 本時の活動 ・テキスト第 13 章を解説し、理解度を論述課題で確認する。 3. 本時の学習成果 ・保護者の障害受容とストレスなどに対する支援の必要性を理解できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第 13 章を読んでおく。 ・復習事項：保護者の障害受容とストレスについて理解し、支援の必要性を確認する。
12 回	＜特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握、専門機関や地域との連携＞ 1. 本時の目標 専門機関や組織的な対応の必要性を理解する。 2. 本時の活動 ・テキスト第 14 章を解説し、理解度を論述課題で確認する。 3. 本時の学習成果 ・専門機関や組織的な対応の必要性を理解できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第 14 章を読んでおく。 ・復習事項：特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上または生活上の困難や組織的な対応の必要性を確認する。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
13 回	＜早期発見、早期支援と連携＞ 1. 本時の目標 特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の家庭支援の実際を確認し、早期発見、早期支援の必要性を理解する。 2. 本時の活動 ・テキスト第 15 章を解説し、理解度を論述課題で確認する。 3. 本時の学習成果 ・特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の進路状況や養育者の心理及び家庭支援の実際を理解する。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：本科目に関する内容からテーマを定め、それに関する資料を準備する。 ・復習事項：養育者の心理及び家庭支援の実際を理解し、早期発見・早期支援の必要性を確認する。
14 回	＜進学支援・就労支援と連携／特別支援の方法と理解＞ 1. 本時の目標 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する進学・就労支援について理解し、特別支援の方法と理解の内容を確認する。 2. 本時の活動 ・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する支援の方法と理解について確認する。 3. 本時の学習成果 ・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する支援の方法と理解を深める。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第 16 章を読む。／本科目の内容を復習しておく。 ・復習事項：第 1 回から第 13 回の授業内容を確認する。
15 回	＜まとめ＞ 1. 本時の目標 本科目の内容を振り返り、必要な知識や支援方法の習得度合いを確認する。 2. 本時の活動 次の 3 点に関して習得度合いを確認し、本科目の内容に関するレポートを仕上げる。 ①特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達を理解する。 ②特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育課程や支援の方法を理解する。 ③障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上または生活上の困難との対応を理解する。 3. 本時の学習成果 ・本科目の目標を達成している。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：特になし。 ・復習事項：第 1 回から第 14 回の授業内容を整理し、期末考査に備える。

令　和　２　年　度　教　育　計　画							
科目名	発達心理学Ⅰ	授業回数	15	単位数	2	担当教員	大賀恵子
質問受付の方法（e-mail,オフィスアワー等）：　e-mail:ohga @owc.ac.jp、 OH:土曜２限							

教育目標と学生の学習成果		教育目標　本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である 保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえ、心身の発達領域別に見た子どもの発達・成長過程の理解を深めることを目標とする。 ①心理学の観点から保育に関する基本的事項を学ぶ。 ②心身の発達領域別に乳幼児期の発達を理解するための基礎知識を習得する。 ③生涯発達に関する基礎的な知識を学び、初期経験の重要性、発達課題を理解する。 ④子どもの発達・成長に重要な遊びに関する様々な研究知見を習得する。 ⑤自主的に学ぶ姿勢を身につける。 学生の学習成果 専門的学習成果：教育目標に掲げる①～④の４項目に関する基礎的知識を習得する。 汎用的学習成果：教育目標に掲げる⑤の項目に関して、自主的に学ぶ姿勢を身につける。
教育方法	授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） ・主として教科書とノートに基づく講義形式によって行う。 ・授業内容に応じて、補足プリントを配布する。 ・授業内容の理解度確認のために、授業中に論述課題を実施する。
	予習・復習	予習：毎授業前に「授業回数別教育内容」に記された予習を求める。 復習：毎授業後に復習を求め、そのポイントをまとめる。
	テキスト	成田 朋子・大野木 裕明・小平 英志編著 『保育実践を支える保育の心理学Ⅰ』福村出版、2011 年。
学習評価の方法		専門的学習成果 評価配分は 90 点であり、期末試験（80 点）と論述課題（10 点）で測る。また、90 点は以下に示した 3 つの専門的学習成果について、おおよそ「①：②：③＝30 点：30 点：30 点」の比重をおく。 ①心理学の観点から保育に関する基本的事項を学ぶ。 ②心身の発達領域別に子どもの発達を理解するための基礎知識を習得する。 ③生涯発達を理解しながら、保育の重要性を学ぶ。 汎用的学習成果 評価配分は 10 点であり、課題とその内容で測る。なお、受講態度などに問題があった受講生に対して、注意指導で改善が見られない場合、保育を学ぶ者としての倫理観が十分でないとして、ケースに応じて減点する。 以上の通り、専門的学習成果の評価配分は 90 点、汎用的学習成果の評価配分は 10 点、合計 100 点満点で最終評価を行う。
注意事項		参考図書 新井邦二郎編著『図でわかる発達心理学』福村出版、1997 年。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	＜オリエンテーション・保育と心理学＞ 1. 本時の目標 授業内容の概略・進め方・成績評価の方法を確認し、乳幼児から学童期前期の発達と心理学とのかかわりについて理解する。 2. 本時の活動 ・本科目の内容・進め方・成績評価の方法を理解する。 ・乳幼児期の発達と心理学とのかかわりについて理解する。 3. 本時の学習成果 人間理解の１つの方法である「心理学」をおおまかに理解する。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト１章を熟読する。 ・復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問できるようにしておく。
2 回	＜保育実践の評価と心理学＞ 1. 本時の目標 前回授業を振り返り、保育に活かされる心理学の基本的研究知見を示す。 2. 本時の活動 ・心理学の基本的な研究知見が保育にどのように活かされるのかを理解する。 3. 本時の学習成果 ・心理学の基本的な研究知見が保育にどのように活かされるのかを説明できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト２章を熟読する。 ・復習事項：講義内容を見直し、次回の論述課題に備えてキーワードを確認しておく。
3 回	＜練習課題①・発達段階における代表的な理論＞ 1. 本時の目標 乳幼児の発達に関する代表的理論、発達の概念および発達理解の意義を説明する。 2. 本時の活動 ・1,2 回の授業内容に関する課題を仕上げ、発達に関する代表的理論を理解する。 3. 本時の学習成果 ・発達過程の特徴を説明できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト３章を熟読する。 ・復習事項：講義内容を見直しておく。
4 回	＜心身の発達領域別に見た乳幼児期の発達①人間の発達とその要因＞ 1. 本時の目標 ・発達に影響する遺伝や環境の要因、それらの相互作用についての諸説を示す。 2. 本時の活動 ・人間の生涯発達に影響する要因を理解し、子どもの育ちに影響する要因を全体的な視点から把握する。 3. 本時の学習成果 ・人間の生涯発達に影響する要因を理解し、人間の発達とその要因が説明できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト４章を熟読する。 ・復習事項：講義内容を見直し、次回の論述課題に備えてキーワードを確認しておく。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
5 回	＜練習課題②・心身の発達領域別に見た乳幼児期の発達②情動と自我・自己の発達＞ 1. 本時の目標 乳幼児期の情動の発達、また、自我・自己の発達過程を説明する。 2. 本時の活動 3 回目の授業内容に関する課題を仕上げ、乳幼児期の情動の発達に関してルイス（Lewis, M.）の理論などを紹介する。また、自我・自己の発達過程を理解する。 3. 本時の学習成果 ・乳幼児期の情動と自我・自己の発達過程が説明できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト 5 章を熟読する。 ・復習事項：講義内容を見直し、次回の論述課題に備えてキーワードを確認しておく。
6 回	＜練習課題③・心身の発達領域別に見た乳幼児期の発達③身体機能と運動機能の発達＞ 1. 本時の目標 乳幼児期の身体機能と運動機能の発達過程について、身体の発達曲線、粗大および微細運動の発達過程を紹介する。 2. 本時の活動 4 回目の授業内容に関する課題を仕上げ、乳幼児期の身体機能と運動機能の発達過程について、身体の発達曲線、粗大および微細運動の発達過程を理解する。 3. 本時の学習成果 ・乳幼児期における身体および運動面の発達過程や特徴が説明できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト 6 章を熟読する。 ・復習事項：講義内容を見直し、次回の論述課題に備えてキーワードを確認しておく。
7 回	＜練習課題④・心身の発達領域別に見た乳幼児期の発達④知覚と認知の発達＞ 1. 本時の目標 乳幼児期の知覚に関して、乳幼児を対象とした知覚についての研究知見を紹介する。また、乳幼児期の認知に関して、ピアジェ（Piaget, J.）の理論を紹介し、乳幼児期の認知発達を説明する。 2. 本時の活動 ・5 回目の授業内容に関する課題を仕上げ、乳幼児期の知覚・認知の特徴を理解する。 3. 本時の学習成果 ・乳幼児期の各知覚、乳幼児の認知の特徴が説明できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト 7 章を熟読する。 ・復習事項：講義内容を見直し、次回の論述課題に備えてキーワードを確認しておく。
8 回	＜練習課題⑤・心身の発達領域別に見た乳幼児期の発達⑤言語の発達＞ 1. 本時の目標 乳幼児期における他者とのかかわりについて、言語能力の発達過程を説明する。 2. 本時の活動 ・6 回目の授業内容に関する課題を仕上げ、乳幼児期における他者とのかかわり・言語能力の発達過程を理解する。 3. 本時の学習成果 ・乳幼児と養育者の相互作用とその意義、乳幼児期の言語能力の発達過程を理解する。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト 8 章を熟読する。 ・復習事項：講義内容を見直し、次回の論述課題に備えてキーワードを確認しておく。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
9 回	＜練習課題⑥・心身の発達領域別に見た乳幼児期の発達⑥人とのかかわり＞ 1. 本時の目標 乳幼児期における他者とのかかわりについて、母子関係の相互作用・ボールビィの理論、愛着について説明する。 2. 本時の活動 ・7 回目の授業内容に関する課題を仕上げ、乳幼児期における他者とのかかわりについて、ボールビィの理論、愛着について内容を理解する。 3. 本時の学習成果 ・乳幼児期における他者とのかかわりについて説明できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト 9 章を熟読する。 ・復習事項：講義内容を見直し、次回の論述課題に備えてキーワードを確認しておく。
10 回	＜練習課題⑦・家庭環境と保育の重要性＞ 1. 本時の目標 生涯発達に関して、「保育所保育指針」に示されている乳幼児期の発達的特徴を紹介し、乳幼児期の発達的特徴の全体像を示す。 2. 本時の活動 ・8 回目の授業内容の課題を仕上げ、乳幼児期の発達的特徴の全体像を理解する。 3. 本時の学習成果 ・乳幼児期の発達的特徴の全体像、家庭における人間関係を確認し、発達的特徴を説明できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト 10 章を熟読する。 ・復習事項：講義内容を見直し、次回の論述課題に備えてキーワードを確認しておく。
11 ・ 12 回	＜練習課題⑧・生涯発達と保育の重要性①＞ 1. 本時の目標 前回授業を振り返り、保育に活かされる心理学の基本的研究知見を示し、児童期以降の発達的特徴を説明する。 2. 本時の活動 ・4～9 回目の授業内容から乳幼児期の発達的特徴の全体像を振り返り、生涯発達に関してエリクソン（Erikson, E. H.）の理論を紹介し、児童期以降の発達的特徴を確認する。 3. 本時の学習成果 ・児童期および青年期以降の発達的特徴が説明できる。 ・心理学の基本的な研究知見が保育にどのように活かされるのかを理解する。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト 11,12 章を熟読する。 ・復習事項：講義内容を見直し、次回の論述課題に備えてキーワードを確認しておく。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
13回	＜練習課題⑨・生涯発達と保育の重要性②＞ 1. 本時の目標 乳幼児の発達と生涯発達の重要性に関する理解を促進する。発達の“つまずき”に関して、その種類、発見と評価、支援のあり方を説明する。 2. 本時の活動 ・発達の“つまずき”の種類、発見と評価、支援のあり方を理解する。 3. 本時の学習成果 ・乳幼児の発達と生涯発達の重要性に関して理解する。 ・発達の“つまずき”に関して、その種類、発見と評価、支援のあり方が説明できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト 13, 14 章を熟読する。 ・復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問出来るようにしておく。 10, 11 回目の授業内容に関する課題を仕上げる。
14回	＜練習課題⑩・子どもと遊び＞ 1. 本時の目標 遊びに関して、その概念、種類、機能、特徴を説明し、遊びが及ぼす子どもの発達に対する影響と意義を示す。 2. 本時の活動 ・遊びに関して、その概念、種類、機能、特徴を理解する。 3. 本時の学習成果 ・子どもの発達に対する遊びの意義を認識し、概念等を説明できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：子どもの頃の経験を振り返り、健康で安全な生活をつくりだす力を養うための効果的な遊びを考えてくる。 ・復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問出来るようにしておく。
15回	＜まとめ＞ 1. 本時の目標 心理学の観点から子どもの発達を理解するために習得した基礎知識、子どもが体験を積み重ね相互に関係をもちながら成長する過程を理解し、全講義の内容をまとめる。 2. 本時の活動 ・心身の発達領域別に見た子どもの発達・成長過程の理解を深め、保育の重要性を確認する。 3. 本時の学習成果 ・本科目の目標を達成している。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：特になし。 ・復習事項：第 1 回から第 14 回の授業内容を整理し、期末考査に備える。

令　和　2　年　度　教　育　計　画							
科目名	臨床心理学（A）	授業回数	15	単位数	1	担当教員	鈴木　久子
質問受付の方法　e-mail: hsuzuki@owc.ac.jp　OH: 水曜日 16:20-17:00 M409 室							

教育目標と学生の学習成果

教育目標　本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である

保育・教育者にとって関心の高い発達障害を中心に,その理解と援助法をについて，基本的なあり方を理解する。すなわち，以下の諸点に関する基礎的知識を習得することである。

① 発達障害の類型とそれぞれの特徴を理解する。
② 発達障害の援助に関する基本的知識を習得する。
③ カウンセリングの技法の基礎的知識を理解する。
④ 社会人として求められる態度・信念を獲得する。

学生の学習成果

専門的学習成果：教育目標に掲げる①，②，③の項目に関する基礎的知識を習得する。
汎用的学習成果：教育目標に掲げる④の項目に関する姿勢を身につける。

教育方法

授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） ・テキストに基づいて進め，必要に応じてグループ討議を行う。 ・授業内容の理解度確認のために，授業中に小テストを実施する。 ・必要に応じて心理テストを行い，自己理解・幼児理解の一助とする。 ・毎回，授業後には振り返りタイムを設定する。
予習・復習	・予習事項：毎授業回前に「授業回数別教育内容」に記された予習を求める。 ・復習事項：毎授業回後に復習を求め，そのポイントを示す。
テキスト	・田中千穂子・栗原なるみ・市川奈緒子編『発達障害の心理臨床』有斐閣アルマ，2013年。※授業用に冊子ノートを準備し，毎回，まとめと授業後の振り返り等を記入しておくこと。適宜，求められた日に点検を受ける。

学習評価の方法

専門的学習成果

評価配分 70 点であり，期末試験（60 点）と小テスト（10 点）で測る。また，以下に示した 3 つの専門的学習成果について，専門的学習成果の評価配分 70 点とする。

① 発達障害の類型とそれぞれの特徴を理解する。
② 発達障害の援助に関する基本的知識を習得する。
③ カウンセリング技法の基礎的知識を理解する。

汎用的学習成果

評価配分は 30 点である。予習・復習の内容・授業ノートの提出状況（10 点）と課題（10 点）,授業中の態度や演習の取り組み状況（10 点）で評価する。毎回記入するシャトルカードを利用して授業の振り返りを行い、授業への貢献度や自己開発への意欲などを勘案し、加点の機会を設ける。

注意事項

＜参考図書＞
下山晴彦他『臨床心理学 16 巻 1 号』金剛出版，2016 年。
坂野雄二編『臨床心理学キーワード』有斐双書,2003 年。
日本教育カウンセラー協会『ピアヘルパーハンドブック』図書文化，2001 年。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	＜オリエンテーション＞ 授業内容の概略・進め方・成績評価・受講ルール。SGE。 ＜臨床心理学とは＞ ・授業内容：臨床心理学とは，どのような学問か臨床心理学の領域や歴史を概観する。 ・学習成果：臨床心理学とは,精神障害や心理的な問題、不適応行動などの援助や回復,予防またはその研究を目的とする心理学のひとつの分野である。 ・予習事項：臨床心理学者一人について概略を調べてくる。
2 回	＜子どもの心理療法・心理検査①＞ ・授業内容：子どもの心理療法や心理検査について知る。 ・学習成果：子どもの心理療法や検査があることを知りその一部を体験する。 ・予習事項：知っている心理療法か心理検査を一つ調べてくる。
3 回	＜子どもの心理療法・心理検査②＞ ・授業内容：子どもの心理療法や心理検査について知る。 ・学習成果：子どもの心理療法や検査があることを知りその一部を体験する。 ・予習事項：やってみたい心理療法や心理検査を一つ調べてくる。
4 回	＜発達障害の歴史的変遷＞ ・授業内容：発達障害という概念の歴史について，概念成立からその後の展開を概観する。また，発達障害という概念の展望について概説する。 ・学習成果：発達障害という概念を理解する。 ・予習事項：テキストの該当内容を熟読する（ｐ３０～５１）。
5 回	＜発達障害の類型と特徴①＞ ・授業内容：知的障害について，その歴史，概念（定義），頻度，特徴について概説する。 ・学習成果：知的障害について理解する。 ・予習事項：テキストの該当内容を熟読する（p５７～６４）。
6 回	＜発達障害の類型と特徴②-広汎性発達障害(PDD)から自閉症スペクトラム障害(ASD)へ-＞ ・授業内容：広汎性発達障害の概念と類型を概説しながら，特に自閉症の基本的特徴を説明する。 ・学習成果：広汎性発達障害の概略を理解した上で，自閉症の基本的特徴を理解する。 ・予習事項：テキストの該当内容を熟読する（ｐ６４～７８）。
7 回	＜発達障害の類型と特徴③-広汎性発達障害(PDD)から自閉症スペクトラム障害(ASD)へ-＞ ・授業内容：広汎性発達障害と自閉症スペクトラム障害の関係について概説し，自閉症スペクトラム障害の概念や基本的特徴を説明する。 ・学習成果：広汎性発達障害と自閉症スペクトラム障害の関係について理解した上で，自閉症スペクトラム障害の基本的特徴を理解する。 ・予習事項：スペクトラムという用語の意味を調べてくる。
8 回	＜発達障害の類型と特徴④＞ ・授業内容：学習障害(限局性学習症)の歴史，概念（定義），頻度，特徴などを概説する。 ・学習成果：学習障害（限局性学習症）について理解する。 ・予習事項：テキストの該当内容を熟読する（ｐ７８～８４）。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
9 回	＜発達障害の類型と特徴④＞ ・授業内容：注意欠如/多動性障害(ADHD)の歴史，概念（定義），頻度，特徴などを概説する。 ・学習成果：注意欠如/多動性障害について理解する。 ・予習事項：テキストの該当内容を熟読する（ｐ８５～８８）。
10 回	＜第１回小テスト＞ テスト範囲：第９回までの内容について小テストを実施する。 ＜発達障害への支援①＞ ・授業内容：発達障害に対する臨床心理学的援助法のあり方を紹介し，保育者としての支援のあり方を説明する。ピアサポートNo1。 ・学習成果：発達障害に対する保育者としての支援のあり方を理解する。 ・予習事項：テキストの該当内容を熟読する（第３章ｐ１０２－３，１４４～１４８）。
11 回	＜発達障害への支援②＞ ・授業内容：発達障害への支援について，障害のある子どもの家族への援助のあり方を概説する。ピアサポートNo２。 ・学習成果：発達障害のある子どもの家族への援助のあり方を理解する。 ・予習事項：テキストの該当内容を熟読する（第６章ｐ２３９～）。
12 回	＜発達障害への支援③＞ ・授業内容：発達障害への支援について，障害のある子どもの家族への援助のあり方を概説する。 ・学習成果：発達障害のある子どもの家族への援助のあり方を理解する（DVD）。 ・予習事項：配布テキストの該当内容を熟読する。
13 回	＜発達障害の事例①＞ ・授業内容：療育現場における自閉症の事例を紹介する。誕生から発覚，そしてサポート，就学までの経過を概観する。 ・学習成果：療育現場における自閉症の実際を理解する（DVD）。 ・予習事項：テキストの該当内容を熟読する（ｐ１５２～１６５）。
14 回	＜発達障害の事例②＞ ・授業内容：療育現場における軽度発達障害の事例を紹介する。誕生から発覚，そしてサポート，就学までの経過を概観する。統合失調症やうつ病について知る。 ・学習成果：療育現場における軽度発達障害の実際を理解する。 ・予習事項：テキストの該当内容を熟読する（ｐ１６５～１８２）。
15 回	＜まとめ＞ 全15回の授業内容を振り返りと質疑応答を行う。ピアサポートの総まとめを行う。また，期末試験についての説明を聴く。

<table>
<tr><td colspan="8">令　和　２　年　度　教　育　計　画</td></tr>
<tr><td>科目名</td><td>社会心理学</td><td>授業回数</td><td>15</td><td>単位数</td><td>2</td><td>担当教員</td><td>鈴木　久子</td></tr>
<tr><td colspan="8">質問受付の方法　e-mail:hsuzuki@owc.ac.jp　ＯＨ ： 水曜日 16:20-17:00　Ｍ棟　４０９号室</td></tr>
<tr><td>教育目標と学生の学習成果</td><td colspan="7">教育目標　本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である
　本科目では，社会的行動に関する基礎的な研究知見を学び，人との関わりに必要な論理的思考力を習得し,円滑なコミュニケーション能力アップに努める。具体的には，以下の諸点に関する基礎的な研究知見および能力を習得することである。
①　社会の中における個人の心理に関する基礎的な研究知見を習得する。
②　対人認知および対人行動に関する基礎的な研究知見を習得する。
③　集団の中の人間の行動に関する基礎的な研究知見を習得する。
④　自律した社会人として人との関わりに必要な論理的思考力を習得する。

学生の学習成果

＜専門的学習成果＞
　教育目標に掲げる①，②，③の項目に関する研究知見を習得する。

＜汎用的学習成果＞
　教育目標に掲げる④の項目に関する能力を身につける。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">教育方法</td><td>授業の進め方</td><td colspan="6">（講義・演習・実験・実習・実技）
・テキストに基づいて進め，集団心理をより理解するために，グループワークを実施する
・必要に応じて心理テストを行い，自己理解の一助とする。
・毎回，授業後には振り返りタイムを設定する。</td></tr>
<tr><td>予習・復習</td><td colspan="6">予習事項：毎授業回前に「授業回数別教育内容」に記された予習をして授業に臨むこと。
復習事項：基本的には授業で使用したテキスト内容の見直しをすること。また，参考図書等で確認すること。</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="6">使用テキスト：堀洋道監修『新編社会心理学改訂版』福村出版，2019 年。
必要に応じてプリント資料を配布。

＊授業用に冊子ノートを準備し，左右の見開きで１日分とする。毎回，予習・授業中・復習をまとめておくこと。適宜，求められた日に点検を受ける。</td></tr>
</table>

学習評価の方法	評価配分に関して 　専門的学習成果と汎用的学習成果について，合計 100 点を満点として評価を行う。それぞれの学習成果の評価配分および評価比重は以下の通りである。 ＜専門的学習成果＞ 　専門的学習成果の評価配分は 70 点である。 ①　社会の中における個人の心理に関する基礎的な研究知見を習得する。 ②　対人認知および対人行動に関する基礎的な研究知見を習得する。 ③　集団の中の人間の行動に関する基礎的な研究知見を習得する。 ＜汎用的学習成果＞ 汎用的学習成果の評価配分は 20 点である。 　専門的学習成果に関して，授業で学んだ知識の理解度を図るために，理解度確認テストを行う。この評価配分は 10 点である。総じて，専門的学習成果 70 点，汎用的学習成果 20 点，理解度確認 10 点とし，合計 100 点満点で最終評価を行う。 評価ツールに関して ＜専門的学習成果＞ 　専門的学習成果の評価配分の合計 70 点は学期末に行う定期試験で測る。 ＜汎用的学習成果＞ 　汎用的学習成果の評価配分 20 点のうち 10 点は授業中に行う課題で測る。具体的には，自立した社会人として人との関わりに必要な論理的思考力や批判的思考力を習得するために，授業内容に応じた課題を課す。残り 10 点はノート提出状況やその内容，授業中の態度で測る。 　毎回記入するシャトルカードを利用して授業の振り返りを行い、授業への貢献度や自己開発への意欲などを勘案し、加点の機会を設ける。 ＜授業内容の理解度＞ 理解度確認の評価配分 10 点は授業中に行う 2 回の小テストで測る。
注意事項	参考図書等 ・池上知子・遠藤由美共著『グラフィック社会心理学第 2 版』サイエンス社，2009 年。 ・山岸俊男編『社会心理学キーワード』有斐閣双書，2015 年

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	【オリエンテーション】 本科目の講義内容・進め方・成績評価の方法・受講ルールに関する説明を行う。 【はじめに】 ・社会心理学とは→人間の社会行動が社会的な多くの要因によってどのように起きているのかを明らかにする科学である。 予習事項：テキストの目次について目を通してくる。
2 回	【社会の中における個人の心理①】 ・自己概念（自己知識）→自己理解の仕方や内容について学ぶことによって，自己理解をより深める一助とする（心理テスト・自己コントロール法)。 予習事項：見えていない自分についていろいろ考えてくること（ジョ・ハリの窓)。 復習事項：キーワード➡質問紙、描画
3 回	【社会の中における個人の心理②】 ・自己評価→自分自身に対する評価はどのくらいか。また，その評価に影響を与える要因について学ぶことによって，より適応的な自己評価のあり方を理解する。 予習事項：最近の自分を振り返り，自分を評価してくる。 復習事項：キーワード➡自己不一致理論、自覚状態理論
4 回	【対人認知・対人行動①】 ・対人認知→相手の理解の仕方やその理解が歪む時のメカニズムを学ぶことによって，他者をより正確に理解し，円滑な対人関係を築くための一助となる。 予習事項：授業で指示する。 復習事項：キーワード➡対人認知の歪み、ピグマリオン効果、プライイング効果、ハロー効果，提示順序効果、ステレオタイプ化, ステレオタイプ、中心特性
5 回	【対人認知・対人行動②】 ・対人魅力→人に魅力を感じる心のしくみについて学ぶことによって，日常の対人魅力の心理メカニズムを理解する。 予習事項：遠距離恋愛が上手くいか上手くいかないか。それぞれの原因を考えてくる。 復習事項：キーワード➡対人魅力
6 回	【対人認知・対人行動③】 ・原因帰属→自分や他者の行動を起こす原因がどのように規定されるのかを学ぶことによって，行動とその原因との関係を理解する。 予習事項：遅刻をした時の言い訳を考えてくる。 復習事項：キーワード➡帰属、ザイアンス、。
7 回	【第 1 回復習テスト】 第 6 回までの内容について復習テストを実施する。 【集団の中の人間①】 ・人間関係の様相→人と人が関わるという基本的問題について学ぶことによって，人間という存在について理解するための一助とする。 予習事項：自分の友人関係の特徴を振り返ってくる。 復習事項：人が関係性の中で生きている意義を認識する。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
8 回	【集団の中の人間②】 ・周りの他者によって影響する自分の行動（1）―集団のダイナミクス― →集団特徴について学ぶことによって，円滑な集団活動を行えるための一助とする。 予習事項：授業で指示する。 復習事項：キーワード➡社会的規範，同調
9 回	【集団の中の人間③】 ・周りの他者によって影響する自分の行動（2）―他者存在の影響― →集団特徴について学ぶことによって，円滑な集団活動を行えるための一助となる。 予習事項：何か作業する時，そばに誰かいるとどんな経験をしたか思い出してくる。 復習事項：キーワード➡社会的促進・抑制，社会的手抜き
10 回	【集団の中の人間④】 ・集団意思決定→みんなで何かを決める時，何か問題を解決する時のリスクについて学ぶ。 これによって，集団活動におけるリスク軽減策を理解する。 予習事項：何かを個人で決める時と集団で決める時で，どんな違いがあるのか考えてくる。 復習事項：キーワード➡レヴィンの集団決定
11 回	【集団の中の人間⑤】 ・リーダーシップ→効果的なリーダーシップについて学ぶことによって，指導者としてのあり方を理解する。 予習事項：自分が尊敬できる人物を 1 人挙げ，その選んだ理由を考えてくる。 復習事項：キーワード➡条件即応モデル、PM 理論、SL 理論
12 回	【集団の中の人間関係①】 ・自己表現のワーク→自分の自己表現の特徴を知り，課題を発見する。 予習事項：授業で指示する 。 復習事項：キーワード➡自己表現の 3 つのタイプ、アサーション
13 回	【集団の中の人間関係②】 ・アサーティブな自己表現ワーク→自分も他者も大切にできる自己表現について学ぶ。 予習事項：配付資料を熟読してくること。 復習事項：アサーティブな表現を考えてくる。
14 回	【第 2 回復習テスト・課題テスト】 第 8 回～第 13 回までの 7 回分の内容についての復習テスト,課題テストを実施する。 【集団の中の人間関係③】 ・アサーティブな自己表現→ワークを体験して，自己課題を達成すべく努める。 予習事項：復習テストに備えて勉強しておく。 12 ・13 回の復習をしておく。
15 回	【まとめ】 ・これまでの講義内容を振り返り，必要なら補足する。 ・定期試験の出題内容について知る。

令　和　２　年　度　教　育　計　画							
科目名	教師論	授業回数	15	単位数	2	担当教員	都田　修兵
質問受付の方法（e-mail、オフィスアワー）：stsuda@owc.ac.jp、金曜日５限目							

教育目標と学生の学習成果		＜教育目標＞ 本科目は、幼稚園教諭免許取得のための「教育の基礎的理解に関する科目」の一つである。 本科目では、教職の意義、教員の役割や資質能力、職務内容などについて、教育思想や理念、教育制度や関連法令などをもとに身につけながら、教職への意欲や適性、自身の進路選択などのための「教職」そのものの在り方などについて理解するものであって、具体的には、「教職課程コアカリキュラム」に対応する以下の目標を達成するものとする。 （１）教職の意義 我が国における今日の学校教育や教職の社会的意義を理解する。 （２）教員の役割 教育の動向を踏まえ、今日の教員に求められる役割や資質能力を理解する。 （３）教員の職務内容 教員の職務内容の全体像や教員に課せられる服務上・身分上の義務を理解する。 （４）チーム学校への対応 学校の担う役割が拡大・多様化する中で、学校が内外の専門家等と連携・分担して対応する必要性について理解する。 ＜専門的学習成果＞ 本科目における「専門的学習成果」は、教育目標に示す（１）から（４）までを理解し、「教職」についての基礎的事項を修得することである。 ＜汎用的学習成果＞ 本科目における「汎用的学習成果」は、「態度・信念」の獲得であり、保育者（教職）に就く者であることを自覚し、自らを高めることに努め、ふさわしい言動を身につけることである。
教育方法	授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） ・主として講義形式による。 ・受講者の理解を促進させるため、講義中に小テストを課す。
	予習・復習	予習事項 毎授業回前に、「授業回数別教育内容」に記された予習を求める。 復習事項 毎授業回後に復習を求める。その際、レポートとする場合がある ※復習でわからないことがあった学生には、OH などを利用しながら、学習成果を高める援助を行う。
	テキスト	・児童育成協会監修・矢藤誠慈郎ほか編集『保育者論』（新基本保育シリーズ７）、中央法規、2019。 ※「保育者論」のテキストを引き続き使用する。
学習評価の方法		＜学習評価の観点＞ 学習評価の観点は下記の通りである。 ●「専門的学習成果」については、教育目標にも掲げた（１）から（４）の観点に基づき行う。 （１）教職の意義 （２）教員の役割 （３）教員の職務内容 （４）チーム学校への対応

●「汎用的学習成果」については「教育目標」でも示した「態度・信念」の獲得の状況に基づき行う。

＜学習評価の方法＞
学習評価は以下の方法により実施することとする。
（１）定期試験（70 点）
「専門的学習成果」の学習評価の方法は、学習評価の観点（１）から（４）までにかかる内容についての定期試験（70 点分）を実施する。なお、出題は「選択問題」「簡単な記述問題」「論述問題」等から構成することとする。
（２）小テスト（10 点）
小テストを実施し、評価する。なお、実施回は「授業回数別教育内容」を参照すること。小テスト実施日に欠席等により小テストを受験することができなかった者は、後日追試験を実施する。
（３）汎用的学習成果（10 点×2 回＝20 点）
「汎用的学習成果」の学習評価の方法は、授業課題である「レポート」の得点をもって「態度・信念」の獲得とする。
（４）その他
ただし、学習評価の方法（１）（２）（３）以外に受講態度に問題があった者は、保育者としての倫理観が十分でないとして、 以下のケースに応じて減点することとする。
・「過度の居眠り」及び「不必要な私語」（１点）
・「無許可による携帯電話の使用（SNS 等）」（２点）

注意事項

●定期試験
・「学則施行細則」第７条により、本科目について３分の２以上出席をしなければ試験を受けることはできない（受験資格なし）。
・「学則施行細則」第７条により、学習評価は 100 点法をもって採点し、80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可、60 点未満を不可とする。
●再試験
・「学則施行細則」第７条により、定期試験が不可の者に対して再試験の機会を与え、願により再試験を受けることができる。ただし、講義及び演習の授業科目の再試験は 100 点法による筆記試験とし、その他の評価点（本科目については、学習評価の方法における（２）（３）（４））は含めず、再試験による 60 点以上の得点者はすべて 60 点の学習評価とする。
●追試験
・「学則施行細則」第７条により、定期試験の際、病気その他止むを得ない事情により受験不能であった者に対しては、その理由が正当であると認められた場合に限り、願により追試験を受けることができるが、追試験による 80 点以上の得点者はすべて 80 点の学習評価とする。

＜参考図書等＞
・高橋貴志『これからの保育者論――日々の実践に宿る専門性』萌文書林、2017。
・小笠原道雄ほか編『教育的思考の作法１　教職概論』福村出版、2008。
・小笠原道雄ほか編『教育的思考の作法２　教育学概論』福村出版、2008。
・小笠原道雄ほか編『教育的思考の作法３　進化する子ども学』福村出版、2009。
・児童育成協会監修・天野珠路ほか編集『第２版　保育原理』（基本保育シリーズ１）、中央法規、2017（初版 2015）。
※「保育原理Ⅰ」のテキスト

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	＜オリエンテーション、保育者の役割＞ ○本時の目標 　本科目の全体目標及び授業スケジュール、成績評価等について理解するとともに、保育者の役割や責任、専門性について関連法規や事例をもとに批判的に考えたりしながら理解する。 ○本時の活動 　・オリエンテーション 　　授業の進め方、スケジュール、学習評価の方法について説明する。 　・テキスト第１講（pp. 1-12）をもとに考える。 ○本時の学習成果 　保育者の役割や専門性について、関連法規や事例から理解している。 ○予習及び復習事項 　・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 　・復習事項：テキストやノートを見ながら、保育者の役割や専門性について整理する。 　　配布プリント（ケース）の内容について考え、授業内課題に向けて準備する。
2 回	＜保育者の倫理＞ ○本時の目標 　具体的なケースをもとに、学生内でディスカッションすることを通して、保育者（教職）の倫理について考え、理解を深める。 ○本時の活動 　・授業内課題：いくつかのケースから「教職（保育者）」の倫理について考える。 　・テキスト第２講（pp. 13-24）も確認する。 ○本時の学習成果 　保育者の専門的倫理の内容について、概念や必要性、法律などをもとに理解している。 ○予習及び復習事項 　・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 　・復習事項：保育者の専門的倫理について「全国保育士会倫理綱領」などをもとに整理してみる。
3 回	＜保育者の資格と責務＞ ○本時の目標 　保育者が「保育」という仕事が法的・制度的にどのようなものとして位置づけられているのか関連法令などをもとに理解し、保育者の資格や責務についての理解を深める。 ○本時の活動 　・テキスト第３講（pp. 25-38）をもとに考える。 ○本時の学習成果 　保育者の法的・制度的位置づけ、保育者の資格や責務を理解している。 ○予習及び復習事項 　・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 　・復習事項：テキストやノートを見ながら、保育者の位置づけや資格、責務について確認する。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
4 回	＜養護と教育＞ ○本時の目標 『保育所保育指針』や幼稚園での「教育」について学習することによって、「保育」が「養護」と「教育」が一体的に実践されるものであることを理解し、そこで働く「保育者」の特徴などについて理解する。 ○本時の活動 ・テキスト第４講（pp. 39-50）をもとに考える。 ○本時の学習成果 保育所（園）において実践される「保育」は、「養護」と「教育」が一体的に実践されるものであることを理解し、保育者の特徴などについて考える。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：「保育」が「養護」と「教育」の一体的なものであることをテキストやノートを見ながら整理する。 配布プリント（ケース）の内容について考え、授業内課題に向けて準備する。
5 回	＜保育者の資質と能力＞ ○本時の目標 保育者に求められる資質や能力について、具体的ケースなどをもとに、保育の対象やチームワーク、協働性などの要素などの視点から学ぶことを通して理解する。 ○本時の活動 ・授業内課題：具体的ケース（とくには「いじめ」や「不登校」）について考える。 ・テキスト第５講（pp. 51-62）も確認する。 ○本時の学習成果 保育者に求められる資質や能力について理解している。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、保育者に求められる資質や能力について整理してみる。
6 回	＜専門的な知識・技術・判断＞ ○本時の目標 保育者にとっての専門的知識・技術・判断とはどのようなものであるかを「省察的実践家」論などを学ぶことを通して考え、理解を深める。 ○本時の活動 ・「省察的実践家」について解説する。 ・テキスト第７講（pp. 76-86）も確認する。 ○本時の学習成果 保育者にとっての専門的知識・技術・判断について理解している。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、保育者にとっての専門的知識・技術・判断について確認する。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
7 回	＜保育の省察＞ ○本時の目標 　前回の「省察的実践家」論を思い出しながら、保育者は常に「成長し続ける存在」であり、そのためには自らの保育実践に「省察」が必要であることを確認し、制度的な視点などから保育者の「省察」についての理解を深める。 ○本時の活動 　　・テキスト第８講（pp. 88-98）をもとに考える。 ○本時の学習成果 　「省察」そのものについて理解しているとともに、それが保育者にとってどのような意味をもつのかを理解している。 ○予習及び復習事項 　　・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 　　・復習事項：テキストやノートを見ながら、「省察」と保育者の関係について整理する。
8 回	＜保育の全体的な計画にかかわる保育者の専門性＞ ○本時の目標 　保育の全体的な計画の意義と目的を確認し、PDCA サイクル（計画・実行・改善・評価）という保育のプロセスにおいて、保育者に求められる専門性を学び、理解を深める。 ○本時の活動 　　・テキスト第７講（pp. 76-86）をもとに考える。 ○本時の学習成果 　　保育の全体的な計画の意義と目的、保育者に求められる専門性について理解している。 ○予習及び復習事項 　　・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 　　・復習事項：テキストやノートを見ながら、保育の全体的な計画の意義と目的を整理し、保育者に求められる専門性についてさらに考えてみる。
9 回	＜保育者の専門性と自己評価＞ ○本時の目標 　保育者にとって重要となるものが「自己評価」であることを確認し、「評価」そのものについての学びを通して、保育者の専門性及び保育の質向上に資する評価について理解を深める。 ○本時の活動 　　・テキスト第１４講（pp. 162-172）をもとに考える。 ○本時の学習成果 　　保育者の専門性及び保育の質向上に資する評価について理解している。 ○予習及び復習事項 　　・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 　　・復習事項：テキストやノートを見ながら、保育者の専門性及び保育の質向上に資する評価について整理する。 　　＜専門的な知識・技術・判断＞＜保育の省察＞＜保育の全体的な計画にかかわる保育者の専門性＞＜保育の全体的な計画にかかわる保育者の専門性＞と今回の内容を整理し、小テストに向けて準備する。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
10回	＜園での協働＞ ○本時の目標 　保育者は保育園や幼稚園などの「組織」の一員として働いているため、保育そのものはチームプレイであり、職員の協働性や協力体制、連携の必要性についての理解を深める。 ○本時の活動 ・小テスト：＜専門的な知識・技術・判断＞＜保育の省察＞＜保育の全体的な計画にかかわる保育者の専門性＞＜保育の全体的な計画にかかわる保育者の専門性＞＜保育者の専門性と自己評価＞の内容に関するテスト。 ・テキスト第９講（pp. 100-112）をもとに考える。 ○本時の学習成果 　保育そのものがチームプレイであり、職員の協働性や協力体制、連携の必要があることを理解している。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、保育者にとっての「協働」について考えてみる。
11回	＜専門機関との連携＞ ○本時の目標 　保育現場における医療・保健機関や療育機関と連絡を取りあい、情報を伝えあうことの必要性についての理解を深める。 ○本時の活動 ・テキスト第６講（pp. 64-74）第１０講（pp. 114-124）をもとに考える。 ○本時の学習成果 　保育現場にとって医療・保健機関や療育機関との連携の必要性について理解している。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、医療・保健機関や療育機関との連携について自分なりにまとめる。
12回	＜保護者および地域社会との協働＞ ○本時の目標 　保育現場における保護者および地域社会との協働がどのようなものであるかについて、具体的レベルで理解し、学校（園）が一つの「チーム」として組織的に様々な問題に対応していくことの重要性についての理解を深める。 ○本時の活動 ・テキスト第１１講（pp. 126-136）をもとに考える。 ○本時の学習成果 　保育現場における保護者および地域社会との協働について理解している。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、保育現場における協働について整理する。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
13回	＜家庭的保育者等との連携＞ ○本時の目標 　家庭のニーズ対応できる保育制度の選択肢の１つとして期待されている「家庭的保育」の概要や連携について理解することを通して、現代における保育現場の現状について学ぶ。 ○本時の活動 　・テキスト第１２講（pp. 138-148）をもとに考える。 ○本時の学習成果 　「家庭的保育」の概要や連携について理解することを通して、現代における保育現場の現状について理解している。 ○予習及び復習事項 　・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 　・復習事項：テキストやノートを見ながら、現代における保育現場の現状について整理する。
14回	＜保育者の専門性の発達＞ ○本時の目標 　『保育所保育指針』に示されている専門性などをふまえながら。保育者の専門性の発達の道筋について考え、代表的な保育者の発達段階モデルと発達を促す要因についての理解を深める。 ○本時の活動 　・テキスト第１４講（pp. 163-174）をもとに考える。 ○本時の学習成果 　代表的な保育者の発達段階モデルと発達を促す要因について理解している。 ○予習及び復習事項 　・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 　・復習事項：テキストやノートを見ながら、育者の発達段階モデルと発達を促す要因について整理する。
15回	＜保育者のキャリア形成、総括＞ ○本時の目標 　保育者のキャリア形成について、これまで学習してきた「保育者の専門性」などから考え、今日求められている教員（保育者）についての理解を深める。 ○本時の活動 　・テキスト第１５講（pp. 176-186）をもとに考える。 　・期末試験に向けた授業内容の振り返りを行う。 ○本時の学習成果 　保育者のキャリア形成について理解している。 ○予習及び復習事項 　・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 　・復習事項：テキストやノートを見ながら、本時の内容を整理するとともに、これまでの授業内容の整理を行いながら、期末試験に備える。

令　和　２　年　度　教　育　計　画							
科目名	教育原理	授業回数	15	単位数	2	担当教員	都田　修兵
質問受付の方法（e-mail、オフィスアワー）：stsuda@owc.ac.jp、金曜日５限目							

教育目標と学生の学習成果	教育目標 　本科目は、幼稚園教諭二種免許状取得のための「教職に関する科目」の一つである。 本科目では、教育の基本的概念や教育の理念、歴史や思想についての歴史的展開を理解するとともに、日本をはじめとした教育や学校がどのような変遷を経てきたのかを理解することを目標とし、具体的には「教職課程コアカリキュラム」に対応する以下の目標を達成するものとする。 （１）教育の基本的概念 教育の基本的概念を身に付けるとともに、教育を成り立たせる諸要因とそれら相互の関係を理解する。 （２）教育に関する歴史 教育の歴史に関する基礎的知識を身に付け、それらと多様な教育の理念との関わりや過去から現代に至るまでの教育及び学校の変遷を理解する。 （３）教育に関する思想 教育に関する様々な思想、それらと多様な教育の理念や実際の教育及び学校との関わりを理解している。 ＜専門的学習成果＞ 　本科目における「専門的学習成果」は、教育目標に示す（１）から（３）までを理解し、「教育」についての基礎的事項を修得することである。 ＜汎用的学習成果＞ 　本科目における「汎用的学習成果」は、「価値・意見」の獲得であり、保育者（教職）に就く者であることを自覚し、自らを高めることに努め、自らで考える力を身に付けることである。

教育方法	授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） ・主として講義形式による。 ・受講者の理解を促進させるため、講義中に小テストを課す。 ・授業時間外に取り組む課題を課す。
	予習・復習	予習事項 毎授業回前に、「授業回数別教育内容」に記された予習を求める。 復習事項 毎授業回後に復習を求める。 ※復習でわからないことがあった学生には、OH などを利用しながら、学習成果を高める援助を行う。
	テキスト	池田隆英・楠本恭之他編『なぜからはじめる教育原理〔第２版〕』建帛社、2018。

学習評価の方法	＜学習評価の観点＞ ●「専門的学習成果」については「教育目標」でも示した以下の（１）から（５）の観点に基づき行う。学習評価の観点は下記の通りである。 （１）教育の意義・目的、基礎的概念を理解する。 （２）教育の思想及び歴史の基礎を理解する。 （３）現代日本の教育制度の基礎を理解する。 （４）現代教育の諸問題について知り、科学的に思考する方法及び態度を修得する。

●「汎用的学習成果」については「教育目標」でも示した「態度・信念」の獲得の状況に基づき行う。

＜学習評価の方法＞
学習評価は以下の方法により実施することとする。
（１）定期試験（70 点）
「専門的学習成果」の学習評価の方法は、学習評価の観点（１）から（４）までにかかる内容についての定期試験（70 点分）を実施する。なお、出題は「選択問題」「簡単な記述問題」「論述問題」等から構成することとする。
（２）小テスト（10 点×2 回＝20 点）
数回分の授業内容についての小テストを実施し、評価する。なお、実施回は「授業回数別教育内容」を参照すること。小テスト実施日に欠席等により小テストを受験することができなかった者は、後日追試験を実施する。
（３）読書レポート（5 点×2 回＝10 点）
「汎用的学習成果」の学習評価の方法は、授業課題である「読書レポート」の得点をもって「態度・信念」の獲得とする。なお、「読書レポート」については、＜参考図書等＞に書いてある文献等を読んで行うものとする。
（４）その他
ただし、学習評価の方法（１）（２）（３）以外に受講態度に問題があった者は、保育者としての倫理観が十分でないとして、 以下のケースに応じて減点することとする。
・「過度の居眠り」及び「不必要な私語」（１点）
・「無許可による携帯電話の使用（SNS 等）」（２点）

注意事項

●定期試験
・「学則施行細則」第７条により、本科目について３分の２以上出席をしなければ試験を受けることはできない（受験資格なし）。
・「学則施行細則」第７条により、学習評価は 100 点法をもって採点し、80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可、60 点未満を不可とする。
●再試験
・「学則施行細則」第７条により、定期試験が不可の者に対して再試験の機会を与え、願により再試験を受けることができる。ただし、講義及び演習の授業科目の再試験は 100 点法による筆記試験とし、その他の評価点（本科目は、学習評価の方法における（２）（３）（４））は含めず、再試験による 60 点以上の得点者はすべて 60 点の学習評価とする。
●追試験
・「学則施行細則」第７条により、定期試験の際、病気その他止むを得ない事情により受験不能であった者に対しては、その理由が正当であると認められた場合に限り、願により追試験を受けることができるが、追試験による 80 点以上の得点者はすべて 80 点の学習評価とする。

＜参考図書等＞
・秋山千佳『ルポ　保健室――子どもの貧困・虐待・性のリアル』朝日新書、2016。
・林純次『残念な教員――学校教員の失敗学』光文社新書、2015。
・藤田英典『教育改革――共生時代の学校づくり』岩波新書、1997。
・藤田英典『新時代の教育をどう構想するか――教育改革国民会議の残した課題』岩波ブックレット、2001。
・藤田英典『義務教育を問いなおす』ちくま新書、2005。
・堀尾輝久『教育入門』岩波新書、1989。
・苅谷剛彦『教育改革の幻想』ちくま新書、2002。
・苅谷剛彦ほか著『「学力低下」の実態』岩波ブックレット、2002。
・苅谷剛彦『学校って何だろう？――教育の社会学入門』ちくま文庫、2005。
・尾木直樹『学校は再生できるか』NHK ブックス、1998。
・尾木直樹『「学級崩壊」をどうみるか』NHK ブックス、1999。
※その他、授業内で「読書案内」を配布するので参照されたい。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	＜オリエンテーション、教育学（哲学）的思考＞ ○本時の目標 本科目の全体目標及び授業スケジュール、成績評価等について理解するとともに、人間や教育について思考する際に求められる思考様式の４つ「分けずに考える」「相対的に考る」「当たり前を外して考える」「因果性にとらわれずに考える」を理解する。 ○本時の活動 ・オリエンテーション 授業の進め方、スケジュール、学習評価の方法の確認をする。 ・テキスト第１章（pp. 1-8）で解説する。 ○本時の学習成果 本科目の概要について理解しており、思考様式４つについて自分なりに説明できる。 ○予習及び復習事項 予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 復習事項：思考様式４つについて、テキストやノートを見ながら確認する。
2 回	＜教育の基本概念①＞ ○本時の目標 「教育」を成立させる要因としての「人間」そのものについて、ポルトマンの「生理的早産」説によって、人間の「可塑性」と「依存性」という特徴を理解する。さらに、「依存性」から導かれる「養護」の必要性、「可塑性」から導かれる社会や文化との相互関係について理解する。 ○本時の活動 ・テキスト第２章（pp. 9-18）で解説する。 ○本時の学習成果 ポルトマンの「生理的早産」と、人間の「可塑性」及び「依存性」という特徴を説明できるとともに、それらが人間の社会や文化と相互関係にあることを理解している。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：「生理的早産」説と「可塑性」及び「依存性」、それらの相互関係について自分なりにまとめてみる。
3 回	＜教育の基本概念②＞ ○本時の目標 人間が発達していくためには「遺伝」と「環境」の相互作用が必要であることを理解し、人間発達についての基本的な考え方である「発達段階」概念について学ぶ。その際、子供と教員（教師）や家庭、学校がどのように関連しているかも含めて確認する。 ○本時の活動 ・テキスト第３章第１節・第２節（pp. 19-21）で解説する。 ○本時の学習成果 人間が発達するうえで「遺伝」と「環境」が相互的に重要な役割を有していることを理解しているとともに、その人間の周囲にある「環境」である教員や家庭、学校がどのように関連しているかについて確認している。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：「遺伝」と「環境」が人間の発達にどのような関係があり、人間の周囲の「環境」（教員や家庭、学校）がどのように関連しているか、テキストやノートをもとに整理してみる。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
4回	＜教育の基本概念③＞ ○本時の目標 　子どもが環境に適応していくこと、「社会化」の概念について理解する。さらに、その際、同調と生成の両面があることを確認する。そして、教育対象としての子供を理解するために必要な、臨床的な理解のあり方を確認する。 ○本時の活動 　・テキスト第３章第３節・第４節（pp. 22-26）で解説する。 ○本時の学習成果 　「社会化」の概念について、家庭や学校などという「社会」などを具体的にイメージしながら理解している。そのうえで、教育対象としての子供を理解するための臨床的な理解のあり方を確認している。 ○予習及び復習事項 　・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 　・復習事項：「社会化」や臨床的な理解について、テキストやノート見ながら自分なりに説明してみる。
5回	＜教育の歴史と思想①＞ ○本時の目標 　教育の思想や歴史を学ぶ意義について理解したうえで、およそ 17 世紀以前の西洋を中心とした教育の思想の歴史を概観することを通して、多様な教育の理念のあり方があることを学ぶ。 ○本時の活動 　・テキスト第４章第１節・第２節・第３節（pp. 27-30）で解説する。 ○本時の学習成果 　教育の思想や歴史を代表的な教育思想家によりながら学ぶことを通して、子供や学校、家庭に関する教育の思想を理解している。 ○予習及び復習事項 　・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 　　教育思想家についてインターネットなどで調べてみる。 　・復習事項：取り上げた教育思想家とその教育思想についてテキストやノートを見ながら、自分なりにまとめてみる。
6回	＜教育の歴史と思想②＞ ○本時の目標 　前回に引き続き、西洋を中心とした教育思想の歴史を概観することを通して、ルソー、ペスタロッチ、オーエン、フレーベル、ヘルバルト、デューイらの思想と、その社会背景及び現代教育への影響について理解する。 ○本時の活動 　・テキスト第４章第４節・第５節・第６節（pp. 31-38）で解説する。 ○本時の学習成果 　教育の思想や歴史を代表的な教育思想家によりながら学ぶことを通して、近代教育の展開が今日の子供や学校、家庭に関する教育にどのように影響しているか理解している。 ○予習及び復習事項 　・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 　　教育思想家についてインターネットなどで調べてみる。 　・復習事項：取り上げた教育思想家とその教育思想についてテキストやノートを見ながら、現代の教育との関係も意識しつつ、自分なりにまとめてみる。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
7 回	＜教育の歴史と思想③＞ ○本時の目標 　学校が意図的な教育の場であることを確認し、その始まりを理解する。そして、学校が制度化される過程を、近代において学校が普及した３つの背景、思想的背景、国家的背景、産業的背景、さらに家庭をも視野に入れつつ理解する。 ○本時の活動 　・小テスト（第１回）：＜教育の歴史と思想①②＞の内容に関するテスト。 　・テキスト第５章第１節（pp. 39-42）で解説する。 ○本時の学習成果 　学校がどのような背景のもと制度化されるようになってきたのかについて、３つの背景及び家庭の状況によって理解している。 ○予習及び復習事項 　・予習事項：小テストの範囲のテキストやノートなどを確認しておく。 　　テキストの該当箇所を読んでくる。 　・復習事項：学校の制度化の過程について、テキストやノートで整理し、自分なりに説明してみる。
8 回	＜教育の歴史と思想④＞ ○本時の目標 　前回授業を振り返りながら、日本の学校の始まりを確認する。次に、明治以降の教育制度の変遷を公教育の原則である「義務制」「無償制」「中立性」の諸点及び法令を中心に理解する。 ○本時の活動 　・テキスト第５章第２節（pp.42-46）で解説する。 　・「読書レポート」提出 ○本時の学習成果 　日本において、学校がどのような背景のもと制度化されるようになってきたのかについて、公教育の原則である「義務制」「無償制」「中立性」の諸点及び法令を中心に理解している。 ○予習及び復習事項 　・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 　・復習事項：公教育の原則や法令をもとに、日本における学校教育制度の変遷について、テキストやノートを見ながらまとめてみる。
9 回	＜教育の制度①＞ ○本時の目標 　まず、「日本国憲法－教育基本法－学校教育法」という現代日本の教育制度の基本構造を学校の種類によりながら、それぞれの目的を概観する。次に、各学校における教育課程の基準となる「幼稚園教育要領」や「学習指導要領」の法的性格を確認し、その変遷を理解する。 ○本時の活動 　・テキスト第６章（pp. 47-56）で解説する。 ○本時の学習成果 　現代日本における教育制度及び教育課程制度について、その目的や歴史的変遷を説明できる。 ○予習及び復習事項 　・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 　・復習事項：日本の教育制度や教育課程制度についてテキストやノートを見ながらまとめ、「幼稚園教育要領」などの法的性格とその変遷について整理する。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
10回	＜教育の制度②＞ ○本時の目標 　前回授業における教育課程制度の説明を振り返りながら、各学校における教育活動の目的、内容、方法、評価について理解する。その際、小学校就学以後の教育と、それ以前の教育・保育の共通点と相違点を理解する。 ○本時の活動 　　・テキスト第７章・第８章（pp. 57-78）で解説する。 ○本時の学習成果 　各学校における教育活動の目的、内容、方法、評価についてそれぞれの共通点や相違点をあげながら説明できる。 ○予習及び復習事項 　　・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 　　・復習事項：各学校における教育活動の目的、内容、方法、評価についてテキストやノートを見ながら再度確認する。
11回	＜教育の制度③＞ ○本時の目標 　子どもの発達の多様性を確認した上で、現代日本における特別支援教育について、歴史や背景、現代的課題によって学ぶ。さらに、学校における教育実践のあり方について、その原理と課題を家庭や社会とも比較しながら確認する。 ○本時の活動 　　・小テスト（第２回）：＜教育の制度①②＞の内容に関するテスト。 　　・テキスト第９章（pp. 79-88）で解説する。 ○本時の学習成果 　特別支援教育について、家庭や社会との比較のなかで、歴史や拝啓、現代的課題などについて説明できる。 ○予習及び復習事項 　　・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 　　・復習事項：テキストやノートを見ながら、特別支援教育についての理解をさらに深める。
12回	＜教育の制度④＞ ○本時の目標 　教員の資格取得に関する制度と保育士資格について理解する。さらに、教員の職務と服務、採用と研修、免許更新制について、根拠法令を確認しながら、教員の難しさとやりがいを考える。 ○本時の活動 　　・テキスト第１０章（pp. 89-98）で解説する。 ○本時の学習成果 　教員の資格取得に関する制度と保育士資格や教員の職務と服務、採用と研修、免許更新制について、根拠法令をもとに理解している。 ○予習及び復習事項 　　・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 　　・復習事項：制度や法令などをテキストやノートを見ながら、自分なりにまとめてみる。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
13回	＜教育の制度⑤＞ ○本時の目標 　教育行政・経営、多文化教育、生涯教育について、「教育委員会」「PDCA サイクル」「学校評価」、「教育を受ける権利」「市場原理」「グローバル化」、「高等教育制度」「生涯学習社会」「キャリア教育」などにより概観し、理解する。 ○本時の活動 　・テキスト第１１章・第１２章・第１３章（pp. 99-127）で解説する。 ○本時の学習成果 　教育行政・経営、多文化教育、生涯教育について、授業内で解説したキーワードをもとに、考えることができる。 ○予習及び復習事項 　・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 　・復習事項：テキストやノートを見ながら、教育行政・経営、多文化教育、生涯教育についての理解を深める。
14回	＜まとめ①＞ ○本時の目標 　学校教育においてさまざまな問題があることを確認し、その上で、なぜ学校では 問題が起きるのか、その理由を社会における学校の位置づけから考えてみる。さらに、児童・生徒の生活上の指導の原理を確認し、教員としての基本姿勢を学ぶ。 ○本時の活動 　・テキスト第１４章（pp. 127-136）で解説する。 　・「読書レポート」提出 ○本時の学習成果 　学校教育においてさまざまな問題について自分なりに考え、児童・生徒の生活上の指導の原理を確認し、教員としての基本姿勢を理解している。 ○予習及び復習事項 　・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 　・復習事項：学校教育の問題について自分が教員という立場からテキストやノートを見ながら考えてみる。
15回	＜まとめ②＞ ○本時の目標 　本科目における学びを振り返りながら、人間と社会の関係、なかでも教育の意義と課題について学ぶ。その際、自らの人生を振り返り、常に反省と改善が求められることを確認する。 ○本時の活動 　・テキスト第１５章（pp. 137-144）で解説する。 　・期末試験に向けた授業内容の振り返りを行う。 ○本時の学習成果 　人間と社会の関係、なかでも教育の意義と課題について学び、自身の反省と改善の重要について知る。 ○予習及び復習事項 　・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 　・復習事項：テキストやノートを見ながら、本時の内容を整理するとともに、これまでの授業内容の整理を行いながら、期末試験に備える。

令　和　２　年　度　教　育　計　画							
科目名	教育制度論	授業回数	15	単位数	2	担当教員	都田　修兵
質問受付の方法（e-mail、オフィスアワー）： stsuda@owc.ac.jp、金曜日５限目							

教育目標と学生の学習成果	教育目標 　本科目は、幼稚園教諭二種免許状取得のための「教職に関する科目」の一つである。 　本科目では、現代の学校教育制度に関する基礎的な知識や課題を理解するとともに、学校教育と地域との連携や学校安全に関する基礎的な知識も習得することを目標とし、具体的には、「教職課程コアカリキュラム」に対応する以下の目標を達成するものとする。 （１）教育に関する制度的事項 現代公教育制度の意義・原理・構造について、その法的・制度的仕組みに関する基礎的知識を身に付けるとともに、そこに内在する課題を理解する。 （２）学校と地域の連携 学校と地域との連携の意義や地域との協働の仕方について、取り組み事例を踏まえて理解する。 （３）学校安全への対応 学校の管理下で起こる事件、事故及び災害の実情を踏まえて、学校保健安全法に基づく、危機管理を含む学校安全の目的と具体的な取り組みを理解する。 ＜専門的学習成果＞ 　本科目における「専門的学習成果」は、教育目標に示す（１）から（３）までを理解し、「教職」についての基礎的事項を修得することである。 ＜汎用的学習成果＞ 　本科目における「汎用的学習成果」は、「態度・信念」の獲得であり、保育者（教職）に就く者であることを自覚し、自らを高めることに努め、ふさわしい言動を身につけることである。

教育方法	授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） ・主として講義形成による。 ・受講生の理解を促すために、講義中に小テストを課す。
	予習・復習	予習事項 毎授業回前に、「授業回別教育内容」に記している予習を求める。 復習事項 毎授業後にその授業の復習を求める。 ※復習でわからないことがあった学生には、OH などを利用しながら、学習成果を高める援助を行う。
	テキスト	坂野慎二ほか編著『学校教育制度論概説　第２版』玉川大学出版部、2017。

学習評価の方法	＜学習評価の観点＞ 学習評価の観点は下記の通りである。 ●「専門的学習成果」については、教育目標にも掲げた（１）から（４）の観点に基づき行う。 （１）教育に関する制度的事項 （２）学校と地域の連携 （３）学校安全への対応

	●「汎用的学習成果」については「教育目標」でも示した「態度・信念」の獲得の状況に基づき行う。 ＜学習評価の方法＞ 学習評価は以下の方法により実施することとする。 （１）定期試験（70 点） 「専門的学習成果」の学習評価の方法は、学習評価の観点（１）から（３）までにかかる内容についての定期試験（70 点分）を実施する。なお、出題は「選択問題」「簡単な記述問題」「論述問題」等から構成することとする。 （２）小テスト（10 点×2＝20 点） 　小テストを実施し、評価する。なお、実施回は「授業回数別教育内容」を参照すること。小テスト実施日に欠席等により小テストを受験することができなかった者は、後日追試験を実施する。 （３）ディスカッション（10 点） 「汎用的学習成果」の学習評価の方法は、授業課題である「ディスカッション」の得点をもって「態度・信念」の獲得とする。 （４）その他 　ただし、学習評価の方法（１）（２）（３）以外に受講態度に問題があった者は、保育者としての倫理観が十分でないとして、 以下のケースに応じて減点することとする。 　　・「過度の居眠り」及び「不必要な私語」（１点） 　　・「無許可による携帯電話の使用（SNS 等）」（２点）
注意事項	●定期試験 ・「学則施行細則」第７条により、本科目について３分の２以上出席をしなければ試験を受けることはできない（受験資格なし）。 ・「学則施行細則」第７条により、学習評価は 100 点法をもって採点し、80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可、60 点未満を不可とする。 ●再試験 ・「学則施行細則」第７条により、定期試験が不可の者に対して再試験の機会を与え、願により再試験を受けることができる。ただし、講義及び演習の授業科目の再試験は 100 点法による筆記試験とし、その他の評価点（本科目については、学習評価の方法における（２）（３）（４））は含めず、再試験による 60 点以上の得点者はすべて 60 点の学習評価とする。 ●追試験 ・「学則施行細則」第７条により、定期試験の際、病気その他止むを得ない事情により受験不能であった者に対しては、その理由が正当であると認められた場合に限り、願により追試験を受けることができるが、追試験による 80 点以上の得点者はすべて 80 点の学習評価とする。 ＜参考図書＞ ・森上史朗監修『最新保育資料集 2018』ミネルヴァ書房、2018。 ・坂田仰ほか『新訂第２版　図解・表解教育法規』教育開発研究所、2014。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1回	＜オリエンテーション、教育制度と教育改革＞ ○本時の目標 　本科目の全体目標及び授業スケジュール、成績評価等について理解するとともに、学校教育を取り囲む状況を確認しつつ、教育制度の基本的原理や教育改革の動向について理解する。 ○本時の活動 　・オリエンテーション 　　授業の進め方、スケジュール、学習評価の方法を説明する。 　・テキスト第１章（pp. 12-26）で解説する。 ○本時の学習成果 　本科目の概要について理解し、学校教育の基本的原理や現代の教育改革の動向について理解している。 ○予習及び復習事項 　・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 　・復習事項：テキストやノートを見ながら、学校教育の基本的原理や教育改革の動向を整理する。
2回	＜学校教育制度の基本原理①＞ ○本時の目標 　学校体系の基本構造を確認し、とくに就学前教育制度（幼稚園、保育園、認定子ども園）について関連法規とともに理解する。 ○本時の活動 　・テキスト第２章第１節・第２節（pp. 28-40）で解説する。 ○本時の学習成果 　就学前教育制度について理解しているとともに、その教育制度の全体のなかでの位置づけや意義を関連法規とともに理解している。 ○予習及び復習事項 　・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 　・復習事項：就学前教育制度をテキストやノートを見ながら整理し、理解する。
3回	＜学校教育制度の基本原理②＞ ○本時の目標 　教育制度、とくには初等教育制度について理解し、就学前教育制度との関係について関連法規と結びつけながら理解する。 ○本時の活動 　・テキスト第２章第２節・第３節（pp. 34-48）で解説する。 ○本時の学習成果 　初等教育制度について、就学前教育制度との関連のなかで、その位置づけや意義を関連法規とともに理解している。 ○予習及び復習事項 　・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 　・復習事項：初等教育制度をテキストやノートを見ながら整理し、理解する。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
4 回	＜学校教育制度の基本原理③＞ ○本時の目標 　教育制度、とくには中等教育制度（前期・後期中等教育制度）と特別支援教育制度について関連法規と結びつけながら理解する。 ○本時の活動 　・テキスト第３章（pp. 50-66）で解説する。 ○本時の学習成果 　中等教育制度（前期・後期中等教育制度）と特別支援教育制度について、これまで学習してきた他の教育制度との関連のなかで、その位置づけや意義を関連法規とともに理解している。 ○予習及び復習事項 　・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 　・復習事項：テキストやノートを見ながら、これまで習った教育制度と関連法規をそれぞれ整理する。 　　小テストに向けて、該当個所のテキストやノートを見る。
5 回	＜高等教育と生涯学習＞ ○本時の目標 　教育制度、とくには高等教育及び生涯学習の制度について概説し、学生として求められていること、そして、高等教育の後の生涯にわたる学習の目的と意義を理解する。 ○本時の活動 　・小テスト（第１回）：＜学校教育制度の基本原理①②③＞の内容に関するテスト。 　・テキスト第４章（pp. 68-81）で解説する。 ○本時の学習成果 　高等教育及び生涯学習に関する教育制度について理解しているとともに、学生としての学びとその後の学びについての制度的位置づけを理解している。 ○予習及び復習事項 　・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 　・復習事項：テキストやノートを見ながら、高等教育や生涯学習に関する教育制度について整理する。
6 回	＜学校教育制度の成立と発展①＞ ○本時の目標 　日本の近代教育制度がどのように整備されてきたのか、とくには 1945 年の戦争終結までを社会的状況なども踏まえながら理解する。 ○本時の活動 　・テキスト第１２章第１節・第２節（pp. 204-213）で解説する。 ○本時の学習成果 　日本の近代教育制度がどのように整備されてきたのかについて理解している。 ○予習及び復習事項 　・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 　・復習事項：日本の近代教育制度がどのように整備されてきたかについて、テキストやノートを見ながら整理する。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
7回	＜学校教育制度の成立と発展②＞ ○本時の目標 　日本の近代教育制度がどのように整備されてきたのか、とくには 1945 年以降までを社会的状況も踏まえながら理解する。 ○本時の活動 　　・テキスト第１２章第３節（pp. 214-218）で解説する。 ○本時の学習成果 　現在の日本の教育制度が形づくられるまでの経緯について理解しているとともに、現在の教育制度と関連づけて理解している。 ○予習及び復習事項 　　・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 　　・復習事項：日本の近代教育制度がどのように整備されてきたかについて、テキストやノートを見ながら整理する。 　　小テストに向けて、該当個所のテキストやノートを見る。
8回	＜学校教育制度の展開＞ ○本時の目標 　1945 年の戦争終結の後の日本における社会変化のなかで、日本の教育制度がどのように展開してきたのかを理解し、現代の日本の教育制度及び関連法規の原理や理念について理解する。 ○本時の活動 　　・小テスト（第２回）：＜学校教育制度の成立と発展①②＞の内容に関するテスト。 　　・テキスト第１３章（pp. 220-236）で解説する。 ○本時の学習成果 　日本における学校教育制度の展開において、高度経済成長などの社会状況あるいは変化の影響があることを理解し、現代の日本の教育制度及び関連法規の原理や理念について理解している。 ○予習及び復習事項 　　・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 　　・復習事項：これまでの日本の教育制度や関連法規と現代の教育制度や関連法規の違いについて整理する。
9回	＜教育行政の実態＞ ○本時の目標 　教育行政の基本原理を整理したうえで、中央教育行政及び地方教育行政の組織と役割について理解する。 ○本時の活動 　　・テキスト第５章・第６章（pp. 84-116）で解説する。 ○本時の学習成果 　日本における教育行政の基本原理について理解し、中央教育行政及び地方教育行政の実態や役割を理解している。 ○予習及び復習事項 　　・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 　　・復習事項：中央教育行政や地方教育行政の実態や役割についてテキストやノートを見ながら整理する。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
10回	＜学校の組織と運営＞ ○本時の目標 　教育（保育）を行っていく際に、学校という組織が有している意義及びその組織の運営につ理解する。 ○本時の活動 ・テキスト第７章（pp. 118-130）で解説する。 ○本時の学習成果 　一人の教員（保育士）として一つの組織に属すること、そしてその組織の運営において、自果たすべき役割について理解している。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：学校という組織が有している意義やその組織の運営について考え、教員（保育）としての自分の位置づけを確認する。
11回	＜学校の質保証と学校参画＞ ○本時の目標 　学校教育（保育）が行われる以上、そこには教育の質保証が重要となること、そして、その質保証は学校のみでされるものではなく、学校関係者の教育への参画、とくには家庭と地域（住民）の連携体制を推進することの意義を学ぶことを通して、学校の自主性や自律性が具体化され、そこでの教育が活性化されるものであることを理解する。 ○本時の活動 ・テキスト第８章（pp. 132-146）で解説する。 ○本時の学習成果 　学校における教育の質保証の重要性に気づき、それを具体化するために学校関係者の参画という視点が重要となることを理解している。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：学校における教育の質保証と学校関係者の参画ということについてテキストやノートを見ながら整理する。
12回	＜選抜システムとしての学校制度＞ ○本時の目標 　学校教育制度や関連法規は一方で、子どもたちの教育権や学習権を保証したりしているが、他方で、「選抜」というシステムも有し、現在どのような状況にあるのかについて理解する。 ○本時の活動 ・テキスト第９章（pp. 147-164）で解説する。 ○本時の学習成果 　学校教育制度が「選抜」というシステムを有し、現在の状況について理解している。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、学校教育制度の「選抜」というシステムについて整理する。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
13回	＜学校教育の新たな課題①＞ ○本時の目標 　今日の日本の学校教育が抱える課題について、とくには教育政策の国際化という視点から理解する。 ○本時の活動 　・テキスト第１０章（pp. 167-182）で解説する。 ○本時の学習成果 　今日の日本の学校教育が抱えている課題を理解するとともに、それが国際化という一つの社会状況によるものであることを理解している。 ○予習及び復習事項 　・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 　　身近な「国際化」について考えてみる。 　・復習事項：テキストやノートを見ながら、今日の日本の学校教育が抱えている課題を、「国際化」というキーワードで整理する。
14回	＜学校教育の新たな課題②＞ ○本時の目標 　今日の日本の学校教育が抱える課題（事故や自然災害など）について、学校における安心・安全という視点から理解し、「家庭－学校－地域」全体で学校教育の課題にどのように取り組むかを考える。 ○本時の活動 　・テキスト第１１章（pp. 184-201）で解説する。 　・ディスカッション：学校教育が抱える課題についてのディスカッション。 ○本時の学習成果 　今日の学校における安心・安全と現在の日本の学校教育の抱える課題との関係について理解している。また、「家庭－学校－地域」全体で学校教育の課題にどのように取り組むかを考えている。 ○予習及び復習事項 　・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 　　学校にとっての「安心・安全」が何かを考えてみる。 　・復習事項：今日の学校における安心・安全と現在の日本の学校教育の抱える課題との関係から整理する。
15回	＜学校教育の現在と未来、総括＞ ○本時の目標 　これまでの授業で取り上げたことを反映させながら、これからの教育制度あるいは教育行政や教育政策に何が必要となるのかを考えてみる。 ○本時の活動 　・テキスト第１４章（pp. 238-253）で解説する。 　・期末試験に向けた授業内容の振り返りを行う。 ○本時の学習成果 　これからの教育（保育）を担う者として、学校教育の現在の状況を理解し、これからの学校教育についての展望を自分なりもつことができている。 ○予習及び復習事項 　・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 　・復習事項：テキストやノートを見ながら、本時の内容を整理するとともに、これまでの授業内容の整理を行いながら、期末試験に備える。

令　和　2　年　度　教　育　計　画							
科目名	幼児理解及び保育相談	授業回数	15	単位数	2	担当教員	大賀　恵子
質問受付の方法：(e-mail, オフィスアワー等)：e-mail：ohga @owc.ac.jp　、　OH：土曜日 2 限							

教育目標と学生の学習成果		教育目標　本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である 幼児理解は保育者の基本となる姿勢である。本科目では、幼児理解の知識を身につけ、考え方や基礎的態度を理解することを目標とする。 ①幼児理解についての知識を身につけ、考え方や基礎的態度を理解する。 ②幼児理解の方法を具体的に理解する。 ③保育相談で必要となる心理学的基礎的知識を身につけ、基礎的な対応方法を身につける。 学生の学習成果 専門的学習成果：教育目標に掲げる①～③の 3 項目に関する基礎的知識を習得する。 汎用的学習成果：教育目標に掲げる①～③の項目に関して、自主的に学ぶ姿勢を身につける。
教育方法	授業の進め方	(講義・演習・実験・実習・実技) ・主として講義形式によって行うが、受講者の理解を促進し学習効果を確認するために講義中に論述課題、小レポートを課す。 ・カウンセリング的関わりの理解のために、グループワーク等の演習形式を用いる。
	予習・復習	・毎授業回前に「授業回数別教育内容」に記された予習を求める。 ・毎授業回に復習を求め、そのポイントをまとめる。その際、提出課題とする場合がある。
	テキスト	谷田貝公昭(監修)・大沢裕・藤田久美　他 『子どもの理解と援助（保育士を育てる)』一藝社、2020 年
学習評価の方法		専門的学習成果 評価配分は 90 点であり、期末試験（80 点）と論述課題（10 点）で測る。90 点は以下に示した 3 つの専門的学習成果について、おおよそ「①：②：③＝30 点：30 点：30 点」の比重をおく。 ①幼児理解についての知識を身につけ、考え方や基礎的態度を理解する。 ②幼児理解の方法を具体的に理解する。 ③保育相談で必要となる心理学的基礎的知識を身につけ、基礎的な対応方法を身につける。 汎用的学習成果 評価配分は 10 点であり、課題とその内容で測る。なお、受講態度などに問題があった受講生に対して、注意指導で改善が見られない場合、保育を学ぶ者としての倫理観が十分でないとして、ケースに応じて減点する。 以上の通り、専門的学習成果の評価配分は 90 点、汎用的学習成果の評価配分は 10 点、合計 100 点満点で最終評価を行う。
注意事項		参考図書等 小林郁子　小林久利　共著：「保育所の子育て相談」～相談の基本・事例とアドバイス～萌文書林 佐川寛子・成瀬美恵子：「保育者のためのカウンセリングマインド入門」チャイルド本社、2007 年。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	＜オリエンテーション＞ 1. 本時の目標 授業内容の概略・進め方・成績評価の方法を確認し、幼児理解の意義及び教育相談の意義と課題を説明する。 2. 本時の活動 ・本科目の内容・進め方・成績評価の方法を理解する。 ・幼児理解や教育相談の意義を理解する。 3. 本時の学習成果 ・保育相談の基礎の教育目標が理解できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト 1 章を熟読する。 ・復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問できるようにしておく。
2 回	＜幼児理解・保育相談の意義＞ 1. 本時の目標 幼児理解の意義及び教育相談の意義と課題を確認しながら、それぞれに関わる幼児の発達や学びを捉える原理を心理学的立場から理解する。 2. 本時の活動 ・幼児の発達や学びを捉える原理を理解する。 3. 本時の学習成果 ・幼児の発達や学びを捉える原理が説明できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第 2 章を熟読する。 ・復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問できるようにしておく。
3 回	＜幼児理解・教師の基礎的態度＞ 1. 本時の目標 幼児理解に関して代表的心理学的立場からその原理的考察を深め、幼児に必要な環境について理解する。また、それと関連づけながら幼児理解を深めるための教師の基礎的な態度がどのようなものであるかも理解する。 2. 本時の活動 ・幼児理解に必要な環境作り、教師の基本的な態度について理解する。 3. 本時の学習成果 ・幼児理解に必要な環境設定、教師の基本的な態度について説明できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第 3 章を熟読する。 ・復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問できるようにしておく。
4 回	＜幼児理解のための実態把握と理解の方法＞ 1. 本時の目標 授業 3 回までを振り返り、幼児理解を深めるための実態を把握し、「個」と「集団」がどのような関係にあるのかを捉える意義や方法を理解し、観察法等の基礎的な事柄を例示する。 2. 本時の活動 ・幼児理解のための実態を把握する。 ・「個」と「集団」の関係が捉える意義や方法を理解している。 ・観察法等の基礎的な事柄を例示することができる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第 4 章を熟読する。 ・復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問できるようにしておく。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
5 回	＜保育相談支援の計画と記録・事例の対応方法＞ 1. 本時の目標 学校教育において、カウンセリングマインドの必要性を具体的事例や実際に事例の対応をもとに理解する。 2. 本時の活動 ・具体的事例の対応について計画を立て援助法を検討する。 3. 本時の学習成果 ・保育相談の具体的な事例の対応を理解し、計画に基づく援助法について説明できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第 5 章を熟読する。 ・復習事項：事例の対応方法を確認する。
6 回	＜信頼関係を基本とした受容的かかわり・自己決定など＞ 1. 本時の目標 これまでの幼児理解に関する内容と関連づけながら、幼稚園をはじめとする教育相談におけるカウンセリングの基礎的な知識を習得する。 2. 本時の活動 ・カウンセリングの基礎的な理論を理解し、教育相談の実践事例について確認する。 3. 本時の学習成果 ・カウンセリングの基本的な理論が理解し、事例の対応を検討できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第 6 章を熟読する。 ・復習事項：カウンセリングの理論について理解する。
7 回	＜保育所における保育相談の実際＞ 1. 本時の目標 教育相談の計画の作成必要な校内体制の整備、組織的な取り組みの必要性について、実際の学校現場の様子などの具体的レベルで理解する。 2. 本時の活動 ・学校現場の様子を理解し、養育者自身の問題に対する事例対応を把握する。 3. 本時の学習成果 ・養育者自身の問題における事例の対応が理解できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第 7 章を熟読する。 ・復習事項：養護者自身の問題への対応法と留意点を確認する。
8 回	＜気になる幼児への理解と保護者支援＞ 1. 本時の目標 幼児理解及び教育相談に関して、学校現場における幼児、児童及び生徒の不適応や問題行動に対する幼児や児童および生徒の発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方を考える。児童及び生徒の発するシグナルに気づき把握する方法を心理学的なアプローチにより理解する。 2. 本時の活動 ・学校現場の諸問題について調べたデータをグループで確認する。実際の心理支援の技法を理解できる。 3. 本時の学習成果 ・気になる幼児への理解と保護者支援の方法と留意点が理解できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：学校現場の諸問題に関する資料を確認する。テキスト第 8 章を熟読する。 ・復習事項：保護者の心理的支援の方法を理解する。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
9 回	＜保育相談支援の内容―障害のある幼児と保護者理解―＞ 1. 本時の目標 障害のある幼児への対応法を確認し、ケースワーク過程について事例をもとに理解する。 2. 本時の活動 ・事例についてグループワークから対応法を検討する。 ・対応法を確認し、留意点等も確認できる。 3. 本時の学習成果 ・障害のある幼児への対応法と留意点が理解できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第 9 章を熟読する。障害のある幼児への対応法を考える。 ・復習事項：集団でのコミュニケーション技法について理解する。
10 回	＜保護者理解と子ども理解＞ 1. 本時の目標 学校ごとの職種や校務分掌に応じて、幼児、児童、及び生徒並びに保護者に対する教育相談を行う際の目標の立て方や進め方を具体的な事例をもとに学び、さらに例示することができる。 2. 本時の活動 ・事例を通して具体的な保護者対応を確認する。 3. 本時の学習成果 ・保育相談の具体的な事例の対応が理解できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第 10 章を熟読する。事例の対応方法を考える。 ・復習事項：事例の対応方法を理解する。
11 回	＜保護者の養育力の向上に資する支援＞ 1. 本時の目標 幼児理解及び教育相談に関わる心理学の基礎的な理論・概念を再度理解しなおすとともに、幼児のつまずき、保護者への対応などの具体的方法について理解する。 2. 本時の活動 ・家庭支援に大切な保護者の養育力の向上について基礎的な理論を確認する。 ・家庭支援の具体的な方法について理解する。 3. 本時の学習成果 ・子育て、家庭支援について、保護者の養育力向上に資する支援法を確認する。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第 11 章を熟読する。カウンセリング理論について調べる。 ・復習事項：事例の対応法を理解する。
12 回	＜地域資源の活用と関係機関との連携・協力＞ 1. 本時の目標 教員として幼児理解や教育相談に関わる際に、地域の医療・福祉・心理等の医療機関との連携がどのような意義や必要性を有しているかについて理解する。 2. 本時の活動 ・専門機関との幼児理解の共有について確認する。 ・カウンセリングにおける技法について理解する。 3. 本時の学習成果 ・社会資源との連携・協力についての必要性を理解できる。 ・カウンセリングにおける技法について確認する。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第 12 章を熟読する。カウンセリングにおける傾聴技法について調べる。 ・復習事項：カウンセリング技法について理解する。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
13回	＜幼児理解を深める実践と省察＞ 1. 本時の目標 学校現場における保護者に対する教育相談の進め方を、幼児に対するものと比較して理解する。 2. 本時の活動 ・コミュニケーションの取り方について、技法としての知識を得る。 3. 本時の学習成果 ・幼児と養育者の問題に対する事例の対応が理解できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第 15 章を熟読する。幼児理解を深めるための方法を考える。 ・復習事項：コミュニケーションの取り方に関する技法を確認する。
14回	＜保育に関わる保護者への指導と保育カンファレンスにおける幼児理解＞ 1. 本時の目標 幼児理解及び教育相談に関して、学校現場における受容・傾聴・共感的理解等のカウンセリングの基礎的な姿勢や技法を理解する。 2. 本時の活動 ・保育カンファレンスにおける幼児理解について確認する。 ・保護者への指導法について理解する。 3. 本時の学習成果 ・保育カンファレンスにおける幼児理解について具体的に説明できる。 ・保護者への指導法について理解できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第 14 章を熟読する。保護者への指導法について考える。 ・復習事項：保育カンファレンス、保護者への指導について確認する。
15回	＜幼児理解に基づく援助から生まれるもの・総まとめ＞ 1. 本時の目標 幼児理解に基づく援助から生まれるものは何か、それらを大切にした保育相談の方法はどのようなものかを確認し、自身の対応法をまとめる。14 回までの授業内容をまとめる。 2. 本時の活動 ・14 回までの授業内容を振り返り、幼児理解及び保育相談に関する内容について確認する。 3. 本時の学習成果 ・本科目の学習成果を達成している。 4.予習及び復習事項 ・予習事項：特になし。 ・復習事項：第 1 回から第 14 回の授業内容を整理し、期末考査に備える。

<table>
<tr><td colspan="8">令　和　２　年　度　教　育　計　画</td></tr>
<tr><td>科目名</td><td>事前・事後指導</td><td>授業回数</td><td>15</td><td>単位数</td><td>1</td><td>担当教員</td><td>都田　修兵</td></tr>
<tr><td colspan="8">質問受付の方法（e-mail、オフィスアワー等）：stasuda@owc.ac.jp、OH：金曜日５限目</td></tr>
<tr><td>教育目標と学生の学習成果</td><td colspan="7">教育目標
本科目は、幼稚園教育実習準備としての事前指導及び同実習終了後のまとめとしての事後指導として、以下の目標のもとに実施する。
１　幼稚園教育実習の意義と制度を知る。
２　幼児や保育を観察する方法を知り、適切な記録を作成する。
３　指導計画の根拠や意義を知り、適切な指導案を作成する。
４　実習実施の手続きを知り、適切な文書を作成する。
５　評価の意義を知り、実習後の振り返りを通して自己課題を設定する。

学生の学習成果
専門的学習成果：教育目標に掲げる能力を獲得する。
汎用的学習成果：保育者にふさわしくない言動を知り、そうしないように努力する力を獲得する。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">教育方法</td><td>授業の進め方</td><td colspan="6">（講義・演習・実験・実習・実技）
・講義と演習を併用する。
・学習成果をあげるために授業時間内外で取り組む課題を課す。</td></tr>
<tr><td>予習・復習</td><td colspan="6">予習事項：『幼稚園教育要領』などの幼稚園実習に関わる内容を確認しておく。
復習事項：毎授業後に、授業内容の確認を求める。</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="6">適宜、授業中に配布する。</td></tr>
<tr><td>学習評価の方法</td><td colspan="7">以下の６つの学習成果についてその獲得度合を評価する。
①　幼稚園教育実習に関する法制度及び意義を知る。
②　保育の観察方法を知り、適切な記録を作成する。
③　指導計画の根拠や意義を知り、適切な指導案を作成する。
④　実習実施の手続きを知り、適切な文書を作成する。
⑤　評価の意義を知り、実習後の振り返りを通して自己課題を設定する。
⑥　保育者にふさわしくない言動を知り、そうしないように努力する。
学習評価は、授業中の課題２つ（20 点）、レポート２本（40 点）、文書の作成と提出（40 点）により実施する。受講態度に問題があった者は、学習成果⑥について減点する。また、受講態度については、複数回の注意を受けた後、改善が見られない場合は減点の対象（1～5 点を目安とする）とする。</td></tr>
<tr><td>注意事項</td><td colspan="7">本科目は「幼稚園教育実習」の履修を前提とする科目である。その履修条件については、『学生のしおり』の「幼稚園教育実習履修に関する規則」に従う。 教育実習を辞退した学生は、事後指導が実施できないため、本科目の評価点を「０」とする。
なお、本科目は、１年後期及び２年前期にかけて開講される。</td></tr>
</table>

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	＜オリエンテーション＞　・講義内容 授業の進め方、スケジュール、学習評価の方法 ＜幼稚園教育実習の実施＞① ・講義内容 幼稚園教育実習の意義及び法制度を説明する。 ・学習成果 本科目の位置づけを知り、幼稚園教育実習の意義を理解する。
2 回	＜教育実習の実施＞② ・講義内容 幼稚園の種別や特色などを説明する。 ・学習成果 幼稚園に種別や特色があることを理解し、実習希望幼稚園を選定できる。 ・課題 実習希望幼稚園を決め、文書を完成させて提出する。
3 回	＜教育実習の実施＞③ ・講義内容 幼稚園教育関係法令を確認し、幼稚園教育の全体構造を説明する。 ・学習成果 幼稚園教育の仕組みを説明できる。
4 回	＜保育における観察と記録＞① ・講義内容 保育における観察のポイントを、事例を示しながら解説する。 ・学習成果 保育における観察のポイントを知り、観察に生かそうとする。
5 回	＜保育における観察と記録＞② ・演習内容 ビデオ視聴「幼稚園における保育」 ・学習成果 ポイントを押さえた観察をしようとする。 ・課題 記録の作成
6 回	＜保育における観察と記録＞③ ・演習内容 学外実習報告会に参加して、２年生の報告を聴き、質問する。 ・学習成果 実習経験を聴き、実習への意欲を高める。 ・課題 意見用紙の提出
7 回	＜幼稚園における指導計画＞① ・講義内容 「教育課程総論」の学習内容を振り返りながら、教育課程の全体像を説明する。 また、内諾を得た幼稚園に送る承諾依頼書の役割と内容を説明する。 ・学習成果 幼稚園教育課程と指導計画について、おおまかに説明できる。 ・課題 承諾依頼書および承諾書への記入
8 回	＜幼稚園における指導計画＞② ・講義内容 「保育原理」の学習内容を振り返りながら、「保育における環境設定」の重要性とポイントを解説する。そして、レポートの作成方法を説明する。 ・学習成果 保育における環境設定のポイント、レポートの作成方法を知る。 ・時間外の課題 レポートの作成

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
9 回	＜幼稚園における指導計画＞③ ・講義内容 環境設定に関するレポートを振り返り、ポイントを押さえる。さらに、「保育原理」の学習内容を振り返りながら、指導案を作成するポイントを説明する。 ・学習成果 指導案のポイントをおおまかに説明でき、作成に生かそうとする。 ・課題 部分指導案の作成 ※本時以降は２年前期に実施
10 回	＜幼稚園における指導計画＞④ ・演習内容 「保育実践ファイル」の相互評価に向けて評価の方法を伝える。その後、小グループを作り、ファイルを相互に評価する。 ・学習成果 「保育実践ファイル」を改善する意欲を持つ。 ・予習 「保育実践ファイル」の作成 ・課題 評価記録の作成
11 回	＜保育における観察と記録＞⑤ ・講義内容 本科目第４，５回授業の学習内容を振り返りながら、教育実習日誌の意義と記録のポイントを確認する。さらに、実習幼稚園に送付する個人票等の文書の作成について説明する。 ・学習成果 教育実習日誌の作成方法を覚える。 ・課題 個人票等の作成・提出
12 回	＜保育における観察と記録＞⑥ ・講義内容 前回までの学習内容を振り返りながら、観察と記録の方法の具体について説明する。その際、事例を示しながら記録を作成させる。 ・学習成果 ポイントを押さえた記録を作成しようとする。 ・課題 記録の作成
13 回	＜教育実習の実施＞④ ・講義内容 事前オリエンテーションの意義および内容について解説する。また、訪問時の注意点を確認する。 ・学習成果 事前オリエンテーションでやるべきことを覚え、正しく振舞おうとする。 ・課題 オリエンテーションに向けての文書作成
14 回	＜教育実習の実施＞⑤ ・講義内容 実習レポートの内容および作成方法を説明する。 ・演習内容 小グループで、保育所実習の振り返りを行い、幼稚園教育実習に向けての自己課題を探究する。 ・学習成果 教育実習に向けての自己課題を確認する。 ・課題 自己課題の作成 ・時間外の課題 レポートの作成
15 回	＜教育実習の実施＞⑥ ・講義内容 教育実習を振り返るための自己評価シートへの記入方法を解説する。 ・学習成果 保育専門職就職に向けての自己課題を確認する。 ・課題 自己評価シートへの記入

令　和　２　年　度　教　育　計　画							
科目名	教職実践演習	授業回数	15	単位数	2	担当教員	浦上博文、都田修兵、鈴木久子
質問受付の方法（e-mail,オフィスアワー等）水曜 16：20～17：00 鈴木　　hsuzuki@owc.ac.jp							

教育目標と学生の学習成果		教育目標： 教員として求められる４つの事項、①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項、②社会性や対人関係能力に関する事項、③幼児児童生徒理解や学級経営等に関する事項、④教科・保育内容等の指導力に関する事項をテーマとする。 これまでの授業や教育実習を通した学びを振り返り、「幼稚園教諭」になる上で自身の課題を自覚し、不足している知識・技能を補い、定着を図ることによって、教職生活を円滑にスタートできる力を身につけることを目標とする。 学生の学習成果： 専門的学習成果として、教育目標に掲げる４つの事項について知識や能力を獲得し、姿勢や意見を形成することが挙げられる。 また、汎用的学習成果として、保育者としての使命感や社会の一員として求められる倫理観や価値観を獲得し他者との豊かな人間関係力を養う。
教育方法	授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） 教員として求められる４つの事項について、グループ討議・模擬実践・事例研究などを通して総合的に学ぶ。また、幼稚園の教育現場との連携を図り、幼稚園教諭による講演・ディスカッションを実施する。３名の教員がオムニバス形式で担当するが内容に応じてティーム・ティーチングの方式で行う。また、入学時からの履修カルテに基づき必要に応じて補完的指導を行う。
	予習・復習	・毎授業回前に、「授業回数別教育内容」に記された予習を求める。 ・毎授業回後に復習を求める。その際、レポートとする場合がある。
	テキスト	・「幼稚園教育要領解説」（文部科学省　平成 30 年 3 月）
学習評価の方法		以下の４つの学習成果についてその獲得度合を量的に評価する。 ①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を持つ。 ②社会性や対人関係能力を形成する。 ③幼児理解の姿勢を持ち学級経営の力量の基礎を形成する。 ④保育内容の指導力の基礎を獲得する。 学習評価は、各授業でのグループ討議・ロールプレイングの取組内容・レポート・小論文などの結果を踏まえ、教員として最低限必要な資質能力が身についているかを担当教員全員が総合的に評価、確認し、学習評価を行う。評価は、討議記録、模擬実践(発表会)、レポート、指導案、感想文など(60%)、小論文(40%)により実施する。受講態度に問題があった者、保育者としての倫理観が十分でない場合は汎用的学習成果を考慮する。幼稚園教育実習の成績評価はその成績評価が基準点を上回らなければ評価を得ることはできない。
注意事項		参考図書等： 参考資料は適宜授業内容にあわせて紹介・配布する。 その他：知識技能の獲得状況を踏まえての科目であることから、履修には幼稚園教育実習を受講し単位習得の見通しがついていることが前提となる。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1回	＜オリエンテーション＞　（鈴木） ・本科目の目標と計画 ・授業の内容と進め方、単位認定に関する説明・スケジュール・担当者の紹介 ・活動　講義・グループ討議「これまでの学習の振り返り・幼稚園教諭になるための自己課題について」履修カルテの作成 ・シラバスの解説 ・講演会に向けて一幼稚園教諭への質問 ・課題　討議記録の作成
2回	＜幼児理解・学級経営・対人間関係力＞　（鈴木） ・講義・ロールプレイング・グループ討議「教員間の協力・家庭との連携・保護者面談について」 ・活動　ロールプレイング及びグループ討議「保護者面談について」
3回	＜使命感・責任感・教育的愛情＞　（鈴木） ・講義　幼稚園教諭の役割・職務内容（年間行事）について ・小学校の生活科の目標と内容について
4回	＜使命感・責任感・教育的愛情・対人関係能力＞　（都田） ・活動　幼稚園教育実習経験の共有 ・課題　講義記録及び意見文の作成 ・活動　グループ討議「講演についてのまとめと自己の課題」 ・課題　幼稚園教諭としての自己課題の探究
5回	＜使命感・責任感・愛情＞　（都田・浦上・鈴木） ・活動　幼稚園教諭による講演「幼稚園教諭に必要な指導力、学級経営、指導案について」 ・課題　幼稚園教諭とのディスカッション「幼児に対する教育的愛情、組織の一員としての自覚、保護者や地域関係者との連携について」 ・課題　ディスカッション記録の作成講義記録及び意見文の作成グループ討議 ・課題　討議記録の作成
6回	＜社会性や対人間関係能力＞　（浦上） ・講義・講演のまとめ活動　グループ討議・発表「現場幼稚園教諭講演・ディスカッション授業のまとめ・幼稚園教諭としての自覚の形成」
7回	＜教育課程と学級経営＞　（都田） ・グループ討議「子どもたちと信頼関係を築く幼児理解・学級経営について」 ・課題　幼稚園教育実習における子どもたちと信頼関係を築く方法と幼児理解・学級運営について

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
8 回	＜保育内容指導力＞　（浦上・都田・鈴木） ・昨年度の合同発表会のＶＴＲ視聴 ・財の実践計画作成
9 回	＜保育内容指導力＞　（都田・浦上・鈴木） ・活動　演習活動・グループ討議「指導計画に基づく学級活動模擬実践媒体の作成（前半）」 ・作成した指導案を発表し、修正箇所について討論 ・課題　学習指導案を作成する
10 回	＜保育内容指導力＞　（浦上・都田・鈴木） ・活動　演習活動・グループ討議「指導計画に基づく学級活動模擬実践媒体の作成（後半）」 ・作成した指導案を発表し、修正箇所について討論 ・課題　指導案を修正する
11 回	＜保育内容指導力＞　（浦上・都田・鈴木） ・活動　演習活動・グループ討議「指導計画に基づく学級活動模擬実践媒体の作成（前半）」 ・模擬保育における注意点 ・教材・教具の作成 ・課題　模擬授業の準備
12 回	＜保育内容指導力・発表会リハーサル＞　（浦上・都田・鈴木） ・活動　演習活動・グループ討議「指導計画に基づく学級活動模擬実践媒体の作成（後半）」 ・模擬保育における注意点 ・課題　模擬授業の準備・課題　発表記録の作成・小論文の課題について課題を提示する。 「幼稚園教諭としての資質・能力の確認、自己課題探求のまとめ」 ・小論文も課題提示
13 ・ 14 回	＜保育内容指導力＞　（浦上・都田・鈴木） ・活動　合同発表会「模擬実践の講評、自己・相互評価」 ・課題　発表記録の作成
15 回	＜確認とまとめ＞　（浦上・鈴木） ・講義・まとめ「幼稚園教諭としての資質・能力の確認、自己課題探求のまとめ」を小論文に書く。 ・活動　合同発表会の振り返り ・模擬授業の振り返りとまとめ ＜総復習＞ ・学びの振り返り

<table>
<tr><td colspan="8">令　和　２　年　度　教　育　計　画</td></tr>
<tr><td>科目名</td><td>社会福祉</td><td>授業回数</td><td>15</td><td>単位数</td><td>2</td><td>担当教員</td><td>松尾　冀</td></tr>
<tr><td colspan="8">質問受付の方法　：　適宜、授業終了後は再度受け付ける</td></tr>
<tr><td>教育目標と学生の学習成果</td><td colspan="7">教育目標
１．現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解する。
２．社会福祉の制度や実施体系等について理解する。
３．社会福祉における相談援助について理解する。
４．社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解する。
５．社会福祉の動向と課題について理解する。
学生の学習成果
専門的学習成果：教育目標に掲げる５項目の社会福祉の基本を修得し、幼児教育専門職として不可欠の社会福祉に関する基礎知識と支援理念を獲得する。
汎用的学習成果：幼児教育専門職としてのみならず社会人としもまた家庭人（子どもの親）としても、広い視野で社会を見据え社会の発展に寄与する人間として成長する。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">教育方法</td><td>授業の進め方</td><td colspan="6">（講義・演習・実験・実習・実技）
・基本的にはテキストを中心に授業を進めていく
・新聞やテレビ等の社会福祉欄に関心を持つよう、媒介物を実際に解説することによって学生の意識を高める。
・授業時間外に取り組むレポート（新聞の切り抜きとコメント）を課す。</td></tr>
<tr><td>予習・復習</td><td colspan="6">・予習：次週の単元を示し、「授業回数別教育内容」に沿った予習を求め、課題意識を持って授業に臨ませる。
・復習：主として、小テストにて重要な福祉用語の理解を深める。</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="6">・赤木正典・平松正臣編著『改訂 社会福祉論』建帛社</td></tr>
<tr><td>学習評価の方法</td><td colspan="7">以下の５つの学習内容についての理解度を期末テストで評価する他、提出物も評価する。
・現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点についての理解度。
・社会福祉の制度や実施体系等についての理解度。
・社会福祉における相談援助についての理解度。
・社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについての理解度。
・社会福祉の動向と課題についての理解度。
学習評価は①小テスト 16 点（授業態度、私語雑音・居眠り・遅刻などを加味する）
②課題 16 点（新聞の切り抜きの提出期限及びレイアウトとコメント内容）
③期末テスト 68 点　①＋②＋③＝合計 100 点</td></tr>
<tr><td>注意事項</td><td colspan="7">参考図書等：
他の授業で使用の、福祉関係法令の解説書類は、本授業でも有用である。
＊授業の始めと終わりの挨拶励行、私語を慎む、遅刻をしない等のマナーを大切にする。</td></tr>
</table>

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	1．現代と社会福祉（オリエンテーションの後に） ＜講義＞21 世紀の福祉の目標は、高齢化が活力に結びつく明るい社会を構築するという基本理念のもとに、社会全体のシステムを少子高齢社会にふさわしいものにつくり替えていくこととなっている。このことを子ども家庭支援の視点を入れて理解させる。 ＜復習＞21 世紀の福祉の課題として以下の用語や概念の理解を深める ・日常生活の中から、人権尊重の福祉社会実現の流れを見つける。 ＜予習＞第１章を読んでおく。
2 回	2．社会福祉の基礎理解 ＜講義＞憲法 25 条をもとに、生存権の保障に至る歴史や、広義の社会福祉と狭義の社会福祉の概念を解説する。 ＜学習成果＞福祉の源は人間愛と連帯感であることを知り、各自が各自の優しさを育む。 ＜予習＞第２章を読んでおく。 ＜課題＞福祉に関する新聞記事を切り抜き、コメントを加え、提出させる。
3 回	3．社会福祉の歴史 ＜講義＞我が国における社会福祉の歴史について解説し、欧米の福祉よりも古い歴史を知らせながら、近代の欧米の福祉から学んだ成果の定着過程を理解させる。 ＜学習成果＞福祉という言葉は新しいが、福祉の精神は古くから息づいていたことを知り、現代社会での課題に目を向けることの大切さを学ぶ。 ＜復習＞歴史的な福祉事業家の業績を整理し、郷里の偉人を調べてみる。 ＜予習＞第３章を読んでおく。
4 回	4．社会福祉の法律と制度 ＜講義＞福祉６法が制定された歴史的背景について解説し、それぞれの法律の意義を理解させる。また、法で定められたそれぞれの行政機関の役割を理解させる。 ＜学習成果＞福祉６法が制定された順番こそが時代の緊急課題であったことを理解する。 ＜復習＞福祉６法の名称とそれぞれの法に関係する援護制度の内容と背景を理解する。 ＜予習＞第４章を読んでおく。
5 回	5．貧困と社会福祉 ＜講義＞貧困問題が福祉の中核であり、最近の生活保護制度の動向を説明し、制度の適正な実施の仕組みと課題を考えさせる。 ＜学習成果＞貧困の連鎖を絶つことの難しさを知りながら、保育士としての支援には、家庭の実情に目を向けながら子どもと家庭の支援に当たることの大切さを学ぶ。 ＜復習＞国家による公的扶助の代表が生活保護であるが、その動向と課題を考えて見る。 ＜予習＞子どもの貧困という社会現象にはどんな具体例があるか関心を持っておく。
6 回	6．子どもと家庭の福祉① ＜講義＞児童福祉法制定の背景を戦後の歴史として学び、日本国憲法の生存権や基本的人権が子どもの福祉を支えていることを理解させる。そして、現代の子ども家庭福祉問題を社会病理としたとき、保育士の果たす役割の大切さを自覚させる。 ＜学習成果＞子ども家庭支援や保育業務の法的根拠が児童福祉法にあることを知る。 ＜復習＞子どもの最善の利益とは何か、各自の考えをまとめてくる。 ＜課題＞児童虐待や子どもの貧困など児童福祉をテーマの新聞の切り抜きを提出する。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
7 回	６．子どもと家庭の福祉② ＜講義＞子ども家庭福祉の実施機関の体制を説明し、そこで働く人々の役割を理解させる。 ＜学習成果＞子ども家庭福祉の現場の状況を知ることは、就職活動にも貴重な情報である。 ＜復習＞２年生での実習に備え、身近にある児童福祉施設の情報を集めておく。 ＜予習＞児童問題に常に関心を持っておく。
8 回	７．高齢者福祉 ＜講義＞高齢社会の進行状況と少子化との関連性を説明し、長期的展望で見ると日本が大変な状況であることを理解させる。やがては自分自身の問題となる高齢者の生活実態について説明し、健康や家族関係や経済面についての対策を考えさせる。 ＜学習成果＞老人福祉法のお世話になる割合を少しでも減らす努力は今からやらねばならないと気づく。社会の発展に貢献してきた老人を敬愛する精神を育て、実践する力をつける。同時に、家庭での子育てと家庭での老後が無関係でないと気づかせる。 ＜復習＞介護問題の現状と課題を身近な事例から考えてみる。 ＜予習＞５０年後の自分の理想像を描き、今やるべきことを考える。
9 回	８．障害者福祉① ＜講義＞三障害の定義と概念を説明し、具体的な障害像をイメージさせ、障害の種類ごとに撮られている福祉対策の現状と課題を理解させる。 主に身体障害者福祉法による福祉制度について説明する。 ＜学習成果＞保育現場における障害児保育の課題や支援のあり方を考える力がつく。 ＜復習＞幼児の知的障害や身体障害にどんな福祉支援があるか書き出してみること。
10 回	８．障害者福祉② ＜講義＞知的障害の定義や程度を説明し、知的障害者福祉制度の現状と課題を考えさせる。 旧来の障害の三分類以外の、発達障害についても説明を加える。 ＜学習成果＞知的障害児や発達障害児とのつきあい方を学び現場で応用できる力を養う。 保育現場には集団生活に困難を来す子どもが多く、この学びは実用的である。 ＜予習＞子どもの発達に及ぼす大人（保育者）の関わり方の重要性について考えてみる。 ＜復習＞発達障害に関する専門書を一冊は読んでみたい。
11 回	９．ひとり親家庭の福祉・女性福祉 ＜講義＞ひとり親家庭の現状を理解させ、円満な家庭の大切さを知らしめる。 母子及び寡婦世帯への福祉施策について解説する。 DV などによる要保護女性の福祉と、婦人相談所の現代的使命を解説する。 ＜学習成果＞ひとり親になる原因は離婚が圧倒的に多く、ひとり親にならないような結婚の大切さを自覚する。ひとり親家庭の保育児童への留意点を学び愛着形成に資する。 ＜復習＞DV 被害者の連れている児童は、被虐待児であることの根拠を学ぶ。 ひとり親となる原因を少なくするために自分自身が出来ることは何かを考える。
12 回	10．社会福祉相談援助技術 ＜講義＞社会福祉における相談援助技術の種類とそれらの発展した歴史を説明し、社会福祉援助に関して利用者の保護と権利擁護に関わる仕組みを解説する。 ＜学習成果＞保育士として保護者支援に当たるとき、これらの援助相談技術は役立つ。 ＜予習復習＞今までのノートを読み直してみる。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
13 回	11．地域福祉 ＜講義＞地域における篤志家の慈善事業が源流であった地域福祉が公的サービスとして日本に定着した経緯と、共生社会の実現への理念と課題を解説する。 ＜学習成果＞地域福祉は行政を支える住民の活動があって初めて実を結ぶことを知る。 ＜復習＞身近な地域にどんな住民参加型の福祉活動があるかを調べてみる。
14 回	12．医療福祉 ＜講義＞医療福祉の概念説明をしながら、医療福祉の歴史を振り返り、現代社会にとってこの医療ケースワークの重要性を解説する。 ＜学習成果＞医療内容が高度化してくれば、それに平行して医療技術以外の医療サービスが必要になり、両者のバランスで患者と家族が安心して医療を受けられることを知る。
15 回	＜総復習＞ ・全 15 回の授業内容の要点を再度説明し、各章や単元ごとに質疑応答。 ・法制度、理念等授業中に指摘したポイント及びテストの出題傾向について説明。 ・提出物の漏れがないように再度チェックさせる。 ・幼児教育・看護・福祉・栄養等々の専門家としての基礎的教養を身につけると同時に、ここでの学びを我が子の育児や家庭の幸せに活かしてもらいたい。

令　和　2　年　度　教　育　計　画							
科目名	子ども家庭支援論	授業回数	15	単位数	1	担当教員	大賀恵子
質問受付の方法（e-mail,オフィスアワー等）：　e-mail:ohga @owc.ac.jp、 OH:土曜２限							

教育目標と学生の学習成果		教育目標　本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である 子ども家庭支援の意義と役割を理解し、保育士による子ども家庭支援の意義とその基本を学ぶ。子育て家庭に対する支援の体制、多様な支援の展開と関係機関との連携について理解する。 ①子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する。 ②保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。 ③子育て家庭に対する支援の体制について理解する。 ④子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。 学生の学習成果 専門的学習成果：教育目標に掲げる①、②、③の項目に関する基礎的知識を習得する。 汎用的学習成果：教育目標に掲げる④の項目に関する能力を身につける。
教育方法	授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） 教育目標を達成するために、以下のような要領で授業を行っていく。 ・講義形式で行う。理解を深めるために、必要に応じて演習も行う。 ・毎回課題プリントを実施し、こども家庭支援論に関する習熟度を高める。 ・自ら学ぶ姿勢を身につけるために、予習・復習を奨励する。
	予習・復習	予習：毎授業回前に「授業回数別教育内容」に記された予習を求める。 復習：毎授業回後に復習を求め、そのポイントを示す。
	テキスト	和田上貴昭・髙玉和子（編著）他 『子ども家庭支援論　（保育士を育てる）』一藝社、2020 年
学習評価の方法		専門的学習成果 評価配分は 80 点であり、期末試験で測る。また 80 点は、以下に示した 4 つの専門的学習成果について、おおよそ同等の比重をかける。 ①家庭の意義とその機能について理解する。 ②子育て家庭を取り巻く社会的状況等について理解する。 ③子育て家庭の支援体制について理解する。 ④子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について理解する。 評価は、課題・授業中に実施し提出する課題（20 点）、及び期末試験（80 点）により実施する。 汎用的学習成果 評価配分は 20 点であり、授業中に行う課題で測る。具体的には、自立した保育者としての責務を果たすために必要な論理的思考力や批判的思考力を習得するために、授業内容に応じた論述問題の課題を課す。受講態度に問題があった者は、保育者としての倫理観が十分でないとして、ケースに応じて減点する。
注意事項		参考図書・岩間伸之『対人援助職のための相談面接技術 逐語で学ぶ 21 の技法』中央法規出版、2008 年。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	＜オリエンテーション・子ども家庭支援の必要性、家庭の機能と役割＞ 1. 本時の目標 本科目の全体目標及び授業スケジュールを確認する。さらに、家庭・家族の概念とその歴史を説明し、都市化・核家族化・少子化などの影響による現在の家庭の実態を把握したうえで家庭の機能と役割を理解する。 2. 本時の活動 ・本科目の内容・進め方・成績評価の方法を確認する。子どもに現れる様々な問題を解決するためには子どものみでなく家庭そのものも援助することの必要性を理解する。 3. 本時の学習成果 ・本科目の概要について理解し、子ども家庭支援の課題は家族の子育てに対する社会的支援について学ぶことであるという認識を持つ。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：シラバスで学習内容を確認し、テキスト 1 章を熟読する。 ・復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問できるようにしておく。
2 回	＜子ども家庭支援の意義と社会状況＞ 1. 本時の目標 家族と子育てに関する近年の動向や実態を把握し、子ども家庭支援の意義を理解する。 2. 本時の活動 ・目標内容を解説し、理解度を論述課題で確認する。 3. 本時の学習成果 ・家庭とは何かを考えることにより、子育ての場として家庭をとらえ、取り巻く社会状況の中で家庭がどのように機能していくべきかを考えられるようになる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：家庭・家族の概念を調べ、テキスト 2 章を熟読する。 ・復習事項：家庭の実態を把握し、子ども家庭支援の意義と機能に関する課題を仕上げる。
3 回	＜保育者による子ども家庭支援の目的と必要性＞ 1. 本時の目標 子ども家庭支援の目的と必要性を理解し、事例についてグループで対応法を確認する。 2. 本時の活動 ・子ども家庭支援の目的と必要性を理解し、各グループの対応法から求められる支援のあり方を確認する。 3. 本時の学習成果 ・保育者による子ども家族支援の目的と必要性を理解する。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：保育士の専門性とは何かを調べておく。テキスト 3 章を熟読する。 ・復習事項：保育士の専門性と子ども家庭支援の目的と必要性に関する課題を仕上げる。
4 回	＜保育の専門性と子育て支援＞ 1. 本時の目標 保育の専門性について確認し、家庭支援の機能を活かした子どもの喜びにつながる対応について理解する。 2. 本時の活動 ・目標内容の理解度を論述課題で確認する。 3. 本時の学習成果 ・子どもの育ちを確認し、保育士の専門性を活かした子どもへの対応を理解する。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第 4 章を熟読する。子どもの喜びの共有とは何かを考えておく。 ・復習事項：子どもの育ちの喜びの共有に関する課題を仕上げる。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
5 回	＜家庭の状況に応じた支援＞ 1. 本時の目標 家庭の状況に応じた支援事例をもとに、保育士としての対応法を確認する。 2. 本時の活動 ・資料を解説し、理解度を論述課題で確認する。 3. 本時の学習成果 ・事例をもとにロールプレーをするなかで保護者とのかかわりをどのようにするのがよいかを考察できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第 5 章を熟読する。支援の展開過程について調べておく。 ・復習事項：事例に応じた支援法に関する課題を仕上げる。
6 回	＜保護者及び地域の実践力向上に資する支援＞ 1.　本時の目標 保護者が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援のあり方を説明する。 2. 本時の活動 ・目標内容を解説し、理解度を論述課題で確認する。 3. 本時の学習成果 ・保護者が有する子育てを自ら実践する力の向上に資する支援のあり方を理解する。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第 6 章を熟読する。子育て支援サービスについて調べておく。 ・復習事項：子育てを自ら実践する力の向上に資する支援に関して説明できるようにする。
7 回	＜保育者に求められる基本的態度＞ 1. 本時の目標 保育士に求められる支援の展開過程、アセスメントのための具体的なツールを紹介したうえで、支援の基本的態度を理解する。 2. 本時の活動 ・目標内容を解説し、理解度を論述課題で確認する。 3. 本時の学習成果 ・保育士に求められる基本的態度を理解し、説明できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第 7 章を熟読する。支援の展開過程について調べておく。 ・復習事項：具体的な展開過程に関する課題を仕上げる。
8 回	＜社会資源との連携・協力＞ 1. 本時の目標 地域の子育てマップや広報誌などをもとに、どの機関がどのような子育て支援を実施しているか概説する。 2. 本時の活動 ・目標内容を解説し、理解度を論述課題で確認する。 3. 本時の学習成果 ・社会資源における子育て支援の役割と課題について確認する。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第 8, 9 章を熟読する。最寄りの地域の子育て支援について調べておく。 ・復習事項：社会資源との連携・協力に関する課題を仕上げる。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
9 回	＜子育て家庭に対する支援体制＞ 1. 本時の目標 子育て家庭の福祉を図るための社会資源を確認し、保育士としてどのように対応するのが望ましいかを理解する。 2. 本時の活動 ・目標内容を解説し、理解度を論述課題で確認する。 3. 本時の学習成果 ・社会資源の活用、調整、開発のための保育士としての対応を理解し、事例分析を通して対象の理解を深める。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第 8, 9 章を熟読する。社会資源の活用に関する事例を調べておく。 ・復習事項：子育て家庭に対する支援体制に関する課題を仕上げる。
10 回	＜子育て支援施策・次世代育成支援施策＞ 1. 本時の目標 子育てに対するさまざまな問題に国がどのような施策で対応してきたか概要を説明する。 保育所における子育て支援の役割を確認し、支援方法や配慮点について理解する。 2. 本時の活動 ・目標内容を解説し、理解度を論述課題で確認する。 3. 本時の学習成果 ・子育て支援においては、親自身が主人公であるという視点も必要なことに気づく。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第 10 章を熟読する。子育て支援と保育者の役割について調べておく。 ・復習事項：国の対応、保育所の支援方法に関する課題を仕上げる。
11 回	＜さまざまな子育て家庭への支援内容＞ 1. 本時の目標 さまざまな子育て家庭支援の対象を確認し、それぞれの支援方法と内容を理解する。 2. 本時の活動 ・目標内容を解説し、理解度を論述課題で確認する。 3. 本時の学習成果 ・子育て家庭支援の対象が分かり、それぞれの支援方法と内容が理解できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第 11 章を熟読する。子育て家庭支援について調べておく。 ・復習事項：子育て家庭支援の対象、それぞれの支援方法と内容に関する課題を仕上げる。
12 回	＜保育所等を利用する子ども家庭支援＞ 1. 本時の目標 保育所等を利用する子ども家庭支援の事例を取り上げ、保育所等と相談支援機能との関連や支援の留意点について解説する。 2. 本時の活動 ・目標内容を解説し、理解度を論述課題で確認する。 3. 本時の学習成果 ・児童福祉法（子ども権利条約など）・保育所保育指針（子育て支援）の内容を確認し、保育所の役割と理解・支援の留意点が理解できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第 12 章を熟読する。児童福祉法・保育所保育指針を確認しておく。 ・復習事項：保育所等の支援方法と留意点、家庭支援への理解に関する課題を仕上げる。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
13 回	＜要保護児童等及びその家庭に対する支援＞ 1.　本時の目標 児童虐待、ひとり家庭、障害をもつ子ども家庭への支援課題と対応を確認し、支援のあり方について解説する。 2. 本時の活動 ・目標内容を解説し、理解度を論述課題で確認する。 3. 本時の学習成果 ・保育士は子ども家庭が抱える問題への対応と予防の現状を理解し、適する支援方法を理解する。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第 13 章を熟読する。児童虐待に関する内容について調べておく。 ・復習事項：要保護児童等及びその家庭に対する支援に関する課題を仕上げる。
14 回	＜地域の子育て家庭への支援＞ 1. 本時の目標 地域の子育て家庭への支援事例を取り上げ、保育所における子育て支援の役割について解説する。また、保育者や幼稚園が企画して提供する事ばかりが子育て支援ではないことを知る。 2. 本時の活動 ・目標内容を解説し、理解度を論述課題で確認する。 3. 本時の学習成果 ・地域の子ども・子育て支援事業の内容を確認し、保育士の役割や支援者のあるべき姿を理解する。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第 14 章を熟読する。地域子育て家庭支援に関する取り組みを調べる。 ・復習事項：地域の子育て家庭支援に関する課題を仕上げる。
15 回	＜子ども家庭支援に関する現状と今後の動向・総まとめ＞ 1. 本時の目標 子ども家庭支援について振り返り、子ども家庭支援における保育士の役割を確認する。 2. 本時の活動 ・本科目の教育目標に関して習得度合いを確認し、その内容に関するレポートを仕上げる。 3. 本時の学習成果 ・本科目の目標を達成している。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第 15 章を熟読する。 ・復習事項：第 1 回から第 14 回の授業内容を整理し、期末考査に備える。

令　和　2　年　度　教　育　計　画							
科目名	子育て支援	授業回数	15	単位数	1	担当教員	大賀　恵子
質問受付の方法（e-mail,オフィスアワー等）:ohga@owc.ac.jp　OH 土曜日 2 限							

教育目標と学生の学習成果		教育目標 保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、援助、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育相談支援）について、その特性と展開を具体的に理解する。 ①保育士の行う保育の専門性を理解する。 ②保護者に対する支援法とその特性を理解する。 ③保育士の行う子育て支援の内容を理解する。 ④子育て支援方法及び技術を、実践事例を通じて具体的に理解する。 学生の学習成果 専門的学習成果：教育目標に掲げる①、②、③の項目に関する基礎的知識を習得する。 汎用的学習成果：教育目標に掲げる④の項目に関する能力を身につける。
教育方法	授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） ・保育相談支援で必要な知識の習得は、講義形式で行う。内容によって演習を取り入れる。 ・実践的な対応技能の習得は、ロールプレイやグループワーク等の演習形式で行う。 ・必要に応じてカウンセリングの実施や演習レポートを課し、保育相談支援に関する習熟度を高める。
	予習・復習	・毎授業回前に、「授業回数別教育内容」に記された予習を求める。 ・毎授業回後に復習を求める。その際、提出課題とする場合がある。
	テキスト	瀧口綾・谷真弓 他 『子ども家庭支援の心理学（保育士を育てる）』一藝社、2020 年
学習評価の方法		専門的学習成果 評価配分は授業で行う課題（演習点・演習レポート点、など）30 点、及び期末試験 70 点で測る。以下に示した 4 点の専門的学習成果について「①：②：③：④」＝1：1：1：4 の比重をかける。 ①保育相談支援の意義と原則について理解する。 ②保護者支援の基本について理解する。 ③保育相談支援の実際を学び、内容や方法について理解する。 ④保育所等児童福祉施設における保護者支援の実際について理解する。 汎用的学習成果 授業で行う課題に対する提出状況、社会人・保育者としての倫理観として授業態度などが十分であることが求められる。不十分な場合は、ケースに応じて減点する。
注意事項		参考図書等 柏女霊峰・橋本真紀著：2011,「保育相談支援」　ミネルヴァ書房 吉田真理著：2011,「保育相談支援」　青鞜社

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	＜オリエンテーション・保育相談支援の意義＞ 1. 本時の目標 本科目の全体目標及び授業スケジュールを確認する。子育て支援に関して、子どもの発達過程を踏まえた内容の支援法を考える。保育相談支援の意義を理解する。 2. 本時の活動 ・本科目の内容・進め方・成績評価の方法を確認する。子育て支援の意義を理解する。 3. 本時の学習成果 ・本科目の概要について理解し、子育て支援について学ぶという認識を持つ。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：シラバスで学習内容を確認し、テキスト第 1～4 章を事前に読んでおく。 ・復習事項：講義内容を見直し、不明な箇所をまとめて質問できるようにしておく。
2 回	＜保育士の行う子育て支援の特性＞ 1. 本時の目標 社会状況や家庭における人間関係を把握し、保育の特性について理解する。その内容を踏まえて、保育士の専門性を生かした支援の意義と原則について確認する。 2. 本時の活動 ・保育の特性、保育士の専門性を生かした支援の意義と原則について理解できる。 3. 本時の学習成果 ・社会状況や家庭における人間関係を把握し、保育の特性、保育士の専門性を生かした支援の意義と原則が説明できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第 5～7 章を読んでおく。 ・復習事項：保育相談支援の意義と原則について理解する。
3 回	＜子どもの保育とともに行う保護者の支援＞ 1. 本時の目標 保護者の子育て意識（親になるということ）、家庭環境について理解し、子どもの最善の利益と福祉の重視について確認する。 2. 本時の活動 ・保護者の子育て意識、保護者の養育力向上を支援する方法を確認する。 3. 本時の学習成果 ・保護者の子育て意識について説明できる。 ・子どもの最善の利益と福祉について理解できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第 8～10 章を読んでおく。 ・復習事項：保護者の子育て意識、子どもの最善の利益と福祉について理解する。
4 回	＜日常的・継続的な関りを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成＞ 1. 本時の目標 日常的・継続的な関わりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成について事例を通して確認する。 2. 本時の活動 ・保護者との相互理解と信頼関係の形成についての支援法を確認する。 3. 本時の学習成果 ・保護者との相互理解と信頼関係の形成に関する支援法について説明できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：保護者の話を聞く方法について調べる。 ・復習事項：守秘義務と受容的なかかわりなどについて理解する。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
5 回	＜保護者や家庭の抱える支援のニーズへの気づきと多面的な理解＞ 1. 本時の目標 より効果的な保育相談をするために、保護者の生活・行動特性について確認する。 2. 本時の活動 事例をもとに、保護者の生活・行動特性について確認する。それらの情報から、より効果的な保育相談の仕方を考える。 3. 本時の学習成果 ・保護者や家庭の抱える支援のニーズへの気づきを多面的に理解できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第 10 章を再読、第 11 章内容を確認しておく。 ・復習事項：保護者の生活・行動特性を理解する。
6 回	＜子ども・保護者が多様な他者と関わる機会や場の提供＞ 1. 本時の目標 主訴・過去の経過・これまでの対応・アセスメント・関連機関との連携について確認し、面接の技術を用いて支援の仕方を発表する。 2. 本時の活動 事例に基づいた支援法をまとめ、発表する。 3. 本時の学習成果 ・事例内容に適した支援法を計画できる。 ・支援法について発表できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第 12, 13 章を読んでおく。 ・復習事項：受容的かかわり、自己決定、アセスメントについて理解する。
7 回	＜保育士の行う子育て支援の展開　　保育相談支援の事例と実際（1）＞ 1. 本時の目標 子ども及び保護者の状況・状態を把握し、保育相談支援の事例をもとにロールプレイによる発表を行う。 2. 本時の活動 ・事例について分析し、ロールプレイを行う。 3. 本時の学習成果 ・子育て支援の方法と留意点について説明できる。 ・事例についての対応法が理解できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第 14 章を読んでおく。 ・復習事項：保育相談支援の技術と留意点について理解する。
8 回	＜保育相談支援の事例と実際（2）＞ 1. 本時も目標 保育・保護者に関する指導、支援の計画と環境の構成いついて確認する。 2. 本時の活動 ・事例に対する支援計画と環境構成を検討する。 3. 本時の学習成果 ・保護者への指導や指導法について理解できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：テキスト第 15 章を読んでおく。保護者への指導や指導について調べる。 ・復習事項：保育・保護者に関する指導について理解する。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
9 回	＜保育相談支援の事例と実際（3）＞ 1. 本時の目標 保護者支援の内容（支援の実践・記録・評価・カンファレンス）について確認する。 2. 本時の活動 ・本時に配布された事例プリントについて 支援の実践・記録・評価・カンファレンスについて実際に記録用紙を作成する。 3. 本時の学習成果 ・支援の実践・記録・評価・カンファレンスについて実際に記録用紙を作成できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：保育や養護を通した支援について調べる。 ・復習事項：特別なニーズをもつ子どもと保護者への支援について理解する。
10 回	＜保育相談支援の事例と実際（4）＞ 1. 本時の目標 保護者支援の方法と技術、職員間の連携・協働に関する事例の対応を検討する。 2. 本時の活動 ・本時に配布された事例プリント内容について、より効果的な対応を考える。 3. 本時の学習成果 ・支援内容の確認ができる。言葉がけや態度に関する留意点が説明できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：ニーズ把握とは何かについて調べる。 ・復習事項：保護者支援の方法と技術について理解する。
11 回	＜保育相談支援の事例と実際（5）＞ 1. 本時の目標 社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携・協働の必要性を踏まえた支援計画を立てる。 2. 本時の活動 ・本時に配布された事例プリントの内容についての対応法を検討する。 3. 本時の学習成果 ・目標内容に関する知識を身につけ、効果的な支援法が説明できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：保護者支援の方法について確認しておく。 ・復習事項：保護者支援の計画、記録、カンファレンスについて理解する。
12 回	＜保育相談支援の事例と実際（6）＞ 1. 本時の目標 保育所における保育相談支援の実際（保育所等における支援）について適切な対応法を検討する。 2. 本時の活動 ・本時に配布された事例プリント内容についての対応法を検討する。 3. 本時の学習成果 ・目標内容に関する知識を身につけ、効果的な支援法が説明できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：支援の仕方について今までの内容を再確認しておく。 ・復習事項：連絡や通信による相談支援の事例について理解する。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
13回	＜保育相談支援の事例と実際（7）＞ 1. 本時の目標 保育所における特別な対応を要する家庭への支援について、より効果的な方法を検討する。 2. 本時の活動 ・本時に配布された事例プリント内容についての対応法を検討する。 3. 本時の学習成果 ・目標内容に関する知識を身につけ、効果的な支援法が説明できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：児童虐待について調べる。 ・復習事項：虐待の類型と保護者支援について理解する。
14回	＜保育相談支援の技術を磨くために＞ 1. 本時の目標 記録と評価・研修（多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解）、障害のある子ども及びその家庭に対する支援について確認する。 2. 本時の活動 ・本時に配布された事例プリント内容についての対応法を検討する。 3. 本時の学習成果 ・目標内容に関する知識を身につけ、効果的な支援法が説明できる。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：障害のある子ども支援について再確認する。 ・復習事項：ケース会議に提出する記録の書き方について理解する。
15回	＜児童福祉施設における保育相談支援・総まとめ＞ 1. 本時の目標 保育所以外の障害児・障害者施設、母子生活支援施設等における保育相談支援、要保護児童等の家庭に対する支援について計画をたてる。 2. 本時の活動 ・本時に配布された事例プリント内容についての対応法を検討する。 ・本科目の教育目標に関する内容に関するレポートを仕上げる。 3. 本時の学習成果 ・本科目の目標を達成している。 4. 予習及び復習事項 ・予習事項：特になし。 ・復習事項：第1回から第14回の授業内容を整理し、期末考査に備える。

令　和　２　年　　度　　教　　育　　計　　画							
科目名	子ども家庭福祉	授業回数	15	単位数	2	担当教員	松尾　冀
質問受付の方法：適宜、授業終了後は再度受け付ける							

教育目標と学生の学習成果		教育目標 １．現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷について理解する。 ２．子どもの人権擁護について理解する。 ３．子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。 ４．子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。 ５．子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。 学生の学習成果 専門的学習成果：教育目標に掲げる５項目の子ども家庭福祉の基礎的知識を修得し、幼児教育の専門家にふさわしい支援技術と子どもの人権尊重の態度を身につけ実践に当たる。 汎用的学習成果：「児童の権利に関する条約」の精神にのっとり、その理念と行動力を身につけると同時に、家庭にあっては親として子どもの最善の利益に配慮した養育に当たる。
教育方法	授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） ・基本的にはテキストを中心に授業を進めていく ・児童虐待等の社会問題にも関心を深めていくように、新聞記事等をテーマに適宜意見交換等の参加型授業を行う。 ・授業時間外に取り組むレポート（新聞の切抜きとコメント）を課す。
	予習・復習	・予習：次週の単元を示し、「授業回数別教育内容」に沿った予習を求め、課題意識を持って授業に臨ませる。 ・復習：主として、小テストにて重要な用語の理解を深める。
	テキスト	松本園子他編著「子どもと家庭の福祉を学ぶ」（改訂版）ななみ書房
学習評価の方法		以下の５つの学習内容についての理解度を期末テストで評価する他、提出物も評価する。 ・　現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷についての理解度。 ・　子どもの人権擁護についての理解度。 ・　子ども家庭福祉の制度や実施体系等についての理解度。 ・　子ども家庭福祉の現状と課題についての理解度。 ・　子ども家庭福祉の動向と展望についての理解度。 ◎親や子どものお手本となるべき、教育者として身につけるべきマナーを大切にする。 学習評価は①小テスト 16 点（授業態度、私語雑音・居眠り・遅刻などを加味する） ②課題 16 点（新聞の切抜きの提出期限及びレイアウトとコメント内容） ③期末テスト 68 点 ①＋②＋③＝合計 100 点
注意事項		参考図書等： 他の授業で使用の、福祉関係法令の解説書等は、本授業でも有用である。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	＜オリエンテーション＞ 自己紹介、本講義の目的と進め方、スケジュール、学習評価方法について説明する。 ＜子ども家庭福祉の意義と現代的課題を考える＞ ・講義内容：子ども家庭福祉の基本理念である子どもの最善の利益を尊重する歴史を説明し保育士の担う役割の大切さを伝え、授業への心構えを持たせる。 ・学習成果：「子どもの最善の利益」という視点を常に自覚した判断力を身に付ける。 ・時間内課題：シャトルカードに受講の心構えと自分が理想とする将来の保育士像を。
2 回	＜児童福祉（子ども家庭福祉）とは何か＞（第 1 章） ・講義内容：現代社会が抱える児童家庭問題として、少子化による将来への不安や子どもの貧困や子どもの虐待問題があり、児童の権利と親の権利及び親や家庭が幸せであって初めて子どもの幸せがあることを理解させる。子どもの定義について。 ・学習成果：子どもの福祉を親や家族の福祉と一体で考えることの大切さを認識する。 ・課外学習：子どもの福祉に関する新聞記事を切り抜き、コメントを加え提出する。
3 回	＜児童福祉の課題～現代社会と子どもの生活＞（第 2 章） ・講義内容：子どもの生活を、社会環境の変化や心身の発達・成長や家庭の育児負担といった様々な背景を分析し、現代日本における子ども家庭福祉の課題を考える。 ・学習成果：身近な生活の中から子どもの現実への関心を高め、問題意識を養う。 ・予習事項：各自の子ども時代の生活を振り返り、現代と比較してみる。
4 回	＜児童福祉の理念～子どもの権利と大人の責任＞（第 3 章） ・講義内容：子どもの権利に関する国際的な動向と、日本における子ども福祉の理念を学び、現代の我々がそれをどのように発展させたらいいかを考える。 ・学習成果：子ども福祉の基本は子どもへの愛情と権利の尊重に他ならないことに気付く。 ・復習事項：日本の子ども福祉の先人の業績を、分野ごとに整理して覚えておく。 ・予習事項：テキスト末尾資料「児童の権利に関する条約」に目を通しておく。
5 回	＜子ども家庭福祉の歴史＞（第 4 章） ・講義内容：日本における古代から現代までの子どもの福祉に関する様々な事業やエピソードや制度の歴史を知り、あわせて欧米の歩みと比較する。 ・学習成果：子どもを大切にした歴史を現代に引き継ぐことの大切さを自覚する。 ・復習事項：諸外国の子ども福祉について関心を持ち、日本のあり方を考える参考にする。
6 回	＜子ども家庭福祉関連施策の体系及び児童虐待防止法＞（第 5 章） ・講義内容：子どもの福祉に関する様々な法律や制度を紹介し、子どもを守る社会のネットワークについて、特に 11 月は児童虐待防止月間でもあり詳しく解説する。 ・学習成果：子ども福祉の関連施策の理解は、現場での複雑な問題への対応力を高める。 ・復習事項：どんな社会問題でも子どもと関係づけて考えることの大切さを再認識する。 ・予習事項：子どものニュースを思いだし、それらの背景と課題について考えてみる。
7 回	＜児童福祉法及び児童虐待防止法を理解する＞（第 6 章） ・講義内容：子ども家庭福祉の根幹は「児童福祉法」で規定されている。子どもの福祉に関わる専門職として法を正しく理解し運用する力を養う。 ・学習効果：保育現場で虐待を発見した場合、保育士として的確に対応する力が育つ。 ・復習事項：児童虐待の新聞記事を切り抜き、コメントを添えて期限までに提出する。
8 回	＜保育対策及び子育て支援対策の現状と課題＞（第 7 章） ・講義内容：現代の家庭養育及び少子化の現状を解説し、保育指針に示された保育所の役割と様々な子育て支援対策の現代的意義について考えさせる。 ・学習成果：少子化対策と保育機能を充実させることが深く関わることの理解を深める。 ・復習事項：少子化の原因について、自分の人生設計と関係づけて考察してみる。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
9 回	＜社会的養護の現状と課題＞（第 8 章） ・講義内容：社会的養護の仕組みを理解し、施設養護と家庭養護の功罪を分析し、子どもの生きる権利の保障と愛着形成のあり方について多面的に解説する。 ・学習成果：社会的養護を広い視野と様々な視点で理解することの大切さを学ぶ。 ・復習事項：子どもの成長にとって母親の存在と、どのような幼児体験が大切かを考える。
10 回	＜非行問題と非行少年の自立支援＞（第 9 章） ・講義内容：少年非行の歴史的動向と法制度及び非行の要因と背景を分析し、非行少年への教育的自立支援の大切さを伝える。 ・学習成果：物事には原因と結果があることを理解し、幼児教育の大切さを伝える。 ・復習事項：結婚離婚の子どもへの影響を考え、自分の結婚生活プランを立てる。 ・予習事項：児童福祉法と少年法の違いについて調べてみる。
11 回	＜障害児福祉に関する法体制＞（第 10 章） ・講義内容：障害の種類と定義と実態について学び、障害のある子どもの保育・教育のあり方や機関連携の大切さについて専門職として具体的に考えさせる。 ・学習成果：現場で困難に直面したとき、一人で悩まず連携し解決に当たる智恵を養う。 ・復習事項：保育士が子どもの問題で連携する機関にはどんなものがあるか整理してみる。
12 回	＜子どもの権利としての遊びの保障＞（第 11 章） ・講義内容：子どもにとっての「遊び」の意味を考え、「遊び」の歴史と「遊び」を保障する国内外の取組を学ぶ。 ・学習成果：遊びの大切さを理解することで保育現場での創意工夫が期待される。 ・予習事項：自分自身の幼児期の遊びと現代の子どもの遊びを比較してみる。
13 回	＜子ども家庭福祉の専門職と保育士制度の歴史と意義＞（第 12 章） ・講義内容：子ども家庭福祉に関わる行政機関の専門職と、児童福祉施設等の専門職について学ぶ。さらに保育士の職責について具体例を交えて解説する。 ・学習成果：保育士の活躍する施設が少なくないことを知り就労意欲の拡大が期待できる。 ・復習事項：子育てに悩む保護者の相談に寄り添う保育士としての留意点を整理してみる。
14 回	＜世界の子どもたちの福祉を考える＞（第 13 章） ・講義内容：子どもたちには様々な権利があると学んできたが、世界の子どもたちの中には「教育を受ける権利」どころか「生きる権利・守られる権利」すら保障されていない子どもも少なくないことを学ぶ。 ・学習成果：子どもの人権に敏感な保育士に成長することが期待される。 ・復習事項：国の内外で発生する「子どもの人権侵害」に関心を持ち続けてもらいたい。
15	＜まとめ＞ ・講義内容：期末考査に向けて、今までにノートした内容を追いながら、重要事項を再度確認させる。 ・学習成果：児童福祉の理念における児童の最善の利益とは、児童の発達保障こそが「子どもとして成長する権利に他ならない」と理解する。 ・予習事項：ノートの読み直し。 ・復習事項：保育者・幼児教育者としての資質向上を目指して、立派な保育者になると同時に、良い家庭を築き、いい親になるよう努力を続けること。この授業で学んだテキストやノートは、今後のお仕事で役立ててもらいたい。しかし、法制度等は刻々と変化するので、社会の動向に関心を持ち続けることが必要です。

<table>
<tr><td colspan="8">令　和　２　年　度　教　育　計　画</td></tr>
<tr><td>科目名</td><td>保育者論</td><td>授業回数</td><td>15</td><td>単位数</td><td>2</td><td>担当教員</td><td>都田　修兵</td></tr>
<tr><td colspan="8">質問受付の方法　（e-mail、オフィスアワー）：stsuda@owc.ac.jp、金曜日５限目</td></tr>
<tr><td>教育目標と学生の学習成果</td><td colspan="7">＜教育目標＞
「保育者論」（以下、本科目）は、指定保育士養成施設における「保育の本質・目的に関する科目」の一つに位置づく保育士資格取得のための必修科目である。
現代日本における保育を囲む状況は目まぐるしく変化している。とくに「待機児童」はメディアでも頻繁に取り上げられているとおりであり、国としては「子育て安心プラン」等で示しているように、保育の受け皿の拡大等による問題の解消を目指しているところである。保育の受け皿の拡大は、子育て支援の充実を実現する施策と考えられる一方で、人的環境としての「保育者」の養成とその質保障が求められていることをも意味している。
本科目の目標は、人的環境としての「保育者」についての基礎的事項を理解することを目標とし、具体的には以下の目標を達成することである。
（１）保育者の役割と倫理について理解する。
（２）保育士の制度的な位置づけを理解する。
（３）保育士の専門性について考察し、理解する。
（４）保育者の連携・協働について理解する。
（５）保育者の資質向上とキャリア形成について理解する。

＜専門的学習成果＞
本科目における「専門的学習成果」は、教育目標に示す（１）から（５）までを理解し、「保育者」についての基礎的事項を修得することである。

＜汎用的学習成果＞
本科目における「汎用的学習成果」は、「態度・信念」の獲得であり、保育者になる者であることを自覚し、自らを高めることに努め、ふさわしい言動を身につけることである。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">教育方法</td><td>授業の進め方</td><td colspan="6">（講義・演習・実験・実習・実技）
・本科目は、主として「講義形式」による１５回の授業である。
・１５回の授業のなかで、講義のほかに授業内で「小テスト」及び「レポート」を課し、受講者の理解を促すように努める。</td></tr>
<tr><td>予習・復習</td><td colspan="6">＜予習事項＞
毎授業回前に、「授業回数別教育内容」に記された予習を求める。

＜復習事項＞
毎授業回後に復習を求める。その際、レポートとする場合がある。

※復習でわからないことがあった学生には、OH などを利用しながら、学習成果を高める援助を行う。</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="6">・児童育成協会監修・矢藤誠慈郎ほか編集『保育者論』（新基本保育シリーズ７）、中央法規、2019。
※このテキストは、１年生後期の「教師論」でも使用する。
※その他「参考文献」については授業中に適宜示す。</td></tr>
</table>

学習評価の方法	＜学習評価の観点＞ 学習評価の観点は下記の通りである。 ●「専門的学習成果」については「教育目標」でも示した以下の（１）から（５）の観点に基づき行う。 （１）保育者の役割と倫理について理解する。 （２）保育士の制度的な位置づけを理解する。 （３）保育士の専門性について考察し、理解する。 （４）保育者の連携・協働について理解する。 （５）保育者の資質向上とキャリア形成について理解する。 ●「汎用的学習成果」については「教育目標」でも示した「態度・信念」の獲得の状況に基づき行う。 ＜学習評価の方法＞ 学習評価は以下の方法により実施することとする。 （１）定期試験（60 点） 「専門的学習成果」の学習評価の方法は、学習評価の観点（１）から（５）までにかかる内容についての定期試験（60 点分）を実施する。なお、出題は「選択問題」「簡単な記述問題」「論述問題」等から構成することとする。 （２）小テスト（10 点×2 回＝20 点） 数回分の授業内容についての小テストを実施し、評価する。なお、実施回は「授業回数別教育内容」を参照すること。小テスト実施日に欠席等により小テストを受験することができなかった者は、後日追試験を実施する。 （３）汎用的学習成果（10 点×2 回＝20 点） 「汎用的学習成果」の学習評価の方法は、授業課題である「レポート」の得点をもって「態度・信念」の獲得とする。 （４）その他 ただし、学習評価の方法（１）（２）（３）以外に受講態度に問題があった者は、保育者としての倫理観が十分でないとして、 以下のケースに応じて減点することとする。 ・「過度の居眠り」及び「不必要な私語」（１点） ・「無許可による携帯電話の使用（SNS 等）」（２点）
注意事項	●定期試験 ・「学則施行細則」第７条により、本科目について３分の２以上出席をしなければ試験を受けることはできない（受験資格なし）。 ・「学則施行細則」第７条により、学習評価は 100 点法をもって採点し、80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可、60 点未満を不可とする。 ●再試験 ・「学則施行細則」第７条により、定期試験が不可の者に対して再試験の機会を与え、願により再試験を受けることができる。ただし、講義及び演習の授業科目の再試験は 100 点法による筆記試験とし、その他の評価点（本科目については、学習評価の方法における（２）（３））は含めず、再試験による 60 点以上の得点者はすべて 60 点の学習評価とする。 ●追試験 ・「学則施行細則」第７条により、定期試験の際、病気その他止むを得ない事情により受験不能であった者に対しては、その理由が正当であると認められた場合に限り、願により追試験を受けることができるが、追試験による 80 点以上の得点者はすべて 80 点の学習評価とする。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	＜オリエンテーション、保育者の役割・職務内容＞ ○本時の目標 　本科目の全体目標と授業スケジュール、成績評価等について理解するとともに、保育者の役割や職務内容について「保育所保育指針」をもとに理解する。 ○本時の活動 　・オリエンテーション 　・テキスト第１講（pp. 2-12）で解説する。 ○予習及び復習事項 　予習事項：テキストの該当箇所を読む。 　復習事項：再度テキストの該当箇所及びノートを見ながら、本時の内容をおさえる。
2 回	＜保育者の倫理＞ ○本時の目標 　専門的倫理の概念と必要性、法律の違いについて概観し、保育者にとって必要な専門的倫理について学ぶ。 ○本時の活動 　・テキスト第２講（pp. 14-24）で解説する。 ○レポート課題（１回目） 　「保育者として自分に必要な専門的倫理」についてのレポートを課す。 　このレポート課題の提出をもって、汎用的学習成果として「10 点」分の評価を実施する。 ○予習及び復習事項 　予習事項：テキストの該当箇所を読む。 　復習事項：再度テキストの該当箇所及びノートを見ながら、本時の内容をおさえる。
3 回	＜保育者の資格と責務＞ ○本時の目標 　保育士の法的・制度的な特質を学び、その資格のあり方や責務について理解する。 ○本時の活動 　・テキスト第３講（pp. 26-38）で解説する。 ○予習及び復習事項 　予習事項：テキストの該当箇所を読む。 　復習事項：再度テキストの該当箇所及びノートを見ながら、本時の内容をおさえる。
4 回	＜保育者の資質・能力＞ ○本時の目標 　保育者自身、保育の対象やチームワーク・協働性に求められる資質や能力について学ぶ。 ○本時の活動 　テキスト第４講（pp. 40-50） ○予習及び復習事項 　予習事項：テキストの該当箇所を読む。 　復習事項：再度テキストの該当箇所及びノートを見ながら、本時の内容をおさえる。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
5 回	＜養護および教育の一体的展開＞ ○本時の目標 「保育所保育指針」に基づきながら、保育所保育の「養護」と「教育」の一体化の内容と実践について、具体的活動としての「栽培」を通して学ぶ。 ○本時の活動 ・テキスト第５講（pp. 52-62）で解説する。 ・栽培活動 ○予習及び復習事項 予習事項：テキストの該当箇所を読む。 復習事項：再度テキストの該当箇所及びノートを見ながら、本時の内容をおさえる。 第６回の授業で実施する「小テスト」（第１回）について準備する。
6 回	＜家庭との連携と保護者に対する支援＞ ○本時の目標 家庭との連携と保護者に対する子育て支援との関係、保護者がおかれている社会的な現状を理解するとともに、保育所等における子育て支援の基本、園の特性を活かした支援、地域や関係機関との連携について学ぶ。 ○本時の活動 ・小テスト（第１回）：第１回から第５回までの内容のテストを実施する。 ・テキスト第６講（pp. 64-74） ○予習及び復習事項 予習事項：テキストの該当箇所を読む。 復習事項：再度テキストの該当箇所及びノートを見ながら、本時の内容をおさえる。
7 回	＜計画に基づく保育の実践と省察・評価＞ ○本時の目標 計画に基づく保育の実践や省察、評価について PDCA サイクルの必要性や具体的な PDCA サイクルの実践のあり方について、「栽培」という具体的活動を通して学ぶ。 ○本時の活動 ・テキスト第７講（pp. 76-86） ○予習及び復習事項 予習事項：テキストの該当箇所を読む。 復習事項：再度テキストの該当箇所及びノートを見ながら、本時の内容をおさえる。
8 回	＜保育の質の向上＞ ○本時の目標 保育の質の向上のための評価のあり方について、個と仲間の相互関係や個を見る視点、全体を把握する視点について具体的に学ぶ。 ○本時の活動 ・テキスト第８講（pp. 88-98） ○予習及び復習事項 予習事項：テキストの該当箇所を読む。 復習事項：再度テキストの該当箇所及びノートを見ながら、本時の内容をおさえる。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
9 回	＜保育における職員間の連携・協働＞ ○本時の目標 　職員間の協働性や協力体制、職員間の連携の重要性について、実際の保育現場における協働やドキュメンテーションの取り組みと職員の協働について学ぶ。 ○本時の活動 　・テキスト第９講（pp. 100-112）で解説する。 ○予習及び復習事項 　予習事項：テキストの該当箇所を読む。 　復習事項：再度テキストの該当箇所及びノートを見ながら、本時の内容をおさえる。
10 回	＜専門職間および専門機関との連携・協働＞ ○本時の目標 　保育現場における専門機関との連携や協働がどのように行われているかについて、とくには、子どもの健康と安全の保障と健やかな育ちを支えることの重要性から学ぶ。 ○本時の活動 　・テキスト第１０講（pp. 114-124）で解説する。 ○予習及び復習事項 　予習事項：テキストの該当箇所を読む。 　復習事項：再度テキストの該当箇所及びノートを見ながら、本時の内容をおさえる。 　　第１１回の授業で実施する「小テスト」（第２回）について準備する。
11 回	＜地域社会との連携・協働＞ ○本時の目標 　保育現場における地域社会との連携や協働がどのように行われているのかを具体的に学ぶ。 ○本時の活動 　・小テスト（第２回）：第６回から第１０回までの内容のテストを実施する。 　・テキスト第１１講（pp. 126-136）で解説する。 ○予習及び復習事項 　予習事項：テキストの該当箇所を読む。 　復習事項：再度テキストの該当箇所及びノートを見ながら、本時の内容をおさえる。
12 回	＜関係機関等との連携＞ ○本時の目標 　様々な子育て家庭のニーズに対応できる保育制度の選択肢として期待されている地域型保育事業の概要や連携について学ぶ。 ○本時の活動 　・テキスト第１２講（pp. 138-148）で解説する。 ○予習及び復習事項 　予習事項：テキストの該当箇所を読む。 　復習事項：再度テキストの該当箇所及びノートを見ながら、本時の内容をおさえる。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
13回	＜資質向上に関する組織的取組＞ ○本時の目標 「保育所保育指針」における職員の資質向上に基づきながら、「資質向上に関する組織的取組」の考え方について学ぶ。 ○本時の活動 ・テキスト第１３講（pp. 150-160）で解説する。 ○予習及び復習事項 予習事項：テキストの該当箇所を読む。 復習事項：再度テキストの該当箇所及びノートを見ながら、本時の内容をおさえる。
14回	＜保育者の専門性の向上とキャリア形成の意義＞ ○本時の目標 保育者の専門性の向上について考え、代表的な保育者の発達段階モデルと発達をうながす要因について学ぶ。 ○本時の活動 ・テキスト第１４講（pp. 162-172）で解説する。 ○レポート課題（２回目） 「どんな保育者を目指したいか」についてのレポートを課す。 このレポート課題の提出をもって、汎用的学習成果として「10 点」分の評価を実施する。 ○予習及び復習事項 予習事項：テキストの該当箇所を読む。 復習事項：再度テキストの該当箇所及びノートを見ながら、本時の内容をおさえる。
15回	＜保育におけるリーダーシップ、総括＞ ○本時の目標 園長をはじめとする園のさまざまなリーダーの、個々の保育者の力を十分に出し合えるようなリーダーシップについて考えるとともに、本科目の総括を行う。 ○本時の活動 ・テキスト第１５講（pp. 174-184）で解説する。 ・総括（定期試験について等） ○予習及び復習事項 予習事項：テキストの該当箇所を読む。 復習事項：再度テキストの該当箇所及びノートを見ながら、本時の内容をおさえる。

令　和　２　年　度　教　育　計　画							
科目名	保育原理Ⅰ	授業回数	15	単位数	2	担当教員	都田　修兵
質問受付の方法（e-mail, オフィスアワー等）：stsuda@owc.ac.jp、OH：金曜日５限目							

教育目標と学生の学習成果

教育目標

本科目では、「保育者論」での学びを基礎として、実践的指導力のある保育者を育成するため、「保育」の意義や保育の思想と制度、『保育所保育指針』をはじめとした保育内容、保育方法、保育課程（主として指導計画）、保育に関する現状や課題についての基礎的知識の定着及び能力の形成を形成する。

学生の学習成果

専門的学習成果：教育目標に掲げる保育の基礎的知識を修得するとともに、保育に関連するタームを理解して使用できるようにする。

汎用的学習成果：保育者にふさわしくない言動を知り、そうしないように努力する力を涵養する。

教育方法

授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） ・主として講義形式による。 ・受講者の理解を促進させるため、講義中に小テストを課す。
予習・復習	予習事項： 毎授業回前に、「授業回数別教育内容」に記された予習を求める。 復習事項： 毎授業回後に復習を求める。その際、レポートとする場合がある。 ※復習でわからないことがあった学生には、OH などを利用しながら、学習成果を高める援助を行う。
テキスト	児童育成協会監修・天野珠路ほか編集『保育原理』（新基本保育シリーズ１）、中央法規、2019。

学習評価の方法

＜学習評価の観点＞

●「専門的学習成果」については「教育目標」でも示した以下の（１）から（７）の観点に基づき行う。学習評価の観点は下記の通りである。

（１）保育の意義を理解する。
（２）保育の思想と制度の歴史を理解する。
（３）保育所保育指針の内容を理解する。
（４）保育の方法、とくに環境の諸要素を理解する。
（５）保育課程の根拠を知り、適切な指導計画を作成する基礎的な力を身につける。
（６）保育に関する現状と課題について理解する。
（７）保育に関連するタームを理解して使用する。

●「汎用的学習成果」については「教育目標」でも示した「態度・信念」の獲得の状況に基づき行う。

＜学習評価の方法＞

学習評価は以下の方法により実施することとする。

（１）定期試験（70 点）

「専門的学習成果」の学習評価の方法は、学習評価の観点（１）から（７）までにかかる内

学習評価の方法	容についての定期試験（70 点分）を実施する。なお、出題は「選択問題」「簡単な記述問題」「論述問題」等から構成することとする。 （２）小テスト（10 点×2 回＝20 点） 数回分の授業内容についての小テストを実施し、評価する。なお、実施回は「授業回数別教育内容」を参照すること。小テスト実施日に欠席等により小テストを受験することができなかった者は、後日追試験を実施する。 （３）読書レポート（5 点×2 回＝10 点） 「汎用的学習成果」の学習評価の方法は、授業課題である「読書レポート」の得点をもって「態度・信念」の獲得とする。なお、「読書レポート」については、＜参考図書等＞に書いてある文献等を読んで行うものとする。 （４）その他 ただし、学習評価の方法（１）（２）（３）以外に受講態度に問題があった者は、保育者としての倫理観が十分でないとして、 以下のケースに応じて減点することとする。 ・「過度の居眠り」及び「不必要な私語」（１点） ・「無許可による携帯電話の使用（SNS 等)」（２点）
注意事項	●定期試験 ・「学則施行細則」第７条により、本科目について３分の２以上出席をしなければ試験を受けることはできない（受験資格なし)。 ・「学則施行細則」第７条により、学習評価は 100 点法をもって採点し、80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可、60 点未満を不可とする。 ●再試験 ・「学則施行細則」第７条により、定期試験が不可の者に対して再試験の機会を与え、願により再試験を受けることができる。ただし、講義及び演習の授業科目の再試験は 100 点法による筆記試験とし、その他の評価点（本科目は、学習評価の方法における（２）（３）（４)）は含めず、再試験による 60 点以上の得点者はすべて 60 点の学習評価とする。 ●追試験 ・「学則施行細則」第７条により、定期試験の際、病気その他止むを得ない事情により受験不能であった者に対しては、その理由が正当であると認められた場合に限り、願により追試験を受けることができるが、追試験による 80 点以上の得点者はすべて 80 点の学習評価とする。 ＜参考図書等＞ ・秋山千佳『ルポ　保健室――子どもの貧困・虐待・性のリアル』朝日新書、2016。 ・林純次『残念な教員――学校教員の失敗学』光文社新書、2015。 ・藤田英典『教育改革――共生時代の学校づくり』岩波新書、1997。 ・藤田英典『新時代の教育をどう構想するか――教育改革国民会議の残した課題』岩波ブックレット、2001。 ・藤田英典『義務教育を問いなおす』ちくま新書、2005。 ・堀尾輝久『教育入門』岩波新書、1989。 ・苅谷剛彦『教育改革の幻想』ちくま新書、2002。 ・苅谷剛彦ほか著『「学力低下」の実態』岩波ブックレット、2002。 ・苅谷剛彦『学校って何だろう？――教育の社会学入門』ちくま文庫、2005。 ・尾木直樹『学校は再生できるか』NHK ブックス、1998。 ・尾木直樹『「学級崩壊」をどうみるか』NHK ブックス、1999。 ※その他、授業内で「読書案内」を配布するので参照されたい。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	＜オリエンテーション、保育の理念と概念＞ 〇本時の目標 本科目の全体目標及び授業スケジュール、成績評価等について理解するとともに、そもそも「保育」とは何か、その意義や役割についての学びを通して、保育の基盤を成す理念や概念について理解する。 〇本時の活動 ・オリエンテーション 講義内容 授業の進め方、スケジュール、学習評価の方法 ・テキスト第１講（pp. 1-12）で解説する。 〇本時の学習成果 「保育」そのものについて、そしてその意義や役割についてを学ぶことを通して、保育の基盤を成す理念や概念を理解している。 〇予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、保育の基盤を成す理念や概念を整理する。
2 回	＜保育の社会的役割と責任＞ 〇本時の目標 保育所等に求められる社会的責任について、法律や制度に着目しつつ学び、保育が果たす社会的な意義や役割について理解する。 〇本時の活動 ・テキスト第２講（pp. 13-26）で解説する。 〇本時の学習成果 保育が果たす社会的な意義や役割について理解している。 〇予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、保育が果たす社会的な意義や役割について整理する。
3 回	＜子ども・子育て支援新制度と保育にかかわる関係法令＞ 〇本時の目標 子ども・子育て支援新制度を中心として、多様な保育・子育て支援と関係法令について理解する。また、施設型保育、小規模保育、家庭的保育などの地域型保育、地域子ども・子育て支援事業について理解する。 〇本時の活動 ・テキスト第３講（pp. 27-38）で解説する。 〇本時の学習成果 保育や子育て支援に関する法律や制度を学び、保育の制度的位置づけについて理解している。 〇予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：保育に関係する言葉が漢字で書けるように練習する。 テキストやノートを見ながら、保育の制度的位置づけについて理解する。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
4回	＜保育の実施体系＞ ○本時の目標 　子ども・子育て支援新制度移行後の保育施設の設置や運営基準について学び、保育施設を利用する際の申請や利用の手続きなどについて理解する。 ○本時の活動 　・テキスト第４講（pp. 39-50）で解説する。 ○本時の学習成果 　『保育所保育指針』について、その内容や制度的位置づけについて理解している。 ○予習及び復習事項 　・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 　・復習事項：テキストやノートを見ながら、子ども・子育て支援新制度移行後の保育施設の設置や運営基準について学び、保育施設を利用する際の申請や利用の手続きなどついて整理する。
5回	＜保育所保育指針に基づく保育＞ ○本時の目標 　わが国の保育の指針である「保育所保育指針」について、とくに保育指針の内容やその趣旨について具体的に学び、その内容や制度的位置づけについて理解する。 ○本時の活動 　・テキスト第５講（pp. 51-66）で解説する。 ○本時の学習成果 　「保育所保育指針」の内容や制度的位置づけについて理解している。 ○予習及び復習事項 　・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 　・復習事項：テキストやノート、『保育所保育指針』を見ながら、「保育所保育指針」の内容や制度的位置づけについて整理する。
6回	＜保育の目標と方法＞ ○本時の目標 　「保育所保育指針」を手がかりに、保育の目標と方法について理解を深めるとともに、乳幼児期の保育とその後の成長との接続、小学校以降との「学び」と乳幼児期の「遊び」の関連について理解する。 ○本時の活動 　・テキスト第６講（pp. 67-78）で解説する。 ○本時の学習成果 　保育の目標と方法について理解している。 ○予習及び復習事項 　・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 　・復習事項：テキストやノートなどを見ながら、保育の目標と方法について理解を深めるとともに、乳幼児期の保育とその後の成長との接続、小学校以降との「学び」と乳幼児期の「遊び」の関連について整理する。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
7回	＜乳児の保育＞ ○本時の目標 乳児の発達過程や保育の基本をふまえ、改定された「保育所保育指針」にある乳児保育の内容を理解するとともに、子育て支援の重要性について理解する。 ○本時の活動 ・小テスト（第１回）：第１回から第６回までの内容に関するテストを実施する。 ・テキスト第７講（pp. 79-90）で解説する。 ○本時の学習成果 「保育所保育指針」にある乳児保育の内容を理解しているとともに、子育て支援の重要性について理解している。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、乳幼児期の内容と子育て支援の重要性について整理する。
8回	＜１歳児以上３歳未満児の保育＞ ○本時の目標 １、２歳児の発達過程や保育の基本をふまえ、１歳児以上３歳未満児の保育の内容を理解するとともに、具体的な援助やかかわりについて理解する。 ○本時の活動 ・テキスト第８講（pp. 91-102）で解説する。 ・「読書レポート」提出 ○本時の学習成果 １歳児以上３歳未満児の保育の内容を理解しているとともに、具体的な援助やかかわりについて理解している。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、１歳児以上３歳未満児の保育の内容と具体的な援助やかかわりについて整理する。
9回	＜３歳以上児の保育＞ ○本時の目標 人権意識や社会性の基礎を培い、世界への関心や多方面への知性の扉を開くための３歳以上児の保育について理解する。 ○本時の活動 ・テキスト第９講（pp. 103-114）で解説する。 ○本時の学習成果 ３歳以上児の保育について理解している。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、３歳以上児の保育について整理する。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
10 回	＜子ども理解に基づく保育の過程①　理論編＞ ○本時の目標 保育者、子どもへの理解を深め、環境を構成し、援助の工夫を施し、保育の計画を立て、実践する。また実践を省察して、環境を再構成し再び保育を行う。ここでは、この保育の過程について理解する。 ○本時の活動 ・テキスト第１０講（pp. 115-126）で解説する。 ・課題：保育指導案の作成を行う。 ○本時の学習成果 保育の過程について理解している。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、保育の過程について整理する。
11 回	＜子ども理解に基づく保育の過程②　実践編＞ ○本時の目標 子ども理解に基づく保育の過程に加えて、学びの連続を考えた小学校との接続について理解する。 ○本時の活動 ・小テスト（第２回）：第８回から第１０回までの内容に関するテストを実施する。 ・テキスト第１１講（pp. 127-138）で解説する。 ○本時の学習成果 学びの連続を考えた小学校との接続について理解している。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、本時の授業内容を整理する。
12 回	＜諸外国の保育の思想と歴史＞ ○本時の目標 諸外国の保育の思想と歴史（ルソー、ペスタロッチー、フレーベルなど）を学び、現代の保育の基本理念に関する理解を深める。 ○本時の活動 ・テキスト第１２講（pp. 139-150）で解説する。 ○本時の学習成果 諸外国の保育の思想と歴史（ルソー、ペスタロッチー、フレーベルなど）を学び、現代の保育の基本理念に関する理解を深めている。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 テキストに出てくる人物について調べてくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、本時の授業内容を整理する。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
13回	＜日本の保育の思想と歴史＞ ○本時の目標 日本の教育あるいは保育の思想と歴史、子育ての思想、施設保育の始まりについて学び、現代の日本の保育に関して理解を深める。 ○本時の活動 ・テキスト第１３講（pp. 151-162）で解説する。 ○本時の学習成果 日本の教育あるいは保育の思想と歴史、子育ての思想、施設保育の始まりについて学び、現代の日本の保育に関して理解を深めている。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、日本の教育あるいは保育の思想と歴史、子育ての思想、施設保育の始まりについて整理し、現代の日本の保育と関連づけて考えてみる。
14回	＜諸外国の保育の現状と課題＞ ○本時の目標 諸外国の保育の現状と課題に目を向けながら、「保育」の原理原則について共通に大切にされていることなどを考え、よりよい「保育」の実現に向けて考える。 ○本時の活動 ・テキスト第１４講（pp. 163-174）で解説する。 ・「読書レポート」提出 ○本時の学習成果 「保育」の原理原則について共通に大切にされていることなどを考え、よりよい「保育」の実現に向けて考えている。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、よりよい「保育」の実現について考えてみる。
15回	＜日本の保育の現状と課題、総括＞ ○本時の目標 日本の保育における今日的課題を整理し、よりよい保育制度の改革は、いかにすれば可能となるのかについて考えてみる。 ○本時の活動 ・テキスト第１５講（pp. 175-186）で解説する。 ・期末試験に向けた授業内容の振り返りを行う。 ○本時の学習成果 日本の保育における今日的課題を整理し、よりよい保育制度の改革は、いかにすれば可能となるのかについて考えている。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、本時の内容を整理するとともに、これまでの授業内容の整理を行いながら、期末試験に備える。

令　和　２　年　度　教　育　計　画							
科目名	保育原理Ⅱ	授業回数	15	単位数	2	担当教員	都田　修兵
質問受付の方法（e-mail, オフィスアワー等）：stsuda@owc.ac.jp、OH：金曜日５限目							

教育目標と学生の学習成果

教育目標

保育原理Ⅰの講義内容を土台として、主に保育所保育における実践力をつけるため、以下の目標を掲げる。

1　保育課程に関する歴史及び現代の課題を知る。
2　子どもの理解に基づく指導計画の意義を理解し、作成のポイントを知る。
3　年齢や環境に応じた短期指導計画の作成・評価・改善を行う力を身に付ける。

学生の学習成果

専門的学習成果：教育目標に掲げる３項目の知識や遂行する能力の獲得を目指す。
汎用的学習成果：保育者にふさわしくない言動を知り、そうしないように努力する力を涵養する。

教育方法

授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） ・知識の伝授は講義形式による。 ・受講者の指導案作成能力を高めるため、授業時間内外で指導案を作成させる。
予習・復習	予習事項： 授業外に取り組む課題として、指導案の作成を求める。 復習事項： 毎授業回後に復習を求める。その際、レポートとする場合がある。 ※復習でわからないことがあった学生には、OH などを利用しながら、学習成果を高める援助を行う。
テキスト	使用しない。

学習評価の方法

＜学習評価の観点＞

●「専門的学習成果」については「教育目標」でも示した以下の（１）から（４）の観点に基づき行う。学習評価の観点は下記の通りである。

（１）保育課程に関する歴史及び現代の課題を知る。
（２）子どもの理解に基づく指導計画の意義を理解し、作成のポイントを知る。
（３）年齢や環境に応じた短期指導計画の作成・評価・改善を行う。
（４）保育現場における「幼児ダンス」「手遊び」「唱歌」「絵本」などの内容について研究し、実際に活動する。

●「汎用的学習成果」については「教育目標」でも示した「態度・信念」の獲得の状況に基づき行う。

＜学習評価の方法＞

学習評価は以下の方法により実施することとする。

（１）定期試験（50 点）

「専門的学習成果」の学習評価の方法は、学習評価の観点（１）から（４）までにかかる

学習評価の方法	内容についての定期試験（70 点分）を実施する。なお、出題は「選択問題」「簡単な記述問題」「論述問題」等から構成することとする。 （２）指導案作成（2 点×10 回＝20 点） 授業内及び授業外において、指導案の作成を行う。 （３）実際の保育現場における「幼児ダンス」「手遊び」「唱歌」「絵本」などの研究（30 点） ○「幼児ダンス」（10 点） ・「だるまさんがおどった」　・「エビカニクス」　・「パプリカ」 ・「サンサン体操」　など ○「手遊び」「唱歌」（10 点） ○「絵本」（10 点） （４）その他 ただし、学習評価の方法（１）（２）（３）以外に受講態度に問題があった者は、保育者としての倫理観が十分でないとして、 以下のケースに応じて減点することとする。 ・「過度の居眠り」及び「不必要な私語」（１点） ・「無許可による携帯電話の使用（SNS 等）」（２点）
注意事項	●定期試験 ・「学則施行細則」第７条により、本科目について３分の２以上出席をしなければ試験を受けることはできない（受験資格なし）。 ・「学則施行細則」第７条により、学習評価は 100 点法をもって採点し、80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可、60 点未満を不可とする。 ●再試験 ・「学則施行細則」第７条により、定期試験が不可の者に対して再試験の機会を与え、願により再試験を受けることができる。ただし、講義及び演習の授業科目の再試験は 100 点法による筆記試験とし、その他の評価点（本科目は、学習評価の方法における（２）（３）（４））は含めず、再試験による 60 点以上の得点者はすべて 60 点の学習評価とする。 ●追試験 ・「学則施行細則」第７条により、定期試験の際、病気その他止むを得ない事情により受験不能であった者に対しては、その理由が正当であると認められた場合に限り、願により追試験を受けることができるが、追試験による 80 点以上の得点者はすべて 80 点の学習評価とする。 参考図書等 開仁志編著『保育指導案大百科事典』一藝社、2012。 片山紀子編著『保育実習・教育実習の設定保育――これではじめての実習も大丈夫』朱鷺書房、2007。 師岡章編著『保育指導法――幼児のための保育・教育の方法』同文書院、2007。 長島和代編『これだけは知っておきたい　わかる・書ける・使える　保育の基本用語』わかば社、2013。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	＜オリエンテーション、保育の思想と歴史①＞ ○本時の目標 本科目の全体目標及び授業スケジュール、成績評価等について理解するとともに、思想家（主として、ペスタロッチーとフレーベル）の思想について学ぶことを通して、「保育」そのものへの理解を深める。 ○本時の活動 ・オリエンテーション 講義内容、授業の進め方、スケジュール、学習評価の方法 ・ペスタロッチーやフレーベルの思想に触れる。 ○本時の学習成果 思想家（主として、ペスタロッチーとフレーベル）の思想について学びながら、自らの「保育」への理解を深めている。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：特になし。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、授業内で紹介した思想家の思想について整理する。
2 回	＜保育の思想と歴史②＞ ○本時の目標 前回に引き続き、思想家（主として、ペスタロッチーとフレーベル）の思想について学ぶことを通して、「保育」そのものへの理解を深める。 ○本時の活動 ・ペスタロッチーやフレーベルの思想に触れる。 ○本時の学習成果 思想家（主として、ペスタロッチーとフレーベル）の思想について学びながら、自らの「保育」への理解を深めている。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：ノートなどを確認してくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、授業内で紹介した思想家の思想について整理する。
3 回	＜『保育所保育指針』と保育計画、子ども理解＞ ○本時の目標 現場における保育計画について学ぶとともに、実際の保育において「子ども理解」がなぜ重要となるのかについて学び、理解する。 ○本時の活動 ・『保育所保育指針』の全体像の把握と保育計画について学ぶ。 ・「子ども理解」について学ぶ。 ○本時の学習成果 保育計画について理解し、「子ども理解」について学んでいる。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：『保育所保育指針』を読んでくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、『保育所保育指針』の全体像と保育計画、「子ども理解」について整理する。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
4回	＜保育指導案の理解、指導計画の立て方、保育指導案作成①＞ ○本時の目標 保育指導案に関して学び、実際の指導計画の立て方について理解する。さらに、指導案の構成要素（子どもの姿、ねらい、環境構成、子どもの活動と保育士の援助配慮）とそのポイントを確認し、実際に保育指導案を作成する。 ○本時の活動 実際の保育指導案で考えながら、保育指導案や指導計画の立て方について学ぶ。 ○本時の学習成果 保育指導案に関して学び、実際の指導計画の立て方について理解している。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：前回の内容をノートなどで確認してくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、保育指導案や指導計画の立て方について整理する。 ・課　　題：保育指導案作成①（２枚）
5回	＜保育指導案作成②＞ ○本時の目標 実際に保育指導案を作成する。 ○本時の活動 ・屋内遊びの指導について学ぶ。 ・保育指導案を作成する。 ○本時の学習成果 保育指導案の作成をしている。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：「保育原理Ⅰ」の内容などを確認してくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、保育指導案のポイントをおさえる。 ・課　　題：保育指導案作成②（２枚）
6回	＜保育指導案作成③＞ ○本時の目標 実際に保育指導案を作成する。 ○本時の活動 ・屋内遊びの指導について学ぶ。 ・保育指導案を作成する。 ○本時の学習成果 保育指導案の作成をしている。 ○予習及び復習事項 ・予習事項：前回の内容を確認してくる。 ・復習事項：テキストやノートを見ながら、今回の内容を整理する。 ・課　　題：保育指導案作成③（２枚）

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
7 回	＜保育指導案作成④＞ ○本時の目標 　実際に保育指導案を作成する。 ○本時の活動 　・保育指導案を作成する。 ○本時の学習成果 　保育指導案の作成をしている。 ○予習及び復習事項 　・予習事項：前回の内容を確認してくる。 　・復習事項：テキストやノートを見ながら、今回の内容を整理する。 　・課　　題：保育指導案作成④（２枚）
8 回	＜保育指導案作成⑤＞ ○本時の目標 　実際に保育指導案を作成する。 ○本時の活動 　・屋外遊びの指導について学ぶ。 　・保育指導案を作成する。 ○本時の学習成果 　屋内遊びについて理解し、保育指導案の作成をしている。 ○予習及び復習事項 　・予習事項：前回の内容を確認してくる。 　・復習事項：テキストやノートを見ながら、今回の内容を整理する。 　・課　　題：保育指導案作成⑤（２枚）
9 回 ・ 10 回	＜「幼児ダンス」研究①・②＞ ○本時の目標 　幼児ダンスについて研究する。 ○本時の活動 　・幼児ダンスについて考えてみる。 ○本時の学習成果 　幼児ダンスについて、理論的実践的に考えることができる。 ○予習及び復習事項 　・予習事項：幼児ダンスについて調べてくる。 　・復習事項：今回の内容を整理する。
11 回 ・ 12 回	＜「手遊び」「唱歌」の研究①・②＞ ○本時の目標 　手遊び、唱歌について学ぶ。 ○本時の活動 　・手遊び、唱歌について学ぶ。 ○本時の学習成果 　手遊び、唱歌について理解している。 ○予習及び復習事項 　・予習事項：「手遊び」「唱歌」について調べてくる。 　・復習事項：テキストやノートを見ながら、今回の内容を整理する。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
13 回 ・ 14 回	＜「絵本」の研究①・②＞ ○本時の目標 　絵本の読み聞かせ指導について学ぶ。 ○本時の活動 　・絵本の読み聞かせ指導について学ぶ。 ○本時の学習成果 　絵本の読み聞かせ指導について理解している。 ○予習及び復習事項 　・予習事項：「絵本」について調べてくる。 　・復習事項：テキストやノートを見ながら、今回の内容を整理する。
15 回	＜総括＞ ○本時の目標 　これまでの授業内容を整理するとともに、「保育」そのものについて「保育者」という視点から再考する。 ○本時の活動 　・期末試験に向けた授業内容の振り返りを行う。 ○本時の学習成果 　「保育」そのものについて「保育者」という視点から考えている。 ○予習及び復習事項 　・予習事項：前回の内容を確認してくる。 　・復習事項：テキストやノートを見ながら、本時の内容を整理するとともに、これまでの授業内容の整理を行いながら、期末試験に備える。

令 和 2 年 度 教 育 計 画							
科目名	乳児保育Ⅰ	授業回数	15	単位数	2	担当教員	山本　婦佐江
質問受付の方法(e-mail,オフィスアワー等):B307研究室　fusae@owc.ac.jp							

教育目標と学生の学習成果		教育目標:本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である 保育所や乳児院で、乳児保育を担当する保育士として必要な理論や知識・技術の基本を、具体的な事例を通して理解させる。 1.「保育所保育指針」に基づき、乳児保育の基本を理解する。 2. 乳児各期の発達課題に即した援助のありようを考える。 3. 家庭や地域との連携、協働という文脈において考える。 4. 乳児の保育環境についてどう捉え、どう整えたらよいかを考える。 学生の学習成果: ・専門的学習成果:将来乳幼児保育に関わるものとして、上記に掲げた乳児期の基礎的な知識と技術を獲得する。 ・汎用的学習成果:人格形成の基礎が培われる乳幼児のモデルとなるべき保育者を目指し、人となりを養成する。
教育方法	授業の進め方	(講義・演習・実験・実習・実技) ・基本的にはテキストやプリントを中心に進めていくが、適宜学習の理解を深めるために参考資料を配付する。 ・ワークシートにより講義内容ごとにまとめ、大切なポイントを確認し、受講生の見解を問う。また、ビデオ視聴後は、レポートなどの形式により内容把握や感想を問う。
	予習・復習	1. 上記の内容により、必要に応じて課題を投げかけ、感想や意見等を予習・復習として求める。 2. 所定の様式により提出をさせ、チェックする。
	テキスト	・加藤　敏子編著　冨永　由佳:2019「乳児保育　一人一人を大切に」萌文書林 ・資料　「0歳児の発達と保育者の配慮・援助のポイント」 「1歳児・2歳児の発達と保育者の援助のポイント」
学習評価の方法		1. 上記3つの学習成果についてその獲得度合を量的に評価する。 2. 期末テストの成績 80%(試験の持ち込みはすべて不可) 3. 随時、課題・レポート提出 20%(提出期限厳守) 課題・レポートの内容が不適切で未熟な場合、減点とする。 4. 積極的な授業への参加、真摯な授業態度を重視する。 授業始めと終わりの挨拶励行、私語をしない、遅刻をしない等 受講態度に問題があった場合は、ケースに応じて減点する。 学習評価は、上記を総合して行う。
注意事項		参考図書等: ・監修:公益財団法人　児童育成協会 編集:寺田清美　大方美香　塩谷　香　:2019「　乳児保育Ⅰ・Ⅱ」中央法規 ・田中真介監修　乳児保育研究会編書:2009「発達がわかれば子どもが見える」ぎょうせい

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	＜オリエンテーション＞ 本講義の目的と授業の進め方、シラバスについて理解する。 ＜乳児保育の目的と役割＞ ・学習のポイント：乳児保育の歴史を振り返り、子どもの育つ保育環境の変化や乳児保育の必要性 さらに乳児保育の意義について学ぶ。また、保育者の役割について認識する。 テキスト p.10～28 「乳児保育の意義」・「乳児保育の歴史と現状」1 ・課題：「乳児保育の目的と役割」についてワークシート①にポイントまとめる。 ・予習：「子どもを産み育てていくとしたら、どんな子育て支援が必要か？」考えてくる。
2 回	＜乳児保育及び子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題＞ ・学習のポイント：子育て家庭を取り巻く社会的環境から、その支援のあり方や課題を学ぶ。 テキスト p.28～39「乳児保育の歴史と現状」2 ・課題：グループで「子育て支援・待機児童・乳児院」について話し合い、ワークシート①にまとめる。 ・復習：「乳児保育の目的と役割」について確認しておく。 ・予習：「生まれたばかりのあかちゃん」について、どんな能力があるか考えてくる。
3 回	＜あかちゃんの能力について＞ ・学習のポイント：DVD視聴 「あかちゃん　このすばらしき生命」を視聴し、基本的な知識やイメージだけでなく 実際にはどんな能力があるのか認識する。 ・課題：視聴後、「あかちゃんの能力」について学んだことを踏まえて、自分の考えをまとめる。 ・復習： ワークシート①についての確認。 ・予習：テキスト （1）「誕生～6か月未満」の発達の特性を読んでくる。
4 回	＜誕生～6か月未満の発達と保育＞ ・学習のポイント：資料「誕生～6か月未満までの発達の特性と保育者の援助のポイント」をもとに、 1か月ごとの乳児の基本的な成長の変化や保育者の配慮・援助のポイントを理解する。 「0歳児の発達と保育者の配慮・援助のポイント」 資料（2）～（7）） テキスト p.40～49　第3章　1発達の特性　2（1）誕生～6か月未満 ・課題：ワークシート②「誕生～6か月未満」に発達の特性・保育者の援助を書き提出。 ビデオ：「乳児保育の実際　前半」を視聴し 0 歳児前半の子どもの発達の様子を映像によってさらに理解を深める。 ・復習：「あかちゃんの能力」確認をする。 ・予習：テキスト （2）「6か月～1歳3か月未満」の発達の特性を読んでくる。
5 回	＜6か月～1歳3か月未満の発達と保育＞ ・学習のポイント：「6か月～1歳3か月未満までの発達の特性と保育者の援助のポイント」の資料をもとに、1か月ごとの乳児の基本的な成長の変化や保育者の配慮・援助のポイントを理解する 「0歳児の発達と保育者の配慮・援助のポイント」 資料（8）～（14） テキスト p.58～65 「6 か月から 1 歳 3 か月未満」 ・課題：ワークシート③「6か月～1歳3か月未満」に発達の特性・保育者の援助を書き提出。 ビデオ：「乳児保育の実際　後半」を視聴し、6 か月～1 歳 3 か月未満の子どもの発達の様子を映像によってさらに理解を深める。 ・復習：「誕生～6か月未満」の子どもの発達の特性・保育者の援助の確認。 ・予習：テキスト （3）「1 歳 3 か月～2 歳未満」の発達の特性を読んでくる。

6 回	＜1歳3か月～2歳未満の発達と保育＞ ・学習のポイント:「1歳3か月～2歳未満までの発達の特性と保育者の援助のポイント」の資料をもとに、1歳3か月～2歳未満児の基本的な発達の特性と保育者の配慮・援助のポイントを理解する。 「1歳児の発達と保育者の配慮・援助のポイント」　資料(15) テキスト p.66～69 「1 歳 3 か月～2 歳未満」 ・課題:ワークシート④「1歳 3 か月～2歳未満」に発達の特性・保育者の援助を書き提出。 ビデオ視聴:「遊びの中にみる1歳児」を視聴し1歳児の子どもの発達の様子を、映像によってさらに理解を深める。 ・復習:「6 か月～1 歳 3 か月未満」の子どもの発達の特性・保育者の援助の確認。 ・予習:テキスト (4)「2 歳～3 歳未満」の発達の特性を読んでくる。
7 回	＜2歳～3歳未満の発達と保育 ＞ ・学習のポイント:「2歳～3歳未満までの発達の特性と保育者の援助のポイント」の資料をもとに、2歳～3歳未満児の基本的な発達の特性と保育者の配慮・援助のポイントを理解する。 「2歳児の発達と保育者の配慮・援助のポイント」　資料(16) テキスト p.70～74 「1 歳 3 か月～2 歳未満」 ・演習:ワークシート⑤「2歳～3歳未満」の子どもの発達の特性・保育者の援助を書き提出。 ・復習:「1 歳 3 か月～2 歳未満」の子どもの発達の特性・保育者の援助の確認。 ・予習: 「泣くときはどんなことを伝えているのか？」について考えてくる。「はいはいの仕方」は？
8 回	＜乳児期の発達の特性＞ 学習のポイント:乳児期の発達と特性について理解する。 テキスト p.40～49 「3歳未満児の発達と保育」1発達の特性 「泣く子の見分け方」について・・・・資料をもとに、泣くことの原因や気をつけることなど様々な事例を分析し、対応の仕方を理解する。 「はいはいの発達」について・・・・資料をもとに、はいはいの意味や発達過程を理解し、乳児の接し方の力をつける。 ・復習: 「2歳～3 歳未満」の子どもの発達と保育者の配慮・援助の確認。 ・予習: テキスト3「乳児期の生活」・ 4「1～2歳児の生活」の離乳食と食事を読んでくる。
9 回	＜乳児の生活②(食事・ 睡眠)＞ ・学習のポイント:テキスト p.76～88 「乳児期の生活」、p.94～100「1～2歳児の生活」、「スプーンと箸について」の資料によって、基本的なスプーンや箸の持ち方を身につけ、さらに発達過程の経過についても理解を深める。また、食事のための環境づくりについて、食器の選び方や配膳方法を知り、理解する。 ・演習: ワークシート⑥「スプーンや箸の持ち方、食器の選び方」について空白を記入し提出。 ・復習:「泣く子の見分け方」「はいはいの発達」についてポイントを確認。 ・予習:「子どものトラブル」にはどんなことがあるか考えてくる。
10. 回	＜ 場面事例から学ぶ ＞ ・学習のポイント:ビデオ「やさしさの育つとき」を視聴し、様々な場面からの子どもへのかかわり方を学び、さらにグループで話し合い、相手の意見や気づきを共有する。 ・課題:各グループでビデオ視聴後、場面ごとの事例をもとに子どもへのかかわり方や気づいたことをまとめる。ワークシート⑦ 「かみつき・ひっかきの対応の仕方」について、事例をもとに分析し、基本的なトラブルへの対応の仕方を身につける。　「ひっかき・かみつきへの対応」の資料 ・復習:「食器の選び方」や、スプーン・箸の持ち方の発達過程」について確認。 ・予習:テキストをもとに「指導計画にはどんなものがあるか」確認してくる。

11. 回	＜保育の計画と記録　＞ ・学習のポイント：乳児保育を行う上での計画の必要性，また、保育計画作成おいて保育者が行う援助や配慮の大切なポイントを学び、書き方のポイントを身につける。 テキスト p.152～175「保育の計画と記録」 ・課題：「0～3 歳未満」それぞれの「生活と遊び」の指導案を作成する。 グループで年齢を決め、0 歳児、1 歳児、2 歳児それぞれの「ディリープログラム」をもとに生活と遊びの流れの場面の指導案を作成する。 ・復習：「トラブルの対応について」確認（被害者・加害者・保護者・園など各側に立って）。 ・予習：テキスト　(3)排泄(4)着脱衣(5)清潔を」読み確認する。
12. 回	＜　排泄：着脱衣・清潔＞ 学習のポイントト：基本的生活習慣は、人間が快適に生活するために欠かせないものであり、集団保育では家庭と連携して身につけられるよう援助していくことが大切である。保育者が乳幼児期それぞれの発達過程により、どう援助していくかを認識する。 テキスト p.88～94「乳児期の生活」・ p.100～109「1～2 歳児の生活」 (3)排泄(4)着脱衣(5) ・課題：グループで「生活場面における子どもの姿と保育者のかかわり」について話し合いまとめる。 ・復習：0、1、2 歳児それぞれのディリープログラムや発達によって、援助の仕方や関わり方の違いについて確認する ・予習：0、1，2 歳児はどんな玩具があるか、考えてくる。
13. 回	＜乳児の玩具　・　遊び＞ ・学習のポイント：乳児の玩具やあそびの種類を知り、その遊びの行為によって育つものは何かを理解する。さらに、乳児の遊びの意味について理解を深める。 テキスト p.110～126「乳児期のあそび」・「1～2 歳児のあそび」 ・課題：手作り玩具を製作（1～2 個） 手作りした玩具の「あそび・遊び方・育つもの」について項目ごとにまとめる。 またグループでそれぞれの玩具について発表し合い、どんな働き（育つもの）は何か考える。 ・演習：乳児の手遊び・ふれあい遊び ・宿題：実習園で 0、1，2 歳児クラスの玩具をみて書きとめる。（記入用紙）実習事前
14. 回	＜健康，安全管理　・　保育の環境＞ ・学習のポイント：子どもの健やかな発達のためには、環境が重要であることで知り起こりやすい事故や対処方法、また事故防止対策などについて理解する。 そして様々な事例を分析し、共通点や基本的な対応の仕方を身につける。 テキスト p.127～151　「健康、安全管理」・「保育の環境」 ・課題：グループで「起こりやすい事故への対処方法」について話し合いにまとめる。 ・予習：乳児保育テキストを見て、今までに学んだ乳児保育の現状と背景、保育のニーズ保育者の役割について確認する。
15. 回	＜乳児保育の今後の課題　・　まとめ＞ ・学習のポイント：近年、保育ニーズが複雑化しており、地域・他機関との連携・子育て支援などが必要とされている。その中で保育所の役割は大きく、保育者はより高い専門技術や資質が要求されているという意識をもつこと。 テキスト p.176～192「乳児保育の今後の課題」 ・課題：～乳児保育で大切なこと～　、また保育士の立ち位置について再確認する。 ・演習：実習園では子どもの発達についてはどうだったか？ どんな玩具があったか、環境や子ども同士のかかわりはどうだったか話し合う。

令　和　２　年　度　教　育　計　画							
科目名	乳児保育Ⅱ	授業回数	15	単位数	1	担当教員	山本　婦佐江
質問受付の方法（e-mail,オフィスアワー等）：Ｂ３０７研究室　fusae@owc.ac.jp							

教育目標と学生の学習成果

教育目標：本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である

乳児保育の基本的な考え方について理解し、３歳未満児の発育・発達を踏まえた遊びや生活の実際、環境構成、援助、配慮について理解するとともに、指導計画と記録のあり方について学ぶことを目的とし、以下の４点を主な目標とする。

１．３歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。

２．養護及び教育の一体性を踏まえ、３歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。

３．乳児保育における配慮の実際について、具体的に理解する。

４．上記１～３を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解する。

専門的学習成果：乳児保育Ⅰの学びを基礎として、発育・発達の過程や特性を踏まえた子どもへの関わり方や保育環境について理解を深める。

汎用的学習成果：人間形成の基礎が培われる乳幼児のモデルとなるべき保育者を目指し、人となりを養成する。

教育方法

授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） ・基本的にはテキストやプリントを中心に進めていくが、講義、グループ討論、演習を行う。 ・受講者の理解を図るため、課題により資質能力の確認、まとめを行う。
予習・復習	予習事項：毎授業回前に「授業回数別教育内容」に記された予習を求める。 復習事項：毎授業回後に復習を求める。その際、レポートとする場合もある。
テキスト	・監修：公益財団法人　児童育成協会 編集：寺田清美　大方美香　塩谷　香　：2019「　乳児保育　」中央法規

学習評価の方法

評価を以下の４つの学習成果についてその獲得度合を量的に評価する。10、30、20、20 点で計 80 点、汎用学習成果計 20 点を合わせて 100 点満点で評価する。ただし、授業態度によっては減点する。

１．乳児保育の基礎について理解する。(1 回)

２．乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びについて理解する。
　　0～2 歳児の生活の流れ・保育環境・援助（2～10 回）

３．乳児保育における配慮について理解する。(11，12，13 回)

４．乳児保育における計画について理解する。(14，15 回)

なお、汎用学習成果について、「保育者としての態度・信念」は、課題や演習に取り組む姿勢や人となりで評価する。

注意事項

参考図書：
志村　聡子編著：「はじめて学ぶ乳児保育」同文書院
評価として提出物、演習課題を重視する。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	＜オリエンテーション＞ 本講義の目的と授業の進め方、シラバスについて理解する。 ＜乳児保育の基本＞ ・学習のポイント：保育者との応答的かかわりや信頼関係の構築が子どもの発達にどのように影響しているか、理解する。 1．子どもと保育者との関係性について 2．乳児（0 歳）と 1 歳以上 3 歳未満児の保育内容 演習：①応答的なかかわりと言葉の育ちにはどんな関係があるか考えてみよう。 ②「物」をめぐって他者との関係性がどのように発達していくか考えてみよう 予習：乳児保育Ⅰの資料の中で「0 歳児の発達」について確認しておく。
2 回	＜子どもの生活の流れ（０歳児クラス）＞ ・学習のポイント：乳児が安心して心地よく過ごせる生活とは何か、大切にしたい視点を学ぶ。 1．0 歳児のディリ―プログラムについて 2．乳児のディリ―プログラムの特徴 3．一人ひとりに応じた適切な援助を行うための実践 演習：①「流れる日課」を行うためには、どのような保育者の配慮や作業が必要なのか考えてみよう。 ②育児担当制を実施する場合の留意点は何であろうか。メリット、デメリットも含めて考えてみよう。 復習：子どもと保育者との関係の重要性について再確認する。 予習：乳児保育Ⅰの資料の中で「0 歳児の発達」について確認しておく。
3 回	＜子どもの保育環境（０歳児クラス）＞ ・学習のポイント：子どもの保育環境は、大きく人的環境と物的環境に分けられる。なかでも、物的環境における心地よい室内環境や発達を促す玩具について学ぶ。 1．指針からみる保育環境 2．乳児が過ごしやすい部屋 3．玩具 演習：①家庭的雰囲気にするために、どのような工夫ができるか考えてみよう。 ②ワークシート⑨「あそび・遊び方・育つもの」を項目ごとに記入しながら、その玩具を使った遊びが発達課題にどのように関連するのかを考えてみよう。 復習：「０歳児のディリ―プログラム」について再確認する。 予習：乳児保育Ⅰの資料の中で「0 歳児の発達」について確認しておく。
4 回	＜子どもの援助の実際（０歳児クラス）＞ 学習のポイント：生活（「養護」）と遊び（５領域につながる「３つの視点」）の援助について学ぶ。 1．生活の援助の実際 2．遊びの援助の実際 演習：①0 歳児クラスの食事場面をイメージして、どのような「ねらい」と「内容」「配慮事項」が考えられるか書いてみよう。 復習：「0 歳児クラスの保育環境」について再確認する 予習：乳児保育Ⅰの資料の中で「１歳児の発達」について確認しておく。
5 回	＜子どもの生活の流れ（１歳児クラス）＞ ・学習のポイント：1 歳児の一日の生活（ディリ―プログラム）に沿って、保育者の配慮を学ぶ。 1．１歳児クラスの生活の流れ（ディリ―プログラム） 演習：①「朝の視診」について考えてみよう。 ②家庭との連携 復習：「０歳児の生活と遊びの援助」について大切なことを確認しておく。 予習：乳児保育Ⅰの資料の中で「１歳児の発達」について確認しておく。

6 回	＜子どもの保育環境（１歳児クラス）＞ ・学習のポイント：１歳児の発達の特性に配慮する中で、保育者の援助がスムースに行える環境設定や、地域性における工夫について学ぶ。 １．環境の整備（生活と遊びの場） 演習：手作り玩具をつくってみよう。 復習：１歳児の生活の流れの中で、大切な「保育者の配慮」について確認しておく。 予習：乳児保育Ｉの資料の中で「１歳児の発達」について確認しておく。
7 回	＜子どもの援助の実際（１歳児クラス）＞ ・学習のポイント：１歳児の発達の特性を考えてどのように援助したらよいか？保育者のかかわり方について、生活と遊びの両面から、具体的な援助について学ぶ。 １．生活の援助 ２．遊びの援助 「排泄と着脱について」、保護者は　排泄の自立についてどのように考え、どのような悩みを持っているだろうか、認識する。遊びの場面のDVDから考える。 演習：資料をもとにトイレットトレーニングについての考え方をもとめてみよう。 復習：援助しやすい環境設定について確認する。 予習：乳児保育Ｉの資料の中で「２歳児の発達」について確認しておく。
8 回	＜子どもの生活の流れ（２歳児クラス）＞ ・学習のポイント：２歳児の生活の流れを理解し、２歳児の発達の課題である生活習慣の自立を促すための環境構成や、保育者のかかわりとは何かについて学ぶ。 1.　２歳児クラスの生活の流れ（ディリ―プログラム） 演習：　①子どもの生活場面について、自立をうながす保育者のかかわりを考える。 食事・排泄・衣服の着脱・清潔・その他の場面などから 復習：生活と遊びの中での具体的な援助の仕方について確認する。 予習：乳児保育Ｉの資料の中で「２歳児の発達」について確認しておく。
9 回	＜子どもの保育環境（２歳児クラス）＞ ・学習のポイント：２歳児クラスの物的環境の１つである玩具を中心に、その構成のポイントを理解し、具体的に玩具が子どもの発達にどのように関係するかを学ぶ。 １．玩具のそろえ方のポイント ２．見立て遊び ３．手指の発達をうながす遊び 演習：「施設内外の適切な環境の維持に努める」とは（音環境・声の大きさなど） 復習：生活習慣の自立をうながす保育者のかかわり方について確認する。 予習：乳児保育Ｉの資料の中で「２歳児の発達」について確認しておく。
10 回	＜子どもの援助の実際（２歳児クラス）＞ ・学習のポイント：２歳児クラスにおける遊びと生活習慣の関連性を確認し、保育所保育指針に示されている、「育みたい資質・能力」につながる２歳児の育ちについて理解する。 １．手指の発達をうながす遊びと生活習慣 ２．ビデオ「やさしさの育つとき」を視聴し、様々な場面からの子どもへのかかわり方を学ぶ。 演習：ビデオを視聴して、ワークシートに場面ごとの事例をもとに子どもへのかかわり方や気づいたことをまとめる。話し合いを通して相手の意見や気づきを共有する。 復習：玩具が子どもの発達にどのように関係するかを確認する。 予習：子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮について考えてくる。

11 回	＜子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮＞ ・学習のポイント：子どもの心身の健康や安全、情緒の安定とは何かを保育所保育指針から確認し、現状で起こっている事故などについて知り、基本的な知識を身につける。 １．保育所保育指針の内容 ２．子どもの死亡および事故の現状と課題 ３．情緒の発達 演習：①乳幼児の愛着形成を考慮した保育者のかかわり方を考える ②危機管理における保育者の配慮と子どもの安全教育 復習：２歳児クラスにおける遊びと生活習慣の関連性を確認する。 予習：「保育者、その他の専門職、保護者との連携」について考えてくる。
12 回	＜集団での生活における配慮＞ ・学習のポイント：集団での育ちを保障しながら個々への配慮を行うためには何が必要か、保育者、他職種、保護者との連携の重要性について学ぶ。 １．集団保育と個々への援助 ２．保育者同士と他職種・保護者との連携 演習：「保護者・保育者同士・他職種との連携」について考えてみよう。 復習：子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮とは 予習：「環境の変化や移行に対する配慮」について考えてくる
13 回	＜環境の変化や移行に対する配慮＞ ・学習のポイント：移行や環境の変化の現状について理解を深め、保育者の配慮や援助のあり方に関する基本的事項を学ぶ。 １．移行とは何か ２．環境の変化や移行に対する配慮とは 演習：子どもがスムースに移行するために何をしたらよいのかを考えてみよう。 復習：集団での育ちを保障しながら個々への配慮を行うためには何が必要か確認する。 予習：乳児保育における計画にはどのようなものがあるか考えてくる。
14 回	＜長期的な指導計画と短期的な指導計画＞ ・学習のポイント：長期的な指導計画と短期的な指導計画について学び、指導計画の必要性について考える。指導計画の評価（保育の振り返り）について学ぶ。 １．実際の指導計画から・保育の振り返りについて 演習：なぜ、指導計画が必要かを考えてみよう 復習：子どもがスムースに移行するために何をしたらよいのか確認する。 予習：個別的な指導計画と集団の指導計画とはどんなものか考えてくる。
15 回	＜個別的な指導計画と集団の指導計画＞ ・学習のポイント：個別的な計画と集団の計画について理解し、個別の指導計画の必要性について学ぶ。個別計画を立てるには家庭との協力・連携の必要性について学ぶ。 １・個別的な計画・集団の計画 ２．保護者との連携 演習：個別の計画作成にあたり、月齢差による発達のちがいや個人差について考えよう 復習：指導計画の保育の振りの必要性について

令　和　２　年　度　教　育　計　画							
科目名	社会的養護Ⅰ	授業回数	15	単位数	2	担当教員	新田　満穂
質問受付：(e-mail,オフィスアワー等　) ym3x4z@bma.biglobe.ne.jp							

教育目標		〔教育目標〕 社会的養護、児童福祉の実践の場において、実践的指導力のある保育士を養成するため、理念、原理、現場の仕事の深みを身につける。以下の諸点に関し定着をはかり、より高い人間的資質や専門的資質について習得する。 ［教育課程の編成］ １・現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について理解する ２・子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する ３・社会的養護の制度や実施体系等について理解する ４・社会的養護の対象や形体、関係する専門職等について理解する ５・社会的養護の現状と課題について理解する ５・社会的養護の現状と課題について理解する 〔実施の方針及び学生の学習成果〕 教育目標に掲げる５項目の基礎知識を理解し、汎用的学習成果として、 ６・保育士にふさわしい言動を学ぶ
教育方法	授業の進め方	〔講義〕 ・　主に講義による ・　発表の場の提供 ・　小テストの実施
	予習・復習	・　毎授業前に予習を求める ・　毎授業後に復習を求める
	テキスト	児童の福祉を考える 「社会的養護１」 著者代表　吉田　真理　（株）萌文書林
授業評価の方法		具体的に学習評価は ①定期試験によるものとする ②レポート〈小テスト〉や汎用的学習態度も参考にする 試験〈1回〉１００点満点
注意事項		参考図書等 演習、「社会的養護Ⅱ」萌文書林とも関連づけて学ぶ 新聞　ＴＶ等での日頃の情報も掴みながら授業に臨むこと 忘れ物をしないこと〈教科書〉 遅刻、欠席のないようにすること

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	**1・現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷** （1）社会的養護の理念と概念 （2）社会的養護の歴史的変遷１ （3）社会的養護の歴史的変遷Ⅱ　　予習事項―2 回講義内容
2 回	**2・子どもの人権擁護と社会的養護** （1）社会的養護と子どもの権利―児童養護の理念と援助者 （2）施設保育士の倫理と責務―児童福祉施設の援助者の資質 （3）施設養護の現代的課題―倫理の確立と権利擁護　　予習事項―３回講義内容
3 回	**3・家庭の機能と社会的養護** （1）子どもが生活する場から―社会や家庭の役割 （2）家庭の機能とは―家庭の役割 （3）社会的養護を実施する場―児童養護の体系　　予習事項―４回講義内容
4 回	**4・社会的養護の基本原則Ⅰ　養育　日常生活支援** （1）施設養護における養育―範囲と内容 （2）生活の規模―施設規模が養育方法に与える影響　　予習事項―５回講義内容
5 回	**5・社会的養護の基本原則Ⅱ　保護　自己実現に向けた支援** （1）家庭からの保護―親子関係の調整 （2）外界からの保護―学校、地域からの関係調整　　予習事項―６回講義内容
6 回	**6・社会的養護の基本原則Ⅲ　子どもであることへの回復―治療的支援―について学ぶ** （1）虐待された子どもの理解と対応・心を癒し育むための援助 （2）心理療法担当職員との連携―施設内のチームワーク　予習事項―７回講義内容
7 回	**7・社会的養護の基本原則Ⅳ　生活文化と生活力の習得―自立支援について学ぶ** （1）施設で生活文化を伝える意味―日常生活の援助 （2）生活力の習得―生活の自立に向けた援助 （3）生活の中における専門性の発揮―相談援助の活用　　予習事項―８回講義内容
8 回	**8・社会的養護の基本原則Ⅴ　生命倫理の醸成―生と性の倫理について学ぶ** （1）入所児童の生活環境と生命倫理観―援助者の生命倫理― （2）専門職としての生命倫理―保育士を志す者への課題―予習事項―９回講義内容
9 回	**9・社会的養護の制度と実施体系について学ぶ** （1）社会的養護の制度と法体系 （2）社会的養護の専門職・実施者 （3）社会的養護の仕組みと実施体系　　予習事項―10 回講義内容
10 回	**10・施設養護の対象・形態・専門職１―乳児院と児童養護施設** （1）乳児院と児童養護施設 （2）児童養護施設等入所児童の家庭状況 （3）施設入所の経過と入所後の生活や親子関係 （4）施設入所に至る課程と社会的養護の原理　　予習事項―11 回講義内容
11 回	**11・施設養護の対象・形態・専門職Ⅱ―障害児の入所施設―** （1）障害児の入所施設 （2）障害児施設入所児童の家庭状況 （3）障害児の入所施設における養護　　予習事項―12 回講義内容

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
12回	**12・施設養護の対象・形態・専門職Ⅲ―児童自立支援施設と児童心理治療施設―** （１）社会に適応しづらい子どもの入所施設 （２）児童自立支援施設等入所児童の家庭状況 （３）社会に適応しづらい子どもの入所施設における養護予習事項―13 回講義内容
13回	**13・家庭養護の特徴・対象・形態**―里親とファミリィホームー （1）家庭養護とは （２）里親に委託される子どもの家庭状況 （３）里親養護の特徴と社会的養護 （４）里親の認定・登録・研修と里親の現状 （５）里親ならではの悩み　予習事項―14 回講義内容
14回	**14・社会的養護の現状と課題** （１）施設等の運営管理―児童福祉施設のシステム （２）倫理の確立と保障 （３）被措置児童等の虐待防止　予習事項―１５回講義内容
15回	**15・社会的養護の現状と課題** （１）社会的養護と地域福祉 （２）これからの児童福祉施設援助者 （３）振り返りとまとめ　予習事項―振り返り

令　和　2　年　度　教　育　計　画							
科目名	障害児保育	授業回数	15	単位数	2	担当教員	鈴木　久子
質問受付の方法　e-mail:hsuzuki@owc.ac.jp　OH:水曜日 16:20～17:00　M 棟 409 室							

教育目標		教育目標：本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である １．障害児保育を支える理念や歴史的変遷を学び、障害児及びその保育について理解する。 ２．個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について理解する。 ３．障害児その他の特別に配慮を要する子どもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法について理解する。 ４．障害児その他の特別に配慮を要する子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働にについて理解する。 ５．障害児その他の特別に配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題について理解する。 学生の学習成果： １．専門的学習成果 幼児一人一人の特性に応じ障害や発達の課題に即した個別指導を行う能力を獲得する。 ２．汎用的学習成果 保育者としての使命感や倫理観を身につけるとともに、他者とのコミュニケーションが円滑に行えるような人間関係力を構築する。
教育方法	授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） ・障害児保育で必要な知識の習得は、講義形式で行う。 ・実践的な対応技能の習得は、演習形式で行う。 ・自ら学ぶ姿勢を身につけるため、予習や復習を奨励し、グループワークを行う。
	予習・復習	・毎授業回前に「授業回数別教育内容」に記された予習を求める。 ・毎授業回後に復習を求める。その際、提出課題とする場合がある。
	テキスト	・児童育成協会 監修「障害児保育」中央法規 KK　2019 年
学習評価の方法		以下の５つの学習成果について、その獲得度合を評価する。 ①障害児及びその保育について理解する。 ②様々な障害について理解し子どもの理解や援助の方法、環境構成等について理解する。 ③障害児その他の要配慮児の保育計画を作成し、個別支援及び他の子との関わりの中で育ちあう保育実践について理解を深める。 ④保護者への支援や関係機関との連携について理解する。 ⑤社会人として他者と関わる際に求められるコミュニケーション能力を高める。 評価は、ロールプレイ（10 点）、課題(10 点)、小テスト（10 点）、及び期末試験（70 点）による。シャトルカードにより授業の振り返りを行い、授業への貢献度や自己開発への意欲などを勘案し、加点の機会を設ける。
		参考図書等 ・藤永保 監修「障害児保育」萌文書林 2015 年 ・七木田　敦編著　「キーワードで学ぶ障害児保育入門」　保育出版社　2008 年 ・佐々木正美　監修　「発達障害のある子が楽しめるあんしん遊び」すばる舎

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	＜オリエンテーション＞ ・講義内容　　授業の進め方、学習予定、学習評価の方法について説明する。 ＜「障害」の概念と歴史的変遷＞ ・講義内容　障害の捉え方と障害児保育の歴史について概説する。障害のある子ども、ない子どもともに発達していく保育のあり方を探っていくことを伝える。 ・学習成果　障害児保育は、特別な支援を必要とする乳幼児のための保育であること、子どもの「困り感」を理解し、支援していくことであることを知る。 ・予習事項　テキスト第３講を読む。
2 回	＜肢体不自由児の理解と援助＞ ・講義内容　肢体不自由児の理解と支援。その障害について、予習した内容を発表する。事例を通して、支援の方法を理解し、共に育っていくことの大切さを知る。 ・学習成果　それぞれ肢体不自由の障害について正しい知識を持ち、援助について考える。 ・予習事項　テキスト第４講　知的障害児の理解と支援を読む。
3 回	＜知的障害児の理解と援助＞ ・講義内容　知的障害児の理解と支援。知的発達に遅れのある子どもについて、考え方や特徴について予習した内容を発表する。事例を通して、支援の方法を理解し、共に育っていくことの大切さを知る。 ・学習成果　知的障害について正しい知識を持ち、支援について考える。 ・予習事項　テキスト第５講　視覚・聴覚・言語障害児の理解と支援を読む。
4 回	＜視覚・聴覚・言語障害児の理解と支援＞ ・講義内容　視覚・聴覚・言語障害児の理解と支援。事例を通して、支援の方法を理解し、共に育つことの大切さを知る。重症心身障害児、医療的ケア児を理解し援助法を知る。 ・学習成果　視覚・聴覚・言語障害児について正しい知識を持ち、支援について考える。 ・予習事項　テキスト第６講 発達障碍児の理解と援助を読む。
5 回	＜発達障害児の理解と援助＞ ・講義内容　注意欠如・多動性障害（ADHD)、限局性学習障害（LD）自閉症スペクトラム障害（ASD）について、予習した内容を発表する。 例を通して、支援の方法を理解し、共に育っていくことの大切さを知る。 ・学習成果　ADHD, LD, ASD についてについて正しい知識をもち、支援について考える。 ・予習事項　テキスト第９講　発達をうながす生活や遊びの環境と子ども同士のかかわり・育ちあいを読む。
6 ・ 7 回	＜障害児保育の実際＞ ・講義内容　障害を持っている子どもの発達を支え、うながす「生活」と「遊び」の環境の大切さを説明する。そのことをふまえ、集団での遊びをグループごとに考えることができるようにする。障害児だけでなくその他の特別に配慮を要する子どもの理解と援助について知る。 ・学習成果　グループ別に、障害児に配慮した集団遊びの実施計画を立て、その実施計画に基づいてロールプレイをする。障害児に配慮した指示の出し方や支援ができたかどうかを振り返る。 ・予習事項　テキスト第８講　指導計画および個別の支援計画の作成を読む。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
7 回	＜指導計画および個別の支援計画の作成＞ ・講義内容　個別の支援計画や指導計画の記載内容を理解し、作成する。 ・学習成果　個別の支援計画や指導計画の記載内容を理解する ・予習事項　テキスト第１１講　職員間の連携・協働を読む。
8 回	＜職員間の連携・協働＞ ・講義内容　子ども成長・発達のためには職員間だけでなく保護者や専門機関、地域住民との連携・協働が必要である。どのように連携・協働していくのか学ぶ。 ・学習成果　演習を通して連携・協働の在り方について理解する。 ・予習事項　テキスト第１０講　子どもの健康と安全を読む。
9 回	＜子どもの健康と安全＞ ・講義内容　子ども同士のかかわりと育ち合いはどのような道筋でできていくのか、障害を持った子どもの事例を通して学ぶ。障害児保育における子どもの健康と安全についても知る。 ・学習成果　他の子どもの行動に関心を持ち始めた時、どのように支援していけばよいかを理解する。 ・予習事項　テキスト第１２講　保護者に対する理解および保護者間の交流や支え合いの意義と支援を読む。
10 回	＜保護者に対する理解および保護者間の交流や支え合いの意義と支援＞ ・講義内容　保護者が、子どもの障害を受容していく過程を知ることにより、障害を受け入れていくことの困難さに共感する。さらに、保護者と保育者の立場でロールプレイをし、保護者対応の留意点にも気づく。 ・学習成果　少しでも安定した親子関係を築くためには、保育者の保護者支援の必要性を理解する。また、保護者間の交流や支え合いの支援の必要性が分かる。 ・予習事項　テキスト第 １３講 地域の専門機関等との連携を読む。
11 回	＜地域の専門機関との連携＞ ・講義内容　地域の専門機関について、どのようなところがあるのかを知る。また、専門機関と連携していくために必要な個別支援計画の作成について知る。 ・学習成果　障害児支援制度の理解と地域における自治体や関係機関（保育所、児童発達支援センター等）の連携協・協働が必要であることを理解する。 ・予習事項　テキスト第 １４講　小学校等との連携を読む。
12 回	＜小学校との連携＞ ・講義内容　障害を持っている子どもが小学校へ入学するにあたり、保育園・幼稚園との生活の違いを考え、保護者の心配に寄り添うことができるようにする。また、適切な教育が受けられる学校の種類や就学相談の制度について知る。 ・学習成果　小学校就学にあたってスムーズに入学できるために保育者に求められることは、どんなことか分かる。 ・予習事項　テキスト第２ 講内包および合理的配慮を読む。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
13回	＜インクルージョンと合理的配慮＞ ・講義内容　障害児保育を考える上で理解しておかなければならない理念の内包（インクルージョン）について知る。 ・学習成果　合理的配慮やインクルージョンについて、小グループで考えを話し合い発表することを通して、難しいことではあるが理念の実現を目指していきたいという気持ちをもつ。
14回	＜障害児その他の特別に配慮を要する子どもの保育＞ ・講義内容　支援のつながりの具体的な事例に添って、保育者、教育者、保護者など様々な立場にたって取り組んでいる現状を知る。 障害児を主人公にしたビデオの視聴。 ・学習成果　支援の取り組みは、時間はかかるが、実を結ぶものになるよう、保育者としてできることを自分なりにまとめる。 ・予習事項　テキスト第１５講　福祉・教育における現状と課題を読む。
15回	＜福祉・教育における現状と課題＞ ・講義内容　福祉の分野と教育の分野での支援がどのように行われているかについて知る。 ・学習成果　障害者自立支援法や発達障害者支援法などの新しい法律のもとでの制度の変化を知り、地域での連携の意義やその課題について知る。 ＜総復習＞ ・全 15 回の内容を復習し、質疑応答。

令　和　２　年　度　教　育　計　画							
科目名	社会的養護Ⅱ	授業回数	15	単位数	1	担当教員	新田　満穂
質問受付：(e-mail,オフィスアワー等　)　ym3x4z@bma.biglobe.ne.jp							

教育目標		〔教育目標〕 社会的養護の基本的原理、方法的原理を中心に捉えつつ、児童福祉の実践の場において、実践的指導力のある保育士を養成するため以下の諸点に関し定着をはかり、より高い人間的資質や専門的資質及び技能的側面について習得する ［教育課程の編成］ １・子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解する ２・施設養護及び家庭養護の実際について理解する ３・社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解する ４・社会的養護にかかわる相談援助の方法・技術について理解する ５・社会的養護における子どもの虐待の防止と家庭支援について理解する 〔学生の学習成果〕 教育目標に掲げる５項目の基礎知識を理解する 汎用的学習成果として、 ６・保育士にふさわしい言動・態度を講義や演習の中で実践できる ７・自己表現、他者理解など人権について理解する
教育方法	授業の進め方	〔講義・　演習・　実験・　実習・〕 主に講義と演習による ①　授業のはじめにシャトルカード記入の質問や感想等に応える ②　テキスト・配付資料にそって、(シラバス内容) 進める ③　講義のあと演習問題・課題に取り組む。演習課題はグループまたは全体で進める ④　発表の時間を設け、ハンドマイク等を活用する ⑤　演習課題の提出
	予習・復習	・　毎授業前に予習を求める ・　毎授業後に復習を求める。レポートを提出
	テキスト	児童の福祉を支える―演習― 社会的養護Ⅱ　著者代表　吉田　真理　(株) 萌文書林
授業評価の方法		上記教育目標・成果の７つの項目について評価する。 その際、具体的学習評価は ①　定期試験によるものと ②　演習課題〈提出の１５課題〉で評価する。特に児童の権利擁護や汎用的学習態度に重きを置く 試験８５％　・演習課題１５％
注意事項		新聞　ＴＶ等での日頃の情報を掴みながら授業に臨むこと 時間にルーズにならぬこと 欠席する場合は必ず欠席届を提出する 授業に関する忘れ物をしない

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	**子どもの理解に基づく社会的養護** **Ⅰ・社会的養護における子ども理解と支援の基本** 子どもの最善の利益　とオリエンテーション
2 回	**社会的養護における子ども理解と支援の基本** **児童の権利擁護について** 生存と発達の保障
3 回	**社会的養護における子ども理解と支援の基本** **児童の権利養護について** 子どもの権利を守る仕組み 児童自立支援計画
4 回	**Ⅱ・社会的養護における保育士等の専門性** 　支援者としての資質と倫理・バーンアウトと共依存
5 回	**社会的養護の実際** **Ⅰ・児童養護の体系と児施設の概要** 児童養護の体系　　児童福祉施設の概要
6 回	**Ⅱ・施設養護・家庭養護の生活特性と支援の実際** 児童養護施設　乳児院　母子生活支援施設の暮らし
7 回	**施設養護・家庭養護の生活特性と支援の実際** 医療型　障がい児入所施設の暮らし　治療的支援と児童自立支援施設 児童心理治療施設の暮らし
8 回	**施設養護・家庭養護の生活特性と支援の実際** 里親制度の特性及び実際 福祉型　障がい児入所施設の暮らし
9 回	**保育の専門性にかかわる知識・技術とその実践** **Ⅰ・心の傷を癒し、心を育むための援助** 保育士の業務・虐待された子どもへの支援・虐待への対応
10 回	**Ⅱ・親子関係の調整** 子どもと家庭への支援　児童相談所との連携　家庭支援
11 回	**Ⅲ・社会的養護にかかわる相談援助の知識・技術とその実践** 相談援助技術の活用 入所から退所に至る支援と基本的日常生活支援
12 回	**社会的養護の課題と展望** **Ⅰ・地域連携と家庭支援** 施設の小規模化　地域分散化　地域の関わりと家庭支援

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
13 回	**Ⅱ・地域住民と施設** 地域と施設の関係：〈１〉
14 回	**地域住民と施設** 地域と施設の関係：〈２〉
15 回	**振り返りとまとめ** **要点の振り返り**

令　和　２　年　　度　　教　　育　　計　　画							
科目名	保育実践演習	授業回数	15	単位数	2	担当教員	大賀恵子 山本婦佐江
質問受付の方法（e-mail,オフィスアワー等）：　e-mail:ohga @owc.ac.jp、 OH:土曜２限							

教育目標と学生の学習成果

教育目標　本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である

必修科目及び選択必修科目、保育実習を通しての学び等を踏まえ、保育士として必要な知識技能を取得したことを確認する。特に保育実習の現場で発見した問題について分析考察を行い、講義、グループ討議、ロールプレイなどの方法によって掘り下げ、問題解決の手法を学ぶことを目的とする。

1. 指定保育士養成施設における教育課程の全体を通して、保育士として必要な保育に関する専門的知識及び技術、幅広く深い教養及び総合的な判断力、専門職としての倫理観等が習得、形成されたか、自らの学びを振り返り把握する。
2. 保育実習等を通じた自らの体験や収集した情報に基づき、保育に関する現代的課題についての現状を分析し、その課題への対応として保育士、保育の現場、地域、社会に求められることは何か、多様な視点から考察する力を習得する。
3. 1 及び 2 を踏まえ、自己の課題を明確化し、保育の実践に際して必要となる基礎的な資質・能力の定着をさせる。

学生の学習成果

専門的学習成果：教育目標に挙げる 4 項目を習得する。
汎用的学習成果：以下のように挙げられる。①保育者としての態度・信念の形成に自助努力する。②保育者として適正な価値・判断の基準を形成し、明確に意見表明ができる力を育成する。③論理的思考力を培う。④人間関係力を涵養する。

教育方法

授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技）以下の方法・内容によって授業を進める。 a. これまでの学習の振り返りについての講義グループ討論を行う。第 2～4 回。 b. 社会性、対人関係能力、児童理解等に関わるポスター制作・発表を行う。第 5～7 回。 c. 保育士の意義や役割、職務内容、児童に対する責任等についての講義・ロールプレイを行う。第 11～14 回。 d. 保育内容等の指導力についての講義・グループ討論を行う。第 9～10 回 e. 資質能力の確認、まとめを行う。第 1・8・15 回
予習復習	毎回の課題への取り組みは時間内に出来ないので予習・復習とする。
テキスト	必要に応じてプリントを配付する。

学習評価の方法

評価を以下の 4 つの学習成果についてその度合いを 10,20,30,20 点で計 80 点、汎用的学習成果計 20 点を合わせて 100 点満点で評価する。ただし、授業態度によっては減点する。

1. 保育に関する科目横断的な学習能力を習得する（主に第 2～7 回）。
2. 保育に関する現代的課題についての現状分析、考察、検討を行う（9～12 回）。
3. 問題解決のための対応、判断方法等について学びを深める（13,14 回）。
4. 必修科目(保育実践演習を除く、以下同じ)及び選択必修科目の履修状況を踏まえ、自らの学びを振り返り、保育士として必要な知識・技能を修得したことを確認する（1,8,15 回）。

汎用的学習成果は①保育者としての態度・信念は実習報告会の服装・態度、②保育者として適正な価値・判断の基準と明確な意見表明は行事説明原稿、③論理的思考力は第 1・8・15 回の文章表現、④人間関係力については討論・ロールプレイ等のグループ活動への関わりにより評価。

注意事項

参考図書：『保育所保育指針』　※評価として発表、課題を重視する。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	＜保育実践演習オリエンテーション＞ 以下について理解する。 1. 目標と授業の進め方ついて　　2. 学習評価の方法について　　3. 討論のグループ分け ＜履修状況の確認＞ 以下について理解し、実践する。 ・履修状況把握と課題確認に関しての方法の説明 ・履修状況記述と課題の記入（履修簿持参） ◆予習：シラバス通読と保育実習の日誌を見ておく。 ◆課題：第 9 回 季節年中行事①の文案作成（課題プリント配布）
2 回	＜これまでの学習の振り返り①＞ 以下について理解し、身につける。 教育目標 1・3 ・講義：実習での学びと実習報告会の意義と流れ ・活動：実習での経験を踏まえてグループ討論・発表 ◆復習：実習の学びを振り返り自身の強み、弱みを確認する。 ◆予習：保育所実習・施設実習日誌で内容を予習する。 ◆課題：第 1 回配布の課題を提出する。実践報告会の発表希望施設調査。
3 回	＜これまでの学習の振り返り②＞ 以下について理解し、実践する。 教育目標 1・3 ・講義：発達過程に関する理論と実際 ・活動：保育所実習で経験を踏まえてグループ討論・発表 ◆復習：発達過程に関する理論の復習、保育所実習のまとめを確認する。 ◆予習：障がいの種類、施設実習の経験をまとめておく。 ◆課題：第 10 回 季節年中行事②の文案作成（課題プリント配布）
4 回	＜これまでの学習の振り返り③＞ 以下について理解し、身につける。 教育目標 1・2 ・講義：障害の種類と保育現場の対応 ・活動：施設実習で経験を踏まえてグループ討論・発表／実習報告会の報告内容まとめ ◆復習：施設実習の報告内容をまとめる。 ◆予習：保育士のマナー、発表の姿勢を確認しておく。 ◆課題：第 3 回配布の課題を提出する。
5 回	＜社会性、対人関係能力、児童理解等①＞ 以下について理解し、身につける。教育目標 1・2 ・講義：保育士のマナーと発表の姿勢について確認、役割分担とその内容 ・活動：実習報告ポスター作成 ◆復習：ポスター完成 　予習：リハーサルの原稿内容を考える。
6 回	学外実習報告会リハーサル 　時間内に発表できるように原稿を準備しておくこと。／ポスターを持参すること。 ◆復習：報告会の振り返りをしておく。 　予習：実習報告会での運営や発表についてまとめておく。
7 回	＜社会性、対人関係能力、児童理解等②＞ 以下について理解し、身につける。教育目標 1・2 ・活動：実習報告会の運営・発表と視聴およびその記録。／7 回、8 回は継続して行う。 ◆復習：発表の仕方の振り返りをする。 　予習：傾聴態度、記録の仕方について確認する。 ◆課題：第 11 回 季節年中行事③の文案作成（課題プリント配布）
8 回	＜社会性、対人関係能力、児童理解等③＞ 以下について理解し、身につける。教育目標 1・2 ・活動：実習報告会の運営・発表と視聴およびその記録の実践 ◆復習：発表時に受けた質疑とその応答、視聴時に行った質疑とその応答のまとめをする。 ◆予習：実践報告会の評価と課題についてまとめておく。 ◆課題：第 7 回配布の課題を提出する。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
9 回	＜資質能力の確認①＞ 以下について理解し、身に付ける。教育目標 1・3・4 ・講義：1. 実習報告会の学習成果について　／　2. 実習施設からの評価と課題について ・活動：実習報告会における学習成果の記述 　　実習施設からの評価と自己課題の克服の方策についての記述 ◆復習：活動途中の場合は完了して提出 ＜保育士の意義や役割、職務内容、児童に対する責任等①＞ 以下について理解し、身につける。教育目標 2・3 ・講義：保育指針 第 5 章 健康及び安全　／　DVD またはビデオ鑑賞・ワークシート記入 ・活動：1. 講義内容のまとめ 　　2. 保育における季節行事①（お誕生会・勤労感謝の日・お芋ほり）について 　　対象年齢別（3・4・5 歳／配慮事項について）文案の修正・仕上げ ◆予習：行事説明①の発表練習
10 回	＜保育士の意義や役割、職務内容、児童に対する責任等②＞ 以下について理解し、身につける。教育目標 2・3 ・講義：保育指針 第 6 章 地域との交流　／　DVD またはビデオ鑑賞・ワークシート記入 ・活動：1.講義内容のまとめ 　　2.保育の行事説明①のロールプレイ①（対象年齢別 3・4・5 歳） ◆復習：他者の発表についての学びをまとめておく。 ◆予習：行事説明②（防災の日・七夕・お年寄りとの交流）の文案の仕上げと発表練習
11 回	＜保育士の意義や役割、職務内容、児童に対する責任等③＞ 以下について理解し、身につける。教育目標 2・3 ・講義：保育指針 第 7 章 職員の資質向上　／　DVD またはビデオ鑑賞・ワークシート記入 ・活動：1.講義内容のまとめ／2.保育の行事説明②のロールプレイ②（対象年齢別 3・4・5 歳） ◆復習：他者の発表についての学びをまとめておく。 ◆予習：行事説明③（正月と春の七草・春分の日・こどもの日）の文案の仕上げと発表練習
12 回	＜保育士の意義や役割、職務内容、児童に対する責任等④＞ 以下について理解し、身につける。教育目標 2・3 ・活動： 1.保育の行事説明のロールプレイ③（対象年齢別 3・4・5 歳）／発表内容の振り返り ◆復習：他者の発表についての学びをまとめておく ◆予習：保育課程を確認し、実習の体験で発見したことをまとめておく。
13 回	＜保育内容等の指導力について①＞ 以下について理解し、身につける。教育目標 1・3 ・講義： 法令遵守について ・講義：保育課程と指導計画について ・活動：1.講義内容のまとめ 2. 実習の体験から保育現場で発見した自己の課題／グループで解決法を討議・発表 ◆復習：実習で作成した指導案の手直し ◆予習：実習でいただいたクラス便りの見直し
14 回	＜保育内容等の指導力について②＞ 以下について理解し、身につける。教育目標 1・3 ・講義：「クラス便り」の留意点とアドバイス ・活動：「クラス便り」の記述練習と自己点検 ◆予習：ワークシートの記述(第 15 回の予習)
15 回	＜資質能力の確認②＞ 以下について理解し、身に付ける。教育目標 4 ・活動：保育士として必要な知識・技能を修得できたか、グループ討論 　14 回の授業において、問題解決の手法を学ぶことが出来たかどうかを振り返る。 　目指す保育者像、今後の取り組みに対する具体的な手段や方法を再確認する。

令　和　２　年　　度　　教　　育　　計　　画							
科目名	保育実習指導Ⅰ	授業回数	15	単位数	2	担当教員	大賀恵子・山本婦佐江・濱田佐保子
質問受付の方法（e-mail,オフィスアワー等）：　e-mail:ohga @owc.ac.jp、 OH:土曜２限							

教育目標と学生の学習成果		教育目標　本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である 保育実習に臨むにあたって、保育実習の理論と実践に関わる基礎的な技術及び考え方を身につけることを目的とする。 1. 保育実習の意義・目的を理解する。 2. 実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。 3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 4. 実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。 学生の学習成果 専門的学習成果として、教育目標に挙げる５項目を習得する。 また、汎用的学習成果は以下のように挙げられる。①保育者としての態度・信念の形成に自助努力する。②保育者として適正な価値・判断の基準を形成し、明確に意見表明ができる力を育成する。
教育方法	授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） ①実習の意義目的等を手引きに沿って講義する。 ②実際の実習の手続きを進める。 ③実習に関する具体的な方法を身に付けるため適宜課題を出す。 ④事後指導として、実習を総括し、課題を明確にするためのまとめを行う。
	予習・復習	・授業に対する予習・復習は毎回義務付けられる。 ・授業を受けての「自己課題と対策」などに関しては、シャトルカードに記述し、次回の振り返りと学びの確認に活用する。
	テキスト	必要に応じてプリントを配布する。
学習評価の方法		保育所実習Ⅰ、施設実習のそれぞれについての実習指導を 50：50 の比重で評価し合計 100 点満点とする。各実習で以下の 5 つの学習成果（授業課題、調査表やレポート課題の提出状況）について同じ比重で評価する。提出状況や授業態度については別に示す規定に基づいて減点する。 ①実習の意義・概要を学ぶ。 ②実習の内容と課題の明確化ができる。 ③実習に際しての留意事項を確認する。 ④実習の計画と記録について学ぶ。 ⑤事後指導における実習の総括と課題の明確化。 なお、汎用的学習成果①保育者としての態度・信念は減点内容にて評価する。②保育者として適正な価値・判断の基準と明確な意見表明はレポート等の提出物にて評価される。
注意事項		※「保育実習指導Ⅰ」は、1 年次後期から 2 年次前期にかけて実施される。 ※『保育実習の手引き』配布後は必ず持って来ることとする。 ※授業に必要な資料、書類を毎回確認し、準備すること。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	保育所実習オリエンテーション（以下について理解する。） 1. 履修規定について　　2. 評価について 3. 実習までのスケジュール　　4. 開講にあたっての意識調査 ◆作業：「実習希望先調査表」の配付・説明・課題化
2 回	施設実習オリエンテーション（以下について理解し、身につける。） 1. 履修規定について 2. 評価について 3. 施設実習事前・事後指導テキスト『施設実習の手引』第Ⅰ章『実習の意義と目標』 4. 実習可能施設一覧表 ◆作業：引き続き「実習希望先調査表」の調査・作成
3 回	保育所実習（以下について理解し、身につける。） 1.　事前準備の話、ビデオ「はじめての保育実習」を通じて実習のイメージを形成する。 2.　ボランティアと実習との相違 3.　実習希望先（案）掲示・確認・調整 ◆課題：「開講にあたっての意識調査」
4 回	保育所実習（以下について理解し、身につける。） 1. 実習の意義と目的 2. 実習の段階等 3. 保育実習にあたっての不安に答える Q&A 4. 実習報告会参加についての説明 ◆課題：実習報告会の質問事項を考える（質問事項は当日プリントに書く）
5 回	保育所実習・施設実習（以下について理解し、身につける。） 1. 実習報告会参加 2. 報告会に参加しての学びをまとめる ◆課題：　実習報告会プリントの作成・提出
6 回	保育所実習（以下について理解し、身につける。） 1. 内諾書（岡山県外実習生）配布と手続きの説明 2. ボランティアに関する諸注意 ◆課題：内諾依頼（岡山県外実習生）冬休み中の課題となる。
7 回	施設実習（以下について理解し、身につける。） 施設実習における実習生の心得 1.『施設実習の手引』第Ⅱ章「実習準備」・第Ⅲ章「実習生の心得」 2. 日誌の書き方と記入練習 ◆作業：内諾書（岡山県外実習生）配布と手続きの説明、課題化
8 回	保育所実習（以下について理解し、身につける。） 実習事務訓練 1. 「実習の意義、心構え、社会人としての責任、守秘義務、実習の目標」 2. 事前訪問（事前オリエンテーション）の手順と注意 3. 手作り玩具（2 年生の作品）の作品紹介 ◆春休み課題：実習希望先のボランティア・ボランティア日誌 1.ボランティア（3 日間） 2.レポート「ボランティア園の概要・保育所の一日・日誌 1 日分」 3.手作り玩具の製作（保育実習指導Ⅱの第一回目の授業で提出）

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
9 回	施設実習（以下について理解する。） 1．提出された実習事前レポートについての補足と解説 2.「実習中の基本的態度と注意事項」 3．事前オリエンテーションの事前指導 ◆課題：事前オリエンテーションのために実習施設に電話連絡と内諾を得る。
10 回	施設実習（以下について理解し、身につける。） 施設実習送付書類の配付と説明 および各種準備の確認 1．書式説明　　2．記入の諸注意　　3．参考例による確認 ・「事前オリエンテーションについて」配布 ・「実習生について（個人票)」 ・「評価票」「出勤簿」配布・説明・記述・回収 ・「実習先交通図」配布・説明 ◆課題：実習先までの地図作成と交通機関を調査する。
11 回	施設実習（以下について理解する。） 1．実習中勤務時間外の注意事項 2．日誌の書き方と注意事項 ・施設実習連絡・注意事項(1) ◆課題：一日分の日誌を書く。
12 回	施設実習（以下について理解する。） 1．日誌の書き方と注意事項 2.『実習の手引き』実習生の心得 ・施設実習連絡・注意事項(2) ◆課題：施設実習日誌の「施設オリエンテーション」の欄に施設の概要を書く。
13 回	施設実習（以下について理解し、身につける。） 実習記録の書き方『施設実習の手引』第Ⅳ章 1．実習日誌の記録　　2．日誌欄について　　3．実習生としての姿勢と責任 4．人間関係とマナー ・質疑応答 ・教員による実習先巡回について ◆課題：実習先における事前指導を日誌に記入する。
14 回	施設実習（以下について理解し、身につける。） 施設実習に向けて『実習後のまとめ』 1．諸注意の確認 2．課題の設定 実習終了後の諸注意（施設)『施設実習の手引き』第Ⅴ章 ◆課題：実習後レポートについての説明
15 回	事後指導（施設実習・保育所実習）（以下について理解し、身につける。） 実習後の事後記録記述 ◆課題：施設実習事後レポート ◆課題：実習評価の公開と自己課題の確認

<table>
<tr><td colspan="8">令　和　２　年　　度　　教　　育　　計　　画</td></tr>
<tr><td>科目名</td><td>保育実習指導Ⅱ</td><td>授業回数</td><td>15</td><td>単位数</td><td>1</td><td>担当教員</td><td>大賀恵子・山本婦佐江・濱田佐保子</td></tr>
<tr><td colspan="8">質問受付の方法（e-mail,オフィスアワー等）：　e-mail:ohga @owc.ac.jp、 OH:土曜２限</td></tr>
<tr><td>教育目標と学生の学習成果</td><td colspan="7">教育目標 本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である
保育実習に臨むにあたって、保育実習の理論と実践に関わる基礎的な技術及び考え方を身につけることを目的とする。
1. 保育実習の意義・目的を理解し、保育について総合的に理解する。
2. 実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。
3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。
4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。
5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。
学生の学習成果
専門的学習成果：教育目標に挙げる５項目を習得する。
汎用的学習成果：以下のように挙げられる。①保育者としての態度・信念の形成に自助努力する。②保育者として適正な価値・判断の基準を形成し、明確に意見表明ができる力を育成する。③論理的思考力を培う。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">教育方法</td><td>授業の進め方</td><td colspan="6">（講義・演習・実験・実習・実技）
・実習Ⅱの意義や内容・準備について、春休みに各学生が保育現場を観察してきた体験を基準として「保育所実習の手引」に沿った講義を軸として進める。第 1～4 回
・指導計画については、各項目の記述法が身につくよう演習に重点を置き、添削を行い、見直し、復習しつつ進める。第 5～9 回
・保育士の専門性と職業倫理については、厚生労働省企画の DVD を用い、保育指針と対応させて学ぶ。それに並行して子どもの理解力の発達段階をロールプレイングによって相互点検する。第 10～13 回
・事後指導は、自己の記録を見直し充実させ、自己評価を行い、グループ討議を経て課題解決への方針を立てる。第 14,15 回</td></tr>
<tr><td>予習・復習</td><td colspan="6">講義や演習の内容に合わせ、予習や復習または実習に関する課題等を指示する。</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="6">岡山県保育士養成協議会『保育所実習の手引』（平成 31 年）、フレーベル館『保育所保育指針』平成 29 年告示</td></tr>
<tr><td>学習評価の方法</td><td colspan="7">以下の 5 つの学習成果について均等に評価し、合計 100 点満点とする。ただし、授業態度・課題提出等については別に示す規定に基づいて減点する。
① 保育実習の意義・目的の理解と保育の総合的な学び。提出物
② 保育実践力
③ 計画と観察、記録、自己評価を踏まえた保育の改善に関する学び
④ 保育士の専門性と職業倫理の理解
⑤ 実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする学び
なお、汎用的学習成果について、①は減点内容にて評価する。②と③は小論文の評価に含まれる。</td></tr>
</table>

注意事項	※「保育実習指導Ⅱ」は、2年次前期に開講される。 **※13回目までの内容を実習前に実施する必要がある。**
授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1回	＜保育所実習指導Ⅱオリエンテーション＞ 教育目標1 1. 保育実習Ⅱの意義と目標　　2.評価について ・講義：「保育所実習の手引 第Ⅰ章」① について理解する。 ・演習：DVD「保育士・幼稚園教諭になるためにー保育士の仕事と役割ー」を通じて実習のイメージを形成する。 ◆課題：「実習生について（個人票)」下書きの説明と記入
2回	＜実習の内容について＞ 教育目標1 ・講義：「保育所実習の手引 第Ⅰ章」② について理解する。 ・演習：上記についてワークシートを用いてまとめる。 ◆課題：「実習園への巡回用地図」作成・提出 送付書類「評価票」「出勤簿」の必要事項記述
3回	＜実習の形態と記録について＞ 教育目標1 ・講義：「保育所実習の手引 第Ⅱ・Ⅲ章」 について理解する。 ・演習： 上記についてワークシートを用いてまとめる。 ・演習： 春休み観察実習の日誌からを見返し、各項目の点検及び文体等の留意点を解説に沿って自己点検する。 ◆課題： 検便・レントゲン検診結果証明書・賠償保険についての依頼書記入
4回	＜保育の理解について＞ 教育目標1・2 ・講義：「保育所実習の手引 第Ⅳ章」 について理解する。 ◆課題： 実習園でのオリエンテーション 実習服装準備(エプロン等)
5回	＜保育計画について＞ 教育目標1・2 ・講義：日誌・指導案の書き方について理解する。 ・演習：月案・週案・日案・指導案の書き方など各項目についての解説に沿って整理し、まとめを記述する。指導案の「環境構成」「予想される子どもの活動」「保育場の配慮・援助」を解説に沿って記述する。 ◆課題：部分指導案例の通読
6回	＜指導案作成について＞ 教育目標2・3 ・講義：部分指導「マラカス作り」の指導案（1年後期授業より）の確認、指導を受けて要領を理解する。 ・演習：グループごとに部分指導「マラカス作り」の模擬保育を行い、内容の反省と考察を行う。(模擬保育室で実践) ◆課題：演習課題の完成と提出
7回	＜指導案作成について＞ 教育目標2・3 ・講義：「生活から遊びへの流れ」について3歳未満児と3歳以上児の違いや保育士の動きの違いに関する指導を受けて、要領を理解する。 ・演習：①前回提出指導案の返却。添削と解説を受けて要領を理解する。 ②グループごとに「食事の指導案（3歳未満と3歳以上）から遊び」への流れの模擬保育を行い、内容について反省と考察を行う。(模擬保育室で実践) ◆課題：演習課題の完成と提出

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
8 回	＜指導案作成について＞ 教育目標２・３ ・演習：前回提出指導案の返却。添削と解説を受けて要領を理解する。 ・演習：「遊びの指導案作成①　グループごとに遊びと年齢を決めて指導案を作成する。 ◆課題：演習内容の完成
9 回	＜指導案作成について＞ 教育目標２・３ ・演習：「遊びの指導案作成②　グループごとに遊びと年齢を決めて指導案を作成する。 ・演習：ワークシート「指導案の中の７つのエラー探し」をする。 ◆課題：①「学内オリエンテーション」「実習園でのオリエンテーション」記述・提出 ②「実習の自己課題」を考えてくる。
10 回	＜実習の準備と留意事項＞ 教育目標２・３・４ ・講義：「保育所実習の手引 第Ⅴ章」 について理解する。 ・演習：実習の自己課題をまとめる。 ◆課題：実習の目標を確認し「実習の自己課題」を記述・提出
11 回	＜保育所保育指針復習①＞ ・演習：保育所保育指針 第１章総則の視点からワークシートを用いてまとめる。 ＜実習のまとめと評価について＞ 教育目標１・４ ・講義：「保育所実習の手引 第Ⅵ章」「保育所実習評価の着眼点」 について理解する。 ◆課題：保育実習巡指導の依頼
12 回	＜保育所保育指針復習②＞ ・演習：保育所保育指針 第２章からワークシートを用いてまとめる。 ＜実習書類と諸注意＞ 教育目標１・４ ・講義：「保育所実習の手引 Ⅴ実習のまとめ」 について理解する。 ◆課題：日誌バインダーの見直し、必要な場合は清書する。
13 回	＜保育実習の直前確認＞ 教育目標２ ・講義：園への依頼内容、実習中の連絡・報告等に関する確認 について理解する。
14 回	＜保育実習の総括①＞ 教育目標５ ・演習：実習園が行う評価票と同じ視点で自己評価を行い、課題をまとめる。 ◆復習：実習の意義と目的を確認し、自己評価に基づき保育に対する課題や認識を明確にする。 課題：実習園へのお礼状送付
15 回	＜保育実習の総括②＞ 教育目標５ ・演習：前回まとめた自己課題に対し、学生時代にどのようにして解決するべきかグループで討議し、方針と決意・覚悟を文章にまとめる。 ◆振り返り：保育士の専門性と職業倫理について理解し、保育実践力の向上に役立つ自己の課題を明確にする。

令　和　２　年　度　教　育　計　画							
科目名	子どもの保健	授業回数	15	単位数	2	担当教員	野々上 敬子
質問受付の方法（e-mail,オフィスアワー等）：授業終了後受け付けます							

教育目標と学生の学習成果

教育目標：

1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する
2. 子どもの身体的な発育・発達と保健について理解する
3. 子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する
4. 子どもの疾病とその予防法及び多職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する

子どもの健康管理についての諸問題に関心を持ち，よりよき健康支援のために，主体的に考え，解決しようとする意欲と態度を身につける。

学生の学習成果：

専門的学習成果として、教育目標に掲げる事項の知識を習得し、理解する力を獲得する。また、汎用的学習成果として、保育者に不適切な言動を知り、努力する力を涵養する。

教育方法

授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） 1.基本的には、テキストに補足し視聴覚機器を活用し授業を進める 2.授業内容の理解を深めるために小レポートを作成する 3.主体的学習を身につけるために予習と復習を奨励する
予習・復習	・毎回授業後は、復習しておくこと ・毎回の授業前までには、教育内容の範囲についてテキストを読んでおくこと ・次回授業計画の範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと ・新聞の保健情報をよく読んでおくこと
テキスト	子どもと社会の未来を拓く「子どもの保健」　　八木利津子編　青鞜社 ISBN　978-4-902636-62-8　　C3037

学習評価の方法

以下の４点の学習成果についての理解を評価する

1.子どもの心身の健康と保健の意義
2.子どもの身体的発育・発達と保健
3.子どもの心身の健康状態とその把握
4.子どもの疾病の予防及び適切な対応

評価方法と配点：

定期試験	70%
小レポート	15%
授業態度	15%

注意事項

・参考図書等：適宜紹介する
・保育士資格必修科目

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	・ガイダンス【授業内容、方法、授業態度、認定方法等】 ・子どもの心身の健康と保健の意義
2 回	・子どもの心身の健康と保健の意義 　子どもの発育・発達と保健
3 回	・子どもの心身の健康と保健の意義 　現代社会における子どもの健康に関する現状と課題
4 回	・子どもの心身の健康 　基本的生活習慣
5 回	・子どもの身体的発育・発達と保健 　保健指導
6 回	・体調不良などに対する適切な対応 　子どもに多く見られる症状への対応
7 回	・障害がある子供への適切な対応 　子どもの慢性疾患
8 回	・子どもの心身の健康状態とその把握 　子ども虐待防止
9 回	・感染症対策 　子どもの感染症
10 回	・感染症対策 　感染症の予防
11 回	・子どもの事故の現状と課題 　子どもの発達段階と事故
12 回	・保育現場における安全教育と安全管理 　安全教育
13 回	・事故・けがに対する応急手当 　傷害時の応急手当
14 回	・事故・けがに対する救命措置 　胸骨圧迫・人工呼吸・ＡＥＤの使用
15 回	・子どもの保健のまとめ

令　和　２　年　度　教　育　計　画							
科目名	子どもの保健と安全	授業回数	15	単位数	1	担当教員	野々上 敬子
質問受付の方法（e-mail,オフィスアワー等）：授業終了後受け付けます							

教育目標と学生の学習成果		教育目標： 1. 保健的観点を踏まえた保育環境及び援助 2. 保育園における健康及び安全の管理 3. 子どもの体調不良等に対する適切な対応 4. 感染症対策 5. 保育における保健的対応 6. 健康及び安全の管理の実施体制 子どもの健康管理についての諸問題に関心を持ち，よりよき健康支援のために，主体的に考え，解決しようとする意欲と態度を身につける。 学生の学習成果： 専門的学習成果として、教育目標に掲げる事項の知識を習得し、理解する力を獲得する。また、汎用的学習成果として、保育者に不適切な言動を知り、努力する力を涵養する。
教育方法	授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） 1.基本的には、テキストに補足し視聴覚機器を活用し授業を進める 2.授業内容の理解を深めるために小レポートを作成する 3.主体的学習を身につけるために予習と復習を奨励する
	予習・復習	・毎回授業後は、復習しておくこと ・毎回の授業前までには、教育内容の範囲についてテキストを読んでおくこと ・次回授業計画の範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと ・新聞の保健情報をよく読んでおくこと
	テキスト	子どもと社会の未来を拓く「子どもの健康と安全」　　八木利津子他 著　青鞜社 ISBN 978-4-902636-61-1 C3037
学習評価の方法		以下の６つの学習成果についての理解を評価する 1.保健的観点を踏まえた保育環境及び援助 2.保育における健康及び安全の管理 3.子どもの体調不良等に対する適切な対応 4.感染症対策 5.保育における保健的対応 6.健康及び安全の管理の実施体制 評価方法と配点： 定期試験　50% 小レポート　15% 授業態度　15% 発表　20%
注意事項		・参考図書等：適宜紹介する ・保育士資格必修科目

授　業　回　数　別	教　育　内　容
1 回	・ガイダンス 　子どもの健康と安全の必要性　本教科のすすめ方・目的・目標・内容・方法
2 回	・子どもの発育 　正しい身体計測の方法と発育の評価の仕方を理解する
3 回	・子どもの発達 　運動発達・精神発達を理解する
4 回	・子どもの健康状態 　生理機能の発達を理解する
5 回	・子どもの養護 　抱き方、寝かせ方、衣着脱、身体の清潔法などの実習
6 回	・子どもの生活習慣と心身の健康 　生活習慣の基本となる生活リズムを理解する
7 回	・子どもの養護 　食育について　食事の与え方などの実習
8 回	・子どもの養護 　口腔内の衛生　歯みがきなどの実習
9 回	・子どもの病気 　体調不良時の対応や看護の仕方を理解する
10 回	・子どもの事故と応急処置 　事故・けがに対応する技能の習得 応急処置に習熟する実習
11 回	・救命処置について理解する
12 回	・心肺蘇生法 　心肺蘇生法の技能を習得
13 回	・健康教育の発表 　作成した資料を使っての発表
14 回	・健康教育の発表 　作成した資料を使っての発表
15 回	・全体総括 　子どもの保健と安全のまとめ

<table>
<tr><td colspan="8">令　和　２　年　度　教　育　計　画</td></tr>
<tr><td>科目名</td><td>子どもの食と栄養</td><td>授業回数</td><td>15</td><td>単位数</td><td>2</td><td>担当教員</td><td>高槻　悦子</td></tr>
<tr><td colspan="8">質問受付の方法（e-mail,オフィスアワー等）：C 棟研究室において授業時間外に受け付ける</td></tr>
<tr><td>教育目標と学生の学習成果</td><td colspan="7">教育目標：
　小児栄養の基本的理論を理解した上で、保育の実際との関連において以下の実践的な理解をすることを目標とする。
　１．子どもの食生活の現状と課題についての理解
　２．子どもの発育・発達と食生活の関連についての理解
　３．保育における食育の意義・目的、基本的考え方、その内容についての理解
　４．特別な配慮を要する子どもの食と栄養についての理解
　また、保育士には園児の保護者だけでなく、地域の子育て支援も期待されていることから、子供の心身の健康のための望ましい食環境とはどのようなものかを的確に捉えて食教育の実践ができる保育者をめざす。
学生の学習成果：
　専門的学習成果：上記の教育目標に掲げた理論の理解や実践力を身につける。
　汎用的学習成果：専門的学習成果の獲得とともに自らの食生活を振り返り、保育者としてふさわしい食生活を実践できるようになる。それにより、子どもに対する食育、地域の子育て支援としての食育についても実践できる。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">教育方法</td><td>授業の進め方</td><td colspan="6">（講義・演習・実験・実習・実技）
講義テーマにそった課題を提出する。
後半には実際の保育の場を想定した指導案や教材を作成し、その教材を使った栄養・食教育を実演し、お互いに評価する時間を持つ</td></tr>
<tr><td>予習・復習</td><td colspan="6">・毎授業回前には、「授業回数別教育内容」に記された予習を求める。
・復習として毎授業回後のノート整理をし、課題は指定日までに必ず提出すること</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="6">新藤　由紀子　他著「発育期の子どもの食生活と栄養」学建書院</td></tr>
<tr><td>学習評価の方法</td><td colspan="7">専門的学習成果として栄養に関する基礎知識を基に１～４について、その獲得度合いを期末試験（筆記試験）により量的に評価する。
汎用的学習成果として①～③について、演習・課題レポートにより評価する
　①自らの食生活を振り返り、保育者としてふさわしい食生活が実践できる。
　②子どもの発育発達にあった食事ができる。③子どもに対する食育を実践できる。
評価点（100）＝期末試験（筆記試験）の得点（70）＋演習・課題レポート（30）
　　60 点以上を合格とする。
受講態度に問題があった者は、保育者としての倫理観が十分でないとして、ケースに応じて減点する。</td></tr>
<tr><td>注意事項</td><td colspan="7">参考図書等
幼稚園教育要領　保育所保育指針＜原本＞　チャイルド本社
保育所保育指針　解説書　厚生労働省編　フレーベル館
「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」（平成 23 年 3 月厚生労働省）
「保育所における食事の提供のガイドガイドライン」（平成 24 年 3 月厚生労働省）</td></tr>
</table>

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	オリエンテーション 講義内容　授業の進め方、スケジュール、学習評価の方法について説明する。 ＜子どもの健康と食生活の意義①＞－子どもの心身の健康と食生活 子どもが将来適切な食生活を送るための「食を営む力」は胎生期から思春期までの間にその子どもを取り巻くおとなの食生活や行動、会話などによって確立していく。保育士として、食事の時間は心を育む重要な機会であることを学ぶ
2 回	＜子どもの健康と食生活の意義②＞－子どもの食生活の現状と課題 子育て家庭の現状から、子どもの食に影響を及ぼす要因を示す。それにより保育士に求められる食の健全育成のための課題を見つけ、自らも食べることや健康に関心を持つことができるようになる。 （予習事項）教科書Ｐ2～7 を読んでおく （復習事項）プリントの整理
3 回	＜栄養に関する基礎知識①＞－栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能 何のために食べるのかを考える。生きていくために必要な食品中の成分（栄養素）とそれを体内に取り入れて利用する営みを栄養という。５大栄養素の働きを理解し、食品に含まれる栄養素の種類によって食品を食品群別に分けることができるようになる。 （予習事項）教科書Ｐ8～20 を読んでおく （課題）自分の食べた夕食を６つの基礎食品群に分けてみよう
4 回	＜栄養に関する基礎知識②＞－食品に関する基礎知識、食事摂取基準と献立作成・調理の基本 食事摂取基準を実際の食生活で展開できるように作成された「食事バランスガイド」を使って、「何をどのくらい、どのように食べたらよいか」を知り、自分の食生活を見直すことができる。 （予習事項）教科書Ｐ20～37 を読んでおく （課題）自分が食べた１日分の食事を食事バランスガイドでチェックしてみよう
5 回	＜子どもの発育・発達と食生活①＞－授乳期の食生活と母乳分泌・乳汁期の食生活 乳汁期は人の一生の中で、最も発育が盛んな時期で、この発育のために栄養素がたくさん必要になる。母乳栄養・人工栄養の特徴を知り、母子の健康維持、健やかな親子関係を築くための支援ができるようになる。　調乳のしかたがわかる。 （予習事項）教科書Ｐ38～55 を読んでおく （復習事項）プリントの整理（母乳栄養と人工栄養の利点、調乳の手順）
6 回	＜子どもの発育･発達と食生活②＞－離乳期の食生活　離乳食の役割　離乳の計画と進め方 乳汁栄養から幼児食に移行する過程（離乳期）は、乳汁（液状のもの）だけをを「吸う」ことで栄養を取ってきた乳児が、形ある食べものを「食べる」という機能や食事の基本を学習する大切な時期である。離乳期の乳児の精神的・身体的発達の特徴をとらえ、離乳を計画的に進めることを適切に支援できるようになる。 （予習事項）教科書Ｐ56～75 を読んでおく （復習事項）プリントの整理（離乳食の進め方・手づかみ食べ）
7 回	＜子どもの発育・発達と食生活③＞－幼児期の食生活　間食の意義　お弁当 食生活の基本は幼児期に築かれる。幼児期に身につけるべき食生活の基本と必要な栄養素の摂取の仕方を理解することができる。その方法としての幼児の間食やお弁当について考えることができる。 （予習事項）教科書Ｐ76～86 を読んでおく （課題）幼児が喜ぶお弁当を考えてみよう

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
8 回	＜子どもの発育・発達と食生活④＞－学童期の食生活・食生活上の問題点　学校給食 学童期の食生活が食習慣になりやすいと言われる。学童期の食生活で注意すべき点を理解し、児童に望ましい食習慣形成のための支援ができるようになる。 （予習事項）教科書Ｐ87～94 を読んでおく （復習事項）プリントの整理
9 回	＜食育の基本と内容①＞－食育基本法・保育所保育指針・保育所における食育に関する指針 「食育とは」何かを法令や国の施策の面から理解し、実際に保育所で食育を推進するために行われている食育やその推進のしかたを学ぶ。 （予習事項）教科書Ｐ100～103 を読んでおく （復習事項）プリントの整理
10 回	＜食育の基本と内容②＞－食育における養護と教育の一体性、食育の内容と計画・評価 保育所等で行われている食育やその推進のしかた・考え方を理解し、保育計画の中に食育の計画を組み入れて立てることができる。 （予習事項）教科書Ｐ100～106 を読んでおく （復習事項）プリントの整理
11 回	＜食育の基本と内容③＞－食生活指導及び保護者への支援　現状と今後の課題 子どもの食育は各施設内でのみ行われるのではなく、社会全体が総合的に推進すべきものである。家庭や地域の方とともに一緒に食育を推進していくために、自らの専門性を生かし、社会資源を活用しながら、他職種と連携して保護者や子どもへの食育を実践することを理解する。 （予習事項）教科書Ｐ106～110 を読んでおく （復習事項）プリントの整理
12 回	＜食育の基本と内容④＞－保育者による栄養・食育の実践 保育所の給食時間を想定し、「今日の給食」について媒体を作成し、食育を実践できるようになる。 （課題）クイズ　「わたしはだれでしょう」　媒体作成
13 回	＜食育の基本と内容⑤＞－保育者による栄養・食育の実践 作成した媒体を使って、食育の実践発表を行い、自己及び他者の評価ができる。 （課題）クイズ　「わたしはだれでしょう」　媒体作成・発表
14 回	＜児童福祉施設における食事と栄養＞－児童福祉施設の特徴と給食 児童福祉施設は児童福祉法を根拠法令とした児童（保護者を含む）を心身ともに健やかに育成することを目的とした施設である。そのために子どもの食事・食生活を支援している。各施設における食事提供の考え方を理解し、給食を実施するにあたっての支援の仕方を学ぶ。 （予習事項）教科書Ｐ118～132 を読んでおく （復習事項）プリントの整理
15 回	＜特別な配慮を要する子どもの食と栄養＞ 疾病及び体調不良の子ども・食物アレルギーのある子ども・障害のあるこどもの食に対する問題点は様々で、個に応じた対応が必要である。その対応時のポイントを学ぶ。 （予習事項）教科書Ｐ134～144 を読んでおく （復習事項）プリントの整理 「子どもの食と栄養」のまとめ

<table>
<tr><td colspan="8">令　和　２　年　度　教　育　計　画</td></tr>
<tr><td>科目名</td><td>保育内容総論</td><td>授業回数</td><td>15</td><td>単位数</td><td>1</td><td>担当教員</td><td>福野　裕美</td></tr>
<tr><td colspan="8">質問受付の方法　e-mail: yfukuno@owc.ac.jp　OH：木曜日 12:20～13:00
その他在室時は何時でも可（M 棟 410）</td></tr>
<tr><td>教育目標と学生の学習成果</td><td colspan="7">教育目標：本講は、幼稚園・保育所における保育の基本と内容について総合的に理解するとともに、実習体験をもとに保育者に大切な考え方やものの見方について省察することを目的とする。具体的には、以下の事柄に関して理解を深め、今後求められる保育内容の在り方について考えていく。
１．保育の全体的な構造
２．保育内容の歴史的変遷
３．保育内容と子ども理解とのかかわり
４．養護と教育の一体的展開
５．保育の多様な展開
学生の学習成果：
専門的学習成果：上記の項目に関する基礎的知識を習得すること。
汎用的学習成果：①保育士として相応しい価値を知り、自分なりの意見を確立することができること、②論理的思考力を身に付けること。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">教育方法</td><td>授業の進め方</td><td colspan="6">（講義・演習・実験・実習・実技）
・レジュメに基づく講義形式を中心に進める。受講生の興味関心に応じてグループディスカッション等の活動を行うこともある。
・講義内容の理解を促進するために、授業中に小テストを課す。
・講義内容の理解を深めるために、授業後にシャトルカードの記入を求める。その返答を次回の講義の際に行うことにより、双方向的な講義づくりをする。</td></tr>
<tr><td>予習・復習</td><td colspan="6">予習事項：各回の授業で学習する内容についてテキストを読み、疑問点を明確にする。
復習事項：テキストおよび授業で配付されたレジュメを読む。各回の復習キーワードを中心に、授業で出てきた用語の意味を説明できるようにする。その他の復習課題については各回の授業で提示する。</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="6">津金美智子・新井美保子編『子どもの主体性を育む　保育内容総論』みらい、2018 年。</td></tr>
<tr><td>学習評価の方法</td><td colspan="7">以下の学習成果に関して、同等の比重で評価する。
１．保育の全体的な構造について理解している。
２．保育内容の歴史的変遷について理解している。
３．保育内容と子ども理解とのかかわりについて理解している。
４．養護と教育の一体的展開について理解している。
５．保育の多様な展開について理解している。
学習評価は、学期末に行う試験（80%）、小テスト（10%）、課題（10%）によって実施する。</td></tr>
<tr><td>注意事項</td><td colspan="7">参考図書等：
『保育所保育指針』
『幼稚園教育要領』
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』</td></tr>
</table>

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	〈オリエンテーション〉 ○本時の目標 　本時では、本講の目的、授業の進め方、成績評価の方法等について理解するとともに、保育内容について学ぶ意味を理解する。 ○本時の活動 　・オリエンテーション：本科目の全体目標、授業スケジュール、成績評価等の説明。 　・配付資料を用いて解説する。 ○本時の学習成果 　本科目の概要について理解し、保育内容の意味、保育内容を学ぶ意味を理解している。 ○予習及び復習事項 　予習事項：テキストの目次を中心に一通り目を通してくる。 　復習事項：授業で配付されたレジュメを参照し、本日の授業の要点をまとめる。
2 回	〈幼児教育・保育の基本〉 ○本時の目標 　本時では、保育所、幼稚園、認定こども園の概要を理解するとともに、保育内容の全体像を理解する。 ○本時の活動 　・テキスト（11-40 頁）及び配付資料で解説する。 ○本時の学習成果 　保育所、幼稚園、認定こども園について、それぞれの制度的な特徴を理解している。 ○予習及び復習事項 　予習事項：テキスト 11～40 頁を読んでくる。 　復習事項：授業で配付されたレジュメを参照し、【キーワード：保育所、幼稚園、認定こども園】の意味を確認する。
3 回	〈保育内容の国家的基準〉 ○本時の目標 　本時では、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領にどのようなことが規定されているのかを理解する。 ○本時の活動 　・テキスト（41～53 頁）及び配付資料で解説する。 ○本時の学習成果 　2017（平成 29）年に改訂・改定されたポイントを理解している。 ○予習及び復習事項 　予習事項：テキスト 41～53 頁を読んでくる。 　復習事項：授業で配付されたレジュメを参照し、【キーワード：幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領】の意味を確認する。
4 回	〈０・１歳児の保育内容〉 ○本時の目標 　本時では、０歳児と１歳児の発達的特徴や保育のあり方について、事例をもとに理解する。 ○本時の活動 　・テキスト（65～82 頁）及び配付資料で解説する。 ○本時の学習成果 　０歳児と１歳児の発達の様子と各年齢の保育上の留意点を理解している。 ○予習及び復習事項 　予習事項：テキスト 65～82 頁を読んでくる。 　復習事項：授業で配付されたレジュメを参照し、【キーワード：生理的早産、誤嚥・誤食】の意味を確認する。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
5 回	〈２歳児の保育内容〉 ○本時の目標 本時では、２歳児の発達的特徴や保育のあり方について、事例をもとに理解する。 ○本時の活動 ・テキスト（83～91 頁）及び配付資料で解説する。 ○本時の学習成果 ２歳児の発達の様子と保育上の留意点を理解している。 ○予習及び復習事項 予習事項：テキスト 83～91 頁を読んでくる。 復習事項：授業で配付されたレジュメを参照し、【キーワード：第一次反抗期、イヤイヤ期】の意味を確認する。
6 回	〈３歳児の保育内容〉 ○本時の目標 本時では、３歳児の発達的特徴や保育のあり方について、事例をもとに理解する。 ○本時の活動 ・テキスト（92～100 頁）及び配付資料で解説する。 ○本時の学習成果 ３歳児の発達の様子と保育上の留意点を理解している。 ○予習及び復習事項 予習事項：テキスト 92～100 頁を読んでくる。 復習事項：授業で配付されたレジュメを参照し、【キーワード：母子分離】の意味を確認する。
7 回	〈４歳児の保育内容〉 ○本時の目標 本時では、４歳児の発達的特徴や保育のあり方について、事例をもとに理解する。 ○本時の活動 ・テキスト（101～110 頁）及び配付資料で解説する。 ○本時の学習成果 ４歳児の発達の様子と保育上の留意点を理解している。 ○予習及び復習事項 予習事項：テキスト 101～110 頁を読んでくる。 復習事項：授業で配付されたレジュメを参照し、【キーワード：他者の認識】の意味を確認する。
8 回	〈５歳児の保育内容〉 ○本時の目標 本時では、５歳児の発達的特徴や保育のあり方について、事例をもとに理解する。 ○本時の活動 ・テキスト（111～125 頁）及び配付資料で解説する。 ○本時の学習成果 ５歳児の発達の様子と保育上の留意点を理解している。 ○予習及び復習事項 予習事項：テキスト 111～125 頁を読んでくる。 復習事項：授業で配付されたレジュメを参照し、【キーワード：小学校との連携】の意味を確認する。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
9 ・ 10 回	〈遊びと保育内容〉 ○本時の目標 本時では、保育所での保育に関する DVD を視聴し、子どもの遊びをみる視点と援助の基本について理解する。 ○本時の活動 ・テキスト（54～64 頁）及び配付資料で解説する。 ○本時の学習成果 遊びを広げ発展させる援助のあり方について理解している。 ○予習及び復習事項 予習事項：テキスト 54～64 頁を読んでくる。 復習事項：授業で配付されたレジュメを参照し、【キーワード：遊びを通しての総合的な指導】の意味を確認する。
11 回	〈保育の計画〉 ○本時の目標 本時では、保育の全体的な計画、カリキュラム・マネジメントおよび指導計画の意義、指導計画の種類、作成上の留意事項等について理解する。 ○本時の活動 ・テキスト（126～141 頁）及び配付資料で解説する。 ○本時の学習成果 保育における計画の意義や指導計画の作成と展開について理解している。 ○予習及び復習事項 予習事項：テキスト 126～141 頁を読んでくる。 復習事項：授業で配付されたレジュメを参照し、【キーワード：保育の全体的な計画、カリキュラム・マネジメント】の意味を確認する。
12 回	〈保育の記録と評価〉 ○本時の目標 本時では、保育における評価の意義やさまざまな評価の種類や方法について理解する。 ○本時の活動 ・テキスト（142～151 頁）及び配付資料で解説する。 ○本時の学習成果 評価を行うことの意義とともに、その種類や方法を理解している。 ○予習及び復習事項 予習事項：テキスト 142～151 頁を読んでくる。 復習事項：授業で配付されたレジュメを参照し、【キーワード：自己評価、第三者評価、要録】の意味を確認する。
13 回	〈保育内容の変遷について〉 ○本時の目標 本時では、明治から現代までの保育内容の変遷を確認し、これからの保育内容に求められる方向性について理解する。 ○本時の活動 ・テキスト（161～176 頁）及び配付資料で解説する。 ○本時の学習成果 保育内容の変遷やこれからの保育内容に求められる方向性について理解している。 ○予習及び復習事項 予習事項：テキスト 161～176 頁を読んでくる。 復習事項：授業で配付されたレジュメを参照し、【キーワード：東京女子師範学校附属幼稚園、保育要領】の意味を確認する。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
14 回	〈現代の保育の課題・家庭や地域との連携〉 ○本時の目標 本時では、現代の保育の課題、家庭や地域との連携について理解する。 ○本時の活動 ・テキスト（152～160 頁、193～205 頁）及び配付資料で解説する。 ○本時の学習成果 現代の保育の課題、家庭や地域との連携について理解し、自分の意見を述べることができる。 ○予習及び復習事項 予習事項：テキスト 152～160 頁、193～205 頁を読んでくる。 復習事項：授業で配付されたレジュメを参照し、【キーワード：特別な支援を必要とする子ども、多文化共生、食育】の意味を確認する。
15 回	〈まとめ：これまでの学習内容の総復習〉 ○本時の目標 これまでの学習内容の重要なポイントを振り返り、重要事項を理解する。 ○本時の活動 ・配付資料で解説する。 ○本時の学習成果 これまでの授業で学んだ重要事項を理解している。 ○予習及び復習事項 予習事項：これまでの授業で理解が不十分な箇所をまとめ、質問できるようにしておく。 復習事項：授業で配付されたすべてのレジュメおよび資料を見直す。

<table>
<tr><td colspan="8">令　和　2　年　度　教　育　計　画</td></tr>
<tr><td>科目名</td><td>教育課程論及び教育方法・技術論</td><td>授業回数</td><td>15</td><td>単位数</td><td>2</td><td>担当教員</td><td>都田修兵・山本婦佐江
原田俊孝・福野裕美</td></tr>
<tr><td colspan="8">質問受付の方法（e-mail、オフィスアワー）：stsuda@owc.ac.jp、OH：土曜日２限目</td></tr>
<tr><td>教育目標と学生の学習成果</td><td colspan="7">本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である
本科目では、子どもたち（とくには幼児教育期）に求められる資質や能力を育成するために必要である教育の方法及び技術の基礎的な知識と技能を習得するとともに、ICT などの情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能も習得する。また、幼稚園教育要領などを基準として編成される教育課程の意義や編成方法を理解するとともに、各園や学校に合わせてカリキュラム・マネジメントを実施することの意義を理解する。
具体的には、「教職課程コアカリキュラム」に対応する以下の目標を達成するものとする。
（1）教育の方法論
これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解する。
（2）教育の技術
教育の目的に適した指導技術を理解し、身に付ける。
（3）情報機器及び教材の活用
情報機器を活用した効果的な授業や適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身に付ける。
（4）教育課程の意義
学校教育において教育課程が有する役割・機能・意義を理解する。
（5）教育課程編成の方法
教育課程編成の基本原理及び学校の教育実践に即した教育課程編成の方法を理解する。
（6）カリキュラム・マネジメント
教科・領域・学年をまたいでカリキュラムを把握し、学校教育課程全体をマネジメントすることの意義を理解する。

＜専門的学習成果＞
本科目における「専門的学習成果」は、教育目標に示す（1）から（6）までを理解し、「教職」についての基礎的事項を修得することである。
＜汎用的学習成果＞
本科目における「汎用的学習成果」は、「価値・意見」、情報リテラシー・数量的スキル」及び「論理的思考力」の獲得である。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">教育方法</td><td>授業の進め方</td><td colspan="6">（講義・演習・実験・実習・実技）
・主として講義形式による。
・授業時間内外に取り組む課題（保育指導案）を課す。</td></tr>
<tr><td>予習・復習</td><td colspan="6">予習事項
毎授業回前に、「授業回数別教育内容」に記された予習を求める。
復習事項
毎授業回後に復習を求める。
※復習でわからないことがあった学生には、OH などを利用しながら、学習成果を高める援助を行う。</td></tr>
<tr><td>テキスト</td><td colspan="6">柴田義松・山崎準二編『教育の方法と技術〈第三版〉』学文社、2019（初版 2001）。</td></tr>
</table>

学習評価の方法	＜学習評価の観点＞ 学習評価の観点は下記の通りである。 ●「専門的学習成果」については、教育目標にも掲げた（１）から（６）の観点に基づき行う。 （１）教育の方法論 （２）教育の技術 （３）情報機器及び教材の活用 （４）教育課程の意義 （５）教育課程編成の方法 （６）カリキュラム・マネジメント ●「汎用的学習成果」については「教育目標」でも示した「価値・意見」、情報リテラシー・数量的スキル」及び「論理的思考力」の獲得の状況に基づき行う。 ＜学習評価の方法＞ 学習評価は以下の方法により実施することとする。 （１）定期試験（60 点） 「専門的学習成果」の学習評価の方法は、学習評価の観点（１）（３）、及び（４）～（６）までにかかる内容についての定期試験（60 点分）を実施する。なお、出題は「選択問題」「簡単な記述問題」「論述問題」等から構成することとする。 （２）指導案作成（汎用的学習成果）（40 点） 「汎用的学習成果」の学習評価の方法は、授業課題である「指導案作成」の得点をもって行う。 （３）その他 ただし、学習評価の方法（１）（２）以外に受講態度に問題があった者は、保育者としての倫理観が十分でないとして、 以下のケースに応じて減点することとする。 ・「過度の居眠り」及び「不必要な私語」（１点） ・「無許可による携帯電話の使用（SNS 等）」（２点）
注意事項	●定期試験 ・「学則施行細則」第７条により、本科目について３分の２以上出席をしなければ試験を受けることはできない（受験資格なし）。 ・「学則施行細則」第７条により、学習評価は 100 点法をもって採点し、80 点以上を優、70 点以上 80 点未満を良、60 点以上 70 点未満を可、60 点未満を不可とする。 ●再試験 ・「学則施行細則」第７条により、定期試験が不可の者に対して再試験の機会を与え、願により再試験を受けることができる。ただし、講義及び演習の授業科目の再試験は 100 点法による筆記試験とし、その他の評価点（本科目については、学習評価の方法における（２）（３）（４））は含めず、再試験による 60 点以上の得点者はすべて 60 点の学習評価とする。 ●追試験 ・「学則施行細則」第７条により、定期試験の際、病気その他止むを得ない事情により受験不能であった者に対しては、その理由が正当であると認められた場合に限り、願により追試験を受けることができるが、追試験による 80 点以上の得点者はすべて 80 点の学習評価とする。 ＜参考図書＞ ・師岡章編著『幼児教育の指導法』放送大学教育振興会、2015。 ・中川一史ほか編著『教育のための ICT 活用』放送大学教育振興会、2017。 ・田中耕治編『よくわかる教育課程』ミネルヴァ書房、2009。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	＜オリエンテーション、教育技術とは何か＞（都田） ○本時の目標 本時では、本科目の全体目標及び授業スケジュール、成績評価等について理解するとともに、本科目が「教育実践の様式と技術を原理的に探求する」ものであることを理解するとともに、「教育技術」がどのような技術かを理解する。 ○本時の活動 ・オリエンテーション 本科目の全体目標、授業スケジュール、成績評価等の説明。 ・テキスト（pp. 105-135）で解説する。 ○本時の学習成果 本科目の概要について理解し、「教育技術」がどのような技術かを理解している。 ○予習及び復習事項 予習事項：テキストの該当箇所を読む。 復習事項：再度テキストの該当箇所及び自身のノートを見ながら、本時の内容をおさえる。
2 回	＜教育方法の基礎的理論と実践①＞（都田） ○本時の目標 本時では、教育方法について歴史的視点、とくにはソクラテス法（産婆術）とコメニウスの教授法、ルソーの教育、ペスタロッチーの開発教授法を中心としながら、その基礎的理論と実践を理解する。 ○本時の活動 ・テキスト（pp. 5-13）で解説する。。 ○本時の学習成果 ソクラテス法（産婆術）とコメニウスの教授法、ルソーの教育までの教育方法の理論と実践を理解しているとともに、現代の教育方法との関連についても説明できる。 ○予習及び復習事項 予習事項：テキストの該当箇所を読む。 自身の経験を振り返って、どのような授業があったかを考える。 復習事項：テキスト及び自身のノートを読み返しながら、教育方法の理論と実践を歴史的に整理する。
3 回	＜教育方法の基礎的理解と実践②＞（都田） ○本時の目標 ヘルバルト及びヘルバルト学派の教授法、世界新教育運動までの多様な教育改革実践を理解しながら、学級や子ども、教員や教材などの現代の教育あるいは保育を構成する基礎的要件についての理解を深める。 ○本時の活動 ・テキスト（pp. 14-29）で解説する。 ○本時の学習成果 前回の内容と関連させながら、ヘルバルト及びヘルバルト学派の教授法、世界新教育運動までの多様な教育改革実践から学級や子ども、教員や教材などの教育あるいは保育を構成する基礎的要件について説明することができる。 ○予習及び復習事項 予習事項：テキストの該当箇所を読む。 テキストを読んで、理解することが難しいところなどを考えておく。 復習事項：前回とあわせて、現代における教育方法の在り方について整理する。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
4 回	＜現代に求められる教育方法＞（都田） ○本時の目標 近代日本の学校と教育実践改革を概観しながら、現代の子どもたちに求められている資質・能力と関連づけつつ、今日の日本の教育方法の在り方について理解する。 ○本時の活動 ・テキスト（pp. 105-114）で解説する。 ○本時の学習成果 今日の日本の教育方法の在り方について理解している。 ○予習及び復習事項 予習事項：テキストの該当箇所を読む。 復習事項：自身が受けてきた教育と比較しながら、日本の教育方法について考えてみる。
5 回	＜教育課程の意義＞（福野） ○本時の目標 『幼稚園教育要領』などを取り上げながら、その性格や位置づけ、歴史的変遷などを理解することを通して、学校教育における教育課程の社会的な役割・機能・意義について理解する。 ○本時の活動 ・テキスト（pp.30-67）及び授業で配付する資料をもとに解説する。 ○本時の学習成果 幼稚園教育要領の性格、位置付け、改訂の変遷・内容及び社会的背景を理解するとともに、教育課程編成の目的や教育課程が社会において果たしている役割や機能を説明できる。 ○予習及び復習事項 予習事項：テキストの該当箇所を読む。 復習事項：テキスト及び授業で配付された資料を読む。授業で出てきた用語の意味を自分なりに説明できるようにする。
6 回	＜教育課程の編成の方法＞（福野） ○本時の目標 教育課程編成の基本原理、教育内容を選択・配列する方法を理解するとともに、幼児や園・地域の実態をふまえて教育課程を編成することの重要性を理解する。 ○本時の活動 ・テキスト（pp.30-67）及び授業で配付する資料をもとに解説する。 ○本時の学習成果 教育課程編成の基本原理、教育内容を選択・配列する方法、幼児や園・地域の実態をふまえて教育課程を編成することの重要性を説明できる。 ○予習及び復習事項 予習事項：『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定子ども園教育・保育要領』を一通り読んでくる。 復習事項：授業で配付された資料を読む。授業で出てきた用語の意味を自分なりに説明できるようにする。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
7回	＜カリキュラム・マネジメント＞（福野） ○本時の目標 幼稚園教育要領に規定されるカリキュラム・マネジメントの意義や重要性を理解するとともに、カリキュラム評価の基礎的な考え方を理解する。 ○本時の活動 ・テキスト（pp. 105-114）で解説する。 ・授業で配付する資料をもとに解説する。 ○本時の学習成果 幼稚園教育要領に規定されるカリキュラム・マネジメントの意義や重要性を理解し、カリキュラム評価の基礎的な考え方を説明できる。 ○予習及び復習事項 予習事項：「カリキュラム・マネジメント」「カリキュラム評価」の意味を調べてくる。 復習事項：授業で配付された資料を読む。授業で出てきた用語の意味を自分なりに説明できるようにする。
8回	＜情報機器とその活用①＞（原田） ○本時の目標 ICT の環境整備とその利用を取り上げ情報機器の活用についての実態を把握する。さらに、子どもたちの興味・関心を高めたり学習内容をふりかえったりするために、幼児の体験との関連を考慮しながら情報機器を活用して効果的に教材等を作成・提示することを学ぶ。 ○本時の活動 ・テキスト（pp.115-123）及び授業で配布する資料をもとに解説する。 ○本時の学習成果 情報活用能力及び ICT について理解し、情報機器を活用した効果的な授業や適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身に付ける。 ○予習及び復習事項 予習事項：テキストの該当箇所を読む。 復習事項：授業で配付された資料を読む。とくに、「情報活用能力」、「ICT」については自分の言葉で説明できるようにする。
9回	＜情報機器とその活用②＞（原田） ○本時の目標 子どもたちの情報活用能力（情報モラルを含む）を育成するための指導法を理解し、保育者に必要な情報活用能力、とくに、保育者に必要な情報モラルもあわせて理解する。 ○本時の活動 ・テキスト（pp.115-123）及び授業で配布する資料をもとに解説する。 ○本時の学習成果 現在の情報モラル指導モデルカリキュラムを理解し、情報機器の活用をする前の子供たちに情報モラルと情報活用能力の原点を身に付ける能力について理解する。 ○予習及び復習事項 予習事項：テキストの該当箇所を読む。 復習事項：授業で配付された資料を読む。とくに、子供たちに情報モラルを含んだ情報活用能力を身に付けるためにどうすればいいか考える。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
10回	＜教育の技術と教材の活用（保育指導案作成）①＞（山本、都田） ○本時の目標 これまでの学習内容を踏まえつつ、『幼稚園教育要領』をもとに年・月の保育計画についての理解を深め、それらの目標や内容がどのように設定されるのかについて理解する。 ○本時の活動 ・テキスト（pp. 81-108）及び授業で配付する資料をもとに解説する。 ○本時の学習成果 『幼稚園教育要領』をもとに年・月の保育計画についての理解を深め、それらの目標や内容がどのように設定されるのかについて説明できる。 ○予習及び復習事項 予習事項：テキストの該当箇所及び『幼稚園教育要領』を読んでくる。 復習事項：授業で配布された資料などももとに、本時の内容を整理し、理解を深める。
11回	＜教育の技術と教材の活用（保育指導案作成）②＞（山本、都田） ○本時の目標 前回の内容をふり返りつつ、週・日案がどのように作成されるのかについて、それぞれの目標や内容、玩具などの教材や教具についての理解と具体的な保育展開をもとに理解し、実際に保育指導案を作成する。 ○本時の活動 ・テキスト（pp. 68-104）及び授業で配布する資料をもとに解説する。 ・課題（保育指導案作成）：保育指導案を作成する。 ○本時の学習成果 週・日案がどのように作成されるのかについて、それぞれの目標や内容、玩具などの教材や教具についての理解と具体的な保育展開をもとに説明でき、それらをもとに、実際に保育指導案を作成している。 ○予習及び復習事項 予習事項：「保育指導案」について自分なりに調べてくる。 復習事項：授業で配布された資料などももとに、本時の内容を整理し、理解を深める。
12回	＜教育の技術と教材の活用（保育指導案作成）③＞（山本、都田） ○本時の目標 日案の作成についてふり返りつつ、目標や内容、玩具などの教材や教具についての理解をさらに深め、具体的な保育展開の構造を理解するとともに、実際の保育現場において行わている「声かけ」などから、保育を行ううえでの基礎的な技術を獲得する。さらに、それらを実際の保育指導案作成に活用する。 ○本時の活動 ・テキスト（pp. 68-104）及び授業で配布する資料をもとに解説する。 ・課題（保育指導案作成）：保育指導案を作成する。 ○本時の学習成果 保育指導案についての理解を深めているとともに、保育を行う基礎的な技術を身に付けている。 ○予習及び復習事項 予習事項：前回の授業内容について復習してくる。 復習事項：「保育指導案」の構造について整理し、さらなる理解につなげる。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
13回	＜教育の技術と教材の活用（保育指導案作成）④＞（山本、都田） ○本時の目標 具体的な保育指導案作成を行いながら、目標や内容などの視点、さらには保育を行ううえでの基礎的な技術を身に付けながら、教育あるいは保育の目的に適した指導技術についての理解を深め、それら指導技術の獲得を目指す。 ○本時の活動 ・テキスト（pp. 68-104）及び授業で配布する資料をもとに解説する。 ・課題（保育指導案作成）：保育指導案を作成する。 ○本時の学習成果 教育あるいは保育の目的に適した指導技術についての理解を深め、その指導技術を身に付けようと努力している。 ○予習及び復習事項 予習事項：前回の授業内容について復習してくる。 復習事項：保育指導案作成を通して、具体的な教育の技術や教材の活用について整理する。
14回	＜教育の技術と教材の活用（保育指導案作成）⑤、学習評価の基礎理論＞（都田） ○本時の目標 「観点別学習状況の評価」や「目標に準拠した評価」あるいは「診断的評価」や「形成的評価」、「総括的評価」などの具体的な評価をもとに、学習評価そのものの基礎的な考え方を理解するとともに、実際の保育指導案における評価について考える。 ○本時の活動 ・テキスト（pp. 136-152）で解説する。 ○本時の目標 学習評価そのものの基礎的な考え方を理解しているとともに、実際の保育指導案における評価について考えている。 ○予習及び復習事項 予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 復習事項：学習評価についてまとめながら、幼稚園における教育評価について自分なりに考えてみる。
15回	＜幼稚園における教育評価、総括＞（都田・山本・福野・原田） ○本時の目標 幼稚園における教育評価について、『幼稚園教育要領』などをもとに、「育みたい資質・能力と幼児理解に基づいた評価の基礎的な考え方」について理解し、作成した保育指導案によって、具体的レベルで教育評価について考える。また、本科目についての総括を行う。 ○本時の活動 ・テキスト（pp. 136-152）及び『幼稚園教育要領』で解説する。 ・期末試験に向けた授業内容の振り返りを行う。 ○本時の目標 幼稚園における教育評価について理解し、作成した保育指導案によって、具体的レベルで教育評価について考える。 ○予習及び復習事項 予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。 復習事項：テキストやノートを見ながら、本時の内容を整理するとともに、これまでの授業内容の整理を行いながら、期末試験に備える。

令　和　２　年　度　教　育　計　画							
科目名	幼児と健康	授業回数	15	単位数	1	担当教員	吉田　升
質問受付の方法：							

教育目標と学生の学習成果		教育目標： 本科目は、幼稚園教諭二種免許状取得のための「領域及び保育内容の指導法に関する科目」の一つである。 本科目では、「健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養う」ことを目指して、幼稚園教育において育みたい資質能力について理解し、幼稚園教育要領に示された領域「健康」のねらい及び内容を理解する。 学生の学習成果： ・専門的学習成果として、上記の教育目標を達成できるようにする。 ・汎用的学習成果として、保育者としての「態度・信念」及び「価値・意見」を形成する。
教育方法	授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） １．テキストを中心に授業を進める。 ２．講義内容についてワークシートを活用して理解を深める。 ３．講義内容についてシャトルカードに意見を記すことを課す。
	予習・復習	予習：次回講義における重要事項について予習を課す。 復習：講義内容における重要事項について復習を課す。
	テキスト	・前橋明編著・2009 年・「健康 Health」・明研図書 ＊補助教材として VTR や DVD を適宜使用する。
学習評価の方法		「専門的学習成果」は、下記４点について、「期末試験：80 点」及び「ワークシート：14 点」及び「レポート：６点」によって評価する。 １．幼児期の健康課題と健康の発達的意味を理解する。 ２．幼児期の体の諸機能の発達と生活習慣の形成を理解する。 ３．安全な生活と怪我や病気の予防を理解する。 ４．幼児期の運動発達の特徴と意義を理解する。 「汎用的学習成果」は、「態度・信念」の点検として、受講中の私語等について複数回の注意後も改善がみられない場合は「２点」を減ずる。また、「価値・意見」の点検として、各回のシャトルカードに講義内容について意見を記すことを課し、十分に記されていない場合は「２点」を減ずる。「遅刻・早退」は「２点」を減ずる（公共交通機関の乱れによる遅刻は減点対象としない／ただし、欠席届に証明書（遅延等）が添付されている場合に限る）。
注意事項		参考図書等： ・榎沢良彦・入江礼子編著・2006 年・「シードブック・保育内容健康」・健帛社

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	■講義内容 　本講義の教育目標と学生の学習成果、教育方法（授業の進め方、予習・復習、テキスト）、学習評価の方法について説明するとともに、シラバスに記載されている各回の講義テーマに沿って、現代の幼児をとりまく諸問題や課題について説くとともに、幼稚園教育要領に示された領域「健康」のねらい及び内容について解説する。 ＊学習成果：幼稚園教育の基本と領域「健康」のねらい及び内容について理解する。 【復習】幼児の心身をとりまく諸問題や課題の復習
2 回	■講義内容［幼児期の健康課題と健康の発達的意味］その１ 　１）健康の定義 　２）乳幼児期の健康の意義 　健康の定義について説くとともに、行動体力と衛体力に対する働きかけを基軸に、乳幼児期の健康の意義について理解を深める。 ＊学習成果：健康の定義と乳幼児期の健康の意義について理解する。 【予習】乳幼児期の心身の健康課題について 【復習】ワークシート①：重点項目の復習
3 回	■講義内容［幼児期の健康課題と健康の発達的意味］その２ 　１）乳幼児期の心身の健康課題 　２）乳幼児期の運動発達の健康課題 　今日の子どもが抱える健康課題について、心身の異変について説くとともに、将来顕著となりそうな乳幼児期の心と体、運動発達等の健康課題とその背景について解説する。 ＊学習成果　乳幼児期の心と体、運動発達等の健康課題について理解する。 【予習】乳幼児の睡眠と生活リズムの重要性について 【復習】ワークシート②：重点項目の復習
4 回	■講義内容［幼児期の健康課題と健康の発達的意味］その３ 　１）幼児の心身の発達における睡眠の重要性 　２）生活リズムの確立とホルモンとの関係性 　幼児の心身の発達における睡眠時間確保の重要性について説くとともに、生活リズムの乱れによる弊害と具体的な方策について解説する。 ＊学習成果：幼児の心身の発達における睡眠と生活リズムの重要性について理解する。 【予習】睡眠時間の確保や生活リズムの確立の重要性の伝え方 【復習】ワークシート③：重点項目の復習
5 回	■講義内容［幼児期の健康課題と健康の発達的意味］その４ 　１）演習①：睡眠時間の確保の重要性を伝える 　２）演習②：生活リズムの確立の重要性を伝える 　幼児期の健康課題の一つである短時間睡眠や生活リズムの乱れについて深刻性を理解し、演習を通して、幼児自ら生活習慣を身につける態度を涵養し得る有効な伝え方を考える。 ＊学習成果：幼児の心身の発達における睡眠と生活リズムの重要性の伝え方を理解する。 【予習】乳幼児の体の発達的特徴について 【復習】ワークシート④：重点項目の復習

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
6回	■講義内容［体の諸機能の発達と生活習慣の形成］その１ １）乳幼児の体の発達的特徴 ２）乳幼児の体の諸機能の発達 乳幼児の体の発達的特徴について説くとともに、発育曲線や身体発育の評価方法に基づいて諸機能の発達について解説する。 ＊学習成果：乳幼児の体の発達的特徴や諸機能の発達について理解する。 【予習】基本的生活習慣５項目について 【復習】ワークシート⑤：重点項目の復習
7回	■講義内容［体の諸機能の発達と生活習慣の形成］その２ １）乳幼児の生活習慣の形成とその意義 ２）基本的生活習慣５項目（食事・睡眠・排泄・清潔・衣服の着脱） 乳幼児が生活習慣を形成することの意義について説くとともに、基本的生活習慣５項目に対する配慮と援助の方法、生活観察について解説する。 ＊学習成果：基本的生活習慣５項目の配慮と援助の方法について理解する。 【予習】基本的生活習慣の重要性の伝え方について 【復習】ワークシート⑥：重点項目の復習
8回	■講義内容［具体的な指導に向けて］ １）演習①：食事 ２）演習②：排泄 ３）演習③：清潔 ４）演習④：衣服の着脱 第５回目の授業時に行った睡眠以外の４項目の基本的生活習慣について、演習を通して、幼児自ら生活習慣を身につける態度を涵養し得る有効な伝え方を考える。 ＊学習成果：基本歴生活習慣５項目を幼児自ら身につける重要性の伝え方を理解する。 【予習】幼児の怪我の特徴や病気の予防について 【復習】ワークシート⑦：重点項目の復習
9回	■講義内容［安全な生活と病気の予防］その１ １）幼児期の怪我の特徴 ２）幼児期の病気の予防 幼児期の怪我の特徴や病気の一般的な症状と処置法について説くとともに、病気を予防するための方策や具体的な指導法について解説する。 ＊学習成果：幼児期の怪我の特徴や病気の予防について理解する。 【予習】幼児の安全教育と健康管理について 【復習】ワークシート⑧：重点項目の復習
10回	■講義内容［安全な生活と病気の予防］その２ １）幼児の安全教育 ２）幼児の健康管理 幼児の生活実態に即した安全教育と健康管理の重要性について説くとともに、実際の保育現場における具体的な指導方法について解説する。 ＊学習成果：幼児の安全教育と健康管理の必要性と意識の強化について理解する。 【予習】危険に関するリスクとハザードについて 【復習】ワークシート⑨：重点項目の復習

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
11回	■講義内容［安全な生活と病気の予防］その３ １）危険に関するリスクとハザードの違い ２）遊具の安全管理と安全な使用法 幼児の活動に潜むリスクとハザードの違いについて説き、日常生活における安全管理上のリスクマネジメントについて解説する。 ＊学習成果：リスクとハザードの違いとリスクマネジメントについて理解する。 【予習】幼児期の運動発達と身体活動について 【復習】ワークシート⑩：重点項目の復習
12回	■講義内容［幼児期の運動発達と身体活動］その１ １）乳幼児期の運動発達 ２）幼児期の身体活動 幼児期の運動発達の特徴について説くとともに、幼児期に多様な動きを獲得することの意義について解説する。 ＊学習成果：幼児期の運動発達と多様な身体活動の意義について理解する。 【予習】日常生活における幼児の動きについて 【復習】ワークシート⑪：重点項目の復習
13回	■講義内容［幼児期の運動発達と身体活動］その２ １）日常生活における幼児の動き ２）幼児の動きに対する配慮 日常生活における幼児の動きの経験について説くとともに、幼児の動きに対する配慮など身体活動の在り方について解説する。 ＊学習成果：日常生活における幼児の動きと配慮について理解する。 【予習】乳幼児期の心の発達について 【復習】ワークシート⑫：重点項目の復習
14回	■講義内容［乳幼児の心の発達］ １）乳幼児期の情緒の発達 ２）乳幼児期の知的能力の発達 乳幼児期の代表的な精神的特徴について説くとともに、幼児期の情緒と知的能力の発達について家庭や保育現場で起こり得る具体例を挙げて解説する。 ＊学習成果：乳幼児期の情緒面と知的能力から精神的発達の特徴について理解する。 【予習】ワークシートの点検 【復習】ワークシー⑬：重点項目の復習
15回	■講義内容［総復習］ ワークシートを中心に、これまでの講義内容における重点項目について総復習を行う。 ＊学習成果：ワークシートに記されている講義の重点項目と内容について把握する。 【復習】ワークシートの整理と重点項目の復習

令　和　２　年　度　教　育　計　画							
科目名	「幼児と健康」の指導法	授業回数	15	単位数	2	担当教員	吉田　升
質問受付の方法：							

教育目標と学生の学習成果		教育目標： 　本科目は、幼稚園教諭二種免許状取得のための「領域及び保育内容の指導法に関する科目」の一つである。 　本科目では、幼稚園教育要領に示された領域「健康」のねらい及び内容並びに幼児が経験し身につけていく内容と指導上の留意点を理解するとともに、領域「健康」に関わる具体的な指導場面を想定して保育を構築する方法を身につけることにより、発達に即した実践的指導力を養うことを目標とする。 学生の学習成果： ・専門的学習成果として、上記の教育目標を達成できるようにする。 ・汎用的学習成果として、保育者としての「態度・信念」を形成する。
教育方法	授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） １．具体的な指導場面を想定して演習活動を中心に授業を進める。 ２．講義内容についてシャトルカードに意見を記すことを課す。
	予習・復習	予習：次回講義における重要事項について予習を課す。 復習：講義内容における重要事項について復習を課す。
	テキスト	・前橋明編著・2009 年・「健康 Health」・明研図書 ＊補助教材として VTR や DVD を適宜使用する。
学習評価の方法		「専門的学習成果」は、下記２点について、「模擬指導実践：30 点／６回実施・各５点」及び「指導案：30 点／６回提出・各５点」及び「模擬指導課題：30 点／６回提出・各５点」及び「レポート：10 点／１回提出」によって評価する。 １．ねらい及び内容、指導上の留意点と幼稚園教育における評価の考え方、領域ごとに幼児が経験し身につけていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解する。 ２．幼児の発達や学びの過程、認識・思考、動き、幼児の体験との関連性を考慮し、具体的な指導場面を想定した指導案を基に、ICT を活用して保育を構築する方法を身につける。 「汎用的学習成果」は、「態度・信念」の点検として、受講中の私語等について複数回の注意後も改善がみられない場合は「２点」を減ずる。「遅刻・早退」は「２点」を減ずる（公共交通機関の乱れによる遅刻は減点対象としない／ただし、欠席届に証明書（遅延等）が添付されている場合に限る）。
注意事項		参考図書等： ・榎沢良彦・入江礼子編著・2006 年・「シードブック・保育内容健康」・健帛社

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	■講義内容 　本講義の教育目標と学生の学習成果、教育方法（授業の進め方、予習・復習、テキスト）、学習評価の方法について説明するとともに、幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、領域「健康」のねらい及び内容並びに全体構造について説くとともに、幼稚園教育要領に示された領域「健康」のねらい及び内容について解説する。 ＊学習成果：領域「健康」のねらい及び内容並びに全体構造と保育実践について理解する。 【復習】講義内容における重点項目のまとめ
2 回	■講義内容［幼児の健康に関わる現代的課題］ 　１）領域「健康」のねらい及び内容を踏まえた指導上の留意点 　２）現場の取り組み事例 　領域「健康」のねらい及び内容を踏まえた指導上の留意点について解説するとともに、幼児の健康に関わる現代的課題に対する現場の取り組みについて事例を基に考える。 ＊学習成果　乳幼児期の心身や運動発達の背景と現場における取り組みについて理解する。 【予習】領域「健康」において幼児が身につける内容について 【復習】講義内容における重点項目のまとめ
3 回	■講義内容［領域「健康」と小学校の各教科とのつながり］ 　１）領域「健康」において幼児が身につける内容 　２）小学校の各教科等とのつながり 　領域「健康」において幼児が経験し身につけていく内容と小学校の各教科等のつながりについて、資料や視聴覚教材などの ICT を用いて具体的な事例を基に考える。 ＊学習成果：幼児が身につける内容と小学校の各教科等とのつながりについて理解する。 【予習】遊びの場面における幼児の身体活動について 【復習】講義内容における重点項目のまとめ
4 回	■講義内容［日常生活における幼児の動き］その１ 　１）遊びの場面における幼児の身体活動：幼児の動きを想定した体験① 　２）運動指導の留意点と環境や動線に配慮した環境構成 　室内外の遊びの場面を想定し、実際に体験しながら幼児の多様な動きの視点から捉えることにより、幼児期の運動発達に沿った運動指導の留意点と教師の役割について考える。 ＊学習成果：遊びの場面における幼児の身体活動と運動指導の留意点について理解する。 【予習】生活の場面における幼児の動きについて 【復習】講義内容における重点項目のまとめ
5 回	■講義内容［日常生活における幼児の動き］その２ 　１）生活の場面における幼児の身体活動と環境構成：幼児の動きを想定した体験② 　２）教師の役割と幼稚園教育における評価の考え方 　室内外の生活の場面を想定し、実際に体験しながら幼児の多様な動きの視点から捉えることにより、様々な環境や幼児の動線に配慮した環境構成について考える。 ＊学習成果：生活の場面における多様な動きと環境構成の留意点について理解する。 【予習】保育実践における指導事例について 【復習】講義内容における重点項目のまとめ

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
6 回	■講義内容［保育実践における指導事例］ １）基本的生活習慣５項目の指導事例 ２）災害時の安全教育及び交通安全教育の指導事例 　基本的生活習慣５項目や災害時の安全教育及び交通安全教育について、資料や視聴覚教材等の ICT を用いて具体的な指導事例を基に実態に沿った教師の援助や環境構成を考える。 ＊学習成果：事例に基づいて、実態に沿った教師の援助や環境構成を理解する。 【予習】指導案作の作成における要点について 【復習】講義内容における重点項目のまとめ
7 回	■講義内容［模擬保育に向けて］その１ 　１）指導案の作成① 　２）模擬保育に向けた教材の製作及び意見交換 　指導案の作成における留意点の理解とともに、幼児の生活実態に即した具体的な場面を想定した教師の役割や援助、環境構成について考え、模擬保育に向けて教材の製作を行う。 ＊学習成果：指導案の作成における留意点について理解する。 【予習】指導案の作成における留意点について 【復習】講義内容における重点項目のまとめ
8 回	■講義内容［模擬保育に向けて］その２ 　１）指導案の作成② 　２）模擬保育に向けた教材の製作及び意見交換 　指導案の作成における留意点の理解とともに、幼児の生活実態に即した具体的な場面を想定した教師の役割や援助、環境構成について考え、模擬保育に向けて教材の製作を行う。 ＊学習成果：指導案の作成における留意点について理解する。 【予習】模擬保育に向けた製作と訓練 【復習】講義内容における重点項目のまとめ
9 回	■講義内容［模擬保育］その１ 　１）基本的生活習慣５項目における「食事」の要点 　２）演習①：模擬指導 　幼児期の健康課題の一つである食生活の乱れによる健康問題に焦点を当て、健康に対する意識を強化し、幼児自ら防衛体力に働きかける態度を涵養し得る指導法について考える。 ＊学習成果：基本的生活習慣の「食事」の要点と指導内容・方法を理解する。 【予習】基本的生活習慣５項目における「排泄」の要点について 【復習】講義内容における重点項目のまとめ
10 回	■講義内容［模擬保育］その２ 　１）基本的生活習慣５項目における「排泄」の要点 　２）演習②：模擬指導 　幼児期の健康課題の一つである食生活の乱れに関連する排泄に焦点を当て、健康に対する意識を強化し、幼児自ら防衛体力に働きかける態度を涵養し得る指導法について考える。 ＊学習成果：基本的生活習慣の「排泄」の要点と指導内容・方法を理解する。 【予習】基本的生活習慣５項目における「睡眠」の要点について 【復習】講義内容における重点項目のまとめ

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
11回	■講義内容［模擬保育］その３ １）基本的生活習慣５項目における「睡眠」の要点 ２）演習③：模擬指導 幼児期の健康課題の一つである睡眠不足や生活リズムの乱れに焦点を当て、健康に対する意識を強化し、幼児自ら防衛体力に働きかける態度を涵養し得る指導法について考える。 ＊学習成果：基本的生活習慣の「睡眠」の要点と指導内容・方法を理解する。 【予習】基本的生活習慣５項目における「清潔」「衣服の着脱」の要点について 【復習】講義内容における重点項目のまとめ
12回	■講義内容［模擬保育］その４ １）基本的生活習慣５項目における「清潔」「衣服の着脱」の要点 ２）演習④：模擬指導 幼児期の清潔行動と衣服の着脱に焦点を当て、演習を通して、幼児自ら防衛体力に働きかける態度を涵養し得る有効な指導法について考える。 ＊学習成果：「清潔」「衣服の着脱」の要点と指導内容・方法を理解する。 【予習】災害時の安全教育について 【復習】講義内容における重点項目のまとめ
13回	■講義内容［模擬保育］その５ １）災害時の安全教育 ２）演習⑤：模擬指導 幼児に対する災害時の安全教育に焦点を当て、演習を通して、幼児自ら生命を守ろうとする力を涵養し得る有効な指導法について考える。 ＊学習成果：災害時の安全教育の指導内容・方法について理解する。 【予習】交通安全教育について 【復習】講義内容における重点項目のまとめ
14回	■講義内容［模擬保育］その６ １）交通安全教育 ２）演習⑥：模擬指導 幼児に対する交通安教育に焦点を当て、演習を通して、幼児自ら生命を守ろうとする力を涵養し得る有効な指導法について考える。 ＊学習成果：交通安全教育の指導内容・方法について理解する。 【予習】幼児期の終わりまでに育ってほしい姿について 【復習】講義内容における重点項目のまとめ
15回	■講義内容［幼児期の終わりまでに育ってほしい姿］ １）幼児の発達に対する理解 ２）領域「健康」と関係の深い成長の目安 幼児の「健康な心と体」「自立心」「共同性」「道徳性・規範意識の芽生え」の育ちについて、資料や視聴覚教材等の ICT を用いて具体的な指導事例を基に教師の視点を考える。 ＊学習成果：領域「健康」と関係の深い幼児の姿を育むための教師の視点について理解する。 【復習】講義内容における重点項目のまとめ

令　和　２　年　度　教　育　計　画							
科目名	幼児と人間関係	授業回数	15	単位数	1	担当教員	尾崎　聡
質問受付の方法：e-mail は osaki@owc.ac.jp、オフィスアワーは B308 土曜 0900～							

教育目標と学生の学習成果		教育目標： 　本授業は「他の人々と親しみ，支え合って生活するために，自立心を育て，人と関わる力を養う」実践的指導力のある保育者を養成することを目指し、以下の８点を教育目標とする。 ①現代社会において幼児教育および保育の領域「人間関係」が担っている役割を理解する。 ②園生活における領域「人間関係」のねらいと内容を理解する。 ③乳幼児の人間関係の発達と各段階の特徴・課題・諸問題を理解する。 ④保育者に求められている人間関係を理解する。 ⑤仲間との人間関係において育まれる自己調整力、そして道徳性と規範意識の芽生えについて理解する。 ⑥幼児にとっての遊び（ひとり遊び・並行遊び・連合遊び・協同遊びなど、機能遊び・運動遊び・象徴遊び・構成遊び・受容遊びなど）の意味を理解する。 ⑦家族や園の仲間以外にも、広く地域に暮らす人々や今まで社会を支えてきた高齢者に親しむことの大切さを理解する。 ⑧我が国の伝統的な行事や遊びに親しむ、あるいは異文化の存在を知ることの大切さを理解する。 ⑨態度・信念を身に付ける 学生の学習成果：専門的学習成果として教育目標に掲げる９点に関する知識を修得する。また汎用的学習成果として態度（社会人としてのマナー・学習態度など）および信念（保育者になろうとする信念・継続的に努力する姿勢など）を涵養する。
教育方法	授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） 教育目標①②③④⑤⑥⑦⑧について、テキストに従って講義を行う。 教育目標⑧についてはテキスト・補助資料に従って講義を行いつつ、実演やロールプレイを取り入れる。
	予習・復習	毎授業回前に、「授業回数別教育内容」に記された予習を求める。 毎授業回前に、「授業回数別教育内容」に記された復習を求める。
	テキスト	田村美由紀・室井佑美『領域　人間関係ワークブック』萌文書院 2017 必要に応じて補助資料を配布し、内容を補う
学習評価の方法		以下の点の学習についてその獲得度合いを量的に評価し配点を「①＋②＋③＋④＋⑤＋⑥＋⑦：⑧：⑨」＝「７０＋１５＋１５」とする。 ①現代社会において幼児教育および保育の領域「人間関係」が担っている役割を説明できるようになる。（期末試験） ②園生活における領域「人間関係」のねらいと内容を説明できるようになる。（期末試験） ③乳幼児の人間関係の発達と各段階の特徴・課題・諸問題を説明できるようになる。（期末試験） ④保育者に求められている人間関係を説明できるようになる。（期末試験） ⑤仲間との人間関係において育まれる自己調整力、そして道徳性と規範意識の芽生えについて説明できるようになる。（期末試験） ⑥幼児にとっての遊び（ひとり遊び・並行遊び・連合遊び・協同遊びなど、機能遊び・運動遊び・象徴遊び・構成遊び・受容遊びなど）の意味を説明できるようになる。（期末試験） ⑦家族や園の仲間以外にも、広く地域に暮らす人々や今まで社会を支えてきた高齢者に親しむことの大切さを説明できるようになる。（期末試験）

	⑧我が国の伝統的な行事や遊びに親しむ、あるいは異文化の存在を知ることの大切さを説明できるようになる。（演習と期末試験） ⑨態度・信念を身に付ける。（授業態度） ⑨の評価は全授業を通してシャトルカードにより行う（１回分１点、記載不十分の場合減点）。担当教員の指導に従わず、社会人としてのマナー・学習態度、保育者になろうとする信念・継続的に努力する姿勢などが改善されない場合、評価点より減ずる（１件１点）。
注意事項	参考図書等 田中真介『発達がわかれば子どもが見える』ぎょうせい 瀧薫『保育とおもちゃ』エイデル研究所 阿部恵『年中行事のことばがけ・スピーチ』PriPri ブックス 増田かおり『０歳から５歳までの言葉かけ』日東書院
授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1回	○本時の目標 ・シラバス、テキストなどを用いたオリエンテーションにより本科目の概要と趣旨を理解する。 ・現代社会における人間関係の意味を理解する。 ・現代社会において幼児教育および保育の領域「人間関係」が担っている役割を理解する（前半）。 ○本時の活動 ・オリエンテーション（本科目の全体目標、授業スケジュール、成績評価等の説明） ・テキスト（p.８～２１の前半）をもとに講義を行う。 ・DVD により幼稚園４歳クラス入学直前の未就園児の自立性の問題について考察する（衣服の着脱、折りたたみなど） ○本時の学習成果 ・現代社会における人間関係の意味を理解している。 ・現代社会において幼児教育および保育の領域「人間関係」が担っている役割を理解している（前半）。 ○予習及び復習事項 予習：シラバス・テキストの該当箇所を読む。 復習：シラバス・テキスト・ノートを読み返し本時の学習内容を確認する。
2回	○本時の目標 ・現代社会において幼児教育および保育の領域「人間関係」が担っている役割を理解する（後半）。 ○本時の活動 テキスト（p.８～２１の後半）をもとに講義を行う。 ・DVD により幼稚園４歳クラス入学直前の未就園児の自立性の問題について考察する（食事など） ○本時の学習成果 現代社会において幼児教育および保育の領域「人間関係」が担っている役割を理解している（後半）。 ○予習及び復習事項 予習：シラバス・テキストの該当箇所を読む。 復習：シラバス・テキスト・ノートを読み返し本時の学習内容を確認する。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
3回	○本時の目標 園生活における領域「人間関係」のねらいと内容を理解する。 ○本時の活動 テキスト（p.２４～３７の後半）をもとに講義を行う。 ○本時の学習成果 園生活における領域「人間関係」のねらいと内容を理解している。 ○予習及び復習事項 予習：シラバス・テキストの該当箇所を読む。 復習：シラバス・テキスト・ノートを読み返し本時の学習内容を確認する。
4回	○本時の目標 園生活における領域「人間関係」のねらいと内容、加えてそれらを援助する保育者の役割を理解する。 ○本時の活動 テキスト（p.２４～３７の後半）をもとに講義を行う。 ○本時の学習成果 園生活における領域「人間関係」のねらいと内容、加えてそれらを援助する保育者の役割を理解する。 ○予習及び復習事項 予習：シラバス・テキストの該当箇所を読む。 復習：シラバス・テキスト・ノートを読み返し本時の学習内容を確認する。
5回	○本時の目標 身近な人との関わりと発達について理解する。 ○本時の活動 テキスト（p.４２～４７）をもとに講義を行う。 ○本時の学習成果 身近な人との関わりと発達について理解している。 ○予習及び復習事項 予習：シラバス・テキストの該当箇所を読む。 復習：シラバス・テキスト・ノートを読み返し本時の学習内容を確認する。
6回	○本時の目標 保育者に求められている人間関係を理解する。 ○本時の活動 テキスト（p.５０～５７）をもとに講義を行う。 ○本時の学習成果 保育者に求められている人間関係について理解している。 ○予習及び復習事項 予習：シラバス・テキストの該当箇所を読む。 復習：シラバス・テキスト・ノートを読み返し本時の学習内容を確認する。
7回	○本時の目標 仲間との人間関係において育まれる自己調整力について理解する。 ○本時の活動 テキスト（p.６０～６３　前半）をもとに講義を行う。 ○本時の学習成果 仲間との人間関係において育まれる自己調整力について理解している。 ○予習及び復習事項 予習：シラバス・テキストの該当箇所を読む。 復習：シラバス・テキスト・ノートを読み返し本時の学習内容を確認する。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
8回	○本時の目標 まず仲間との人間関係において育まれる自己調整力の育ちがあり、それによって道徳性と規範意識が芽生えていくことについて理解する。 ○本時の活動 テキスト（p.６０～６３後半）をもとに講義を行う。 ○本時の学習成果 まず仲間との人間関係において育まれる自己調整力の育ちがあり、それによって道徳性と規範意識が芽生えていくことについて理解している。 ○予習及び復習事項 予習：シラバス・テキストの該当箇所を読む。 復習：シラバス・テキスト・ノートを読み返し本時の学習内容を確認する。
9回	○本時の目標 遊びを通して人と関わること、特にイメージの共有について理解する。 ○本時の活動 テキスト（p.６８～７２前半）をもとに講義を行う。 ○本時の学習成果 遊びを通して人と関わること、特にイメージの共有について理解している。 ○予習及び復習事項 予習：シラバス・テキストの該当箇所を読む。 復習：シラバス・テキスト・ノートを読み返し本時の学習内容を確認する。
10回	○本時の目標 遊びを通して人と関わること、特にイメージの共有をめぐるトラブルと保育者の役割について理解する。 ○本時の活動 テキスト（p.６８～７２後半）をもとに講義を行う。 ○本時の学習成果 遊びを通して人と関わること、特にイメージの共有をめぐるトラブルと保育者の役割について理解している。 ○予習及び復習事項 予習：シラバス・テキストの該当箇所を読む。 復習：シラバス・テキスト・ノートを読み返し本時の学習内容を確認する。
11回	○本時の目標 遊びを通して人と関わること、特にコミュニケーションと試行錯誤、友達の思いとともに探求するおもしろさについて理解する。 ○本時の活動 テキスト（p.７４～７７）をもとに講義を行う。 ○本時の学習成果 遊びを通して人と関わること、特にコミュニケーションと試行錯誤、友達の思いとともに探求するおもしろさについて理解している。 ○予習及び復習事項 予習：シラバス・テキストの該当箇所を読む。 復習：シラバス・テキスト・ノートを読み返し本時の学習内容を確認する。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
12回	○本時の目標 遊びを通して人と関わること、特に遊びを通して身に付ける調整力、自己主張と葛藤、それらによる育ち合いについて理解する。 ○本時の活動 テキスト（p.８０～８４）をもとに講義を行う。 ○本時の学習成果 遊びを通して人と関わること、特に遊びを通して身に付ける調整力、自己主張と葛藤、それらによる育ち合いについて理解している。 ○予習及び復習事項 予習：シラバス・テキストの該当箇所を読む。 復習：シラバス・テキスト・ノートを読み返し本時の学習内容を確認する。
13回	○本時の目標 遊びを通して人と関わること、特に協同して遊ぶ経験、長い時間や期間をかけて成立する遊びによる育ちを理解する。 ○本時の活動 テキスト（p.８８～９２）をもとに講義を行う。 ○本時の学習成果 遊びを通して人と関わること、特に協同して遊ぶ経験、長い時間や期間をかけて成立する遊びによる育ちについて理解している。 ○予習及び復習事項 予習：シラバス・テキストの該当箇所を読む。 復習：シラバス・テキスト・ノートを読み返し本時の学習内容を確認する。
14回	○本時の目標 家族や園の仲間以外にも、広く地域に暮らす人々や今まで社会を支えてきた高齢者に親しむことの大切さを理解する。 ○本時の活動 補助資料をもとに講義を行い、地域交流行事の言葉がけをグループ内で実演してみる。 ○本時の学習成果 家族や園の仲間以外にも、広く地域に暮らす人々や今まで社会を支えてきた高齢者に親しむことの大切さについて理解している。 ○予習及び復習事項 予習：シラバス・テキストの該当箇所を読む。 復習：シラバス・テキスト・ノートを読み返し本時の学習内容を確認する。
15回	○本時の目標 我が国の伝統的な行事や遊びに親しむ、あるいは異文化の存在を知ることの大切さを理解する。 ○本時の活動 補助資料をもとに講義を行い、園行事の言葉がけをグループ内で実演してみる。 ○本時の学習成果 我が国の伝統的な行事や遊びに親しむ、あるいは異文化の存在を知ることの大切さをについて理解している。 ○予習及び復習事項 予習：シラバス・テキストの該当箇所を読む。 復習：期末試験に向けてシラバス・テキスト・ノートの全体を読み返す。

令　和　２　年　度　教　育　計　画							
科目名	「幼児と人間関係」の指導法	授業回数	15	単位数	2	担当教員	尾崎　聡
質問受付の方法： e-mail は osaki@owc.ac.jp、オフィスアワーは B308 土曜 0900～							

教育目標と学生の学習成果

教育目標：本授業は「他の人々と親しみ，支え合って生活するために，自立心を育て，人と関わる力を養う」実践的指導力のある保育者を養成することを目指し、以下の１０点を教育目標とする。

① 「幼児教育の基本」を踏まえて、領域「人間関係」の「ねらい」である「集団生活を楽しむ・自律、愛・信頼、望ましい社会的習慣・態度」など、「内容」である「自立する・身近な人と関わる・広く社会に親しむ」「共に過ごす喜び・共感・工夫・協力」「楽しむ・やり遂げる・思いやりをもつ」「行動する・伝える・気付く・守る」などに関し、領域「人間関係」の構造と展開の仕方を理解している。

② 「幼児教育の基本」を踏まえて、領域「人間関係」において育みたい資質・能力（親しむ・関わる・工夫する・協力する、良さを求める・立ち向かう・許す・受け入れる等)、幼児の生活する姿から捉えたものである「ねらい」、それらを達成するために指導する事項である「内容」と一連の指導上の留意点（教師との信頼関係・見守り・援助、自己発揮・認められ体験・自信、協同遊び・試行錯誤・共通目的、基本的生活習慣・葛藤・つまずき・乗り越え、規範意識の芽生え・折り合い・気持ちの調整、高齢者や地域の人々との触れ合い・人の役に立つ喜び、親や祖父母の愛・家族愛）を理解している。

③ 幼児教育における評価というものの考え方と注意点（幼児理解、一人一人の発達理解、指導過程の振り返り、一人一人の良さ・可能性、評価の妥当性・信頼性、組織的計画的取組、適切な引継）を理解している。

④ 領域「人間関係」の「ねらい」や「内容」は具体的な遊びを通じて「健康、環境、言葉、表現」のどの領域とも密接に容易に関連付けることが出来、小学校の教科に接続していくものであることを理解している。

⑤ 幼児の素朴な認識・思考・行動に新鮮な驚きや感動を持って関わることができ、保育の構想につなげることができる。

⑥ 道徳の萌芽期にある幼児は「受容遊び」（絵本・紙芝居・ビデオ・DVD の鑑賞）によって「善悪や人間の内面」に直接触れることができるが、これらの探索・収集・活用方法の研究ができるようになる。

⑦ 指導案の構成内容や意味を理解し、指導案作成のコツを会得する。クラスや子供の姿をタイムリーに捉え、「ごっこ遊び」など領域「人間関係」に密接にかかわる遊びの場面を具体的に想定した指導案を作成することができる。

⑧ 「ごっこ遊び」などの指導案作成・模擬実践・振り返りを通して保育実践力を身につけている。

⑨ 目まぐるしい社会変化の中で「ごっご遊び」等の変容を研究し、こどもの心の中を探求していくことができる。

⑩ 態度・信念を身に付ける。

学生の学習成果：専門的学習成果として教育目標に掲げる１０点に関する知識を修得する。また汎用的学習成果として態度（社会人としてのマナー・学習態度など）および信念（保育者になろうとする信念・継続的に努力する姿勢など）を涵養する。

教育方法

授業の進め方

（講義・演習・実験・実習・実技）

教育目標①②③④⑤⑥⑦⑧⑨について、導入部分はテキスト・プリントに従って講義を行いつつ、展開部分は演習を行う。

	予習・復習	毎授業回前に、「授業回数別教育内容」に記された予習を求める 毎授業回前に、「授業回数別教育内容」に記された復習を求める
	テキスト	田村美由紀・室井佑美『領域　人間関係ワークブック』萌文書院 2017 『幼稚園教育要領』建帛社　平成２９年 必要に応じて補助資料を配布し、内容を補う
学習評価の方法	教育目標の①～⑨について、その獲得度合いを量的に評価し配点を「①：②＋③＋④＋⑤＋⑥＋⑦＋⑧＋⑨：⑩」＝「５：８０：１５」とする ①～⑨は期末テストを行う ⑩の評価は全授業を通してシャトルカードにより行う（１回分１点、記載不十分の場合減点）。担当教員の指導に従わず、社会人としてのマナー・学習態度、保育者になろうとする信念・継続的に努力する姿勢などが改善されない場合、評価点より減ずる（１件１点）。	
注意事項	参考図書等 文部科学省『幼児教育と評価』 国立教育政策研究所『幼児期から児童期への教育』 文部科学省『指導計画の作成と保育の展開』 文部科学省『幼稚園における道徳性の芽生えを培うための事例集』	
授業回数別教育内容		
１回	○本時の目標 ・シラバス、テキストなどを用いたオリエンテーションにより本科目の概要と趣旨を理解する。 ・『幼稚園教育要領』などをもとに、幼児教育及び保育の基本について「人間関係」の視点から理解する。 ○本時の活動 ・オリエンテーション（本科目の全体目標、授業スケジュール、成績評価等の説明） ・幼児教育及び保育の基本について「人間関係」の視点から考察し、気づいたことをノートに書き上げて、グループ内で相互に話し合ってみる。 ・テキスト（p８～２１、p２２～２３）をもとに講義・演習を行う。 ○本時の学習成果 ・シラバス、テキストなどを用いたオリエンテーションにより本科目の概要と趣旨を理解している。 ・幼児教育及び保育の基本について「人間関係」の視点から理解している。 ○予習及び復習事項 予習：シラバス・テキストの該当箇所を読む。 復習：シラバス・テキスト・ノートを読み返し本時の学習内容を確認する。	
２回	○本時の目標 ・『幼稚園教育要領』などをもとに、幼児教育及び保育において育みたい資質・能力について「人間関係」の視点から理解する。 ・０歳児の指導計画と実践（前半）について理解する。 ○本時の活動 ・テキスト（p１０２～１０７前半、p１２～１３）をもとに講義・演習を行う。 ○本時の学習成果 ・幼児教育及び保育において育みたい資質・能力について「人間関係」の視点から理解している。 ・０歳児の指導計画と実践（前半）について理解している。 ○予習及び復習事項 予習：シラバス・テキストの該当箇所を読む。 復習：シラバス・テキスト・ノートを読み返し本時の学習内容を確認する。	

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
3 回	○本時の目標 ・幼児期の終わりまでに育ってほしい姿について「人間関係」の視点から理解する。 ・０歳児の指導計画と実践（後半）について理解するとともに、「人間関係」の評価について幼児の具体的な活動や姿に即して理解する。 ○本時の活動 テキスト（p１０２～１０７、p１３～１４）をもとに講義・演習を行う。 ○本時の学習成果 ・幼児期の終わりまでに育ってほしい姿について「人間関係」の視点から理解している。 ・０歳児の指導計画と実践（後半）及び「人間関係」の評価について理解している。 ○予習及び復習事項 予習：シラバス・テキストの該当箇所を読む。 復習：シラバス・テキスト・ノートを読み返し本時の学習内容を確認する。
4 回	○本時の目標 ・１歳児の指導計画と実践（前半）について理解する。 ・「人間関係」のねらいについて幼児の具体的な活動や姿に即して理解する。 ○本時の活動 テキスト（p１０８～１１０前半）をもとに講義を行う。 ○本時の学習成果 ・１歳児の指導計画と実践（前半）について理解している。 ・「人間関係」のねらいについて幼児の具体的な活動や姿に即して理解している。 ○予習及び復習事項 予習：シラバス・テキストの該当箇所を読む。 復習：シラバス・テキスト・ノートを読み返し本時の学習内容を確認する。
5 回	○本時の目標 ・１歳児の指導計画と実践（後半）について理解するとともに、「人間関係」の評価について幼児の具体的な活動や姿に即して理解する。 ・「人間関係」の内容について幼児の具体的な活動や姿に即して理解する。 ○本時の活動 テキスト（p１０８～１１０後半）をもとに講義を行う。 ○本時の学習成果 ・１歳児の指導計画と実践（後半）及び「人間関係」の評価について理解している。 ・「人間関係」の内容について幼児の具体的な活動や姿に即して理解している。 ○予習及び復習事項 予習：シラバス・テキストの該当箇所を読む。 復習：シラバス・テキスト・ノートを読み返し本時の学習内容を確認する。
6 回	○本時の目標 ・２歳児の指導計画と実践について理解する（前半）。 ・幼児教育に関する「人間関係」の評価について幼児の具体的な活動や姿に即して理解する。 ○本時の活動 テキスト（p１１０～１１２前半）をもとに講義を行う。 ○本時の学習成果 ・２歳児の指導計画と実践（前半）について理解している。 ・幼児教育に関する「人間関係」の評価について幼児の具体的な活動や姿に即して理解している。 ○予習及び復習事項 予習：シラバス・テキストの該当箇所を読む。 復習：シラバス・テキスト・ノートを読み返し本時の学習内容を確認する。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
7 回	○本時の目標 ・２歳児の指導計画と実践（後半）について理解するとともに、「人間関係」の評価について幼児の具体的な活動や姿に即して理解する。 ・環境構成について、ICT を含む具体的な教材研究をとおして構想が練れる。 ○本時の活動 テキスト（p１１０～１１２後半）をもとに講義を行う。 ○本時の学習成果 ・２歳児の指導計画と実践（後半）及び「人間関係」の評価について理解している。 ・環境構成について、ICT を含む具体的な教材研究をとおして構想が練れるようになる。 ○予習及び復習事項 予習：シラバス・テキストの該当箇所を読む。 復習：シラバス・テキスト・ノートを読み返し本時の学習内容を確認する。
8 回	○本時の目標 ・３歳児の指導計画と実践（前半）について理解する。 ・環境構成について、ICT を含む具体的な教材研究をとおして構想が練れる。 ○本時の活動 ・テキスト（p１１４～１１８前半）をもとに講義・演習を行う。 ○本時の学習成果 ・３歳児の指導計画と実践（前半）について理解する。 ・環境構成について、ICT を含む具体的な教材研究をとおして構想が練れるようになる。 ○予習及び復習事項 予習：シラバス・テキストの該当箇所を読む。 復習：シラバス・テキスト・ノートを読み返し本時の学習内容を確認する。
9 回	○本時の目標 ・３歳児の指導計画と実践（後半）について理解するとともに、「人間関係」の評価について幼児の具体的な活動や姿に即して理解する。 ・「人間関係」について、ICT を含む具体的な教材研究をとおして構想が練れる。 ○本時の活動 ・テキスト（p１１４～１１８後半）をもとに講義・演習を行う。 ○本時の学習成果 ・３歳児の指導計画と実践（後半）及び「人間関係」の評価について理解する。 ・「人間関係」について、ICT を含む具体的な教材研究をとおして構想が練れるようになる。 ３歳児の指導計画と実践を理解している。 ○予習及び復習事項 予習：シラバス・テキストの該当箇所を読む。 復習：シラバス・テキスト・ノートを読み返し本時の学習内容を確認する。
10 回	○本時の目標 ・４歳児の指導計画と実践（前半）について理解する。 ・遊びに関するロールプレイの意義を理解し運用をする。 ○本時の活動 ・テキスト（p１２０～１２４前半）をもとに講義・演習を行う。 ○本時の学習成果 ・４歳児の指導計画と実践（前半）について理解する。 ・遊びに関するロールプレイの意義を理解し運用ができるようになる。 ○予習及び復習事項 予習：シラバス・テキストの該当箇所を読む。 復習：シラバス・テキスト・ノートを読み返し本時の学習内容を確認する。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
11回	○本時の目標 ・４歳児の指導計画と実践（後半）について理解するとともに、「人間関係」の評価について幼児の具体的な活動や姿に即して理解する。 ・遊びに関するロールプレイの意義を理解し運用をする。 ・「人間関係」をめぐる現代的課題を把握し、保育実践の対応を模索する。 ○本時の活動 ・テキスト（ｐ１２０～１２４後半）をもとに講義・演習を行う。 ○本時の学習成果 ・４歳児の指導計画と実践（後半）及び「人間関係」の評価について理解している。 ・「人間関係」をめぐる現代的課題を把握し、保育実践の対応を模索できるようになる。 ○予習及び復習事項 予習：シラバス・テキストの該当箇所を読む。 復習：シラバス・テキスト・ノートを読み返し本時の学習内容を確認する。
12回	○本時の目標 ・５歳児の指導計画と実践（前半）について理解する。 ・小学校との接続について幼児の具体的な活動や姿に即して理解し、小学校との交流活動が必要なことを理解する。 ○本時の活動 ・テキスト（ｐ１２８～１３４前半）をもとに講義・演習を行う。 ○本時の学習成果 ・５歳児の指導計画と実践（前半）について理解している。 ・小学校との交流活動が必要なことを理解している。 ○予習及び復習事項 予習：シラバス・テキストの該当箇所を読む。 復習：シラバス・テキスト・ノートを読み返し本時の学習内容を確認する。
13回	○本時の目標 ・５歳児の指導計画と実践（後半）について理解するとともに、「人間関係」の評価について幼児の具体的な活動や姿に即して理解する。 ・運動会への招待・参加など小学校との交流を企画する。 ○本時の活動 ・テキスト（ｐ１２８～１３４後半）をもとに講義・演習を行う。 ○本時の学習成果 ・５歳児の指導計画と実践（後半）及び「人間関係」の評価について理解している。 ・運動会への招待・参加など小学校との交流を企画できるようになる。 ○予習及び復習事項 予習：シラバス・テキストの該当箇所を読む。 復習：シラバス・テキスト・ノートを読み返し本時の学習内容を確認する。
14回	○本時の目標 ・人との関わりが難しい子どもへの支援について理解する。 ○本時の活動 ・プリントをもとに講義・演習を行う。 ○本時の学習成果 ・人との関わりが難しい子どもへの支援について理解している。 ○予習及び復習事項 予習：シラバス・テキストの該当箇所を読む。 復習：シラバス・テキスト・ノートを読み返し本時の学習内容を確認する。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
15 回	○本時の目標 ・園が立地する地域の歴史や文化を把握し、地域交流や行事参加につなげることを理解する。 ・地域交流や行事参加の企画を練る。 ○本時の活動 ・プリントをもとに講義・演習を行う。 ○本時の学習成果 ・園が立地する地域の歴史や文化を把握し、地域交流や行事参加につなげることを理解している。 ・地域交流や行事参加の企画を練ることができる。 ○予習及び復習事項 予習：シラバス・テキストの該当箇所を読む。 復習：シラバス・テキスト・ノートを読み返し本時の学習内容を確認する。

令　和　2　年　度　教　育　計　画							
科目名	幼児と環境	授業回数	15	単位数	2	担当教員	鈴木　久子
質問受付の方法（e-mail、オフィスアワー）： hsuzuki@owc.ac.jp　OH: 水曜日 4 限 M409 室							

教育目標と学生の学習成果

教育目標

保育所保育指針および幼稚園教育要領における「環境」の教育的ねらいは「周囲の様々な環境に好奇心や探求心をもってかかわり，それらを生活に取り入れていこうとする力を養う。」である。そこで本科目では、幼児が自ら興味や関心をもって環境に主体的に関わり、充実感や満足感を味わうことのできる体験について深く理解し、そのような幼児と環境との関わりを促進させる意図的な関わりに検討を加えていくのに必要な知識・技能を身に付ける。また、人的環境としての保育者の感性を養う。

学生の学習成果

専門的学習成果：　子どもの発達・成長に重要な「環境」に関する様々な知識・技能及び感性を身に付ける。

汎用的学習成果：　保育者は子どもにとっては人的環境として子どもの環境の一部であることを自覚し，保育者として求められる態度・信念を獲得する。また、自主的に学ぶ姿勢を身に付ける。

教育方法

授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） ・自然遊び・科学遊び・生活遊び・室内ゲーム等の演習を行い、環境との豊かなかかわりを育むための保育者の援助と配慮事項を子ども視点で考察し、まとめる。 ・植物を栽培しその観察記録をノートにまとめる。 ・毎回授業後には振り返りタイムを設定（シャトルカードに記入）する。
予習・復習	予習事項：「授業回数別内容」に記された内容について調べてから授業に臨む。 復習事項：保育現場で実際に計画・実践する場合を想定して授業内容をノートにまとめる。予習・復習の取り組み状況は主にノート点検により確認する。
テキスト	・無藤隆監・福元真由美編『事例で学ぶ育内容　領域環境』萌文書林、2013 年 その他適宜資料を配布する。保育内容 ＊授業用に冊子ノートを準備し，毎回，まとめと授業後の振り返り等を記入しておくこと。適宜，求められた日に点検を受ける。

学習評価の方法

＊学習成果と受講態度を学習評価の基準とする。
具体的には、受講態度、レポート、定期試験を総合的に評価する。
専門的学習成果：定期試験（70%）
汎用的学習成果：受講態度（20%）、レポート（10%）

＊受講中の授業への貢献度や自己開発への意欲などを勘案し、１回につき１点の加点機会をも設ける。

注意事項

【参考図書】
・文部科学省厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館，2018 年
・国立教育政策研究所教育課程研究センター，『環境教育指導資料【幼稚園・小学校編】』東洋館出版社, 2015 年
・『「そだててあそぼう　３」サツマイモの絵本』農山漁村文化協会，2001 年
・田尻由美子・武藤隆編『子どもと環境―基本と実践事例―』、同人書院、2011 年
・保育内容　環境　―基礎的事項の理解と指導法―　岡　健　編　建帛社、2019 年
・酒井幸子・守巧「保育内容環境」萌文書林、2016 年。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	**＜オリエンテーション＞＜環境とは、保育者の役割とは＞** 本科目のねらい，授業計画，学習評価方法について確認する。さらに、「保育者の役割」、「環境」のねらいや内容について理解する。 ○活動内容: オリエンテーション、「環境」のねらい、保育者の役割 ○学習成果: 領域「環境」の概要について知り、そのねらいや内容を理解するとともに，子どもを取り巻く環境、保育者の役割について説明できる。 ○復習事項：子どもを取り巻く環境、領域「環境」のねらいや内容が言える。 ○予習事項：子どもにとっての環境とは何か調べてくる。
2 回	**＜自然を用いた遊び①＞**自然と触れ合い豊かな感性を育む子ども体験、保育者体験をする。 ○活動内容　自然に親しみ、植物や生き物に触れる体験（目隠しイモムシの演習と気づき） ○学習成果「目隠しイモ虫」になり五感を通して自然を感じる体験ができる。保育者の配慮事項や援助方法を子ども視点で考察できる。 ○復習事項：体験活動をもとに他に春を感じるものを探す。 ○予習事項：自分の周りの自然を見直してくる。　＊目隠しの準備
3 回	**＜自然を用いた遊び②＞**数量や図形を活用し好奇心や探求心を育む活動体験からその援助と配慮事項を理解する。 ○活動内容　自然の中から似た形探し、擦り出し ○学習成果　情報機器により葉っぱ調べを行い、数量や図形を活用して好奇心や探求心を育む活動における援助や配慮事項を体験する。 ○復習事項：体験活動をもとに疑問点は調べ、指導略案にまとめる。 ○予習事項：子どもにとっての身近な自然について調べてくる　＊畑を耕す服装
4 回	**＜保育活動における安全管理＞**危険予知トレーニングの演習の仕方を知り，グループ学習により野外活動時等における安全管理の仕方を身に付ける。 ○活動内容　危険予知トレーニング演習、安全管理 ○学習成果　危険予知トレーニングの演習を行い，野外活動時等における安全管理の仕方が分か ○復習事項：時期・場所別による危険予知トレーニングを行うことを復習とする。 ○予習事項：子どもにとって環境を構成する要素とは何か調べてくる。
5 回	**＜春のキャンパスマップ＞**季節により自然や人間の生活に変化があることに気づくことを目的とした活動を体験し、その援助と配慮事項を理解する。 ○活動内容　春のキャンパスマップづくり ○学習成果　春のキャンパスマップ作りを体験し、春や愛校心を感じることができる。 ○復習事項：体験活動をもとに指導略案にまとめる。 ○予習事項：キャンパスに潜む危険を子どもの視点で考えてくる。　＊クレヨンか色鉛筆の準備
6 回	**＜科学遊び①＞**風車を作り、それを使った遊びの演習を通して，身近な物や遊具に興味をもって関わり，好奇心や探求心を育む科学的遊びの援助と配慮事項を理解する。さらに評価のやり方を理解し、模擬保育とその繰り返しを通して改善する視点を身に付ける。 ○活動内容　風車づくり、振り返り・改善 ○学習成果　風車作りを体験し、実践に向けての指導案を作成する。さらに振り返り、指導案を修正することができる。 ○復習事項：体験活動をもとに指導略案にまとめる。 ○予習事項：なぜ風車は回るのかを考えてくる。

	授　業　回　数　別　教　育　内
7回	**＜科学遊び②＞**身近な石鹸を用いたシャボン玉演習を通して，子どもの好奇心探求心を育む活動の援助と配慮事項を理解する。 ○活動内容：シャボン玉遊び ○学習成果：シャボン玉遊びの活動体験から援助と配慮事項を知る。 ○復習事項：体験活動をもとに指導略案にまとめる。 ○予習事項：子どもの視点で活動に潜む危険やねらいを達成するための工夫を考えてくる。
8回	**＜飼育と栽培＞**サツマイモについてのルーツや栄養価，栽培方法，植え方，世話や観察の仕方について理解し，サツマイモとアサガオの植え付けを行う。観察記録を通して，身近な動植物に親しみをもって接し、生命の尊さに気付き，いたわったり大切にしたりする心を育む活動の援助と配慮事項を理解できる。 ○活動内容：サツマイモについての理解、植え付け、「環境」と「生活科」のつながり ○学習成果：アサガオとサツマイモの植え付けをし、生命を育てていこうとする心構えをもつことができる。 ○復習事項：今後、成長過程を観察・記録することを復習とする。 ○予習事項：サツマイモの栽培方法について調べてくる。
9回	**＜乳幼児期における自然体験＞**年齢・発達に沿った自然（太陽・水・空気・風など）との関わり方・保育活動への活用方法について理解し指導案を作成する。 ○活動内容：自然との関わりにおける保育活動についての想起、指導案作成 ○学習成果：自然（太陽・水・空気・風など）それぞれの保育活動への活用方法について想起し、自分なりに指導案が作成できる。 ○復習事項：体験活動をもとに指導略案にまとめる。 ○予習事項：乳幼児期の発達に応じた自然の中での保育活動について考えてくる。
10回	**＜生活遊び①＞**身の回りにある廃材などの素材を利用した廃材のアート(羽子板）の演習を通して，身の回りの物に愛着をもつことを目的とした活動の援助と配慮事項を理解する。さらに評価のやり方を理解し、模擬保育とその繰り返しを通して改善する視点を身に付けるようにする。 ○活動内容：羽子板づくり・指導案作成、振り返り・改善 ○学習成果：廃材のアート(羽子板）の演習を通して，身の回りの物に愛着をもつことを目的とした活動の援助と配慮事項を理解する。さらに振り返り、修正することができる。 ○復習事項：体験活動をもとに指導略案にまとめる。 ○予習事項：身の回りの廃材で素材になる牛乳 1ℓパックを１つ準備する。
11回	**＜生活遊び②＞**数字のサイコロやすごろくを作成して遊ぶ演習を通して，日常生活における数量や図形など親しむことを目的とした活動の援助と配慮事項を理解する。 ○活動内容：さいころとすごろくづくり ○学習成果：数量や図形などに親しむことを目的にした活動の援助と配慮事項を理解する。 ○復習事項：体験活動をもとに指導略案にまとめる。 ○予習事項：身の回りの物を用いたスタンプ遊びについて調べてくる。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
12回	**＜室内ゲーム①＞**動物あてゲームや動物しりとりを通して，さまざまな生き物の生態や生活に関係の深い施設について興味・関心をもつ活動の援助と配慮事項を理解する。 ○活動内容: 動物あてゲーム、動物しりとり ○学習成果: ゲーム体験を通しての援助や配慮事項を理解する。 ○復習事項：体験活動をもとに指導略案にまとめる。 ○予習事項：室内でできる動物に関する環境ゲームについて考えてくる。
13回	**＜室内ゲーム②＞**昔遊び(しりとりや数の童歌)の演習を通して，日本の伝統文化（お正月行事）や国旗にふれるとともに，日常生活における必要感に基づく数量感覚を養う活動の援助と配慮事項を理解する。 ○活動内容：昔遊びや伝統文化－ＰＣによる情報機器の活用、国旗作成 ○学習成果: 情報機器を活用して調べた伝統文化や国旗、昔遊びによる活動の援助や配慮事項を理解する。 ○復習事項：体験活動をもとに指導略案にまとめる。 ○予習事項：地域に残る童歌や遊びについて調べてくる。
14回	**＜科学遊び③＞**色水遊びや押し花の演習を通して、自然の身近な事象に関心をもち、取り入れた科学的遊びの援助と配慮事項を理解する。 ○活動内容：「環境」と小学校での「生活科」とのつながり、色水遊びや押し花の演習 ○学習成果：色水遊びや押し花の演習の科学的遊びの援助と配慮事項を理解する。 ○復習事項：体験活動をもとに指導略案にまとめる。 ○予習事項：どんな植物で色水遊びをしたらよく染まるのかを調べてくる。
15回	**＜幼児における環境教育＞**現代的課題や保育実践の動向を知り，子どもが自ら取り組む豊かな環境の設定と保育者としての役割や心構えについて，理解を深めることができ、「環境」のねらいと内容について振り返ることができる。 ○活動内容：「環境」のねらいと内容・現代的課題や保育者の役割 ○学習成果：「環境」のねらいや内容について総まとめをするとともに現代的課題や保育者としての役割について理解することができる。 ○復習事項：豊かな環境と保育者の役割について復習する。 ○予習事項：演習内容と指針のねらいや内容との関連について調べてくる。

令　和　２　年　度　教　育　計　画							
科目名	「幼児と環境」の指導法	授業回数	15	単位数	２	担当教員	鈴木　久子
質問受付：　e-mail：hsuzuki@owc.ac.jp　OH:水曜日 16:20～17：00　M 棟 409 号							

教育目標と学生の学習成果

教育目標

保育所保育指針および幼稚園教育要領における「環境」の教育的ねらいは「周囲の様々な環境に好奇心や探求心をもってかかわり，それらを生活に取り入れていこうとする力を養う。」である。そこで本科目では，このねらいを達成するための領域「環境」のねらい及び内容について実際に五感を通して理解を深め，幼児の発達に即して、「環境」との豊かなかかわりを育むための保育者の援助と配慮事項を子ども視点で考察し、主体的・対話的な深い学び目指した領域「環境」の具体的な指導場面を構想する手法を身に付けることを目標とする。

学生の学習成果

＜専門的学習成果＞

① 身近な環境・自然・地域の様々な事象に関心をもち，好奇心や探求心を育む活動内容について幼児の発達や学びの過程を理解し，計画・実践する手法を身に付ける。
② 物の性質や数量，文字などに対する感覚を豊かにする活動内容を，幼児の発達や学びの過程を理解し，計画・実践する手法を身に付ける。
③ 栽培活動を通して生命の尊さに気づき、責任ある行動を育む保育活動の計画・実践に係る手法を身に付ける。
④ 野外・園外活動等における安全管理に係る基本的な知識・方法を身に付ける。
⑤ 幼稚園要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ，「環境」のねらい及び内容を理解する。

＜汎用的学習成果＞

保育者は子どもにとっては人的環境として子どもの環境の一部であることを自覚し，保育者として求められる態度・信念を獲得する。また、自主的に学ぶ姿勢を身に付ける。

教育方法

授業の進め方	〔講義・演習・実験・実習〕 本科目は，ロールプレイ、ディベート等も積極的に取り入れて科学的な概念について理解していく。また，演習も実施し，知識だけでなく体験を通して理解する。毎回，授業の最後に振り返りタイムを設定し、シャトルカードにまとめをする。
予習・復習	予習事項:「授業回数別教育内容」に記された内容について予習し授業に臨むこと。 復習事項：講義内容を復習し、要点については理解を深めること。 予習・復習の取り組み状況は主にノート点検により確認する。
テキスト	・無藤隆監・福元真由美編『事例で学ぶ育内容　領域環境』萌文書林、2013 年 その他適宜資料を配布する。

学習評価の方法

＊学習成果と受講態度を学習評価の基準とする。
具体的には、下記の配分により総合的に評価する。
<専門的学習成果>：定期試験（50%）、保育活動計画(10%)
〈汎用的学習成果〉：ノート（10%)、観察記録(10%)、演習の取り組み(10%)、レポート（10%）

授業への貢献度や自己開発への意欲などを勘案し、１回につき１点の加点の機会を設ける。

注意事項

【参考図書】
・酒井幸子・守巧「保育内容環境」萌文書林、2016 年。
・市川伸一編　『現代認知心理学５　学習と発達』　北大路書房　2010 年
・福沢周亮監修『保育の心理学―子どもの心身の発達と保育実践―』教育出版　2012 年
・文部科学省厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館，2018 年
・国立教育政策研究所教育課程研究センター，『環境教育指導資料【幼稚園・小学校編】』東洋館出版社,2015 年

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	【オリエンテーション】本科目の授業計画，学習評価方法等について理解する。 【保育と環境】本科目の計画・評価方法等を理解するとともに、幼児が取り巻く環境と関わり、いかにして科学の世界に入っていくのかを理解する。 ○活動内容:オリエンテーション、環境との関わり、アサガオの種の取り入れと生命の循環 ○学習成果: 環境との関わり方について説明できる「周囲の様々な環境に好奇心や探求心をもって関わり、それらを生活に取り入れようとする」ことによって初めて身近な環境や事象となる。 ○復習事項: 環境との関わりについて復習する。 ○予習事項: 科学とは何か、幼児にとって遊びとは何か調べてくる。　＊畑仕事の服装
2 回	【育ちと環境とのかかわり】幼児を取り巻く環境（物的、人的、社会的、安全等）と、幼児の発達におけるそれぞれの環境の重要性について理解する。 ○活動内容: 育ちと環境の関わり ○学習成果: 発達における環境の重要性について説明できる。 ○復習事項: 復習事項　発達と環境について復習する。 ○予習事項:テキストの該当箇所を読んでくる。
3 回	【生物学者としての子ども①】生物・自然との関わりの事象に対する興味・関心、理解の発達について体験を通して理解する。 ○活動内容:「子どもにおける生物概念の発達」(資料)、どんぐりゴマ ○学習成果: 子どもの生物学的概念に対する発達による違いが分かる。 ○復習事項: 生物学的概念について復習し体験をもとに指導略案を作成する。 ○予習事項: どんぐりゴマの作り方について調べてくる。
4 回	【数学者としての子ども―自然との関わり】数量・図形との関わりの事象に対する興味・関心、理解の発達について体験を通して理解し、指導案を作成する。 ○活動内容: どんぐり拾い、数概念―論理数学的知能　指導案の作成 ○学習成果: 数概念に対する理解の発達について分かり、指導案を作成する。 ○復習事項: 数概念の特徴について復習し、指導略案を作成する。 ○予習事項: 数概念とは何か調べてくる。
5 回	【認知的発達の特徴】乳幼児の認知的発達の特徴と道筋を理解する。 ○活動内容: 認知的発達の特徴と道筋 ○学習成果: 認知的発達について説明できる。 ○復習事項: 認知的発達について復習する。 ○予習事項: 認知的概念とは何か調べてくる。
6 回	【生物学者としての子ども②】 生物・自然との関わりの事象に対する興味・関心、理解の発達について体験を通して理解する。 ○活動内容:「子どもにおける生物概念の発達」(資料)、芋ほり、サツマイモ収穫の感想文 ○学習成果: 子どもの生物学的概念に対する発達による違いが分かる。 ○復習事項: 生物学的概念の特徴について復習し体験をもとに指導略案を作成する。 ○予習事項: サツマイモの活用方法について調べてくる。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
7 回	【生物学者としての子ども③】図形との関わりの事象に対する興味・関心、理解の発達について子ども体験をし、配慮事項について理解する。 ○活動内容：落葉・木の実拾い、植物名調べ ○学習成果：秋の季節を感じるとともに自然の中にいろんな図形を見つける活動体験を通して配慮事項を考察し保育を構想する。 ○復習事項：特徴的な植物について復習し指導略案にまとめる。 ○予習事項：秋に紅葉する校内の樹々について調べてくる。
8 回	【生物学者としての子ども④】生物・自然との関わりの事象に対する興味・関心、理解の発達について体験を通して理解する。 ○活動内容：サツマイモのツル⇒なわとび、リース作り、芋料理 ○学習成果：サツマイモの活用方法について分かる。 ○復習事項：サツマイモの特徴について復習し指導略案にまとめる。 ○予習事項：準備物を調べて準備する。
9 回	【物理学者としての子ども①】物理的事象との関わりの事象に対する興味・関心、理解の発達について体験を通して理解する（スライム）。 ○活動内容：スライムの原理、スライムづくり、発達に応じた対応―「磁石遊び」（資料） ○学習成果：幼児の物理概念の特徴について分かる。 ○復習事項：磁石への興味関・関心度について復習し指導略案にまとめる。 ○予習事項：ダイラタンシー現象について調べてくる。
10 回	【物的環境―物理学者としての子ども③】物理的事象との関わりの事象に対する興味・関心、理解の発達について理解する（凧*ゴミ袋準備）。 ○活動内容：凧が上がる原理、廃材を利用した凧作り、発達に応じた対応 ○学習成果：凧が上がる原理が説明でき、発達に応じた興味・関心が分かる。 ○復習事項：凧あげについて復習し指導略案にまとめる。 ○予習事項：凧は、なぜあがるのか調べてくる。
11 回	【社会的環境―情報・施設】乳幼児が興味・関心を抱ける環境資源を調べ、それを生かした保育計画を立てる。 ○活動内容：生活に関係が深い情報・施設　地域などでの五感を使った体験（防災センター、公園、消防署、動物園、博物館、神社、地域の家への果物採り） ○学習成果：地域の環境資源と保育についての指導案を作成する。 ○復習事項：社会的環境について復習し指導略案にまとめる。 ○予習事項：地域の環境資源とはどんなものがあるのか調べてくる。
12 回	【物的環境―文字・標識に対する感覚】乳幼児を取り巻く標識や文字等の出会い、それらへの興味・関心などの育ちを捉え、環境の構成や援助の在りを理解する。 ○活動内容：文字・標識に対する感覚 演習ワーク➡「設計図を描いてみよう」 ○学習成果：文字・標識に対する感覚を豊かにするためのかかわり方が分かる。 ○復習事項：文字・標識に対する興味・関心のもたせ方について復習し指導略案にまとめる。 ○予習事項：テキストの該当箇所を読んでくる。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
13 回	【環境の現代的課題】ＥＳＤなどの幼児を取り巻く環境の現代的課題について理解する。 〇活動内容　安全を確保する「環境」 知識基盤社会及び持続可能な開発のための教育（ESD）― ディベート⇒「子どもに積ませたい経験は？」 〇学習成果　環境の現代的課題について知り、保育構想の向上に取り組む。 〇復習事項　現代的課題について振り返る。 〇予習事項　現代的課題について調べてくる。
14 回	【生物学者としての子ども②－生物・自然との関わり】 生物・自然との関わりの事象に対する興味・関心、理解の発達について体験を通して理解し（チューリップ、大根)。指導案を作成する。 〇活動内容: 生物概念について、大根の収穫と調理 〇学習成:果 球根や種からの育て方を理解し、部分指導案を作成する。 〇復習事項: 球根や種からの成長過程について復習し指導略案にまとめる。 〇予習事項: テキストの該当箇所を読んでくる。
15 回	【まとめ➡人的環境としての保育者】 幼児の生活における活動は科学的知識の基礎の獲得と意味づけし、保育者としてどう支援していけば科学的思考が育つのかまとめる。 〇活動内容　授業内容の振り返り 〇学習成果　環境へのかかわり方について振り返り、まとめる。 〇復習事項　日常生活おける活動に対する捉え方や支援方法について復習する。 〇予習事項　科学とは、遊びとは、学びとは、今までの学習内容を振り返る。

令　和　２　年　度　教　育　計　画							
科目名	幼児と言葉	授業回数	15	単位数	1	担当教員	浦上　博文
質問受付の方法：Ｂ４０４授業終了後、e-mail：urakami@owc.ac.jp							

教育目標と学生の学習成果		教育目標：本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である。本授業は、「経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う」実践的指導力のある保育者を養成することを目指し、以下の５点を教育目標とする。 ①人間にとっての言葉の役割を理解する。 ②乳幼児の言葉の発達・その過程における特徴や諸問題を理解する。 ③幼児に対する、適切な言葉の援助のしかたを理解する。 ④幼児にとっての児童文化財（絵本・物語・紙芝居等）の意義を理解する。 ⑤幼児が言語感覚を豊かにする実践（言葉遊び）について理解する。 学生の学習成果：専門的学習成果として、教育目標に掲げる５点に関する知識を修得する。また、汎用的学習成果として、態度（社会人としてのマナー・学習態度など）及び信念（保育者になろうとする信念・継続的に努力する姿勢など）を涵養する。
教育方法	授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） ・教育目標①・②・③について。テキストに沿って講義を行う。 ・教育目標④・⑤については、実演を行いつつテキスト・補助資料に沿って講義を行う。また、受講生が模擬実践を行う。
	予習・復習	・毎授業回前に、「授業回数別教育内容」に記された予習を求める。 ・毎授業回後に、「授業回数別教育内容」に記された復習を求める。
	テキスト	岡田明編『新訂子どもと言葉』萌文書林、2018 年。 ・必要に応じて資料を配付し、内容を補う。
学習評価の方法		以下の６点の学習成果についてその獲得度合を量的に評価し、配点を「①＋②＋③：④＋⑤：⑥＝60：25：15」とする。 ①人間にとっての言葉の役割を理解する（期末試験）。 ②乳幼児の言葉の発達・その過程における特徴や諸問題を理解する（期末試験）。 ③幼児に対する、適切な言葉の援助のしかたを理解する（期末試験）。 ④幼児にとっての児童文化財（絵本・物語・紙芝居等）の意義を理解する（課題） ⑤幼児が言語感覚を豊かにする実践（言葉遊び）について理解する（課題）。 ⑥態度・信念を身に付ける。 態度・信念の評価は、全授業を通してシャトルカードにより行う（１回分１点、記載不十分の場合減点）。担当教員の指導に従わず、社会人としてのマナー・学習態度、保育者になろうとする信念・継続的に努力する姿勢などが改善されない場合、評価点より減ずる（１件１点）。
注意事項		参考図書等 ・岡本夏木『子どもとことば』岩波新書、2003 年。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	○本時の目標 ・シラバス・テキスト等を用いたオリエンテーションにより、本授業の概要を理解する。 ・保育者としての言葉の在り方、人間生活における言葉の役割について理解する（前半）。 ○本時の活動 ・オリエンテーション ・テキスト（p. ２～10の前半）を解説する。 ○本時の学習成果 ・本授業の概要を理解し、保育者としての言葉の在り方、人間生活における言葉の役割を説明できる。 予習：シラバス・テキストの該当箇所を通読する。 復習：シラバス・テキスト・ノートを読み返し、学習内容を確認する。
2 回	○本時の目標 ・人間生活における言葉の役割について理解する（後半）。 ○本時の活動 ・テキスト（p. ２～10の後半）を解説する。 ○本時の学習成果 ・人間生活における言葉の役割を説明できる。 予習：テキストの該当箇所を通読する。 復習：テキスト・ノートを読み返し、学習内容を確認する。
3 回	○本時の目標 ・乳幼児の言葉の発達とその過程における特徴のうち、誕生から１歳前後までの言葉の発達と特徴（クーイング・喃語・初語・一語文等）を理解する。 ○本時の活動 ・テキスト（p. 11～14）を解説する。 ○本時の学習成果 ・誕生から１歳前後までの言葉の発達と特徴を説明できる。 予習：テキストの該当箇所を通読する。 復習：テキスト・ノートを読み返し、学習内容を確認する。
4 回	○本時の目標 ・乳幼児の言葉の発達とその過程における特徴のうち、１歳半から３歳のころまでの言葉の発達と特徴（二語発話・幼児語・幼児音等）を理解する。 ○本時の活動 ・テキスト（p. 14～19）を解説する。 ○本時の学習成果 ・１歳半から３歳のころまでの言葉の発達と特徴を説明できる。 予習：テキストの該当箇所を通読する。 復習：テキスト・ノートを読み返し、学習内容を確認する。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
5 回	○本時の目標 ・乳幼児の言葉の発達とその過程における特徴のうち、４歳以降の言葉の発達と特徴（多様な品詞の使用・文字への関心等）を理解する。 ○本時の活動 ・テキスト（p.19～23）を解説する。 ○本時の学習成果 ・４歳以降の言葉の発達と特徴を説明できる。 予習：テキストの該当箇所を通読する。 復習：テキスト・ノートを読み返し、学習内容を確認する。
6 回	○本時の目標 ・言語に関わる障害、障害のある幼児に対する対処の仕方・指導の在り方について理解する。 ○本時の活動 ・「乳幼児の言葉の発達とその過程における特徴」に関する復習テスト ・テキスト（p.28～36）を解説する。 ○本時の学習成果 ・復習テストにより知識の修得状況を認識できる。 ・言語に関わる障害、障害のある幼児に対する対処の仕方・指導の在り方を説明できる。 予習：復習テストに向けた学習をする。テキストの該当箇所を通読する。 復習：復習テストの間違いを確認する。テキスト・ノートを読み返し、学習内容を確認する。
7 回	○本時の目標 ・言葉の発達を促す諸条件について、人とのかかわり・子どもの生活・遊び等の側面から理解する。 ○本時の活動 ・テキスト（p.23～27 p.53～60）を解説する。 ○本時の学習成果 ・言葉の発達を促す諸条件について、人とのかかわり・子どもの生活・遊び等の側面から説明できる。 予習：テキストの該当箇所を通読する。 復習：テキスト・ノートを読み返し、学習内容を確認する。
8 回	○本時の目標 ・幼児の言葉を育むために必要な保育者の援助のうち、言葉の発達段階に応じた言葉かけの仕方について理解する。 ○本時の活動 ・テキスト（p.68～103）を解説する。 ○本時の学習成果 ・言葉の発達段階に応じた言葉かけの仕方について説明できる。 予習：テキストの該当箇所を通読する。 復習：テキスト・ノートを読み返し、学習内容を確認する。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
9回	○本時の目標 ・幼児の言葉を育むために必要な保育者の援助のうち、絵本の読み聞かせに関する知識（発達段階に応じた選書・読み聞かせの方法等）を理解する。 ○本時の活動 ・テキスト（p. 107～111）・補助資料を解説する（実演を含む）。 ○本時の学習成果 ・絵本の読み聞かせの仕方について説明できる。 予習：テキストの該当箇所を通読する。 復習：テキスト・補助資料・ノートを読み返し、学習内容を確認する。
10回	○本時の目標 ・幼児の言葉を育むために必要な保育者の援助のうち、紙芝居等に関する知識（舞台の使用法・演じ方等）を理解する。 ○本時の活動 ・テキスト（p. 111～122）・補助資料を解説する（実演を含む）。 ○本時の学習成果 ・紙芝居の演じ方について説明できる。 予習：テキストの該当箇所を通読する。 復習：テキスト・補助資料・ノートを読み返し、学習内容を確認する。
11回	○本時の目標 ・絵本の読み聞かせ・紙芝居の模擬実践を通して、第９・10回の授業で学んだ知識を修得するとともに幼児の発達における児童文化財の意義について理解する（１回目）。 ○本時の活動 ・絵本の読み聞かせ・紙芝居の模擬実践を行う。 ○本時の学習成果 ・絵本の読み聞かせ・紙芝居の演じ方の基礎的な知識を修得するとともに児童文化財の意義を説明できる。 予習：各自が選んだ絵本あるいは紙芝居の練習を行う。 復習：絵本の読み聞かせ・紙芝居の模擬実践から得た成果と課題、児童文化財の意義について確認する。
12回	○本時の目標 ・絵本の読み聞かせ・紙芝居の模擬実践を通して、第９・10回の授業で学んだ技能を修得するとともに幼児の発達における児童文化財の意義について理解する（２回目）。 ○本時の活動 ・絵本の読み聞かせ・紙芝居の模擬実践を行う。 ○本時の学習成果 ・絵本の読み聞かせ・紙芝居の演じ方の基礎的な知識を修得するとともに児童文化財の意義を説明できる。 予習：各自が選んだ絵本あるいは紙芝居の練習を行う。 復習：絵本の読み聞かせ・紙芝居の模擬実践から得た成果と課題、児童文化財の意義について確認する。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
13回	○本時の目標 ・幼児が言葉の楽しさや美しさに気づき言葉を豊かにする実例を知るとともに、言葉遊びの基礎的な知識を理解する。 ○本時の活動 ・補助資料によって、幼児が言葉の楽しさや美しさに気づき言葉を豊かにする実例、言葉遊びの基礎的な知識を解説する。 ○本時の学習成果 ・幼児が言葉の楽しさや美しさに気づき言葉を豊かにする実例と、言葉遊びの基礎的な知識を説明できる。 予習：補助資料を通読する。 復習：補助資料・ノートを読み返し、学習内容を確認する。
14回	○本時の目標 ・幼児の言葉の発達とそれに応じた言葉遊びとの関連を理解する。 ○本時の活動 ・０～２歳児、３歳児、４歳児、５歳児向けの言葉遊びを体験し、言葉の発達と言葉遊びとの関連を考察する。 ○本時の学習成果 ・幼児の言葉の発達とそれに応じた言葉遊びとの関連を説明できる。 予習：補助資料を通読する。 復習：言葉遊びの体験と考察から得た学習内容を確認する。
15回	○本時の目標 ・幼児の言語を育むという点から自己課題を認識する。 ○本時の活動 ・シラバス・テキスト・補助資料・ノートによってこれまでの授業を振り返り、自己課題を考察する。 ・期末試験に向けた授業内容の振り返りを行う。 ○本時の学習成果 ・幼児の言語を育むという点から、自己課題を説明できる。 予習：シラバス・テキスト・補助資料・ノートによって、これまでの授業内容を振り返る。 復習：保育者を目指す自己課題を確認するとともに、期末試験に向けて復習する。

令　和　２　年　度　教　育　計　画							
科目名	「幼児と言葉」の指導法	授業回数	15	単位数	2	担当教員	浦上　博文
質問受付の方法：Ｂ４０４授業終了後、e-mail：urakami@owc.ac.jp							

教育目標と学生の学習成果		教育目標：本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である。本授業は、「経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う」実践的指導力のある保育者を養成することを目指し、以下の７点を教育目標とする。 ①幼稚園教育の基本を踏まえつつ領域「言葉」のねらい及び内容、評価の在り方を理解する。②領域「言葉」と小学校教育との関連を理解する。③保育者としての言葉の在り方を理解する。④領域「言葉」関わる現代的課題（言語障害のある幼児への支援）を理解する。⑤幼児の発達の過程を踏まえた、領域「言葉」の指導計画立案の方法について理解する。⑥児童文化財の活用法を修得する。⑦言葉遊びの指導案作成・模擬実践・振り返りを通して、保育実践力を修得する。 学生の学習成果：専門的学習成果として、教育目標に掲げる７点に関する知識及び技能を修得する。また、汎用的学習成果として、態度（社会人としてのマナー・学習態度など）及び信念（保育者になろうとする信念・継続的に努力する姿勢など）を涵養する。
教育方法	授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） ・目標①・②・③・④・⑤：テキストに沿って講義をする。 ・目標⑥：児童文化財を通しての援助については、実物・実演等によって説明する。受講者全員が絵本の読み聞かせ・紙芝居の模擬実践を行う（個人）。 ・目標⑦について。受講者全員が言葉遊びの模擬実践を行う（グループ）。
	予習・復習	・毎授業回前に、「授業回数別教育内容」に記された予習を求める。 ・毎授業回後に、「授業回数別教育内容」に記された復習を求める。
	テキスト	田上貞一郎・高荒正子著『新訂保育内容「言葉」』萌文書林、2016 年。 ・必要に応じて資料を配付し、内容を補う。
学習評価の方法		以下の８点の学習成果についてその獲得度合を量的に評価し、配点を「①＋②＋③＋④：⑤＋⑥＋⑦：⑧＝50：35：15」とする。 ①幼稚園教育の基本を踏まえつつ領域「言葉」のねらい及び内容を理解する（期末試験）。②領域「言葉」と小学校教育との関連を理解する（期末試験）。③保育者としての言葉の在り方を理解する（期末試験）。④領域「言葉」関わる現代的課題（言語障害を持つ幼児への支援）を理解する（期末試験）。⑤幼児の発達の過程を踏まえた、領域「言葉」の指導計画立案の方法について理解する（課題）。⑥児童文化財の活用法を修得する（課題）。⑦言葉遊びの指導案作成・模擬実践・振り返りを通して、保育実践力を修得する（課題）。⑧態度・信念を身に付ける。 態度・信念の評価は全授業を通してシャトルカードにより行う（記載不十分の場合減点）。担当教員の指導に従わず、社会人としてのマナー・学習態度、保育者になろうとする信念・継続的に努力する姿勢などが改善されない場合、評価点より減ずる（１件１点）。
注意事項		参考図書等

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	○本時の目標 ・シラバス・テキスト等を用いたオリエンテーションにより、本授業の概要を理解する。 ・保育者としての言葉の在り方について理解する。 ○本時の活動 ・オリエンテーション ・テキスト（p.10～22）を解説する。 ○本時の学習成果 ・本授業の概要を理解し、保育者としての言葉の在り方を説明できる。 予習：シラバス・テキストの該当箇所を通読する。 復習：シラバス・テキスト・ノートを読み返し、学習内容を確認する。
2 回	○本時の目標 ・乳幼児の言葉の発達・言語障害のある幼児への支援について理解する。 ○本時の活動 ・テキスト（p.22～44）をもとに、乳幼児の言葉の発達・言語障害のある幼児への支援について解説する。 ・乳幼児の言葉の発達に関する映像資料を視聴する。 ○本時の学習成果 ・乳幼児の言葉の発達、言語障害のある幼児への支援について説明できる。 予習：テキストの該当箇所を通読する。 復習：映像資料を振り返りつつテキスト・ノートを読み返し、学習内容を確認する。
3 回	○本時の目標 ・幼稚園教育の基本、幼稚園教育要領領域「言葉」のねらい及び内容・指導上の留意点、評価の在り方を理解する。 ・小学校教育とのつながりを理解する。 ○本時の活動 ・テキスト（p.155～166）をもとに、幼稚園教育の基本、幼稚園教育要領領域「言葉」のねらい及び内容・指導上の留意点、評価の在り方、小学校教育とのつながりを説明する。 ・文字遊びを体験し、幼児が文字等で伝える楽しさを経験できる教師の援助や環境構成について考察する。 ○本時の学習成果 ・幼稚園教育の基本、幼稚園教育要領領域「言葉」のねらい及び内容・指導上の留意点、評価の在り方、小学校教育とのつながりを説明できる。 ・幼児が文字等で伝える楽しさを経験できる教師の援助や環境構成について説明できる。 予習：テキストの該当箇所を通読する。 復習：文字遊び体験を振り返りつつテキスト・ノートを読み返し、学習内容を確認する。
4 回	○本時の目標 ・幼児の発達の過程を踏まえた、領域「言葉」の指導計画立案の方法について理解する。 ○本時の活動 ・テキスト（p.45～68）をもとに、領域「言葉」の指導計画立案の方法を解説する。 ○本時の学習成果 ・幼児の発達の過程を踏まえた、領域「言葉」の指導計画立案の方法について説明できる。 予習：テキストの該当箇所を通読する。 復習：テキスト・ノートを読み返し、学習内容を確認する。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
5回	○本時の目標 ・絵本の読み聞かせに関する知識を理解する。 ○本時の活動 ・テキスト（p. 74～92）・補助資料をもとに、実演を行いつつ絵本の読み聞かせに関する知識を解説する。 ○本時の学習成果 ・絵本の読み聞かせに関する知識を説明できる。 予習：テキストの該当箇所・補助資料を通読する。 復習：テキスト・補助資料・ノートを読み返し、学習内容を確認する。
6回	○本時の目標 ・紙芝居・パネルシアター・エプロンシアター・情報機器等に関する知識を理解する。 ○本時の活動 ・テキスト（p. 93～107）・補助資料をもとに、実演を行いつつ紙芝居・パネルシアター・エプロンシアター・情報機器等に関する知識を解説する。 ○本時の学習成果 ・紙芝居・パネルシアター・エプロンシアター・情報機器等に関する知識を説明できる。 予習：テキストの該当箇所・補助資料を通読する。 復習：テキスト・補助資料・ノートを読み返し、学習内容を確認する。
7回	○本時の目標 ・第５回の講義で学んだ絵本の読み聞かせに関する技能を修得する。 ・模擬実践を振り返り、改善点を認識する。 ○本時の活動 ・グループに分かれて、読み聞かせの模擬実践を行う。 ・実践記録用紙によって自己評価・他者評価を行い、成果と改善点を明らかにする。 ○本時の学習成果 ・第５回の講義で学んだ技知識をもとに、不十分ながら模擬実践ができる。 ・模擬実践による成果と改善点を説明できる。 予習：テキストの該当箇所・補助資料を通読する。読み聞かせの練習をする。 復習：模擬実践を振り返り、成果と改善点を確認する。
8回	○本時の目標 ・２回目の模擬実践によって、読み聞かせに関する技能を向上させる。 ・２回目の模擬実践を振り返り、新たな改善点を認識する。 ○本時の活動 ・グループに分かれて、絵本の読み聞かせの模擬実践を行う。 ・実践記録用紙によって自己評価・他者評価を行い、新たな成果と改善点を明らかにする。 ○本時の学習成果 ・前回の改善点を活かして、読み聞かせの模擬実践ができる。 ・２回目の模擬実践による新たな成果と改善点を説明できる。 予習：改善点を意識して読み聞かせの練習をする。 復習：模擬実践を振り返り、成果と改善点を確認する。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
9回	○本時の目標 ・第６回の講義で学んだ紙芝居に関する技能を修得する。 ・模擬実践を振り返り、改善点を認識する。 ○本時の活動 ・グループに分かれて、紙芝居の模擬実践を行う。 ・実践記録用紙によって自己評価・他者評価を行い、成果と改善点を明らかにする。 ○本時の学習成果 ・第６回の講義で学んだ知識をもとに、不十分ながら模擬実践ができる。 ・模擬実践による成果と改善点を説明できる。 予習：テキストの該当箇所・補助資料を通読する。紙芝居の練習をする。 復習：模擬実践を振り返り、成果と改善点を確認する。
10回	○本時の目標 ・２回目の模擬実践によって、紙芝居に関する技能を向上させる。 ・２回目の模擬実践を振り返り、新たな改善点を認識する。 ○本時の活動 ・グループに分かれて、紙芝居の模擬実践を行う。 ・実践記録用紙によって自己評価・他者評価を行い、新たな成果と改善点を明らかにする。 ○本時の学習成果 ・前回の改善点を活かして、紙芝居の模擬実践ができる。 ・２回目の模擬実践による新たな成果と改善点を説明できる。 予習：改善点を意識して紙芝居の練習をする。 復習：模擬実践を振り返り、成果と改善点を確認する。
11回	○本時の目標 ・言葉遊びに関する知識を理解する。 ・言葉遊びの指導案作成方法を理解する。 ○本時の活動 ・テキスト（p. 70～74）・補助資料をもと、言葉遊びに関する知識を解説する。 ・指導案作成の方法を解説する。 ・模擬実践のグループに分かれる（１グループ５名程度） ・各グループで、選択した言葉遊びに関する指導案を作成する。 ○本時の学習成果 ・言葉遊びに関する知識を説明できる。 ・言葉遊びの指導案を作成できる。 予習：テキストの該当箇所・補助資料を通読する。 復習：テキスト・補助資料・ノートを読み返し、学習内容を確認する。指導案を確認する。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
12 回	○本時の目標 ・言葉遊びの模擬実践の準備を行う。 ○本時の活動 ・指導案に従って使用する教材を整え、リハーサルを行う。 ・第13・14回で実践するグループの順番を決める。 ○本時の学習成果 ・言葉遊びの指導案を説明できる。 ・模擬実践のリハーサルができる。 予習：指導案の内容を確認し、準備する教材を確認する。 復習：模擬実践の流れを確認し、教材を点検する。
13 回	○本時の目標 ・言葉遊びの模擬実践を行う（前半グループ）。 ○本時の活動 ・言葉遊びの模擬実践をする。 ・評価票によって自己評価・他者評価を行う（個人）。 ○本時の学習成果 ・指導案に従って、言葉遊びの模擬実践ができる。 ・模擬実践の評価ができる。 予習：指導案に内容と準備した教材を確認する（前半グループ）。 復習：模擬実践を振り返り成果と改善点を明らかにする（前半グループ個人）。
14 回	○本時の目標 ・言葉遊びの模擬実践を行う（後半グループ）。 ○本時の活動 ・言葉遊びの模擬実践をする。 ・評価票によって自己評価・他者評価を行う（個人）。 ○本時の学習成果 ・指導案に従って、言葉遊びの模擬実践ができる。 ・模擬実践の評価ができる。 予習：指導案を確認し、準備する教材を確認する（後半グループ）。 復習：模擬実践を振り返り成果と改善点を明らかにする（後半グループ個人）。
15 回	○本時の目標 ・言葉遊びの模擬実践を振り返り、成果と改善点を明らかにする（グループ）。 ・これまでの授業を振り返り、幼児の言語を育むという点から自己課題を認識する。 ○本時の活動 ・シラバス・テキスト・補助資料・指導案等によって、自己課題を考察する。 ・期末試験に向けた授業内容の振り返りを行う。 ○本時の学習成果 ・模擬実践による成果と改善点を説明できる。 ・幼児の言語を育むという点から、自己課題を説明できる。 予習：シラバス・テキスト・補助資料・ノート・指導案等によって、これまでの授業内容を振り返る。 復習：保育者を目指す自己課題を確認するとともに、期末試験に向けて復習する。

令　和　２　年　度　教　育　計　画							
科目名	幼児と表現Ⅰ	授業回数	15	単位数	1	担当教員	吉田　升
質問受付の方法：							

教育目標と学生の学習成果		教育目標： 本科目は、幼稚園教諭二種免許状取得のための「領域及び保育内容の指導法に関する科目」の一つである。 領域「表現」における幼児の身体表現の姿やその発達及びそれを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境構成等の専門的事項について知識を獲得するとともに、効果的な指導を行うための技能及び表現力を身につけることを目標とする。 １．幼児の身体表現の姿や、その発達を理解する。 ２．基礎的知識・技能を習得し、幼児の身体表現を支えるための感性を豊かにする。 学生の学習成果： ・専門的学習成果として、上記の教育目標を達成できるようにする。 ・汎用的学習成果として、保育者に相応しい「態度・信念」を身につける。
教育方法	授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） ・作品の振り移しを通してリズム感や表現力のスキルアップを目指すとともに、ソロ・ユニゾン等の形態で発表し、パフォーマンスについて学生相互でモニターを行う。 ・CD やピアノ、打楽器等の多彩な音楽提示法を用いることにより、音刺激からもたらされるイメージを広げ、保育現場における指導力の向上を図る。 ・ビデオ撮影及び視聴を通して「自己表現力（情報伝達能力）」を客観的に認識するとともに、振り返りにおける修正の手掛かりを探るためのフィードバック効果をねらう。
	予習・復習	・予習：毎時間、提示した内容について十分な予習を行うこと。 ・復習：毎時間、学習した内容について十分な復習を行うこと。
	テキスト	１．藤井真理著・2013 年・「手あそび・歌あそび HAND BOOK」・明研図書 ２．石上浩美編著・2015 年・「保育と表現」・嵯峨野書院 ＊補助教材として、DVD やプリントを適宜使用する。
学習評価の方法		「専門的学習成果」は、下記２点について、「実技試験：80 点／４回実施・各 20 点」及び「レポート 20 点／４回提出・各５点」によって評価する。 １．幼児の遊びや生活における領域「表現」の位置付け並びに表現を生成する過程について理解するとともに、幼児の素朴な表現を見出し、受け止め、共感することができる。 ２．様々な表現の基礎的知識・技能を学ぶことを通し、イメージ豊かに表現する楽しさを実感するとともに、他者の表現を受け止め共感し豊かな表現活動に繋げることができる。 「汎用的学習成果」は、「態度・信念」の点検として、受講中の私語等について複数回の注意後も改善がみられない場合は「２点」を減ずる。「遅刻・早退」は「２点」を減ずる（公共交通機関の乱れによる遅刻は減点対象としない／ただし、欠席届に証明書（遅延等）が添付されている場合に限る）。
注意事項		参考図書等： ・前橋明著・1995 年・「身体表現」・大学教育出版

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	■講義内容 本講義の教育目標と学生の学習成果、教育方法（授業の進め方、予習・復習、テキスト）、学習評価の方法について説明するとともに、シラバスに記載されている各回の講義テーマに沿って幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びについて説くとともに、幼稚園教育要領に示された領域「表現」のねらい及び内容について解説する。 ＊学習成果：幼稚園教育の基本と領域「表現」のねらい及び内容について理解する。 【予習】領域「表現」のねらい及び内容について 【復習】講義内容における重点項目の復習
2 回	■講義内容［領域「表現」のねらい及び内容］ １）領域「表現」のねらい及び内容 ２）幼児期の表現の特性 幼児期の表現の特性及び幼児の表現の位置づけについて説くとともに、身体表現の体験を通して幼児の多様な表現の姿及び表現と発達との関係について具体例を示して解説する。 ＊学習成果：領域「表現」のねらい及び内容と幼児の表現の特性について理解する。 【予習】３歳児の身体発達と表現活動の特徴について 【復習】講義内容における重点項目の復習
3 回	■講義内容［幼児の身体発達と表現］その１ １）３歳児の発達特性 ２）３歳児の表現活動の特徴 幼児期（３歳児）の身体発達と表現活動について説くとともに、身体表現の体験を通して幼児期の表現活動の特徴について具体例を示して解説する。 ＊学習成果：幼児期の発達特性と表現活動の特徴について理解する。 【予習】４歳児の身体発達と表現活動の特徴について 【復習】講義内容における重点項目の復習
4 回	■講義内容［幼児の身体発達と表現］その２ １）４歳児の発達特性 ２）４歳児の表現活動の特徴 幼児期（４歳児）の身体発達と表現活動について説くとともに、身体表現の体験を通して幼児期の表現活動の特徴について具体例を示して解説する。 ＊学習成果：幼児期の発達特性と表現活動の特徴について理解する。 【予習】５歳児の身体発達と表現活動の特徴について 【復習】講義内容における重点項目の復習
5 回	■講義内容［幼児の身体発達と表現］その３ １）５歳児の発達特性 ２）５歳児の表現活動の特徴 幼児期（５歳児）の身体発達と表現活動について説くとともに、身体表現の体験を通して幼児期の表現活動の特徴について具体例を示して解説する。 ＊学習成果：幼児期の発達特性と表現活動の特徴について理解する。 【予習】生活の中にある音と表現について 【復習】講義内容における重点項目の復習

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
6 回	■講義内容［生活の中にある音と表現］ １）「表現」することの本質 ２）音あそびのための効果的な教材 生活の中にある音の視点から内発的動機づけによって表現することの本質を説くとともに、身体表現の体験を通して幼児期の表現活動の特徴について具体例を示して解説する。 ＊学習成果：生活の中の音と幼児の表現活動の特徴並びに効果的な教材について理解する。 【予習】身近なものに触れるということについて 【復習】講義内容における重点項目の復習
7 回	■講義内容［身近なものに触れるということ］ １）人類の歴史と身近なモノ・生きものへの感性 ２）異質な他者と出会うということ 生活の中にある音の視点から内発的動機づけによって表現することの本質を説くとともに、身体表現の体験を通して幼児期の表現活動の特徴について具体例を示して解説する。 ＊学習成果：生活の中の音と幼児の表現活動の特徴並びに効果的な教材について理解する。 【予習】幼児の表現を生成する過程について 【復習】講義内容における重点項目の復習
8 回	■講義内容［幼児の表現の基礎となるもの］ １）表現を生成する過程 ２）「表現－理解」関係の構造 幼児が表現を生成する過程について説くとともに、幼児の素朴で豊かな表現の基となる「表現－理解」関係の構造について解説する。 ＊学習成果：幼児が表現を生成する過程と「表現－理解」関係の構造について理解する。 【予習】幼児の表現を受け止める感性について 【復習】講義内容における重点項目の復習
9 回	■講義内容［幼児の表現を受け止める感性］ １）educate する力 ２）保育者の受容的態度 教育の根幹は educate する力であることを説くとともに、幼児の素朴な表現を見出し、受け止め、共感することのできる受容的態度の重要性について解説する。 ＊学習成果：educate する力と保育者の受容的態度の重要性について理解する。 【予習】多種多様な表現について 【復習】講義内容における重点項目の復習
10 回	■講義内容［多種多様な表現］ １）表現の多様性 ２）保育者の受容的態度 教育の根幹は educate する力であることを説くとともに、幼児の素朴な表現を見出し、受け止め、共感することのできる受容的態度の重要性について解説する。 ＊学習成果：educate する力と保育者の受容的態度の重要性について理解する。 【予習】身近な素材を用いた表現活動について 【復習】講義内容における重点項目の復習

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
11 回	■講義内容［身近な素材を用いた表現活動］ １）型紙や割り箸、紙皿等を使用した表現遊び ２）ペットボトル等を使用した音を奏でる表現遊び 型紙や割り箸、紙皿、ペットボトル等の身近な素材を用いて行う幼児の表現活動を体験するとともに、多彩な保育教材による幼児表現あそびについて解説する。 ＊学習成果：身近な素材を用いた様々な表現活動や製作方法について理解する。 【予習】幼稚園における季節ごとの行事及び伝承遊びについて 【復習】講義内容における重点項目の復習
12 回	■講義内容［幼稚園における季節や行事の活動と伝承遊び］ １）季節や行事の活動 ２）各地の伝統芸能と伝承遊び 幼稚園で行われる季節ごとの行事について説き、各地の伝統芸能や文化財、文化的活動を知るとともに、昔から受け継がれてきた伝承遊びを体験する。 ＊学習成果：幼稚園における季節ごとの行事や伝統芸能、伝承遊びについて理解する。 【予習】イメージの共有と再構築について 【復習】講義内容における重点項目の復習
13 回	■講義内容［イメージの共有と再構築］ １）様々な表現とイメージの共有 ２）パッチワーク方式による創作方法と隊形 幼児が自然や生活、文化を通して湧き上がるイメージを共有することを説き、そのイメージを再構築して表現する過程を体験するとともに、パッチワーク方式について解説する。 ＊学習成果：イメージの共有と再構築並びにパッチワーク方式について理解する。 【予習】グループ発表に向けた練習 【復習】講義内容における重点項目の復習
14 回	■講義内容［動きの探求］ １）グループ発表（ビデオ撮影） ２）手具を用いた表現 　幼児の表現のグループ発表を行うことを通して表現することの楽しさを実感するとともに、表現の楽しさを生み出す要因についてディスカッションによる分析を行う。 ＊学習成果：表現の楽しさを生み出す要因並びにシュグを用いた表現について理解する。 【予習】幼児の豊かな表現について 【復習】講義内容における重点項目の復習
15 回	■講義内容［振り返り］ 視聴覚教材を用いて、これまでの学生の表現活動を振り返り、幼児の身体表現について幼稚園教育における評価の考え方を説くとともに、幼児の豊かで素朴な表現を引き出す上で重要な保育者の感性について、体験を通して得られた表現の生成過程について総括する。 ＊学習成果：幼児期の表現の特性に沿った豊かな表現活動をすることの重要性を理解する。 【復習】講義内容における重点項目の復習 【提出】レポート：現在(いま)の自分の『指導力』について－表現力に着目して－

令　和　２　年　度　教　育　計　画							
科目名	「幼児と表現Ｉ」の指導法	授業回数	15	単位数	1	担当教員	吉田　升
質問受付の方法：							

教育目標と学生の学習成果	教育目標： 本科目は、幼稚園教諭二種免許状取得のための「領域及び保育内容の指導法に関する科目」の一つである。 領域「表現」は、「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする」ことを目指すものである。幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「表現」のねらい及び内容とともに幼児の発達や学びの過程を理解した上で、具体的な指導場面を想定した保育を構想・展開する方法を身につけることを目標とする。 学生の学習成果： ・専門的学習成果として、上記の教育目標を達成できるようにする。 ・汎用的学習成果として、保育者に相応しい「態度・信念」を身につける。	
教育方法	授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） ・実践的指導力の強化を図り、表現遊びの模擬指導を実施し、学生相互でモニターを行う。 ・VTR 撮影・視聴を通して「自己表現力（情報伝達能力）」を客観的に認識すると共に、修正の手掛かりを探り、各々の学習過程におけるフィードバック効果をねらう。 ・音刺激による動きの多様化を具体的に考察するために、生のピアノ演奏を用いる。
	予習・復習	・予習：毎時間、提示した内容について十分な予習を行うこと。 ・復習：毎時間、学習した内容について十分な復習を行うこと。
	テキスト	１．藤井真理著・2013 年・「手あそび・歌あそび HAND BOOK」・明研図書 ２．石上浩美編著・2015 年・「保育と表現」・嵯峨野書院 ＊補助教材として、DVD やプリントを適宜使用する。
学習評価の方法	「専門的学習成果」は、下記２点について、「模擬保育：30 点／３回実施・各 10 点」及び「指導案：30 点／３回提出・各 10 点」及び「保育教材：30 点／３回提出・各 10 点」及び「レポート：10 点／１回提出」によって評価する。 １．領域「表現」のねらい及び内容と指導上の留意点、幼稚園教育における評価の考え方、幼児が経験し身につけていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解する。 ２．幼児の発達や学びの過程、認識・思考、動き、幼児の体験との関連性を考慮し、具体的な指導場面を想定した指導案を基に、ICT を活用して保育を構築する方法を身につける。 「汎用的学習成果」は、「態度・信念」の点検として、受講中の私語等について複数回の注意後も改善がみられない場合は「２点」を減ずる。「遅刻・早退」は「２点」を減ずる（公共交通機関の乱れによる遅刻は減点対象としない／ただし、欠席届に証明書（遅延等）が添付されている場合に限る）。	
注意事項	参考図書等： ・前橋明著・1995 年・「身体表現」・大学教育出版	

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	■講義内容 　本講義の教育目標と学生の学習成果、教育方法（授業の進め方、予習・復習、テキスト）、学習評価の方法について説明するとともに、幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、領域「表現」のねらい及び内容並びに全体構造について説くとともに、幼稚園教育要領に示された領域「表現」のねらい及び内容について解説する。 ＊学習成果：領域「表現」のねらい及び内容並びに全体構造と保育実践について理解する。 【予習】領域「表現」のねらい及び内容について 【復習】講義内容における重点項目のまとめ
2 回	■講義内容［領域「表現」のねらい及び内容］ １）領域「表現」のねらい及び内容を踏まえた指導上の留意点 ２）幼児が経験し身につけていく内容と指導上の留意点 領域「表現」のねらい及び内容を踏まえた指導上の留意点について解説するとともに、幼児の表現に関わる現場の取り組みについて事例を基に考える。 ＊学習成果：領域「表現」のねらい及び内容並びに全体構造を理解する。 【予習】幼稚園教育における評価の考え方と小学校の各教科とのつながりについて 【復習】講義内容における重点項目のまとめ
3 回	■講義内容［領域「表現」と小学校の各教科とのつながり］ 　１）領域「表現」において幼児が身につける内容 ２）小学校の各教科等とのつながり 　領域「表現」において幼児が経験し身につけていく内容と、小学校の各教科等のつながりについて説き、視聴覚教材などの ICT を用いて具体的な事例を基に考える。 ＊学習成果：幼児が身につける内容と小学校の各教科等とのつながりについて理解する。 【予習】表現遊びの場面における幼児の身体活動について 【復習】講義内容における重点項目のまとめ
4 回	■講義内容［表現遊びにおける幼児の動き］その１ １）表現遊びの場面における幼児の身体活動：幼児の動きを想定した体験① ２）表現遊びの指導の留意点 表現遊びの場面における幼児の身体活動を想定し、実際に体験しながら幼児の多様な動きの視点から捉え、幼児の心情・認識・思考・動き等を視野に入れた指導の留意点を考える。 ＊学習成果：表現遊びの場面における幼児の動きと指導上の留意点について理解する。 【予習】教師の役割と幼稚園教育における評価の考え方について 【復習】講義内容における重点項目のまとめ
5 回	■講義内容［表現遊びにおける幼児の動き］その２ １）表現遊びの場面における幼児の身体活動：幼児の動きを想定した体験② ２）教師の役割と幼稚園教育における評価の考え方 室内外の生活の場面を想定し、実際に体験しながら幼児の多様な動きの視点から捉えることにより、様々な環境や幼児の動線に配慮した環境構成について考える。 ＊学習成果：表現遊びの場面における多様な動きと保育構想の留意点について理解する。 【予習】幼児が興味・関心をもつような魅力ある指導案について 【復習】講義内容における重点項目のまとめ

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
6 回	■講義内容［模擬保育に向けて］その１ 　１）幼児が興味・関心をもつような魅力ある指導案 　２）模擬保育に向けた教材の製作及び意見交換 幼児の発達に即して領域「表現」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材を活用するとともに、幼児が興味・関心をもつような魅力ある指導案について考える。 ＊学習成果：指導案の作成における留意点について理解する。 【予習】幼児の表現したい気持ちを大切にした指導案について 【復習】講義内容における重点項目のまとめ
7 回	■講義内容［模擬保育に向けて］その２ 　１）幼児の表現したい気持ちを大切にした指導案 　２）模擬保育に向けた教材の製作及び意見交換 幼児の発達に即して領域「表現」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材を活用するとともに、幼児の表現したい気持ちを大切にした指導案について考える。 ＊学習成果：指導案の作成における留意点について理解する。 【予習】模擬保育に向けた製作と訓練 【復習】講義内容における重点項目のまとめ
8 回	■講義内容［模擬保育］その１ １）幼児の豊かな感性と表現を引き出す ２）演習：模擬指導とディスカッション 幼児の「豊かな表現」の育みをねらいとした環境構成や言葉かけについて説き、実指導案に沿って模擬保育を行うとともに振り返りを通して保育を改善する視点について考える。 ＊学習成果：表現遊びの展開における要点と模擬指導を通した改善点について理解する。 【予習】模擬保育に向けた製作と訓練 【復習】講義内容における重点項目のまとめ
9 回	■講義内容［模擬保育］その２ １）幼児の協働性 ２）演習：模擬指導とディスカッション 幼児の「協同性」の育みをねらいとした環境構成や言葉かけについて説き、実指導案に沿って模擬保育を行うとともに、振り返りを通して保育を改善する視点について考える。 ＊学習成果：表現遊びの展開における要点と模擬指導を通した改善点について理解する。 【予習】模擬保育に向けた製作と訓練 【復習】講義内容における重点項目のまとめ
10 回	■講義内容［模擬保育］その３ １）幼児の言葉による伝え合い ２）演習：模擬指導とディスカッション 幼児の「言葉による伝え合い」を育む環境構成や言葉かけについて説き、実指導案に沿って模擬保育を行うとともに、振り返りを通して保育を改善する視点について考える。 ＊学習成果：表現遊びの展開における要点と模擬指導を通した改善点について理解する。 【予習】幼児期の表現の学びと小学校の教科内容について 【復習】講義内容における重点項目のまとめ

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
11回	■講義内容［生活発表会を想定して］その１ １）幼児期の表現の学びと小学校の教科内容 ２）オペレッタ制作活動 幼児期の表現の学びには、小学校の音楽科・図画工作科だけでなく、国語や算数等、多教科にわたるつながりがあることを、オペレッタ制作活動を通して具体的に解説する。 ＊学習成果：幼児期の学びと小学校の教科内容との関連性について理解する。 【予習】幼児の協同的かつ創造的な表現と意欲的な取り組みについて 【復習】講義内容における重点項目のまとめ
12回	■講義内容［生活発表会を想定して］その２ １）幼児の協同的かつ創造的な表現と意欲的な取り組みを目指して ２）オペレッタ制作活動 幼児の協同的かつ創造的な表現を育み、幼児が意欲的に表現活動に取り組める工夫について、具体的な取り組みを紹介し、オペレッタ制作活動を通して様々な視点から解説する。 ＊学習成果：幼児期の協同的かつ創造的な表現と意欲的な取り組みについて理解する。 【予習】オペレッタ発表に向けた製作と訓練 【復習】講義内容における重点項目のまとめ
13回	■講義内容［生活発表会を想定して］その３ １）実技試験① ２）作品鑑賞と相互評価① 生活発表会の場面を想定してオペレッタ発表会を行い、教え込むのでなく、意欲的に表現活動に取り組めるような指導案の作成と指導について考える。 ＊学習成果：幼児が意欲的に表現活動に取り組めるような指導案について理解する。 【予習】オペレッタ発表に向けた製作と訓練 【復習】講義内容における重点項目のまとめ
14回	■講義内容［生活発表会を想定して］その４ １）実技試験② ２）作品鑑賞と相互評価② 生活発表会の場面を想定してオペレッタ発表会を行い、幼児のやる気を引き出すことのできるような指導案の作成と指導について考える。 ＊学習成果：幼児が意欲的に表現活動に取り組めるような指導案について理解する。 【予習】これまでの重点事項について 【復習】講義内容における重点項目のまとめ
15回	■講義内容［幼児期の終わりまでに育ってほしい姿］ １）領域「表現」と「豊かな感性と表現」の関連 ２）模擬保育の振り返り 「幼児期の終わりまでに育ってほしい幼児の具体的な姿」について、領域「表現」と「豊かな感性と表現」の関連以外の姿についても、他領域との関連も含めて考える。 ＊学習成果：領域「表現」と関係の深い幼児の姿と他領域との関連性について理解する。 【復習】講義内容における重点項目のまとめ

令　和　２　年　度　教　育　計　画							
科目名	幼児と表現Ⅱ	授業回数	15	単位数	1	担当教員	関野智子
質問受付：E 棟 105 研究室　　e-mail： sekinotomoko@gmail.com							

教育目標と学生の学習成果		教育目標：本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である 保育者として、幼児の造形表現活動の場で適切な指導と援助ができるための知識と基礎技術の習得を目指す。 １．幼児の発達段階に応じて多様な造形表現があること、他者と関わりながら生活や遊びを通しての育つことについて理解する。 ２．幼児のイメージを豊かにし感性を養うという観点で、環境構成と保育の展開について考えることができる。 ３．幼児の造形活動における素材・用具についての扱い方と、発達段階を踏まえた援助を体験的に学ぶ。 学生の学習成果： 専門的学習成果として、教育目標に掲げる３項目を習得する。 また、汎用的学習成果として、①保育者としての態度・信念の形成に自助努力し②幼児を指導する適正な価値・判断の基準をもち、明確に意見表明ができる力を育成する。
教育方法	授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） ① 課題の保育における位置づけ、留意事項等を教員が説明する。 ② 課題の演習を通じて、体験的に学ぶ。 ③ 準備と片付けまでを含めて授業内容とする。 ④ 課題を通して学んだことを文章・イラスト・写真等で記録する。 ⑤ 課題ごとに自己評価を行い反省と課題を記す。 ⑥ 予習・復習と宿題について教員が説明する。
	予習・復習	・パネルシアター並びにペープサートでは、絵本や保育者向けの図書を参考に制作の構想を練ったり、上演の練習をしたりする。 ・課題に関する図書を調べたり、目的に沿って材料を調達したりする。 ・課題の達成速度は個人差があるので、十分に課題を理解し技術を獲得するための演習を必要に応じて時間外に行う。 ・必要に応じて記録写真を撮り、自己評価と記録を忘れないうちにまとめる。
	テキスト	『幼児造形の基礎　乳幼児の造形表現と造形教材』編：樋口一成　（株）萌文書林 『折り紙遊び』福井晴子／編集（貸与）
学習評価の方法		以下の５つの学習成果についてその度合いを作品・記録等を含むスケッチブックによって満点を 100 点とし、おおむね４：２：２：１：１の比重で評価する。 ① 幼児の発達段階に応じて多様な造形表現があることを理解した。 ② 造形素材・用具についての基礎知識と扱い方を知り、体験的にそれぞれの素材と技法の特徴，幼児が扱うときの諸注意を習得した。 ③ 幼児の造形活動に適切な環境を設定し、支援する能力視点を学んだ。 ④ 保育者としての態度・信念の形成に自助努力している。 ⑤ 幼児を指導する適正な価値・判断の基準をもち、明確に意見表明ができる。
注意事項		子どもと一緒に発表会用のお土産制作を行うことが決定した場合、第 14 回の内容をお土産制作の時間に変更し、発表会準備の期間に制作の時間を差し込む。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	〈オリエンテーション：幼児と造形表現〉 ○本時の目標 幼児教育における造形表現の位置づけについて、授業の進め方および評価について、受講の注意等について理解する。 ○本時の活動 ・シラバスの説明 ・チャイルドヴィジョンを作成し、幼児の視界を体感する。 ・幼児による実際の作品を鑑賞する。 ・児童画の発達過程について知る。 ○本時の学習成果：授業を受ける意味を学ぶとともに、造形を指導する保育者として求められる日常的な心がけ、視点について理解する。 ○予習と復習：自分の幼少期の作品を探す、記憶を辿る等を通し、授業内容の確認をする。
2 回	〈描画材　①クレヨン・ペン・丸シール〉 ○本時の目標 乳児期（0 歳～2 歳）から手軽に扱える描画材の特徴・扱い方について体験的に理解する。 ○本時の活動 ・クレヨンやペンの特徴と、幼児が使用する際の注意点を、実際に使いながら確認する。 ・事務用丸シールを活用した表現を確認する。 ○本時の学習成果　：乳児期（0 歳～2 歳）から手軽に扱える描画材の特徴・扱い方について体験的に理解する。 ○予習と復習：教科書 14 頁－21 頁を読んで本時の復習をしておく。
3 回	〈描画材　②水彩絵の具による多様な表現〉 ○本時の目標 発達段階にあわせた水彩絵の具や用具、環境設定について理解する。 水彩絵の具を使ったモダンテクニックによる表現を演習を通して確認する。 ○本時の活動 ・水彩絵の具の特徴と留意点を教員が説明をする。 ・発達段階に合わせた活動例を確認し、モダンテクニック（デカルコマニー・スパッタリング・吹き流し・はじき）による演習を行う。 ○本時の学習効果：水彩絵の具の特徴を知り、それを活かした表現（はじき、吹き流し、混色など）と場の設定、援助のポイントを習得する。 ○予習と復習：教科書に掲載されている水彩絵の具を使った活動例を確認しておく。
4 回	〈描画材　③絵具と筆によるドローイング〉 ○本時の目標 水彩絵の具によるドローイングの魅力と、発達段階に合わせた展開例について学ぶ。 ○本時の活動 ・水彩絵の具によるドローイング並びに発達段階に合わせた援助について理解する。 ・壁面に貼った用紙へのドローイングを体験する。 ・ポーズをとる人のドローイングを体験する。 ・相互鑑賞とドローイングの感想を発表する。 ○本時の学習効果：水彩絵の具によるドローイングの魅力と、発達段階に合わせた援助について学ぶ。 ○予習と復習：教科書に掲載されている水彩絵の具を使った活動例を確認しておく。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
5回	〈展開する絵～割りピンを活用して〉 ○本時の目標 発達段階に配慮した割りピンを活用した平面作品づくりについて学ぶ。 ○本時の活動 ・割りピンによる発達段階別展開例を見る。 ・発達段階別制作例に基づいた作品を１点、自分で考案した作品を１点完成させる。 ・相互鑑賞する。 ○本時の学習成果：子どもの発達の特性とその過程を理解した上で、与えられた素材（今回は割りピン）を活用した幼児にも楽しめる造形遊びを考案できる。 ○予習と復習：割りピンを活用した事例を調べておく。
6回	〈紙コップ工作〉 ○本時の目標 紙コップを活用した遊びや工作を通じ、身近な素材を造形遊びに活用する面白さを確認するとともに、工作素材や用具の基本的な扱い方を理解する。 ○本時の活動 ・グループごとにまとまった数の紙コップを配布。紙コップを加工せずに遊ぶ方法を考え、グループごとに発表する。 ・紙コップをハサミやカッターナイフで加工して、参考例を見ながら複数の工作を試す。学校が用意したほかの素材とミックスしても良い。 ○本時の学習成果：紙コップを活用した遊びや工作を通じ、身近な素材を造形遊びに活用する面白さを確認するとともに、工作素材や用具の基本的な扱い方を理解する。 ○予習と復習：紙皿を活用した工作について調べておく。
7回	〈紙皿工作〉 ○本時の目標 紙皿を活用した遊びや工作を通じ、身近な素材を造形遊びに活用する面白さを確認するとともに、工作素材や用具の基本的な扱い方を理解する。 ○本時の活動 ・グループごとにまとまった数の紙皿を配布。紙皿を加工せずに遊ぶ方法を考える。 ・紙皿をハサミやカッターナイフで加工して、参考例を見ながら複数の工作を試す。学校が用意したほかの素材とミックスしても良い。 ○本時の学習成果：紙皿を活用した遊びや工作を通じ、身近な素材を造形遊びに活用する面白さを確認するとともに、工作素材や用具の基本的な扱い方を理解する。 ○予習と復習：次回制作する車のデザインを考えておくよう告げる。
8回	〈段ボール工作①〉 ○本時の目標 段ボール素材の特徴と加工の仕方を理解し、ダンボール工作に必要な用具の扱い方を理解する。 ○本時の活動 ・段ボールの「切断」「曲げ」「貼り付け」「接合」の方法、用具の扱い方を演習する。 ・車のデザインを考える。 ○本時の学習成果：段ボールの基本的な加工方法、用具の安全な使い方を理解する。 ○予習と復習：段ボールで作る車の構想を練っておく。工作に使えそうな廃材を集めておく。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
9回	〈段ボール工作②〉 ○本時の目標 ダンボールで車を作る活動を通し、車輪のある玩具の構造を理解することができる。また玩具を作った後の活動の展開について考えることができる。 ○本時の活動 ・段ボールを主素材として車体を作る。 ・車の底にペットボトルのキャップで作った車輪等をとりつけ、実際に転がしてみる。車を走らせて遊ぶための環境構成について考える。 ○本時の学習成果：車輪のある玩具の構造を理解することができる。玩具を作った後の活動の展開について考えることができる。 ○予習と復習：単発で終わらない造形活動の実践例について調べておく。
10回	〈自然物を使って〉 ○本時の目標 自然物を活用した表現活動の面白さ、可能性について理解する。 ○本時の活動 ・学内で落ち葉やドングリなどを集める。それらの使用上の注意点を学ぶ。 ・落ち葉を使ったローラー遊び、ドングリを使ったおもちゃなど数種を紹介。 ・集めた素材で２～3 種の表現活動もしくは玩具づくりを行う。 ・相互鑑賞 ○本時の学習成果：身近な自然物を活用した造形遊びの魅力と展開例を考えることができる。 ○予習と復習：教科書で自然物による活動について確認しておく。
11回	〈切り紙〉 ○本時の目標 5 弁折を覚え、季節の装飾で活用頻度が高い星や桜の他、撫子等の応用制作と、それらを貼り絵として表現する技術を身に付ける。 ○本時の活動 ・プリントと教員の説明を参考にして切り紙で花を表現する。 ・作った花を美しくレイアウトし、貼り絵にする。加筆して仕上げても良い。 ○本時の学習成果：5 弁折を覚え、季節の装飾で活用頻度が高い星や桜の他、撫子等の応用制作と、それらを貼り絵として表現する技術を身に付ける。 ○予習と宿題：スケッチブックの未完成部分を確認し、次回までに仕上げておく。
12回	〈イメージの広がる折り紙〉 ○本時の目標 折り紙での見立て遊び、伝承折り紙について演習し、幼児期における折り紙遊びの意義について理解する。 ○本時の活動 ・　教員が折り紙遊びの保育における意義についてプリントを配付し説明する。 ・　折り紙を使った見立て遊びについて教員が説明する。 ・　伝承折り紙を教科書を参考に折る。 （かぶと、せみ、ボート、だましぶね、きょうりゅう、しゅりけん） ・　折り紙を画用紙に楽しくレイアウトし、作品に仕上げる。 ○本時の学習成果：折り紙の保育における意義を知り、発達に応じて援助するポイントを習得する。 ○予習と復習：作品を完成させる。他の折り紙遊びについても調べておく。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
13回	〈飛び出すカードづくり〉 ○本時の目標 様々な紙に実際に触れながら、それぞれの特徴を知り用途に合った紙を選べるようになる。 演習を通し、飛び出すカードの基本構造を理解する。 ○本時の流れ ・様々な紙を配布、それぞれの特徴や適した用途について教員が説明をする。 ・飛び出すカードの仕組みを説明し、基本の4パターンを制作する。 ○本時の学習成果：用途に見合った用紙を選ぶことができる。飛び出すカードの基本構造を理解する。 ○予習と復習：飛び出すカードや仕掛け絵本を確認しておく。
14回	〈季節をあらわす壁面構成〉 ○本時の目標 保育室を楽しく彩る壁面構成の役割について理解し、季節感のある壁面構成のアイデアスケッチをすることができる。 ○本時の流れ ・壁面構成の役割について図版資料等を用いて教員が説明する。 ・担当月の壁面構成のアイデアスケッチをする。 ・壁面構成で使用する材料の構想も練る。 ・色鉛筆やクーピーで着彩して完成。 ○本時の学習成果：保育室を楽しく彩る壁面構成の役割について理解し、季節感のある壁面構成のアイデアスケッチをすることができる。 ○予習と復習：作品を完成させておく。
15回	〈まとめ：幼児の発達段階と表現の多様性〉 ○本時の目標 まとめプリント作成を通し、本演習の内容について振り返ることができる。 ○本時の活動 ・演習内容を振り返るまとめプリントを作成する。 ・スケッチブックの整理をする。 ・本授業のまとめと、次年度の「幼児と表現Ⅱの指導法」への導入としてビデオ視聴する。 ○本時の学習成果：幼児の発達段階と、その表現の多様性について理解する。 本演習の内容を振り返ることができる。 ○予習と復習：提出物が揃っていない場合は仕上げて期日までに提出する。

令　和　２　年　度　教　育　計　画							
科目名	「幼児と表現Ⅱ」の指導法	授業回数	15	単位数	1	担当教員	関野智子
質問受付：E 棟 105 研究室　　e-mail： sekinotomoko@gmail.com							

教育目標と学生の学習成果		教育目標：本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である 保育者として、幼児の造形表現活動の場で適切な指導と援助をするための知識と基礎技術の習得を目指す。 １．幼児の造形活動に対し適切な評価を行い、発達に応じた適切な援助ができる能力を習得する。 ２．造形遊び等を通して幼児とコミュニケーションを図り活動の様子を見守る態度を身につける。 ３．造形指導の適切な造形環境を設定し、支援する視点を学ぶ。 学生の学習成果： 専門的学習成果として、教育目標に掲げる３項目を習得する。 また、汎用的学習成果として、①保育者としての態度・信念の形成に自助努力し②幼児を指導するのにふさわしい価値基準と判断力を備え、適正な意見をもつ姿勢を涵養する。
教育方法	授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） ① 保育における位置づけ、留意事項等を教員が説明する。 ② 課題の演習を通じて、体験的に学ぶ。 ③ 準備と片付けまでを含めて授業内容として扱う。 ④ 解説、計画、製作等を通して学んだことを文章、イラスト、写真等で記録する。 ⑤ 予習、復習等について教員が説明する。
	予習・復習	・ 課題に関する図書を調べたり、目的に沿って材料を調達したりする。 ・ 課題の達成速度は個人差があるので、十分に課題を理解し技術を獲得するための演習を必要に応じて時間外に行う。 ・ 必要に応じて写真を撮り、記録をまとめる。
	テキスト	『幼児造形の基礎　乳幼児の造形表現と造形教材』編著：樋口一成　萌文書林
学習評価の方法		以下の５つの学習成果についてその度合いを作品・記録等を含むスケッチブックによって満点を 100 点とし、おおむね４：２：２：１：１の比重で評価する。 ① 幼児の造形活動に対する知識を身に付け、他領域との関連性・小学校の教科などとのつながりを理解した上で、発達に応じた適切な援助ができる能力を習得した。 ②造形遊び等を通して幼児とコミュニケーションを図り活動の様子を見守る態度を身につける。 ③造形指導の適切な造形環境を設定し、支援する視点を学んだ。 ④保育者としての態度・信念の形成に自助努力している。 ⑤幼児を指導するのにふさわしい価値基準と判断力を備え、適正な意見をもつ
注意事項		特になし

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1回	〈オリエンテーション〉 〈空間へ広がる造形活動：壁面構成①＊グループ制作〉 ○本時の目標 ・本科目の教育目標、授業の進め方及び評価などについて理解する。 ・子どもの造形活動を絡めた壁面構成についてイメージできる。 ○本時の活動 〈これまでの活動の振り返り：「幼児と表現Ⅱ」から「幼児と表現Ⅱ」の指導法へ〉 「幼児と表現Ⅱ」では、各種表現技法も織り交ぜながら主に平面的な造形活動を軸に幼児と表現について学習をしたことを振り返る。本科目では平面から立体・空間・地域・コミュニケーションへと表現を広げながら発達過程に配慮した指導案作成や、他領域との関連性、小学校以降の教科とのつながりについて考えていくことを説明する。 〈空間へ広がる造形活動：壁面構成①＊グループ制作〉 ・　模擬保育室で保育室と壁面構成について、教員が説明する。 ・　模擬保育室の壁面構成の要素について、教員が説明する。→子どもの制作物による構成を念頭におくこと。 ・　グループごとに担当となった月の壁面構成の内容を相談して計画を立てる。→第４回目の授業内に計画完成を目標に進めることを告げる。 ○本時の学習成果：本科目の概要について理解できる。保育室の状況と壁面構成を具体的にイメージできる。 ○予習と復習：季節の造形遊びについて調べておく。
2回	〈空間へ広がる造形活動：壁面構成②　季節の造形活動を考える〉 ○本時の目標 季節の行事も念頭に置きながら造形活動を考え、壁面構成へとつなげていく計画を立てることで、子どもの生活や意識の流れを大切にしながら活動を組み立てていく視点を持つことができる。 ○本時の活動 壁面構成へと繋がる、季節の造形活動の案をまとめる。子どもの発達段階に考慮しながら試作を重ねてアイデアを練っていく。 ○本時の学習成果：子どもの生活や意識の流れを大切にしながら造形活動を組み立てていく視点をもつことができる。 ○予習と復習：次回指導案を完成できるように活動の内容を決めておく。
3回	〈空間へ広がる造形活動：壁面構成③　指導案を作成する〉 ○本時の目標 壁面構成へとつながる、造形活動の指導案を作成することができる。 ○本時の活動 ・造形活動の指導案の様々な作成例を知る。 ・造形活動の指導案を作成する。 ・別紙にて子どもの作品を活かした壁面構成の案も作成する。 ○本時の学習成果：造形活動の指導案を作成することができる。 ○予習と復習：完成できなかったグループは週末までに提出する。壁面構成に使用できる身近な素材を集めておく。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
4 回	〈空間へ広がる造形活動：壁面構成④　制作（1)〉 ○本時の目標 　指導案を完成させ、子どもの発達段階を考慮しながら、壁面構成へつながる制作を進めることができる。 ○本時の活動 ・指導案を清書する。 ・壁面構成のための制作をする。 ○本時の学習効果：指導案を完成させ、子どもの発達段階を考慮しながら壁面構成へつながる制作を進めることができる。 ○予習と復習：制作が遅れている場合は、空き時間を利用して進めておく。
5 回	〈空間へ広がる造形活動：壁面構成⑤　制作（2)〉 ○本時の目標 　壁面構成へ繋がる制作を完了させることができる。 ○本時の活動 ・制作を完了させる。 ・模擬保育室への設置に向け準備を進める。 ○本時の学習成果：壁面構成へ繋がる制作を完了させることができる。 ○予習と復習：壁面構成に向け、必要な材料の調達を確認し、不足しているものは調達する。
6 回	〈空間へ広がる造形活動：壁面構成⑥　設置〉 ○本時の目標 　制作物を活かした壁面構成をすることができ、活動を通して学んだことをまとめることが出来る。 ○本時の活動 ・模擬保育室への設置を行う。 ・活動全体を振り返りプリントにまとめる。 ○本時の学習成果：壁面構成を完成させると共に、活動全体の振り返りをすることができる。 ○予習と復習：活動の振り返りプリントを次回までに完成させる。
7 回	〈空間へ広がる造形活動：壁面構成⑦　相互鑑賞〉 ○本時の目標 　全グループの指導案を確認しながら、模擬保育室の壁面構成を相互鑑賞し、それぞれの良さや工夫点、改善点などに着目して評価をすることができる。 ○本時の活動 ・全グループの指導案と壁面構成計画を印刷した冊子を参照しながら、模擬保育室にて相互鑑賞をし、担当グループについて制作物から壁面構成までワークシートに沿って評価をしていく。 ○本時の学習成果：相互鑑賞を通して保育を改善する視点をもつことができるとともに、幼稚園教育における指導上の留意点、評価の考え方に基づいて、活動を評価することができる。 ○予習と復習：ワークシートを完成させておく。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
8回	〈造形遊びの指導案　1．幼児の発達と造形遊びの援助〉 ○本時の目標 幼稚園教育要領における表現の内容と、就学以後の図画工作ならびに美術の指導要領を比較し、表現の領域にて幼児期に経験し身につけていく内容について、小学校以降の教科との関連のなかで理解することができる。 ○本時の活動 ・小学校～高等学校までの図画工作並びに美術の指導要領から、子どもの発達の特性とその過程を理解し、発達と生活の連続性の中で活動を行うことの重要性を確認する。 ・乳幼児の造形表現について、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」から確認する。 ・同じテーマの題材も発達過程により造形遊びでの「子どもの姿」「ねらい」がかわってくることをサンプルを通して確認する。 ・前回提出したワークシートを、本時の学びの観点で加筆修正し、完成させる。 ○本時の学習成果:小学校以降の教科との関連のなかで表現の領域にて幼児期に経験し身につけていく内容について考えることの必要性を理解できる。 ○予習と復習：　配付されたプリントを復習する。
9回	〈遊びを広げる　小麦粉粘土①〉 ○本時の目標 小麦粉粘土の作り方を理解し、小麦粉粘土を使った遊びを考案することができる。 ○本時の活動 ・教員が小麦粉粘土の作り方と留意点を説明する。 ・グループで小麦粉粘土を作り、どのように表現できるか試作してみる。また、幼児がどのような動き、発見をするか予想をしてみる。 ○本時の学習成果：小麦粉粘土の作り方、遊び方、留意点を体験的に知ることができる。 ○予習と復習：次回は小麦粉粘土による造形遊びの指導案と参考作品を作成するので、スムーズに作成できるよう指導案や活動例を調べておく。
10回	〈遊びを広げる　小麦粉粘土②〉 ○本時の目標 グループ内で造形遊びのシュミレーションを繰り返しながら指導案を修正・完成させていく過程を通じ、保育を改善する視点を身に付けることができる。 ○本時の活動 ・グループで小麦粉粘土を使った造形遊びの指導案を考える。 ・グループ内で役割分担を決め、造形遊びのシュミレーションをし、必要があれば指導案をその都度修正していく。 ○本時の学習成果：活動のシュミレーションと指導案の修正を繰り返すことで、保育を改善する視点を身につけることができる。 ○予習と復習：次回模擬保育ができるよう、準備を進めておく。
11回	〈遊びを広げる　小麦粉粘土③〉 ○本時の目標 小麦粉粘土を使った模擬保育をグループごとに行い、保育者役としての振り返り、幼児役をしてみての気付きをまとめる、具体的な改善策を考えることができる。 ○本時の活動 ・模擬保育に向け各グループで最終調整をする。 ・クラスメイトを幼児役にし、グループごとに小麦粉粘土を用いた模擬保育を行う。（次回以降の授業で使用するので、記録写真をグループごとに撮っておく） ・教員による指導・講評。 ・活動を終えての気付きをワークシートにまとめる。 ○本時の学習成果：模擬保育を通して気付いたことをまとめ、また改善が必要な部分については具体的な改善策を考えることができる。 ○予習と復習：ワークシートを完成させる。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
12回	〈幼児と表現への理解を深めるために①〉 〇本時の目標 ・子どもの活動の様子をまとめることを通し、園における評価の考え方を確認する。 ・内容がしっかり伝わる掲示物を作成することができる。 〇本時の流れ ・造形活動の中での子どもの言葉、発見を記録に残すことの重要性、保護者や地域が子どもの表現活動への理解を深められるような手立てを考えることの大切さを教員が説明する。 ・様々な園で実践されている、子どもの活動の様子を保護者や地域に伝える活動について知る。 ・前回の模擬保育の様子の写真を使って、保護者や地域に活動の様子を伝える掲示物を作成する。 〇本時の学習の成果：活動中の子どもの言葉や発見したことを保護者に伝えることで、保護者や地域のみならず、保育者自身が園での教育活動や、園における評価の考え方を確認することができることを理解する。内容がしっかり伝わる掲示物を作成することができる。 〇予習と復習：掲示物を完成させる。
13回	〈幼児と表現への理解を深めるために②〉 〈アートでつながる地域と子ども①〉 〇本時の目標 ・各グループが作成した掲示物を相互鑑賞し、幼児の活動を記録に残し伝達することの大切さを確認する。 ・子どもの活動の様子や成長の喜びを保護者と共有するためのツールについて考えることができる。 〇本時の流れ ・各グループの掲示物を相互鑑賞し、気付いたことをワークシートにまとめる。 ・子どもの活動や成長の喜びを保護者や地域と共有するためのツールについての具体例を知る。 ・「アートでつながる地域と子ども」というテーマで、造形活動の案を各自で考える。 〇本時の学習成果：掲示物の相互鑑賞から幼児の活動を記録に残し伝達することの大切さを確認できる。 〇予習と復習：「アートでつながる地域と子ども」というテーマでの活動案を考えておく。
14回	〈アートでつながる地域と子ども②〉 〇本時の目標 表現活動を「地域とのつながり」をテーマに考えることで、様々な領域や活動空間と関連させながら表現を考えることができるようになる。幼児の思考や動きを視野に入れた活動の構想を練ることができる。 〇本時の流れ ・友達と相談をしても良いが、今回はそれぞれで指導案を作成することを確認する。 ・活動のねらいを熟考する。 ・今回は試作をする必要はないが、子どもの動きや反応などをできるだけ多く予想し、記述していく。 〇本時の学習成果：様々な領域、活動空間と関連させながら、幼児の思考や動きを視野に入れた活動の構想を練ることができる。 〇予習と復習：次回までに指導案を完成させる。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
15 回	〈「幼児と表現Ⅱ」の指導法　まとめ〉 〇本時の目標 幼児の深い学びが実現する保育を構想することができ、保育者としてふさわしい適正な意見を持つことができる。 〇本時の流れ ・グループ内で、指導案の発表をする。 ・グループごとに発表会を通して学んだことを発表をする。 ・本科目の目標を達成できたか、自己評価を行う。 〇本時の学習成果：幼児の深い学びが実現する保育を構想することができ、保育者としてふさわしい価値基準と判断力がつき、適正な意見を持つことができる。 〇予習と復習：ワークシートを完成させる。

令　和　2　年　度　教　育　計　画							
科目名	幼児と音楽Ⅰ（A）	授業回数	15	単位数	1	担当教員	白神　厚子、他
質問受付の方法　　オフィスアワー：授業日　9：10～10：40							

教育目標と学生の学習成果

教育目標：
本科目では、幼児教育現場での実践的音楽表現力・指導力を修得するため、以下の3項目を目標として適切な練習の積み重ねを前提に実演授業を実施する。
1.　ピアノ演奏に関する基本的な知識・技能を理解・修得する。
2.　ピアノ演奏に必要な練習準備の方法・必要性を理解・修得する。
3.　ピアノ演奏を通して音楽活動の楽しさ・喜びを体験し、仲間と共有する。

学生の学習成果：
・専門的学習成果：教育目標に掲げる3項目を修得するため、2年間の幼児と音楽ⅠA・B・C・Dの段階を追って自主的・自立的・意欲的に技能を向上させる基礎力を身につける。
・汎用的学習成果：幼児と音楽Ⅰの2年間を通した継続的な学びと努力で、社会人としてのモラルや責任を果たすために必要な自己管理能力を身につける。

教育方法

授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） ・適切な練習を積み重ねてきた課題曲を各人のピアノ技能に応じて個人レッスンすることで、レベルアップへの具体的な方法を伝える。 ・適切な練習を積み重ねてきた自由課題曲を各人のピアノ技能に応じて交替で個人レッスンする中で、人の演奏を聴いて自分の学びとすることを課す。 ・適切な練習を積み重ねてきた課題曲を人前で演奏することで、社会人に求められる態度や責任感を獲得することを課す。
予習・復習	予習事項：課題曲進度表に沿って適切に予習・練習すること。 復習事項：課題曲進度表に沿って適切に復習・練習すること。 ※予習・復習の練習時間は1週間に400分以上を目標とする。 ※練習時間と課題曲は指定の記録用紙に記入し、授業開始時に提出する。 ※授業時間内でマスターできなかった課題曲は補習に出席して予習・復習する。
テキスト	「全訳ハノンピアノ教本」全音楽譜出版社 「指づかいつきバイエルピアノ教本」木村ケイ編　全音楽譜出版社 「ツェルニー100番・30番・40番」全音楽譜出版社

学習評価の方法

①　専門的学習成果において
・各人の予習・復習による学習成果　　２点×12回　＝　24点
・ハノン実技人前実演（２回実施）　　10点×２回　＝　20点
・自由曲実技人前実演（１回実施）　　56点×１回　＝　56点
以上の配分とし、人前実演で弾く曲は全曲暗譜でマスターすることを必須とし、総合評価する。
※ただし、再試・追試は1回のみとする。

②　汎用的学習成果において
社会人、保育者としての態度や責任感が十分でないと判断した場合、以下を減点対象とする。
・演奏に適した身だしなみ（適切な長さの爪、等々）でないこと　１点減点
・練習時間記録用紙の未提出　　１点減点
・授業態度不良（私語、携帯使用、自分勝手な行動、等々）　１点減点

注意事項	参考図書等：
授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1回	〈オリエンテーション〉 ・幼児と音楽Ⅰ(A)授業の進め方・スケジュール・学習方法・評価の方法について説明する。 ・担当分けをし、各担当別に各人の課題・練習方法・準備を確認する。 学習成果：ピアノ実演技術の向上、社会人として責任を果たすための方法を理解する。 予習・復習事項：ハノンNo.1とバイエル・ツェルニーから各人の課題曲を適切に練習する。 ※予習・復習の練習時間は1週間に400分以上を目標とする。
2回	〈読譜・演奏するために必要なソルフェージュや器楽に関する知識・技能について指導する〉 ・ハノンNo.1：共通課題曲を個人レッスンしながら全員の学びとするよう伝える。 ・バイエル・ツェルニー：各人の課題曲を個人レッスンしながら全員の学びとする方法を伝える。 学習成果：練習・準備してきたことを精いっぱい発揮し、注意点を向上につなげる。 予習： ハノンNo.2とバイエル・ツェルニーから各人の課題曲を適切に練習する。 復習： ハノンNo.1とバイエル・ツェルニーから各人の課題曲を適切に練習・暗譜する。 ※ 予習・復習の練習時間は1週間に400分以上を目標とする。
3回	〈読譜・演奏するために必要なソルフェージュや器楽に関する知識・技能について指導する〉 ・ハノンNo.2：共通課題曲を個人レッスンしながら全員の学びとするよう伝える。 ・バイエル・ツェルニー：各人の課題曲を個人レッスンしながら全員の学びとする方法を伝える。 学習成果：練習・準備してきたことを精いっぱい発揮し、注意点を向上につなげる。 予習：ハノンNo.3とバイエル・ツェルニーから各人の課題曲を適切に練習する。 復習：ハノンNo.2とバイエル・ツェルニーから各人の課題曲を適切に練習・暗譜する。 ※ 予習・復習の練習時間は1週間に400分以上を目標とする。
4回	〈読譜・演奏するために必要なソルフェージュや器楽に関する知識・技能について指導する〉 ・ハノンNo.3：共通課題曲を個人レッスンしながら全員の学びとするよう伝える。 ・バイエル・ツェルニー：各人の課題曲を個人レッスンしながら全員の学びとする方法を伝える。 学習成果：練習・準備してきたことを精いっぱい発揮し、注意点を向上につなげる。 予習：ハノンNo.4とバイエル・ツェルニーから各人の課題曲を適切に練習する。 復習：ハノンNo.3とバイエル・ツェルニーから各人の課題曲を適切に練習・暗譜する。 ※ 予習・復習の練習時間は1週間に400分以上を目標とする。
5回	〈読譜・演奏するために必要なソルフェージュや器楽に関する知識・技能について指導する〉 ・ハノンNo.4：共通課題曲を個人レッスンしながら全員の学びとするよう伝える。 ・バイエル・ツェルニー：各人の課題曲を個人レッスンしながら全員の学びとする方法を伝える。 学習成果：練習・準備してきたことを精いっぱい発揮し、注意点を向上につなげる。 予習：ハノンNo. 1～№5とバイエル・ツェルニーから各人の課題曲を適切に練習する。 復習：ハノンNo.4とバイエル・ツェルニーから各人の課題曲を適切に練習・暗譜する。 ※ 予習・復習の練習時間は1週間に400分以上を目標とする。

6 回	〈読譜・演奏するために必要なソルフェージュや器楽に関する知識・技能について指導する〉 ・ハノン No. 1 ～No.5：共通課題曲を個人レッスンしながら全員の学びとするよう伝える。 ・バイエル・ツェルニー：各人の課題曲を個人レッスンしながら全員の学びとする方法を伝える。 学習成果：練習・準備してきたことを精いっぱい発揮し、注意点を向上につなげる。 予習：バイエル・ツェルニーから各人の課題曲を適切に練習する。 復習：ハノン No.1～No.5 を暗譜で実演できるよう適切に練習して人前実演に備える。 ※　予習・復習の練習時間は 1 週間に 400 分以上を目標とする。
7 回	〈ハノン第 1 回目人前実演〉 ・共通課題曲(No.1～No.5)から当日 1 曲指定した曲を暗譜で正確に演奏する。 学習成果：人前で暗譜で演奏することに慣れ、適切な練習の必要性を実感する。 予習：ハノン No.6 とバイエル・ツェルニーから各人の課題曲を適切に練習する。 復習：ハノン No.1～No,5 を指の練習に応用して練習開始時に毎回弾く。 ※　予習・復習の練習時間は 1 週間に 400 分以上を目標とする。
授　業　回　数　別　教　育　内　容	
8 回	〈読譜・演奏するために必要なソルフェージュや器楽に関する知識・技能について指導する〉 ・ハノン No.6：共通課題曲を個人レッスンしながら全員の学びとするよう伝える。 ・バイエル・ツェルニー：各人の課題曲を個人レッスンしながら全員の学びとする方法を伝える。 学習成果：練習・準備してきたことを精いっぱい発揮し、注意点を向上につなげる。 予習：ハノン No.7 とバイエル・ツェルニーから各人の課題曲を適切に練習する。 復習：ハノン No.6 とバイエル・ツェルニーから各人の課題曲を適切に練習・暗譜する。 ※　予習・復習の練習時間は 1 週間に 400 分以上を目標とする。
9 回	〈読譜・演奏するために必要なソルフェージュや器楽に関する知識・技能について指導する〉 ・ハノン No. 7 ：共通課題曲を個人レッスンしながら全員の学びとするよう伝える。 ・バイエル・ツェルニー：各人の課題曲を個人レッスンしながら全員の学びとする方法を伝える。 学習成果：練習・準備してきたことを精いっぱい発揮し、注意点を向上につなげる。 予習：ハノン No. 8 とバイエル・ツェルニーから各人の課題曲を適切に練習する。 復習：ハノン No. 7 とバイエル・ツェルニーから各人の課題曲を適切に練習・暗譜する。 ※　予習・復習の練習時間は 1 週間に 400 分以上を目標とする。
10 回	〈読譜・演奏するために必要なソルフェージュや器楽に関する知識・技能について指導する〉 ・ハノン No. 8 ：共通課題曲を個人レッスンしながら全員の学びとするよう伝える。 ・バイエル・ツェルニー：各人の課題曲を個人レッスンしながら全員の学びとする方法を伝える。 学習成果：練習・準備してきたことを精いっぱい発揮し、注意点を向上につなげる。 予習：ハノン No. 9 とバイエル・ツェルニーから各人の課題曲を適切に練習する。 復習：ハノン No. 8 とバイエル・ツェルニーから各人の課題曲を適切に練習・暗譜する。 ※　予習・復習の練習時間は 1 週間に 400 分以上を目標とする。
11 回	〈読譜・演奏するために必要なソルフェージュや器楽に関する知識・技能について指導する〉 ・ハノン No.9：共通課題曲を個人レッスンしながら全員の学びとするよう伝える。 ・バイエル・ツェルニー：各人の課題曲を個人レッスンしながら全員の学びとする方法を伝える。 学習成果：練習・準備してきたことを精いっぱい発揮し、注意点を向上につなげる。 予習：ハノン No.6～No.10 とバイエル・ツェルニーから各人の課題曲を適切に練習する。 復習：ハノン No.9 とバイエル・ツェルニーから各人の課題曲を適切に練習・暗譜する。 ※　予習・復習の練習時間は 1 週間に 400 分以上を目標とする。

12 回	〈読譜・演奏するために必要なソルフェージュや器楽に関する知識・技能について指導する〉 ・ハノン No.6～10：共通課題曲を個人レッスンしながら全員の学びとするよう伝える。 ・バイエル・ツェルニー：各人の課題曲を個人レッスンしながら全員の学びとする方法を伝える。 学習成果：練習・準備してきたことを精いっぱい発揮し、注意点を向上につなげる。 予習：バイエル・ツェルニーから各人の課題曲を適切に練習・暗譜する。 復習：ハノン No.6～No.10 を暗譜で実演できるよう適切に練習して人前実演に備える。 ※　予習・復習の練習時間は 1 週間に 400 分以上を目標とする。
13 回	〈ハノン第 2 回目人前実演〉 ・共通課題曲(No.6～No.10)から当日 1 曲指定した曲を暗譜で正確に演奏する。 学習成果：人前で暗譜で演奏することに慣れ、適切な練習の必要性を実感する。 予習：バイエル・ツェルニーから各人の課題曲を適切に練習・暗譜する。 復習：ハノン No.1～No.10 を指の練習に応用して練習開始時に毎回弾く。 ※　予習・復習の練習時間は 1 週間に 400 分以上を目標とする。
14 回	〈読譜・演奏するために必要なソルフェージュや器楽に関する知識・技能について指導する〉 ・バイエル・ツェルニー：各人の課題曲を個人レッスンしながら全員の学びとするよう伝える。 学習成果：人前で暗譜で演奏するために必要な練習の成果を精いっぱい発揮し、注意点を向上につなげる。 予習：バイエル・ツェルニーから各人の課題曲を暗譜で実演できるよう適切に練習して人前実演に備える。 復習：ハノン No.1～No.10 を指の練習に応用して練習開始時に毎回弾く。 ※　予習・復習の練習時間は 1 週間に 400 分以上を目標とする。
15 回	〈自由曲人前実演〉 ・自由曲（バイエル・ツェルニー）から各人の課題曲を当日 1 曲指定し、暗譜で正確に演奏する。 学習成果：人前で演奏することに慣れ、適切な練習の必要性を実感する。 予習：夏休み弾き歌い課題曲①「おおきなたいこ」②「むすんでひらいて」を夏休み明けの幼児と音楽Ⅰ(B)1 回目授業時に 2 曲とも暗譜で弾き歌いできるよう適切な練習を積み重ねる。 復習：ハノン№1～№10 を指の練習に応用して練習開始時に毎回弾く。 ※　予習・復習の練習時間は 1 週間に 400 分以上を目標とする。

令　和　2　年　度　教　育　計　画							
科目名	幼児と音楽Ⅰ（B）	授業回数	15	単位数	1	担当教員	白神　厚子、他
質問受付の方法　　オフィスアワー：授業日　9：10～10：40							

教育目標と学生の学習成果

教育目標：
本科目では幼児教育現場での実践的音楽表現力・指導力を修得するため、以下の4項目を目標として適切な練習の積み重ねを前提に実演授業を実施する。
1. ピアノ演奏に関する基本的な知識・技能を理解・修得する。
2. ピアノ演奏に必要な練習準備の方法・必要性を理解・修得する。
3. 歌いながらピアノ伴奏を一人で演奏する弾き歌いに関する基本的な知識・技術を理解・修得する。
4. ピアノ演奏・弾き歌い演奏を通して、音楽活動の楽しさ・喜びを体験し仲間と共有する。

学生の学習成果：
専門的学習成果：教育目標に掲げる4項目を修得するため、2年間の幼児と音楽ⅠA・B・C・Dの段階を追って自主的・自立的・意欲的に技能を向上させる基礎力を身につける。
汎用的学習成果：幼児と音楽Ⅰの2年間を通した継続的な学びと努力で、社会人としてのモラルや責任を果たすために必要な自己管理能力を身につける。

教育方法

授業の進め方

（講義・演習・実験・実習・実技）
・適切な練習を積み重ねてきた課題曲を各人のピアノ技能に応じて個人レッスンすることで、レベルアップへの具体的な方法を伝える。
・適切な練習を積み重ねてきた共通弾き歌い課題曲を交替で個人レッスンする中で、人の演奏を聴いて自分の学びとすることを課す。
・適切な練習を積み重ねてきた自由課題曲を各人のピアノ技能に応じて交替で個人レッスンする中で、人の演奏を聴いて自分の学びとすることを課す。
・適切な練習を積み重ねてきた課題曲を人前で演奏することで、社会人に求められる態度や責任感を獲得することを課す。

予習・復習

予習事項：課題曲進度表に沿って適切に予習・練習すること。
復習事項：課題曲進度表に沿って適切に復習・練習すること。
※予習・復習の練習時間は1週間に400分以上を目標とする。
※練習時間と課題曲は指定の記録用紙に記入し授業開始時に提出する。
※授業時間内でマスターできなかった課題曲は補習に出席して予習・復習する。

テキスト

「指づかいつきバイエルピアノ教本」木村ケイ編　全音楽譜出版社
「ブルグミュラー25の練習曲　「ソナチネアルバム1・2」　全音楽譜出版社
「保育ソング」明治図書出版社、「こどものうた200」チャイルド社

学習評価の方法

① 専門的学習成果において
・各人の予習・復習による学習成果　　2点×10回　＝　20点
・弾き歌い実技人前実演（4回実施）　　2点×14曲　＝　28点
・自由曲実技人前実演（1回実施）　　52点×1回　＝　52点
以上の配分とし、人前実演で弾く曲は全曲暗譜でマスターすることを必須とし、総合評価する。※ただし、再試・追試は1回のみとする。

② 汎用的学習成果において
社会人、保育者としての態度や責任感が十分でないと判断した場合、以下を減点対象とする。
・演奏に適した身だしなみ（適切な長さの爪、等々）でないこと　1点減点
・練習時間記録用紙の未提出　　1点減点
・授業態度不良（私語、携帯使用、自分勝手な行動、等々）　1点減点

注意事項	参考図書等：
授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1回	〈オリエンテーション〉 ・幼児と音楽Ⅰ(B)授業の進め方・スケジュール・学習方法・評価の方法について説明する。 〈実演〉 ・夏休み課題曲①おおきなたいこ②むすんでひらいてを２曲とも暗譜で弾き歌い演奏する。 学習成果：人前で暗譜で弾き歌い演奏することに慣れ、適切な練習の必要性を実感する。 予習：③おおきなくりの木のしたで④おかたづけ（共通弾き歌い課題曲）を適切に練習する。 バイエル・ブルグミュラー・ソナチネから各人の技能に合わせた課題曲（自由曲）を適切に練習する。 復習：実演した曲の問題点を適切に練習してレベルアップする。 ※予習・復習の練習時間は１週間に 400 分以上を目標とする。
2回	〈読譜・演奏するために必要なソルフェージュや器楽に関する知識・技能について指導する〉 ③おおきなくりの木のしたで④おかたづけ・自由曲を個人レッスンしながら全員の学びとするよう伝える。 学習成果：練習・準備してきたことを精いっぱい発揮し、注意点を向上につなげる。 予習：⑤おそうじ⑥チューリップ・自由曲を適切に練習する。 復習：③おおきなくりの木のしたで④おかたづけを正確に弾き歌いできるよう、丁寧に練習する。　：各自の自由曲を丁寧に正確に練習する。 ※予習・復習の練習時間は１週間に 400 分以上を目標とする。
3回	〈読譜、演奏するために必要なソルフェージュや器楽に関する知識・技能について指導する〉 ⑤おそうじ⑥チューリップ・自由曲を個人レッスンしながら全員の学びとするよう伝える。 学習成果：練習・準備してきたことを精いっぱい発揮し、注意点を向上につなげる。 予習：③おおきなくりの木のしたで④おかたづけ・自由曲を丁寧に正確に練習する。 復習：⑤おそうじ⑥チューリップを正確に弾き歌いできるよう、丁寧に練習する。 ：各自の自由曲を丁寧に正確に練習する。 ※予習・復習の練習時間は１週間に 400 分以上を目標とする。
4回	〈読譜、演奏するために必要なソルフェージュや器楽に関する知識・技能について指導する〉 ③おおきなくりの木のしたで④おかたづけ⑤おそうじ⑥チューリップ・自由曲を個人レッスンしながら全員の学びとするよう伝える。 学習成果：練習・準備してきたことを精いっぱい発揮し、注意点を向上につなげる。 予習：③おおきなくりの木のしたで④おかたづけ⑤おそうじ⑥チューリップ・自由曲を丁寧に正確に練習する。 復習：第１回目弾き歌い課題曲③④⑤⑥を人前で暗譜で正確に弾き歌いできるよう、丁寧に練習する。 ：各自の自由曲を丁寧に正確に練習する。 ※予習・復習の練習時間は１週間に 400 分以上を目標とする。
5回	〈第１回目弾き歌い課題曲人前実演〉 ③おおきなくりの木のしたで④おかたづけ⑤おそうじ⑥チューリップ　を４曲とも暗譜で弾き歌い演奏する。 学習成果：人前で暗譜で弾き歌い演奏することに慣れ、教育実習に備える。 予習：⑦あくしゅでこんにちは２　⑧おへんじ・自由曲を丁寧に正確に練習する。 復習：第１回目弾き歌い課題曲の問題点と自由曲を丁寧に正確に練習してレベルアップする。 ※予習・復習の練習時間は１週間に 400 分以上を目標とする。

6 回	〈読譜、演奏するために必要なソルフェージュや器楽に関する知識・技能について指導する〉 ⑦あくしゅでこんにちは２　⑧おへんじ・自由曲を個人レッスンしながら全員の学びとするよう伝える。 学習成果：練習・準備してきたことを精いっぱい発揮し、注意点を向上につなげる。 予習：⑨おててをあらいましょう⑩ぶんぶんぶん・自由曲を丁寧に正確に練習する。 復習：⑦あくしゅでこんにちは２　⑧おへんじ・自由曲を丁寧に正確に練習する。 ※予習・復習の練習時間は１週間に 400 分以上を目標とする。
7 回	〈読譜、演奏するために必要なソルフェージュや器楽に関する知識・技能について指導する〉 ⑨おててをあらいましょう⑩ぶんぶんぶん・自由曲を個人レッスンしながら全員の学びとするよう伝える。 学習成果：練習・準備してきたことを精一杯発揮し、注意点を向上につなげる。 予習：⑦あくしゅでこんにちは２　⑧おへんじ・自由曲を丁寧に正確に練習する。 復習：⑨おててをあらいましょう⑩ぶんぶんぶん・自由曲を丁寧に正確に練習する。 ※予習・復習の練習時間は１週間に 400 分以上を目標とする。
8 回	〈読譜、演奏するために必要なソルフェージュや器楽に関する知識・技能について指導する〉 ⑦あくしゅでこんにちは２　⑧おへんじ⑨おててをあらいましょう⑩ぶんぶんぶん・自由曲を個人レッスンしながら全員の学びとするよう伝える。 学習成果：練習・準備してきたことを精いっぱい発揮し、注意点を向上につなげる。 予習：⑦あくしゅでこんにちは２　⑧おへんじ⑨おててをあらいましょう⑩ぶんぶんぶん・自由曲を丁寧に正確に練習する。 復習：第２回目弾き歌い課題曲⑦⑧⑨⑩を人前で暗譜で正確に弾き歌いできるよう、丁寧に練習する。 ：各自の自由曲を丁寧に正確に練習する。 ※予習・復習の練習時間は１週間に 400 分以上を目標とする。
9 回	〈第２回目弾き歌い課題曲人前実演〉 ⑦あくしゅでこんにちは２　⑧おへんじ⑨おててをあらいましょう⑩ぶんぶんぶん　を４曲とも暗譜で弾き歌い演奏する。 学習成果：人前で暗譜で弾き歌いすることに慣れ、教育実習に備える。 予習：⑪こぎつね⑫ごあいさつ・自由曲を丁寧に正確に練習する。 復習：第２回目弾き歌い課題曲をの問題点と自由曲を丁寧に正確に練習してレベルアップする。 ※予習・復習の練習時間は１週間に 400 分以上を目標とする。
10 回	〈読譜、演奏するために必要なソルフェージュや器楽に関する知識・技能について指導する〉 ⑪こぎつね⑫ごあいさつ・自由曲を個人レッスンしながら全員の学びとするよう伝える。 学習成果：練習・準備してきたことを精いっぱい発揮し、注意点を向上につなげる。 予習：⑬まめまき⑭まつぼっくり・自由曲を丁寧に正確に練習する。 復習：⑪こぎつね⑫ごあいさつ・自由曲を丁寧に正確に練習する。 ※予習・復習の練習時間は１週間に 400 分以上を目標とする。
11 回	〈読譜、演奏するために必要なソルフェージュや器楽に関する知識・技能について指導する〉 ⑬まめまき⑭まつぼっくり・自由曲を個人レッスンしながら全員の学びとするよう伝える。 学習成果：練習・準備してきたことを精いっぱい発揮し、注意点を向上につなげる。 予習：⑪こぎつね⑫ごあいさつ・自由曲を丁寧に正確に練習する。 復習：⑬まめまき⑭まつぼっくり・自由曲を丁寧に正確に練習する。 ※予習・復習の練習時間は１週間に 400 分以上を目標とする。

12 回	〈読譜、演奏するために必要なソルフェージュや器楽に関する知識・技能について指導する〉 ⑪こぎつね⑫ごあいさつ⑬まめまき⑭まつぼっくり・自由曲を個人レッスンしながら全員の学びとするよう伝える。 学習成果：練習・準備してきたことを精いっぱい発揮し、注意点を向上につなげる。 予習：⑪こぎつね⑫ごあいさつ⑬まめまき⑭まつぼっくり・自由曲を丁寧に正確に練習する。 復習：第 3 回目弾き歌い課題曲⑪⑫⑬⑭を人前で暗譜で正確に弾き歌いできるよう、丁寧に練習する。 ：各自の自由曲を丁寧に正確に練習する。 ※予習・復習の練習時間は 1 週間に 400 分以上を目標とする。
13 回	〈第 3 回目弾き歌い課題曲人前実演〉 ⑪こぎつね⑫ごあいさつ⑬まめまき⑭まつぼっくり　を４曲とも暗譜で弾き歌い演奏する。 学習成果：人前で暗譜で弾き歌いすることに慣れ、教育実習に備える。 予習：自由曲を丁寧に正確に練習する。 復習：第 3 回目弾き歌い課題曲の問題点と自由曲を丁寧に正確に練習してレベルアップする。 ※予習・復習の練習時間は 1 週間に 400 分以上を目標とする。
14 回	〈読譜、演奏するために必要なソルフェージュや器楽に関する知識・技能について指導する〉 ・自由曲を個人レッスンしながら全員の学びとするよう伝える。 学習成果：練習・準備してきたことを精いっぱい発揮し、注意点を向上につなげる。 予習：自由曲を正確に暗譜で弾けるよう、人前実演に備えて、丁寧に練習する。 復習：弾き歌い課題曲の問題点と自由曲を丁寧に正確に練習してレベルアップする。 ※予習・復習の練習時間は 1 週間に 400 分以上を目標とする。
15 回	〈自由曲実技人前実演〉 ・バイエル・ブルグミュラー・ソナチネから各人の自由課題曲を 1 曲暗譜で演奏する。 学習成果：人前で演奏することに慣れ、教育実習に備える。 予習：春休み弾き歌い課題曲①めだかのがっこう②ちょうちょう　を春休み明けの幼児と音楽Ⅰ(C)1 回目の授業時に 2 曲とも暗譜で弾き歌いできるよう、丁寧に正確に練習する。 復習：今までの課題曲の問題点を練習してレベルアップする。 ※予習・復習の練習時間は 1 週間に 400 分以上を目標とする。

令　和　2　年　度　教　育　計　画							
科目名	幼児と音楽Ⅰ（C）	授業回数	15	単位数	1	担当教員	白神　厚子、他
質問受付の方法　　オフィスアワー：授業日　9：10～10：40							

教育目標と学生の学習成果

教育目標：
本科目では幼児教育現場での実践的音楽表現力・指導力を修得するため、以下の4項目を目標として適切な練習の積み重ねを前提に実演授業を実施する。
1. ピアノ演奏に関する基本的な知識・技能を理解・修得する。
2. ピアノ演奏に必要な練習準備の方法・必要性を理解・修得する。
3. 歌いながらピアノ伴奏を一人で演奏する弾き歌いに関する基本的な知識・技術を理解・修得する。
4. ピアノ演奏・弾き歌い演奏を通して、音楽活動の楽しさ・喜びを体験し、仲間と共有し共に向上して行く。

学生の学習成果：
専門的学習成果：教育目標に掲げる4項目を修得するため、2年間の幼児と音楽ⅠA・B・C・Dの段階を追って自主的・自律的・意欲的に技能を向上させて行く。
汎用的学習成果：幼児と音楽Ⅰの2年間を通した継続的な学びと努力で、社会人としてのモラルや責任を果たすために必要な自己管理能力を身につける。

教育方法

授業の進め方

（講義・演習・実験・実習・実技）
・適切な練習を積み重ねてきた課題曲を各人のピアノ技能に応じて個人レッスンすることで、レベルアップへの具体的な方法を伝える。
・適切な練習を積み重ねてきた共通弾き歌い課題曲を交替で個人レッスンする中で、人の演奏を聴いて自分の学びとすることを課す。
・適切な練習を積み重ねてきた自由課題曲を各人のピアノ技能に応じて交替で個人レッスンする中で、人の演奏を聴いて自分の学びとすることを課す。
・適切な練習を積み重ねてきた課題曲を人前で交替で演奏することで、社会人に求められる態度や責任感を獲得することを課す。

予習・復習

予習事項：課題曲進度表に沿って適切に予習・練習すること。
復習事項：課題曲進度表に沿って適切に復習・練習すること。
※予習・復習の練習時間は1週間に400分以上を目標とする。
※練習時間と課題曲は指定の記録用紙に記入し授業開始時に提出する。
※授業時間内でマスターできなかった課題曲は補習に出席して予習・復習する。

テキスト

「ブルグミュラー25の練習曲」全音楽譜出版社
「ソナチネアルバム１・２」全音楽譜出版社
「こどものうた200」チャイルド本社
「保育ソング」明治図書出版社

学習評価の方法

① 専門的学習成果において
・各人の予習・復習による学習成果　　2点×10回　＝　20点
・弾き歌い実技人前実演（４回実施）　　2点×14曲　＝　28点
・自由曲実技人前実演（１回実施）　　52点×１回　＝　52点
以上の配分とし、人前実演で弾く曲は全曲暗譜でマスターすることを必須とし、総合評価する。※ただし、再試・追試は1回のみとする。

② 汎用的学習成果において
社会人、保育者としての態度や責任感が十分でないと判断した場合、以下を減点対象とする。
・演奏に適した身だしなみ（適切な長さの爪、等々）でないこと　１点減点
・練習時間記録用紙の未提出　　１点減点
・授業態度不良（私語、携帯使用、自分勝手な行動、等々）　１点減点

注意事項	参考図書等：
授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1回	〈オリエンテーション〉 ・幼児と音楽Ⅰ(C)授業の進め方・スケジュール・学習方法・評価の方法について説明する。 〈実演〉 ・春休み課題曲①めだかのがっこう②ちょうちょう　を2曲とも暗譜で弾き歌い演奏する。 学習成果：人前で暗譜で弾き歌い演奏するレベルを向上させ、教育実習に備える。 予習：③かえるのがっしょう④春がきた（共通弾き歌い課題曲）を丁寧に正確に練習する。 　　ブルグミュラー・ソナチネから各人の技能に合わせた課題曲（自由曲）を練習する。 復習：実演した曲の問題点を適切に練習してレベルアップする。 ※予習・復習の練習時間は1週間に400分以上を目標とする。
2回	〈読譜・演奏するために必要なソルフェージュや器楽に関する知識・技能について指導する〉 ③かえるのがっしょう④春がきた・自由曲を個人レッスンしながら全員の学びとするよう伝える。 学習成果：教育現場で活用できる演奏レベルに上げて行く方法を修得する。 予習：⑤こいのぼり⑥おべんとう・自由曲を丁寧に正確に練習する。 復習：③かえるのがっしょう④春がきた　を教育現場で活用できるよう、丁寧に正確に練習して演奏レベルを上げて行く。 　：各自の自由曲を丁寧に正確に練習する。 ※予習・復習の練習時間は1週間に400分以上を目標とする。
3回	〈読譜、演奏するために必要なソルフェージュや器楽に関する知識・技能について指導する〉 ⑤こいのぼり⑥おべんとう・自由曲を個人レッスンしながら全員の学びとするよう伝える。 学習成果：教育現場で活用できる演奏レベルに上げて行く方法を修得する。 予習：③かえるのがっしょう④春がきた・自由曲を丁寧に正確に練習する。 復習：⑤こいのぼり⑥おべんとう・自由曲を教育現場で活用できるよう、丁寧に正確に練習して演奏レベルを上げて行く。 ※予習・復習の練習時間は1週間に400分以上を目標とする。
4回	〈読譜、演奏するために必要なソルフェージュや器楽に関する知識・技能について指導する〉 ③かえるのがっしょう④春がきた⑤こいのぼり⑥おべんとう・自由曲を個人レッスンしながら全員の学びとするよう伝える。 学習成果：教育現場で活用できる演奏レベルに上げて行く方法を修得する。 予習：③かえるのがっしょう④春がきた⑤こいのぼり⑥おべんとう　を暗譜で弾けるよう、丁寧に正確に練習する。 復習：第1回目弾き歌い課題曲③④⑤⑥を教育現場で活用できるよう、丁寧に正確に練習して、暗譜での演奏レベルを上げて行く。 　：各自の自由曲を丁寧に正確に練習する。 ※予習・復習の練習時間は1週間に400分以上を目標とする。
5回	〈第1回目弾き歌い課題曲人前実演〉 ③かえるのがっしょう④春がきた⑤こいのぼり⑥おべんとう　を4曲とも暗譜で弾き歌い演奏する。 学習成果：練習・準備してきたことを効果的に活用し、暗譜での人前実演の質を上げる。 予習：⑦おばけなんてないさ⑧しゃぼんだま・自由曲を丁寧に正確に練習する。 復習：第 1 回目弾き歌い課題曲の問題点と自由曲を丁寧に正確に練習してレベルアップする。 ※予習・復習の練習時間は1週間に400分以上を目標とする。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
6 回	〈読譜、演奏するために必要なソルフェージュや器楽に関する知識・技能について指導する〉 ⑦おばけなんてないさ⑧しゃぼんだま・自由曲を個人レッスンしながら全員の学びとするよう伝える。 学習成果：教育現場で活用できる演奏レベルに上げて行く方法を修得する。 予習：⑨かたつむり⑩みずあそび・自由曲を丁寧に正確に練習する。 復習：⑦おばけなんてないさ⑧しゃぼんだま・自由曲を教育現場で活用できるよう、丁寧に正確に練習して演奏レベルを上げて行く。 ※予習・復習の練習時間は 1 週間に 400 分以上を目標とする。
7 回	〈読譜、演奏するために必要なソルフェージュや器楽に関する知識・技能について指導する〉 ⑨かたつむり⑩みずあそび・自由曲を個人レッスンしながら全員の学びとするよう伝える。 学習成果：教育現場で活用できる演奏レベルに上げて行く方法を修得する。 予習：⑦おばけなんてないさ⑧しゃぼんだま・自由曲を丁寧に正確に練習する。 復習：⑨かたつむり⑩みずあそび・自由曲を教育現場で活用できるよう、丁寧に正確に練習して演奏レベルを上げて行く。 ※予習・復習の練習時間は 1 週間に 400 分以上を目標とする。
8 回	〈読譜、演奏するために必要なソルフェージュや器楽に関する知識・技能について指導する〉 ⑦おばけなんてないさ⑧しゃぼんだま⑨かたつむり⑩みずあそび・自由曲を個人レッスンしながら全員の学びとするよう伝える。 学習成果：教育現場で活用できる演奏レベルに上げて行く方法を修得する。 予習：⑦おばけなんてないさ⑧しゃぼんだま⑨かたつむり⑩みずあそび　を暗譜で弾けるよう、丁寧に正確に練習する。 復習：第 2 回目弾き歌い課題曲⑦⑧⑨⑩を教育現場で活用できるよう、丁寧に正確に練習して暗譜での演奏レベルを上げて行く。 ：各自の自由曲を丁寧に正確に練習する。 ※予習・復習の練習時間は 1 週間に 400 分以上を目標とする。
9 回	〈第 2 回目弾き歌い課題曲人前実演〉 ⑦おばけなんてないさ⑧しゃぼんだま⑨かたつむり⑩みずあそび　を 4 曲とも暗譜で弾き歌い演奏する。 学習成果：練習・準備してきたことを効果的に活用し、暗譜での人前実演の質を上げる。 予習：⑪たなばたさま⑫おもちゃのチャチャチャ・自由曲を丁寧に正確に練習する。 復習：第 2 回目弾き歌い課題曲の問題点と自由曲を丁寧に正確に練習して演奏レベルを上げて行く。 ※予習・復習の練習時間は 1 週間に 400 分以上を目標とする。
10 回	〈読譜、演奏するために必要なソルフェージュや器楽に関する知識・技能について指導する〉 ⑪たなばたさま⑫おもちゃのチャチャチャ・自由曲を個人レッスンしながら全員の学びとするよう伝える。 学習成果：教育現場で活用できる演奏レベルに上げて行く方法を修得する。 予習：⑬せんせいとおともだち⑭おかえりのうた・自由曲を丁寧に正確に練習する。 復習：⑪たなばたさま⑫おもちゃのチャチャチャ・自由曲を教育現場で活用できるよう、丁寧に正確に練習して演奏レベルを上げて行く。 ※予習・復習の練習時間は 1 週間に 400 分以上を目標とする。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
11 回	〈読譜、演奏するために必要なソルフェージュや器楽に関する知識・技能について指導する〉 ⑬せんせいとおともだち⑭おかえりのうた・自由曲を個人レッスンしながら全員の学びとするよう伝える。 学習成果：教育現場で活用できる演奏レベルに上げて行く方法を修得する。 予習：⑪たなばたさま⑫おもちゃのチャチャチャ・自由曲を丁寧に正確に練習する。 復習：⑬せんせいとおともだち⑭おかえりのうた・自由曲を教育現場で活用できるよう、丁寧に正確に練習して演奏レベルを上げて行く。 ※予習・復習の練習時間は1週間に400分以上を目標とする。
12 回	〈読譜、演奏するために必要なソルフェージュや器楽に関する知識・技能について指導する〉 ⑪たなばたさま⑫おもちゃのチャチャチャ⑬せんせいとおともだち⑭おかえりのうた・自由曲を個人レッスンしながら全員の学びとするよう伝える。 学習成果：教育現場で活用できる演奏レベルに上げて行く方法を修得する。 予習：⑪たなばたさま⑫おもちゃのチャチャチャ⑬せんせいとおともだち⑭おかえりのうたを暗譜で弾けるよう、丁寧に正確に練習する。 復習：第3回目弾き歌い課題曲⑪⑫⑬⑭を教育現場で活用できるよう、丁寧に正確に練習して暗譜での演奏レベルを上げて行く。 ：各自の自由曲を丁寧に正確に練習する。 ※予習・復習の練習時間は1週間に400分以上を目標とする。
13 回	〈第3回目弾き歌い課題曲人前実演〉 ⑪たなばたさま⑫おもちゃのチャチャチャ⑬せんせいとおともだち⑭おかえりのうた　を4曲とも暗譜で弾き歌い演奏する。 学習成果：練習・準備してきたことを効果的に活用し、暗譜での人前実演の質を上げる。 予習：自由曲を丁寧に正確に練習する。 復習：第3回目弾き歌い課題曲の問題点と自由曲を丁寧に正確に練習して演奏レベルを上げて行く。 ※予習・復習の練習時間は1週間に400分以上を目標とする。
14 回	〈読譜、演奏するために必要なソルフェージュや器楽に関する知識・技能について指導する〉 ・自由曲を個人レッスンしながら全員の学びとするよう伝える。 学習成果：教育現場で活用できる演奏レベルに上げて行く方法を修得する。 予習：自由曲を正確に暗譜で弾けるよう、人前実演に備えて、丁寧に練習する。 復習：弾き歌い課題曲の問題点と自由曲を丁寧に正確に練習してレベルアップする。 ※予習・復習の練習時間は1週間に400分以上を目標とする。
15 回	〈自由曲実技人前実演〉 ・ブルグミュラー・ソナチネから各人の自由課題曲を1曲暗譜で演奏する。 学習成果：人前で演奏する機会をレベルアップにつなげる。 予習：夏休み弾き歌い課題曲①つき②とんぼのめがね　を夏休み明けの幼児と音楽Ⅰ(D)1回目の授業時に2曲とも暗譜で弾き歌いできるよう、丁寧に正確に練習する。 復習：今までの課題曲の問題点を練習してレベルアップする。 ※予習・復習の練習時間は1週間に400分以上を目標とする。

令　和　2　年　度　教　育　計　画							
科目名	幼児と音楽Ⅰ（D）	授業回数	15	単位数	1	担当教員	白神　厚子、他
質問受付の方法　　オフィスアワー：授業日　9：10～10：40							

教育目標と学生の学習成果		教育目標： 本科目では幼児教育現場での実践的音楽表現力・指導力を修得するため、以下の4項目を目標として適切な練習の積み重ねを前提に実演授業を実施する。 1. ピアノ演奏に関する基本的な知識・技能を理解・修得する。 2. ピアノ演奏に必要な練習準備の方法・必要性を理解・修得する。 3. 歌いながらピアノ伴奏を一人で演奏する弾き歌いに関する基本的な知識・技術を理解・修得する。 4. ピアノ演奏・弾き歌い演奏を通して、音楽活動の楽しさ・喜びを体験し、仲間と共有し共に向上して行く。 学生の学習成果： 専門的学習成果：教育目標に掲げる4項目を修得するため、2年間の幼児と音楽ⅠA・B・C・Dの段階を追って自主的・自律的・意欲的に努力して技能を向上させて行く。 汎用的学習成果：幼児と音楽Ⅰの2年間を通した継続的な学びと努力で、社会人としてのモラルや責任を果たすために必要な自己管理能力を身につける。
教育方法	授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） ・適切な練習を積み重ねてきた課題曲を各人のピアノ技能に応じて個人レッスンすることで、レベルアップへの具体的な方法を伝える。 ・適切な練習を積み重ねてきた共通弾き歌い課題曲を交替で個人レッスンする中で、人の演奏を聴いて自分の学びとすることを課す。 ・適切な練習を積み重ねてきた自由課題曲を各人のピアノ技能に応じて交替で個人レッスンする中で、人の演奏を聴いて自分の学びとすることを課す。 ・適切な練習を積み重ねてきた課題曲を人前で交替で演奏することで、社会人に求められる態度や責任感を獲得することを課す。
	予習・復習	予習事項：課題曲進度表に沿って適切に予習・練習すること。 復習事項：課題曲進度表に沿って適切に復習・練習すること。 ※予習・復習の練習時間は1週間に400分以上を目標とする。 ※練習時間と課題曲は指定の記録用紙に記入し授業開始時に提出する。 ※授業時間内でマスターできなかった課題曲は補習に出席して予習・復習する。
	テキスト	「ブルグミュラー25の練習曲」全音楽譜出版社 「ソナチネアルバム１・２」全音楽譜出版社 「こどものうた200」チャイルド本社 「保育ソング」明治図書出版社
学習評価の方法		①　専門的学習成果において ・各人の予習・復習による学習成果　　2点×10回　＝　20点 ・弾き歌い実技人前実演（４回実施）　　2点×14曲　＝　28点 ・自由曲実技人前実演（１回実施）　　52点×１回　＝　52点 以上の配分とし、人前実演で弾く曲は全曲暗譜でマスターすることを必須とし、総合評価する。※ただし、再試・追試は1回のみとする。 ② 汎用的学習成果において 社会人、保育者としての態度や責任感が十分でないと判断した場合、以下を減点対象とする。 ・演奏に適した身だしなみ（適切な長さの爪、等々）でないこと　１点減点 ・練習時間記録用紙の未提出　　１点減点 ・授業態度不良（私語、携帯使用、自分勝手な行動、等々）　１点減点

注意事項	参考図書等：
授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1回	〈オリエンテーション〉 ・幼児と音楽Ⅰ(D)授業の進め方・スケジュール・学習方法・評価の方法について説明する。 〈実演〉 ・春休み課題曲①つき②とんぼのめがね　を2曲とも暗譜で弾き歌い演奏する。 学習成果：暗譜で演奏するレベルを向上させ、音楽指導の質を上げる方法を修得する。 予習：③どんぐりころころ④やまのおんがくか（共通弾き歌い課題曲）を適切に練習する。 　ブルグミュラー・ソナチネから各人の技能に合わせた課題曲(自由曲)を適切に練習する。 復習：実演した曲の問題点を丁寧に正確に練習してレベルアップする。 ※予習・復習の練習時間は1週間に400分以上を目標とする。
2回	〈読譜・演奏するために必要なソルフェージュや器楽に関する知識・技能について指導する〉 ③どんぐりころころ④やまのおんがくか・自由曲を個人レッスンしながら全員の学びを促す。 学習成果：教育現場で活用できる演奏レベルに上げて行く方法を修得する。 予習：⑤もりのくまさん⑥いもほりのうた・自由曲を丁寧に正確に練習する。 復習：③どんぐりころころ④やまのおんがくか・自由曲を教育現場で活用できるよう、丁寧に正確に練習して、演奏レベルを上げて行く。 ※予習・復習の練習時間は1週間に400分以上を目標とする。
3回	〈読譜、演奏するために必要なソルフェージュや器楽に関する知識・技能について指導する〉 ⑤もりのくまさん⑥いもほりのうた・自由曲を個人レッスンしながら全員の学びを促す。 学習成果：教育現場で活用できる演奏レベルに上げて行く方法を修得する。 予習：③どんぐりころころ④やまのおんがくか・自由曲を丁寧に正確に練習する。 復習：⑤もりのくまさん⑥いもほりのうた・自由曲を教育現場で活用できるよう、丁寧に正確に練習して、演奏レベルを上げて行く。 ※予習・復習の練習時間は1週間に400分以上を目標とする。
4回	〈読譜、演奏するために必要なソルフェージュや器楽に関する知識・技能について指導する〉 ③どんぐりころころ④やまのおんがくか⑤もりのくまさん⑥いもほりのうた・自由曲を個人レッスンしながら全員の学びを促す。 学習成果：教育現場で活用できる演奏レベルに上げて行く方法を修得する。 予習：③どんぐりころころ④やまのおんがくか⑤もりのくまさん⑥いもほりのうた　を暗譜で弾けるよう、丁寧に正確に練習する。 復習：第1回目弾き歌い課題曲③④⑤⑥を暗譜で弾けるよう、丁寧に正確に練習して人前実演に備える。 　：各自の自由曲を丁寧に正確に練習する。 ※予習・復習の練習時間は1週間に400分以上を目標とする。
5回	〈第1回目弾き歌い課題曲人前実演〉 ③どんぐりころころ④やまのおんがくか⑤もりのくまさん⑥いもほりのうた　を4曲とも暗譜で弾き歌い演奏する。 学習成果：暗譜での弾き歌い人前実演の質を上げる。 予習：⑦ぞうさん⑧ハッピバースデー・自由曲を丁寧に正確に練習する。 復習：第1回目弾き歌い課題曲の問題点と自由曲を丁寧に正確に練習してレベルアップする。 ※予習・復習の練習時間は1週間に400分以上を目標とする。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
6 回	〈読譜、演奏するために必要なソルフェージュや器楽に関する知識・技能について指導する〉 ⑦ぞうさん⑧ハッピバースデー・自由曲を個人レッスンしながら全員の学びを促す。 学習成果：演奏レベルを上げて行く方法を修得する。 予習：⑨サンタクロース⑩ゆき・自由曲を丁寧に正確に練習する。 復習：⑦ぞうさん⑧ハッピバースデー・自由曲を丁寧に正確に練習して演奏レベルを上げて行く。 ※予習・復習の練習時間は 1 週間に 400 分以上を目標とする。
7 回	〈読譜、演奏するために必要なソルフェージュや器楽に関する知識・技能について指導する〉 ⑨サンタクロース⑩ゆき・自由曲を個人レッスンしながら全員の学びを促す。 学習成果：演奏レベルを上げて行く方法を修得する。 予習：⑦ぞうさん⑧ハッピバースデー・自由曲を丁寧に正確に練習する。 復習：⑨サンタクロース⑩ゆき・自由曲を丁寧に正確に練習して、演奏レベルを上げて行く。 ※予習・復習の練習時間は 1 週間に 400 分以上を目標とする。
8 回	〈読譜、演奏するために必要なソルフェージュや器楽に関する知識・技能について指導する〉 ⑦ぞうさん⑧ハッピバースデー⑨サンタクロース⑩ゆき・自由曲を個人レッスンしながら全員の学びを促す。 学習成果：暗譜で演奏するレベルを向上させて音楽指導の質を上げる方法を修得する。 予習：⑦ぞうさん⑧ハッピバースデー⑨サンタクロース⑩ゆき　を暗譜で弾けるよう、丁寧に正確に練習する。 復習：第 2 回目弾き歌い課題曲⑦⑧⑨⑩を暗譜で弾けるよう、丁寧に正確に練習して人前実演に備える。 ：各自の自由曲を丁寧に正確に練習する。 ※予習・復習の練習時間は 1 週間に 400 分以上を目標とする。
9 回	〈第 2 回目弾き歌い課題曲人前実演〉 ⑦ぞうさん⑧ハッピバースデー⑨サンタクロース⑩ゆき　を 4 曲とも暗譜で弾き歌い演奏する。 学習成果：暗譜での弾き歌い人前実演の質を上げる。 予習：⑪おしょうがつ⑫おもいでのアルバム・自由曲を丁寧に正確に練習する。 復習：第 2 回目弾き歌い課題曲の問題点と自由曲を丁寧に正確に練習してレベルアップする。 ※予習・復習の練習時間は 1 週間に 400 分以上を目標とする。
10 回	〈読譜、演奏するために必要なソルフェージュや器楽に関する知識・技能について指導する〉 ⑪おしょうがつ⑫おもいでのアルバム・自由曲を個人レッスンしながら全員の学びを促す。 学習成果：演奏レベルを上げて行く方法を修得する。 予習：⑬すうじのうた⑭メリーさんのひつじ・自由曲を丁寧に正確に練習する。 復習：⑪おしょうがつ⑫おもいでのアルバム・自由曲を丁寧に正確に練習して、演奏レベルを上げて行く。 ※予習・復習の練習時間は 1 週間に 400 分以上を目標とする。
11 回	〈読譜、演奏するために必要なソルフェージュや器楽に関する知識・技能について指導する〉 ⑬すうじのうた⑭メリーさんのひつじ・自由曲を個人レッスンしながら全員の学びを促す。 学習成果：演奏レベルを上げて行く方法を修得する。 予習：⑪おしょうがつ⑫おもいでのアルバム・自由曲を丁寧に正確に練習する。 復習：⑬すうじのうた⑭メリーさんのひつじ・自由曲を丁寧に正確に練習して、演奏レベルを上げて行く。 ※予習・復習の練習時間は 1 週間に 400 分以上を目標とする。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
12 回	〈読譜、演奏するために必要なソルフェージュや器楽に関する知識・技能について指導する〉 ⑪おしょうがつ⑫おもいでのアルバム⑬すうじのうた⑭メリーさんのひつじ・自由曲を個人レッスンしながら全員の学びを促す。 学習成果：暗譜で演奏するレベルを向上させて音楽指導の質を上げる方法を修得する。 予習：⑪おしょうがつ⑫おもいでのアルバム⑬すうじのうた⑭メリーさんのひつじ　を暗譜で弾けるよう、丁寧に正確に練習する。 復習：第 3 回目弾き歌い課題曲⑪⑫⑬⑭を暗譜で弾けるよう、丁寧に正確に練習して人前実演に備える。 ：各自の自由曲を丁寧に正確に練習する。 ※予習・復習の練習時間は 1 週間に 400 分以上を目標とする。
13 回	〈第 3 回目弾き歌い課題曲人前実演〉 ⑪おしょうがつ⑫おもいでのアルバム⑬すうじのうた⑭メリーさんのひつじ　を 4 曲とも暗譜で弾き歌い演奏する。 学習成果：暗譜での弾き歌い人前実演の質を上げる。 予習：自由曲を丁寧に正確に練習する。 復習：第 3 回目弾き歌い課題曲の問題点と自由曲を丁寧に正確に練習してレベルアップする。 ※予習・復習の練習時間は 1 週間に 400 分以上を目標とする。
14 回	〈読譜、演奏するために必要なソルフェージュや器楽に関する知識・技能について指導する〉 ・自由曲を個人レッスンしながら全員の学びを促す。 学習成果：暗譜で演奏するレベルを向上させて人前実演に備える方法を修得する。 予習：自由曲を正確に暗譜で弾けるよう、人前実演に備えて、丁寧に練習する。 復習：弾き歌い課題曲の問題点と自由曲を丁寧に正確に練習してレベルアップする。 ※予習・復習の練習時間は 1 週間に 400 分以上を目標とする。
15 回	〈自由曲実技人前実演〉 ・自由課題曲を 1 曲暗譜で演奏する。 学習成果：演奏レベルを自主的・自律的・意欲的に上げて行く方法を修得する。 復習：これまでの学びを活用して練習で実演をより向上させて行く方法を確認する。

令　和　２　年　度　教　育　計　画							
科目名	幼児と音楽Ⅱ（A）	授業回数	15	単位数	1	担当教員	大羽敬子
質問受付の方法 ： Ｓ－Ｔシャトルカード、授業時間の前後							

教育目標と学生の学習成果	＜教育目標＞ わらべうた・童謡・唱歌には、言葉の響きやリズムを楽しみながら、季節の変化や人、ものとの関わりを感じることができる要素がある。それらは、幼児期に豊かな感性を育むうえで重要な役割を果たす。幼児の生活や遊びの中で、伸び伸びとした表現能力を引き出し、育てることのできる保育者を目指して、以下の 3 点を教育目標とする。 1. 基本的な発声の仕方を理解し、わらべうた・童謡・唱歌を数多く習得する。 2. わらべうた・童謡・唱歌の教材としての特徴を認識し、楽曲についての理解を深める。 3. わらべうた・童謡・唱歌を表情豊かに歌い、歌唱表現の楽しさを味わう。 ＜学生の学習成果＞ 専門的学習成果：教育目標に掲げる 3 項目を習得し、豊かな表現につなげることができる。 汎用的学習成果：歌唱指導や弾き歌いをするために、日々の自主練習が必要となる。 演奏技術の向上をめざして、努力する姿勢を身につけることができる。	
教育方法	授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） ・腹式呼吸による発声練習をする。 ・幼児の歌について、教材としての留意点を解説しながら数多くの楽曲を歌う。 ・教材研究ノートを作成し、楽曲についての理解を深める。
	予習・復習	・授業前に、楽曲について予習をすることが望ましい。 ・授業後に、授業で扱った楽曲について復習し、ピアノ伴奏、弾き歌いの練習をする。
	テキスト	・教育芸術社　　「改訂　幼児のための音楽教育」
学習評価の方法	専門的学習成果、汎用的学習成果について、以下の配分で判断し、学習評価を行う。 1.　授業への取り組みの記録（自己評価表の提出）　30% 2.　教材研究ノートの作成（ノート提出）　20% 3.　歌唱実技試験　50% なお、自己評価表の提出は、各回授業内に実施する。 歌唱実技試験は、第 15 回授業時に実施し、既習曲の中から指定した課題曲を歌うものとする。 教材研究ノートの作成は各回の復習課題であり、第 14 回授業内で提出する。	
注意事項	参考図書等： ・チャイルド本社「こどものうた　200」 ・明治図書「保育ソング 90」	

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	＜オリエンテーション＞ ・授業内容　授業の進め方、スケジュール、学習評価の方法について説明する。 ＜発声について＞ ・授業内容　腹式呼吸について説明し、実際に声を出して確かめる。 歌う時の姿勢について確認する。 幼児の声域について認識する。 ・学習成果　腹式呼吸による発声の仕方と歌う姿勢を意識できるようになる。 幼児の声域を知り、楽譜選びに活かせるようになる。 ・復習課題　腹式呼吸を再度確認する。
2 回	＜こどものうた　4月教材＞　テキスト　P30～41 ・授業内容　腹式呼吸と正しい姿勢を意識して発声練習をする。 4月教材の各楽曲を歌う際の留意点を解説する。 教材研究ノートを作成する。 4月教材の各楽曲を工夫しながら歌う。 ・学習成果　各楽曲の特徴を理解し、表現を工夫できるようになる。 ・復習課題　授業で扱った楽曲を繰り返し歌う。 授業で扱った楽曲のピアノ伴奏、弾き歌いの練習をする。 教材研究ノートをまとめる。
3 回	＜こどものうた　5月教材＞　テキスト　P42～49 ・授業内容　腹式呼吸と正しい姿勢を意識して発声練習をする。 5月教材の各楽曲を歌う際の留意点を解説する。 教材研究ノートを作成する。 5月教材の各楽曲を工夫しながら歌う。 ・学習成果　各楽曲の特徴を理解し、表現を工夫できるようになる。 ・復習課題　授業で扱った楽曲を繰り返し歌う。 授業で扱った楽曲のピアノ伴奏、弾き歌いの練習をする。 教材研究ノートをまとめる。
4 回	＜こどものうた　6月教材＞　テキスト　P50～57 ・授業内容　腹式呼吸と正しい姿勢を意識して発声練習をする。 6月教材の各楽曲を歌う際の留意点を解説する。 教材研究ノートを作成する。 6月教材の各楽曲を工夫しながら歌う。 ・学習成果　各楽曲の特徴を理解し、表現を工夫できるようになる。 ・復習課題　授業で扱った楽曲を繰り返し歌う。 授業で扱った楽曲のピアノ伴奏、弾き歌いの練習をする。 教材研究ノートをまとめる。
5 回	＜こどものうた　7月教材＞　テキスト　P58～65 ・授業内容　腹式呼吸と正しい姿勢を意識して発声練習をする。 7月教材の各楽曲を歌う際の留意点を解説する。 教材研究ノートを作成する。 7月教材の各楽曲を工夫しながら歌う。 ・学習成果　各楽曲の特徴を理解し、表現を工夫できるようになる。 ・復習課題　授業で扱った楽曲を繰り返し歌う。 授業で扱った楽曲のピアノ伴奏、弾き歌いの練習をする。 教材研究ノートをまとめる。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
6 回	＜こどものうた　8 月教材＞　テキスト　P66～73 ・授業内容　腹式呼吸と正しい姿勢を意識して発声練習をする。 8 月教材の各楽曲を歌う際の留意点を解説する。 教材研究ノートを作成する。 8 月教材の各楽曲を工夫しながら歌う。 ・学習成果　各楽曲の特徴を理解し、表現を工夫できるようになる。 ・復習課題　授業で扱った楽曲を繰り返し歌う。 授業で扱った楽曲のピアノ伴奏、弾き歌いの練習をする。 教材研究ノートをまとめる。
7 回	＜こどものうた　9 月教材＞　テキスト　P74～81 ・授業内容　腹式呼吸と正しい姿勢を意識して発声練習をする。 9 月教材の各楽曲を歌う際の留意点を解説する。 教材研究ノートを作成する。 9 月教材の各楽曲を工夫しながら歌う。 ・学習成果　各楽曲の特徴を理解し、表現を工夫できるようになる。 ・復習課題　授業で扱った楽曲を繰り返し歌う。 授業で扱った楽曲のピアノ伴奏、弾き歌いの練習をする。 教材研究ノートをまとめる。
8 回	＜こどものうた　10 月教材＞　テキスト　P82～89 ・授業内容　腹式呼吸と正しい姿勢を意識して発声練習をする。 10 月教材の各楽曲を歌う際の留意点を解説する。 教材研究ノートを作成する。 10 月教材の各楽曲を工夫しながら歌う。 ・学習成果　各楽曲の特徴を理解し、表現を工夫できるようになる。 ・復習課題　授業で扱った楽曲を繰り返し歌う。 授業で扱った楽曲のピアノ伴奏、弾き歌いの練習をする。 教材研究ノートをまとめる。
9 回	＜こどものうた　11 月教材＞　テキスト　P90～97 ・授業内容　腹式呼吸と正しい姿勢を意識して発声練習をする。 11 月教材の各楽曲を歌う際の留意点を解説する。 教材研究ノートを作成する。 11 月教材の各楽曲を工夫しながら歌う。 ・学習成果　各楽曲の特徴を理解し、表現を工夫できるようになる。 ・復習課題　授業で扱った楽曲を繰り返し歌う。 授業で扱った楽曲のピアノ伴奏、弾き歌いの練習をする。 教材研究ノートをまとめる。
10 回	＜こどものうた　12 月教材＞　テキスト　P98～105 ・授業内容　腹式呼吸と正しい姿勢を意識して発声練習をする。 12 月教材の各楽曲を歌う際の留意点を解説する。 教材研究ノートを作成する。 12 月教材の各楽曲を工夫しながら歌う。 ・学習成果　各楽曲の特徴を理解し、表現を工夫できるようになる。 ・復習課題　授業で扱った楽曲を繰り返し歌う。 授業で扱った楽曲のピアノ伴奏、弾き歌いの練習をする。 教材研究ノートをまとめる。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
11 回	＜こどものうた　1月教材＞　テキスト　P106～113 ・授業内容　腹式呼吸と正しい姿勢を意識して発声練習をする。 1月教材の各楽曲を歌う際の留意点を解説する。 教材研究ノートを作成する。 1月教材の各楽曲を工夫しながら歌う。 ・学習成果　各楽曲の特徴を理解し、表現を工夫できるようになる。 ・復習課題　授業で扱った楽曲を繰り返し歌う。 授業で扱った楽曲のピアノ伴奏、弾き歌いの練習をする。 教材研究ノートをまとめる。
12 回	＜こどものうた　2月教材＞　テキスト　P114～121 ・授業内容　腹式呼吸と正しい姿勢を意識して発声練習をする。 2月教材の各楽曲を歌う際の留意点を解説する。 教材研究ノートを作成する。 2月教材の各楽曲を工夫しながら歌う。 ・学習成果　各楽曲の特徴を理解し、表現を工夫できるようになる。 ・復習課題　授業で扱った楽曲を繰り返し歌う。 授業で扱った楽曲のピアノ伴奏、弾き歌いの練習をする。 教材研究ノートをまとめる。
13 回	＜こどものうた　3月教材＞　テキスト　P122～131 ・授業内容　腹式呼吸と正しい姿勢を意識して発声練習をする。 3月教材の各楽曲を歌う際の留意点を解説する。 教材研究ノートを作成する。 3月教材の各楽曲を工夫しながら歌う。 ・学習成果　各楽曲の特徴を理解し、表現を工夫できるようになる。 ・復習課題　授業で扱った楽曲を繰り返し歌う。 授業で扱った楽曲のピアノ伴奏、弾き歌いの練習をする。 教材研究ノートをまとめる。
14 回	＜わらべうた＞　テキスト　P132～139 ・授業内容　腹式呼吸と正しい姿勢を意識して発声練習をする。 わらべうたの各楽曲を歌う際の留意点を解説する。 教材研究ノートを作成する。 わらべうたの各楽曲を工夫しながら歌う。 ・学習成果　各楽曲の特徴を理解し、表現を工夫できるようになる。 ・復習課題　授業で扱った楽曲を繰り返し歌う。 ・課題提出　教材研究ノートを提出する。
15 回	＜歌唱実技試験＞ 既習曲の中から指定した課題曲を歌う。

令　和　２　年　度　教　育　計　画							
科目名	幼児と音楽Ⅱ（B）	授業回数	15	単位数	1	担当教員	大羽敬子
質問受付の方法　授業内Ｓ－Ｔシャトルカード　授業時間の前後							

教育目標と学生の学習成果

＜教育目標＞

幼児と音楽Ⅱ（A）で学んだ教材研究をより発展させて、保育・教育現場で幅広い表現指導ができるようになるために、実践的な知識と表現技能を身に付けることを目標とする。

1. 伝統的な歌遊びを習得して、その楽しさを味わい、歌遊びの継承につなげる。
2. 身近にある幼児の歌について、教材としての特徴を知り、指導に活かせるようにする。
3. 音楽遊びを発展させて、簡単な合唱、合奏などの指導実践につなげる。

＜学生の学習成果＞

専門的学習成果:教育目標に掲げた 3 項目を習得し、幅広い表現指導につなげることができる。

汎用的学習成果:集団での音楽作りを通して、協力して成し遂げることの大切さを身に付けることができる。

教育方法

授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） ・各楽曲について、歌遊びの種類、構成音、歌詞の内容を解説する。 ・歌詞、旋律を確認しながら正確に歌う。 ・テキストの遊び方を確認しながら、実際に遊びを体験する。 ・指導実践例を考えて教材研究ノートにまとめる。
予習・復習	・授業前に、楽曲についての読譜、遊び方の予習をすることが望ましい。 ・授業後に、授業で扱った楽曲について復習を求める。
テキスト	・テキストA　教育芸術社「改訂　幼児のための音楽教育」 ・テキストB　チャイルド本社「こどものうた 200」 ・テキストC　明治図書「表現がみるみる広がる！保育ソング 90」 ・配布プリント

学習評価の方法

専門的学習成果、汎用的学習成果について、以下の配分で判断し、学習評価を行う。

1. 授業への取り組み（自己評価表の提出）　20%
2. 教材研究ノートのまとめ（提出）　20%
3. 歌遊び模擬指導（第 7 回授業）　30%
4. アンサンブル発表（第 15 回授業）　30%

なお、自己評価表の提出は各回授業内で実施する。

教材研究ノートの作成は各回の復習課題であり、第 14 回授業内で提出する。

注意事項

注意事項

・受講者数により、授業で扱う楽曲を変更する場合がある。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	＜オリエンテーション＞ ・授業内容　授業の進め方、スケジュール、学習評価について説明する。 ＜幼児の生活・遊びと音楽＞　テキストA　　P6～29 ・授業内容　幼児の遊びと音楽の関わり、わらべうたの特徴、身近にある子どもの歌の歴史について解説する。 ・学習成果　幼児の発達段階に応じた音楽表現指導について認識することができる。 具体的な指導上の留意点を認識することができる。 ・復習課題　教材研究ノートを作成する。
2 回	＜あそびうた　(1) ＞　テキストA、 ①なべなべそこぬけ　②あんたがたどこさ　③いっぽんばし ④おちゃらかホイ　⑤お寺のおしょうさん ・授業内容　各あそびうたについて、種類と構成音、指導上の留意点を認識する。 歌詞の内容、旋律を確認しながら歌う。 テキストの遊び方解説を参考にしながら、実際に遊びを体験する。 各曲について気づいたことを教材研究ノートに書く。 ・学習成果　あそびうたを習得し、指導上の留意点を認識することができる。 ・復習課題　教材研究ノートを作成する。
3 回	＜あそびうた　(2) ＞　テキストA、テキストB ①げんこつやまのたぬきさん　②ずいずいずっころばし　③かごめかごめ ④はないちもんめ　⑤ちゃちゃつぼちゃつぼ ・授業内容　各あそびうたについて、種類と構成音、指導上の留意点を認識する。 歌詞の内容、旋律を確認しながら歌う。 テキストの遊び方解説を参考にしながら、実際に遊びを体験する。 各曲について気づいたことを教材研究ノートに書く。 ・学習成果　あそびうたを習得し、指導上の留意点を認識することができる。 ・復習課題　教材研究ノートを作成する。
4 回	＜あそびうた　(3) ＞　テキストB ①いとまき　②アルプス一万尺　③ぼうがいっぽんあったとさ ④とうさんゆびどこです　⑤これくらいのおべんとばこに ・授業内容　各あそびうたについて、種類と構成音、指導上の留意点を認識する。 歌詞の内容、旋律を確認しながら歌う。 テキストの遊び方解説を参考にしながら、実際に遊びを体験する。 各曲について気づいたことを教材研究ノートに書く。 ・学習成果　あそびうたを習得し、指導上の留意点を認識することができる。 ・復習課題　教材研究ノートを作成する。
5 回	＜あそびうた　(4) ＞　テキストB　配布プリント ①むすんでひらいて　②かえるのがっしょう　③てをたたきましょう ④おおきなくりのきのしたで　⑤ちゃつみ ・授業内容　各あそびうたについて、種類と構成音、指導上の留意点を認識する。 歌詞の内容、旋律を確認しながら歌う。 テキストの遊び方解説を参考にしながら、実際に遊びを体験する。 各曲について気づいたことを教材研究ノートに書く。 ・学習成果　あそびうたを習得し、指導上の留意点を認識することができる。 ・復習課題　教材研究ノートを作成する。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
6 回	＜あそびうた　(5) ＞　配布プリント ①あたまかたひざポン　②カレーライスのうた　③とんとんとんとんとんひげじいさん ④くいしんぼゴリラの歌　⑤グーチョキパーでなにつくろう　⑥パン屋さんにおかいもの ・授業内容　各あそびうたについて、種類と構成音、指導上の留意点を認識する。 歌詞の内容、旋律を確認しながら歌う。 テキストの遊び方解説を参考にしながら、実際に遊びを体験する。 各曲について気づいたことを教材研究ノートに書く。 ・学習成果　あそびうたを習得し、指導上の留意点を認識することができる。 ・復習課題　教材研究ノートを作成する。
7 回	＜あそびうた　模擬指導　発表＞　テキストA、テキストB、配布プリント ・授業内容　各自であそびうたを選択し、実際にクラス受講生を対象に模擬指導を行う。 発表後、ひとりひとりの模擬指導内容について、受講生全員で振り返る時間を設ける。指導実践の質を高めるために、留意点や課題について話し合う。 教材研究ノートに感想や気づきを記入し、完成させる。 ・学習成果　模擬指導を行うことで、保育実践への自信へとつながり、指導上の課題を見つけることができる。 ・復習課題　教材研究ノートを作成する。
8 回	＜こどものうた（1）＞　テキストA ①ことりのうた　②ぼくのミックスジュース　③いぬのおまわりさん ④にんげんっていいな　⑤にじ ・授業内容　上記のこどものうたを習得する。 各楽曲の教材としての特徴を解説し、指導上の留意点を認識する。 表情豊かに生き生きと歌い、歌唱表現の楽しさを味わう。 ・学習成果　身近にあるこどものうたが生き生きと歌えるようになり、レパートリーを広げることができる。 ・復習課題　習得した歌を繰り返し練習し、弾き歌いにも慣れる。 教材研究ノートを作成する。
9 回	＜こどものうた（2）＞　テキストA、テキストC ①さよならぼくたちのほいくえん（ようちえん）　②ゆりかごの歌 ③線路は続くよどこまでも　④おはながわらった　⑤ドキドキドン！1年生 ・授業内容　上記のこどものうたを習得する。 各楽曲の教材としての特徴を解説し、指導上の留意点を認識する。 表情豊かに生き生きと歌い、歌唱表現の楽しさを味わう。 ・学習成果　身近にあるこどものうたが生き生きと歌えるようになり、レパートリーを広げることができる。 ・復習課題　習得した歌を繰り返し練習し、弾き歌いにも慣れる。 教材研究ノートを作成する。
10 回	＜こどものうた（3）＞　配布プリント 「てぶくろ」 ・授業内容　配布プリントの教材について、台詞と歌と動きを確認し、練習する。 工夫点、改良点を見いだし、完成させる。 教材研究ノートを作成する。 ・学習成果　音楽劇の楽しさを体験することができ、発表会での音楽劇作りに活かせるようになる。 ・復習課題　習得した歌を繰り返し練習する。 教材研究ノートを作成する。
授　業　回　数　別　教　育　内　容	

11 回	＜リズムあそび　(1) ＞　テキストＡ ①ブンブンブン　②ぞうさん　③アイアイ　④さんぽ　⑤アンパンマンのマーチ　など ・授業内容　手作り楽器を作り、リズムあそびについて認識する。 歌にあわせてテキストの簡単なリズム奏を練習する。 各自でリズムを考え、グループでそのリズムを組み合わせ、いろいろな楽曲の即興的リズム演奏をする。 教材研究ノートを作成する。 ・学習成果　リズムを創作し、自由に表現する楽しさを味わい、幼児の生き生きとした表現指導に役立てることができる。 ・復習課題　教材研究ノートを作成する。
12 回	＜リズムあそび　(2) ＞　配布プリント、テキストＡ ①　さんぽ　②あんたがたどこさ　③はるがきた　④聖者の行進 ⑤トライアングルカノン ・授業内容　ボディパーカッションあそびについて認識する。 上記の曲の歌とリズム奏を練習する。 アンサンブルとして完成させる。 ・学習成果　歌に合わせて、ボディパーカッションで音楽表現できるようになり、幼児の生き生きとした表現指導に役立てることができる。 ・復習課題　教材研究ノートを作成する。
13 回	＜リズムあそび　(3) ＞　配布プリント、テキストＡ ①　ふるさと　②てのひらをたいように　③かごめかごめ　④みんなでグー・チョキ・パー ⑤ほかほかパン屋さん ・授業内容　ボイスアンサンブルあそびについて認識する。 上記の曲の各パートを練習する。 アンサンブルとして完成させる。 ・学習成果　言葉の響きとリズムを楽しみながら、ボイスアンサンブルで音楽表現できるようになり、幼児の生き生きとした表現指導に役立てることができる。 ・復習課題　教材研究ノートを作成する。
14 回	＜リズムあそび　(4) ＞　配布プリント、テキストＡ、テキストＢ ・授業内容　グループで、合奏、ボディパーカッションまたはボイスアンサンブルの創作活動を体験する。 協力して、選曲・担当決め・リズムパターン作りをし、発表の準備をする。 話し合いの様子、合わせ練習の様子、改良点の気づきなどを教材研究ノートに記録する。 ・学習成果　リズムを創作し、自由に表現する楽しさを味わうことができる。また、グループ活動をすることで、協力して成し遂げる姿勢を身に付けることができる。 ・課題提出　教材研究ノートの提出をする。 ・復習課題　アンサンブル発表に向けて練習する。
15 回	＜アンサンブル発表＞　テキストＡ ・授業内容　グループで創作した音楽を発表する。 グループで演奏を振り返り、音楽の質を高めるために工夫する点を考える。 教材研究ノートに演奏後の感想や気づきを記入し、完成させる。 ・学習成果　アンサンブル演奏の楽しさを味わうことができる。 演奏の発表体験ができ、アンサンブル演奏の技能向上につながる。

令　和　２　年　度　教　育　計　画							
科目名	幼児と体育（A）	授業回数	15	単位数	1	担当教員	吉田　升
質問受付の方法：							

教育目標と学生の学習成果		教育目標： 幼児期の心身の発育発達の特徴を踏まえた指導や援助方法を学習する。また、運動遊びの楽しさや安全について考慮できる指導力を身につける。 学生の学習成果 ・専門的学習成果 １．幼児期における健全な心身の発達のために、一人ひとりの特性と発達の課題に即した指導力が身につく。 ２．運動遊びの喜びや楽しさ、安全面に配慮した指導力が身につく。 汎用的学習成果 保育者として必要な論理的思考、自己表現、他者理解、問題解決の能力が身につく。 保育者としての態度及び自己管理能力が身につく。
教育方法	授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） ・教材用ビデオ、参考資料等を参考に、乳幼児の発達段階を把握する。 ・指導案を作成し、模擬指導の実践を行う。 ・身近にあるもの（ダンボールや新聞紙など）を使って遊びを考え実践を行う。 ・グループ編成で遊びの実践を行う。
	予習・復習	予習事項：「授業回数別教育内容」に記された予習を行う。 復習事項：授業内容をノートに記録する。 運動遊びの展開、援助方法、安全面についてまとめる。
	テキスト	必要に応じて参考資料を配布する。
学習評価の方法		・専門的学習成果 模擬指導の評価：50 点 鬼遊び 10 点、幼児体操 10 点、動物の模倣遊び 30 点 ※見学・欠席した場合、レポートで補う ・汎用的学習成果 授業内容記録 10 点 課題レポート 20 点 ・保育者として必要な論理的思考、自己表現、他者理解、問題解決の能力や態度 20 点 学習評価より、遅刻・早退は１回につき２点減点、体操着を忘れた場合は３点減点、見学の場合は授業の内容についてのレポート提出。また、受講態度に問題があった場合は、保育者として倫理観が十分でないとして評価から減点する。
注意事項		遅刻について：準備運動終了後入室した場合、怪我などの心配があるので、指導者の指示に従って授業に参加すること。 トイレ等で退室する場合、入室時に帰ってきたことを伝えること。 参考図書 ・石井美晴／菊池秀範 著「保育の中の運動遊び」萌文書林 ・竹井史／著「０～５歳児 どろんこ遊び 水遊び プール遊び 180」ひかりのくに株式会社

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	オリエンテーション ・授業の進め方、注意事項、学習評価の方法について説明する。 ・運動遊びの意義、子どもの体力の現状、運動遊びの指導や援助方法について学習する。 学習成果 授業の進め方、学習評価の方法について理解する。 幼児理解や発達段階に基づいた環境構成、援助について理解する。
2 ・ 3 回	身近にあるものを使った遊び ・物の特性を把握し、遊びを創造、工夫する遊びの実践をする。 ・新聞紙、ダンボール、タオル、ペットボトルなどを使って遊びの指導方法を習得する。 学習成果 遊びが広がることばがけ・環境構成・援助について理解する。 安全面に配慮する指導が身に付く。 予習事項：身近にあるものを使った遊びの指導案を作成する。
4 回	身近にあるものを使った遊び ・グループごとに遊びを考え、指導案の作成及び指導方法について話し合う。 ・遊びが広がることばがけ・環境構成・援助について指導方法を考察する。 学習成果 遊びが広がることばがけ・環境構成・援助ができる指導が身に付く。 安全面に配慮する指導が身に付く。 保育者として必要な論理的思考、自己表現、他者理解、問題解決の能力が身に付く。
5 回	身近にあるものを使って遊び ・模擬指導の評価 遊びの導入、物を使っての遊びの展開、援助について評価をする。 言葉使いや声の大きさ、遊びの伝達方法、子どもの誘導方法、援助、安全面に対する配慮について評価する。 ・実践の反省及び指導案の修正 模擬指導の反省及び鬼遊び・幼児体操の指導が活かされた指導であったか振り返り、次の指導に役立てる。 学習成果 幼児期における健全な心身の発達のために、一人ひとりの特性と発達の課題に即した指導力が身に付く。 保育者として必要な論理的思考、自己表現、他者理解、問題解決の能力が身に付く。
6 回	遊びのいろいろ ・発達段階に応じたジャンケン遊び、遊具・手具や新聞紙を使った遊びを実践する。 ・幼児理解や発達段階に基づいた環境構成、援助をしていくことで人と関わる力が育つことを理解する。 ・遊びの手順を理解する。 学習成果 遊びの指導方法を習得する。
7 ・ 8 回	幼児体操 ・表現やリズミカルな身体活動は、豊かな心身の発達を促すことを学習する。 ・グループごとに指導案の作成及び指導方法について話し合う ・喜びや楽しさを味わえる指導、安全面に配慮した指導を考察する。 ・既成の幼児体操を習得、指導へ繋げる方法を考察する。運動会、学習発表会などを想定し、構成や隊形、衣装などの小物について創作する。 学習成果 表現力や指導力が身に付く。 保育者として必要な論理的思考、自己表現、他者理解、問題解決の能力が身に付く。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
9 ・ 10 回	幼児体操 ・模擬指導の評価 幼児体操の導入、指導、構成や隊形、まとめについて。 言葉使いや声の大きさ、動きの伝達方法、子どもの誘導方法、援助、安全面に対して配慮、構成や隊形、衣装・小物などを評価する。 ・実践の反省及び指導案の修正について 模擬指導の反省及び鬼遊びでの反省が活かされた指導であったか振り返る。 学習成果 学習発表会、運動会などで発表できる指導力が身に付く。 保育者として必要な論理的思考、自己表現、他者理解、問題解決の能力が身につく。
11 回	水遊び ・健康と安全に関する諸注意、人の安全管理、水の安全管理、発達に応じた水遊びのいろいろを学習する。 ・参考ビデオ視聴：プール遊びの導入、用具を使って水遊び、泳ぐなどの指導法を理解する。 学習成果 遊びが広がることばがけ・環境構成・援助について理解する。 安全面に配慮する指導が身に付く。
12 回	鬼遊び ・発達段階に応じた鬼あそびを実践する。 ルールや役割、グループやチームを作って行う鬼遊びをについて学習する。 素早く逃げる、追いかける、身をかわすなどの全身運動が巧みになり運動機能や体力が高まることを理解する。遊びの手順を理解する。 ・指導案の作成及び指導方法について考察する。 喜びや楽しさを味わえる指導、安全面に配慮した指導、保育者の援助のあり方について考察し指導へ繋げる。 学習成果 鬼遊びの指導方法を身に付ける。 保育者として必要な論理的思考、自己表現、他者理解、問題解決の能力が身に付く。 予習事項：３～５歳児の鬼遊びを調べ、指導案の作成をする。
13 ・ 14 ・ 15 回	鬼遊び ・模擬指導の評価 遊びの導入、展開、まとめ、援助について。 言葉使いや声の大きさ、遊びの伝達方法、子どもの誘導方法、援助、安全面に対しての配慮について評価する。 ・実践の反省及び指導案の修正を行い、次の指導に役立てる。 学習成果 鬼遊びの指導力が身に付く。 保育者として必要な論理的思考、自己表現、他者理解、問題解決の能力が身につく。

令　和　2　年　度　教　育　計　画							
科目名	幼児と体育（B）	授業回数	15	単位数	1	担当教員	吉田　升

質問受付の方法：

教育目標と学生の学習成果

教育目標：
大型遊具や用具の特徴を把握し、子どもたちの興味や関心がもてる指導や援助について学習する。また、基礎技能の習得及び補助の必要性について学習する。

学生の学習成果
・専門的学習成果
　１．子ども一人ひとりの運動機能に合わせた指導、補助、援助ができる能力が身に付く。
　２．子どもの興味や関心がもてる指導力が身に付く。
　３．基礎技能が身につく。
・汎用的学習成果
　保育者としての必要な論理的思考、自己表現、他者理解、問題解決の能力が身につく。保育者としての態度及び自己管理の能力が身に付く。

教育方法

授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） ・教材用ビデオ、参考資料等を参考に発達段階や運動機能を把握する。 ・大型遊具や用具を使って運動遊びを行う。 ・体操系の技と補助の練習を行う。 ・大型遊具や用具を組み合わせた運動遊びを考え、指導案を作成し実践を行う。
予習・復習	予習事項：「授業回数別教育内容」に記された予習を行う。 復習事項：授業内容をノートに記録する。 運動遊びの展開、援助方法、安全面についてまとめる。
テキスト	必要に応じて参考資料を配布する。

学習評価の方法

専門的学習成果
　模擬指導の評価 サーキット遊び 20 点 （見学・欠席の場合、レポートで補う）
　実技指導及び技能評価 跳び箱・マット遊び 30 点（欠席の場合、補講での実技評価を行う）
汎用的学習成果
　授業内容記録 10 点
　課題レポート 20 点
　保育者としての必要な論理的思考、自己表現、他者理解、問題解決の能力や態度 20 点

学習評価より、遅刻・早退１回につき２点減点、体操着を忘れた場合は３点減点、見学の場合は授業内容についてのレポート提出。また、受講態度に問題があった場合は保育者として倫理観が十分でないとして評価から減点する。

注意事項

遅刻について：準備運動終了後入室した場合、怪我などの心配があるので、指導者の指示に従って授業に参加すること。
トイレ等で退室する場合、入室時に帰ってきたことを伝えること。
参考図書
・石井美晴／菊池秀範 著「保育の中の運動遊び」萌文書林
・梶谷信之／梶谷みどり著「幼児の器械運動あそび」大学教育出版

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	オリエンテーション 授業の進め方、安全面に対する留意点、学習評価の方法について説明する。 大型遊具や用具を使った運動遊びの指導方法について学習する。 これらの運動遊びは、「できる」「できない」がはっきりしているので、できるようになるための補助と援助、また、一人ひとりの特徴に合わせた補助と援助をしていく必要性を学習する。 学習成果 授業の進め方や学習評価の方法を理解する。 大型遊具や用具の特徴、安全面に対する留意点を理解する。 子ども一人ひとりの特徴に合わせた指導が必要であることを理解する。
2 ・ 3 ・ 4 回	跳び箱運動（開脚跳び） ・子どもの発達段階や能力に応じた遊びを実践する。 ・子どもの興味や関心、能力に応じて、いろいろと工夫して遊ぶことを学習する。 ・身体機能の発達や社会面などが育つことを学習する。 ・補助の仕方を実践、習得する。 ・「できた」という達成感や喜び・楽しさを理解し、補助技能を習得する。 ・環境構成、安全面の配慮ついて学習する。 学習成果 子どもの年齢や発達に応じた遊びの指導力が身に付く。 子ども一人ひとりに合わせた補助技能が身に付く。
5 回	サーキット遊び ・発達段階に応じた遊具・用具・手具を組み合わせた運動遊びを実践する。 ・遊具・用具などの組み合わせた遊びは、たくさんの動きを可能にし、身体機能や運動能力を育て、調整力が身に付くことを学習する。 ・環境構成、安全面の配慮ついて学習する。遊びの手順を理解する。 学習成果 発達段階に応じた指導力が身に付く。
6 回	サーキット遊び ・指導案を作成し指導方法を話し合う。 遊びの題材として、昔話、アニメ、日常生活に関心がある事柄（例：カレーを作ろう）を題材として取り上げ、遊具・用具・手具を組み合わせた運動遊びを考察する。また、興味・関心が持てる指導として、目・耳からの情報が大きいので、お話の世界観を演出するための創作をする。 ・安全面の配慮した指導、保育者の援助のあり方について考察する。 学習成果 発達段階に応じた遊具・用具・手具を組み合わせた運動遊びの指導方法が身に付く。 保育者としての必要な論理的思考、自己表現、他者理解、問題解決の能力が身に付く。 予習事項：５歳児のサーキット遊びの指導案を作成する。
7 回	サーキット遊び ・模擬指導の評価 遊びの導入、展開、援助について 言葉使いや声の大きさ、遊びの伝達方法、子どもの誘導方法、援助、安全面に対しての配慮について評価する。 ・実践の反省及び指導案の修正を行い、次の指導に役立てる。 学習成果 発達段階に応じた遊具・用具・手具を組み合わせた運動遊びの指導が身に付く。 保育者としての必要な論理的思考、自己表現、他者理解、問題解決の能力が身に付く。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
8 回	ボール遊び ・乳幼児の発達段階や能力に応じた遊びを実践する。 遊具・用具と組み合わせた遊び、ドッジボールなどのルールのある集団遊び、伝承遊びを経験することにより身体機能や運動能力を育て、調整力を身に付けることができることを学習する。 学習成果 年齢や発達段階に応じた指導力が身に付く。
9 回	フラフープ遊び ・物を操作して遊ぶ、手で操作して遊ぶ、他の遊具と組み合わせた遊びを実践する ・フープの特徴を把握し、年齢に応じた遊びや操作の仕方で遊びの工夫ができることを学習する。 ・身体機能や運動能力を育て、調整力を身に付けることができることを学習する。 学習成果 遊びの工夫ができ、年齢や発達段階に応じた指導力が身に付く。
10 回	鉄棒遊び ・参考ビデオ視聴（一斉指導の様子） ・幼児の運動機能及び能力に応じた遊びを理解し、補助や援助について学習する。 ・環境構成、安全に対する配慮ついて学習する。 学習成果 一斉指導の指導力を身に付ける。
11 回	縄遊び ・短なわ、長なわでいろいろな遊び方、跳び方の実践をする。 ・幼児の発達段階や能力に応じた遊び、伝承遊びなどを経験することにより、リズム感、身体諸機能が発達することを学習する。また、ゲームや長なわ跳びでは、社会性や協調性が養われることを学習する。 ・安全面に配慮した指導について学習する。 学習成果 遊びの工夫ができ、年齢や発達段階に応じた指導力が身に付く。
12 回	マット遊び ・幼児の発達段階や能力に応じた遊びを実践する。 模倣遊びや多種多様の動きを身に付けることにより、全身的な発育が促され、瞬発力・柔軟性・巧緻性が養われることを学習する。 ・前転・後転・側転の基礎技能を習得する。 ・補助技能を習得する。 ・「できた」という達成感や喜び・楽しさを理解する。 ・環境構成、安全面に配慮した指導について学習する。 学習成果 年齢や発達段階に応じた指導力が身に付く。 基礎技能、補助・援助ができる能力が身に付く。
15 回	マット遊び ・実技評価 ・前転・後転・側転の基礎技能を評価する。 ・補助技能、援助方法を評価する。 学習成果 環境構成、援助、安全面に配慮した指導力が身に付く。 基礎技能、補助・援助ができる能力が身に付く。

令　和　2　年　度　教　育　計　画							
科目名	幼児と図画工作	授業回数	15	単位数	1	担当教員	関野 智子
質問受付：E 棟 105 研究室　　e-mail： sekinotomoko@gmail.com							

教育目標と学生の学習成果		教育目標：本授業は、実務経験のある教員等による授業科目である 感じること・発見することの楽しさを実感し表現する力、保育者に必要な図画工作の基本的な表現技術の習得を目指す。 １．五感を通して感じること・発見することの楽しさを実感し、表現できる。 ２．他者の表現から、その良さや工夫点を発見することができる。 ３．図画工作の基本的な表現技術を習得し、応用できる。 学生の学習成果： 専門的学習成果として、教育目標に掲げる３項目を習得する。 また、汎用的学習成果として、①保育者としての態度・信念の形成に自助努力し②幼児を指導する適正な価値・判断の基準を知り、明確に意見表明ができる力を育成する。
教育方法	授業の進め方	（講義・演習・実験・実習・実技） ① 課題の説明と、留意事項等を教員が説明する。 ② 課題の演習を通じて、体験的に学ぶ。 ③ 演習の過程では、教員が個別のアドバイスを適宜行う。 ④ 準備から片付けまでを含めて授業内容とする。 ⑤ 予習、復習等について教員が説明する。
	予習・復習	・次回の制作内容について参考図書などで調べておく。 ・時間内で課題か完成しなかった場合は次回までに課題を完成させる。
	テキスト	特になし。
学習評価の方法		以下の５つの学習成果についてその度合いを作品・記録等を含むスケッチブックによって満点を 100 点とし、おおむね①～③：④～⑤＝5：1 の比重で評価する。 ①五感を通して感じること・発見することの楽しさを実感し、表現できる。 ②他者の表現から、その良さや工夫点を発見することができる。 ③図画工作の基本的な法則を理解し、習得して応用できる。 ④保育者としての態度・信念の形成に自助努力している。 ⑤視覚情報に対して保育者として価値・判断基準をもち意見表明ができる。 専門的学習成果は上記①～③、汎用的学習成果は④、⑤に該当する。
注意事項		特になし。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1 回	〈オリエンテーション〉 〈感じよう・発見しよう①　美しいものコレクション〉 〇本時の目標 ・授業の進め方、評価、受講の注意について理解する。 〇本時の活動 ・授業の進め方、評価、受講の注意についての説明。 ・学内を探索し、美しいと思った場所をスマートフォンで撮影。画像編集はトリミングのみとし、グループ別にパワーポイントでまとめる。 〇本時の学習成果　：感じること・発見すること・伝え合うことを基本とする本授業の進め方、評価、受講の注意について理解する。 〇予習と復習：パワーポイントでのまとめができていない場合は仕上げておく。
2 回	〈感じよう・発見しよう②　構成美の要素とは〉 〇本時の目標 各グループの「美しいもの」のプレゼンテーション画像について、似た傾向のものを分類する等の分析を通し、構成美の要素について発見していく。 〇本時の活動 ・各グループが前回の活動に関するプレゼンテーションを行う。 ・全員が撮影した画像を打ち出したカードをグループごとに配り、共通項による分売りを行う。各グループの分析結果をクラスで共有する。 ・色の対比、リズム、大小、量感など、構成美の要素についての解説を聞く。 〇本時の学習成果：構成美の要素について発見、理解する。 〇予習と復習：次回は「風」をテーマにした表現活動を行うので、1週間「風」を意識して過ごしてみること。使用したい材料があれば準備しておくこと。
3 回	〈感じよう・発見しよう③　風〉 〇本時の目標 ・グループ別に「風」をテーマにした表現を試みる。 〇本時の活動 ・「風」から受けるイメージをウェビングやドローイングで広げていく。ドローイングは鉛筆、水彩絵の具、パステル、ペン等を使用、それぞれの特徴を確認しておく。 ・工作室にある材料を活用し、どのような表現が可能かクラス全体で考えたのち、３～4グループに分かれ、それぞれ表現活動をする。 ・各グループの活動を相互鑑賞する。活動の中で風を感じたポイントがあれば記録のためにスマートホンで各自記録写真を撮影する。今回撮影した写真の中で1番良いものにコメントを添え授業者までメールを送る（画像は次回印刷して全員に配布）。 ・前回の撮影による表現活動と今回の材料を組み合わせての表現活動を比較し、それぞれの特徴や長所・短所をまとめる。 〇本時の学習成果：①描画材の特徴を活かしながらアイデアスケッチを重ねたり、構想を練ることができる。②自分たちのイメージを表現するために材料を選ぶことができる。 〇予習と復習：次回は「光」を伝え合うので「光」について意識して1週間を過ごし、スケッチブックにメモや切り抜きなどを貼っておく。表現で使用してみたい材料があれば次回持えの参する。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
4 回	〈感じよう・発見しよう②　光〉 〇本時の目標 ・グループ別に「光」をテーマにした表現を試みる。 〇本時の活動：前回と同じ流れで進める。 〇本時の学習成果：前回と同じ。 〇予習と復習：第３回までの授業内容について振り返る。次回は水彩絵の具を使った表現を試みるので、汚れても良い服を準備しておく。
5 回	〈色彩の仕組み～色をつくってみよう〉 〇本時の目標 色の三原色、三要素、色相環について実際に混色を行いながら理解することができる。 〇本時の活動 ・色の仕組みとして三原色（赤・青・黄）、三要素（明度・彩度・色相）、色相環について教員が説明する。 ・水彩絵の具を使い、混色をしながら簡単な色相環を描く。 ・補色の効果、同系色の効果について制作を通して確認する。 ・グループごとにトランプ大のカードに混色して作った色を塗っていく。100 枚以上作成。 〇本時の学習成果：色の三原色、三要素、色相環について実際に混色を行いながら理解することができる。 〇予習と復習：第６回はグループごとに作成した色彩カードを使った色遊びを行うので、完成していない場合は作成しておく。
6 回	〈五感を通して〉 〇本時の目標 触る、嗅ぐ、味わうなど、五感を通してしっかり観察することの大切さを実感する。基本的な水彩絵の具を用いた活動の流れを確認する。 〇本時の活動 ・季節の果物をイメージで描く。 ・実物を触る、嗅ぐ、味わうなど五感を通してしっかり観察し、水彩絵の具で描画する。 ・イメージで描いた作品と観察して描いた作品を比較し、それぞれの特徴について考察する。 〇本時の学習成果：対象をしっかり観察する方法、水彩絵の具を用いた活動の流れを知る。 〇予習と復習：次回はハサミと糊を使用する。自分のものがあれば持参すること。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
7回	〈色で伝えよう・形で伝えよう〉 ○本時の目標 自作した色彩カードを用い、イメージを伝えることができる。また自分の誕生月のイメージを色彩カードを自由に加工・コラージュして伝えることができる。 ○本時の活動 ・グループごとに「重い」「軽い」「甘い」「辛い」等、言葉からイメージする色彩カードを選ぶ遊びを行う。 ・自分の誕生月のイメージを色彩カードを自由に加工。コラージュして伝えることができる。 ・相互鑑賞をする。 ○本時の学習成果：色と形の組み合わせでイメージを伝えることができる。 ○予習と復習：次回以降、紐や古着を活用するのでもしも家に不要な紐・毛糸・古着があれば持参する。
8回	〈紐を使って〉 ○本時の目標 紐状のものを活用した表現ができる。 ○本時の活動 ・紐状のものによってできる表現について、実際に素材に触れながら、試行錯誤する。 ・グループごとに可能な表現について発表。 ・紐を使った自由制作を行う。 ・相互鑑賞する。 ○本時の学習成果：素材からイメージを広げ表現活動をすることができる。 ○予習と宿題：作品が完成していないばあいは仕上げておく。
9回	〈キラキラ素材を活用して～ミラーシート・アルミ箔・セロファン〉 ○本時の目標 ミラーシートを活用した絵本やアルミ箔、セロファンを活用した作品を紹介し、反射する素材の魅力とそれを活用した造形遊びや玩具作りをする。 ○本時の活動 ・反射する素材を用いた造形遊びや玩具について紹介する。 ・様々な反射する素材を用いた作品を試作する。 ○本時の学習成果 保育の現場で取り入れやすい反射する素材に関する知識と扱い方を演習を通して身につける。それらの素材を活かした造形活動を考えることができる。 ○予習と復習 課題が完成していなければ次回までに仕上げておく。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
10 回	〈版の表現①〉 ○本時の目標 紙版画、ステンシル、スタンプ等、様々な版表現を紹介、本時は夏をテーマにした紙版画と、次回行うステンシルの型紙を作成する。 ○本時の活動 ・教員が版画遊びについて説明をする。 ・夏をテーマにした紙版画の版を制作する。(刷るのは次回) ・白画用紙を魚のシルエットに切り抜く。切り抜いた形は台紙に貼り、スタンプ版画で装飾する。もう一方はステンシルの型にし、ステンシル技法で魚に仕上げる。 ○本時の学習成果：版表現の特徴や多様性を理解し、幼児と活動をする際のポイントを確認する。スタンプ版画とステンシルの作品を仕上げることができる。 ○予習と復習：作品を完成させておく。
11 回	〈版の表現②〉 ○本時の目標 紙版画の演習を通し、その特徴と指導上の留意点を確認することができる。 ○本時の活動 ・紙版画を刷る。準備から片づけ・残ったインクの処理までの流れを班で協力して行う。 ○本時の学習成果：紙版画の特徴を知ることができる。版表現での準備から片づけまでのポイントを演習を通して学ぶ。 ○予習と復習：次回に向け飛び出すカードや仕掛け絵本を調べておく。
12 回	〈平面から立体へ①　折る・切り込みを入れる・巻く〉 ○本時の目標 折る･切り込みを入れる･巻くなどの加工をすることで平面が立体になることを理解する。 ○本時の活動 ・白画用紙を配布、糊やセロテープを使わず、ハサミ・カッターナイフのみを用いて立体作品をつくり、相互鑑賞をする。 ○本時の学習成果：平面から立体をつくる方法を知ることができる。 ○予習と復習：次回は新聞紙を使用するので、持参できる場合は準備しておく。
13 回	〈平面から立体へ②　新聞紙スティックによる造形活動〉 ○本時の目標 新聞紙を角から細く巻いてつくった棒「新聞紙スティック」を用いた立体づくりを通し、棒状のものが自立するための最低条件、立体制作のポイントを学ぶ。 ○本時の活動 ・新聞紙で立体をつくる方法をグループごとに考える。 ・新聞紙スティックの作り方を知る。 ・新聞紙スティックを活用した立体制作を行い、相互鑑賞する。 ○本時の学習成果：新聞紙スティックを活用して立体表現ができる。平面素材で立体をつくる方法を知ることができる。 ○予習と復習：新聞紙を用いた造形遊びについて図書室等で調べておく。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
14 回	〈緩衝材で表現しよう〉 〇本時の目標 初めて触れる緩衝材「エコプラス」の質感や特徴からイメージを広げ表現することができる。 〇本時の活動 ・高い塔を作る活動を通し、緩衝材「エコプラス」の特徴を知る。 ・グループごとにエコプラスで自由に制作を行い、相互鑑賞をする。 〇本時の学習成果：素材からイメージを広げて表現することができる。立体制作のポイントを押さえることができる。 〇予習と復習：授業内容の復習をする。
15 回	〈まとめ：子どもと共に感じ、発見できる保育者へ〉 〇本時の目標 まとめプリント作成を通し、本演習の内容について振り返ることができる。 〇本時の活動 ・演習内容を振り返るまとめプリントを作成する。 ・スケッチブックの整理をする。 ・本授業のまとめと、後期から始まる「幼児と表現Ⅱ」への導入としてDVD『こどもこそ未来（書籍：子どもとアート付録)』を視聴する。 〇本時の学習成果：子どもと共に感じ発見できる保育者像をイメージすることができる。本演習の内容を振り返ることができる。 〇予習と復習：提出物が揃っていない場合は仕上げて期日までに提出する。

令　和　2　年　度　教　育　計　画							
科目名	児童文化	授業回数	15	単位数	2	担当教員	尾崎　聡
質問受付の方法：e-mail は osaki@owc.ac.jp、オフィスアワーは B308　土曜　0900～							

教育目標と学生の学習成果		【教育目標】 児童文化に関する基本的問題や用語や実例について知る。抽象概念ではなく具体的イメージで捉えていくことが大事なので、児童文化の世界がよく表現されている紙芝居・絵本・昔話・映像など様々なメディアも利用して理解する。具体的には以下の通りである。 ①児童文化とは何か、その起源と展開について知る。 ②児童文化の内容の概略について知る。 ③日常生活の中で出会う児童文化の実例、自分たちが子どもの頃に体験した児童文化の例を思い出しながら語り合い、考察、発表する。 ④保育現場で展開されている児童文化の事例について学ぶ。 ⑤毎回のテーマや年中行事に関係した折り紙で幼児でもできるもの、保育者が作って壁面に張れるものを作ってみる。 【学生の学習成果】 「専門的学習成果」(知識・技能) ①児童文化の起源と歴史、児童文化の現在的展開、児童文化の内容の概略、保育の場・日常生活における児童文化の実例についての知識が身につく。 ②児童文化を教育・保育の場で実践、応用する際の視点が形成される。 「汎用的学習成果」(価値観、信念、態度)) “子ども文化”と異なり、保育・教育的意味合いが強い“児童文化”に関する学習を通じて教育者・保育者としての価値観が形成され、信念・態度として身につく。
教育方法	授業の進め方	(講義・演習・実験・実習・実技) 抽象概念ではなく具体的イメージで捉えていくことが大事なので、児童文化の世界がよく表現されている紙芝居・絵本・昔話・映像など様々なメディアも利用して理解する。メディアは見放しではほとんど意味がないが、逆に予習・復習を加えると奥深い教養が形成されるのでこれを予習・復習の題材として利用する。 毎回の授業で自分の体験を順番に話してみるなど、アクティブな作業に取り組む。
	予習・復習	１回の授業に対して予習・復習が義務付けられる。予習・復習・課題の成果を残す場としては授業内容・参考文献・参考映像などに関する感想をシャトルカードに記述することとする。
	テキスト	特にテキストは指定しないが、毎回参考資料をプリントで配布する。
学習評価の方法		【評価方法】 期末筆記試験によって児童文化に関する認識形成を確認する。提出物によって平生の努力を確認する。みんなの前で話したり、発表したりすることを演習として重視し、評価する。 【学習成果の達成度の評価比率】 「専門的学習成果」 ①児童文化の起源、展開、内容の概略、保育の場・日常生活や文化における実例についての認識が身についているか (50%) ②上記の認識を保育の場で面白く実践、応用することができるか (50%) 「汎用的学習成果」(「態度・信念」) ③保育・教育的意味合いが強い児童文化に関する学習を通じて保育者の態度・信念が身についているか 【点数配分】 期末筆記試験 (60%)、　ノート提出 (20%)、　演習参加 (20%) ※毎回の演習はノートに書く、提出時に確認する。提出物の一元化をはかる 上記以外に授業態度を汎用的学習成果として評価する。
注意事項		参考図書は古今東西の名著から毎回指示する

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
1回	オリエンテーションおよび導入 ■オリエンテーション（授業の進め方、スケジュール、評価方法） ■授業内容：、児童と児童文化について知る。児童期の記憶をもとに意見交換する。一部の者実演。（児童文化の定義、児童文化研究の最前線「子どものしぐさの世界」（“股覗き”“キツネの窓”“カギしめた”など世代を超えて伝承される遊びを考察する） ■予習復習と課題：参考映像を見ての学びをノートに書き出す。次回授業でシャトルカードに書く。
2回	子どもの心と生活世界① ■授業内容： 里山（身近な遊び場、自然と歴史が豊富な理想的な遊び場で生活経験の源）について知る。児童期の記憶をたどりながら里山の絵図を描く。意見交換と一部発表。 ■予習復習と課題:次回授業で予想されることや参考映像を見ての学びをノートに書き出す。次回授業でシャトルカードに書く。
3回	子どもの心と生活世界② ■授業内容：林の恵み（ドングリと葉っぱ)、森の名残＝鎮守の森（塚の森)、園行事（遠足と散歩）について知る。校庭でドングリを拾って持って帰り観察する。意見交換と一部の者発表。 ■予習復習と課題:次回授業で予想されることや参考映像を見ての学びをノートに書き出す。次回授業でシャトルカードに書く。
4回	子どもの心と生活世界③ ■授業内容：昔話の世界観(「境界論」坂、穴＝おむすびころりん、橋、辻＝笠地蔵、浜＝天の羽衣）について知る。児童期の記憶をもとに境界図を描いてみる。意見交換と一部の者発表。 ■予習復習と課題:次回授業で予想されることや参考映像を見ての学びをノートに書き出す。次回授業でシャトルカードに書く。
5回	子どもの心と生活世界④ ■授業内容：現代民話の世界観(「同心円論」中心＝四角い教室、周縁＝特別教室、旧校舎、トイレ、ゴミ捨て場…）について知る。児童期の記憶をもとに同心円図を描いてみる。意見交換と一部の者発表。 ■予習復習と課題:次回授業で予想されることや参考映像を見ての学びをノートに書き出す。次回授業でシャトルカードに書く。
6回	子どもの心と生活世界⑤ ■授業内容：お雛様と年中行事・お雛様の模型をノートに作って理解を深める。児童期の記憶をもとに意見交換する。意見交換と一部の者発表。 ■予習復習と課題:次回授業で予想されることや参考映像を見ての学びをノートに書き出す。次回授業でシャトルカードに書く。
7回	子どもの心と生活世界⑥ ■授業内容：お雛様と年中行事・模擬保育室でお雛様の実物を手に取りながら観察して理解を深める。児童期の記憶をもとに意見交換する。意見交換と一部の者発表。 ■予習復習と課題:次回授業で予想されることや参考映像を見ての学びをノートに書き出す。次回授業でシャトルカードに書く。

授　業　回　数　別　教　育　内　容	
8回	児童文化の心　～児童文化財とマンガ～ ■授業内容：児童文化の内容（児童自身が作り出す文化と大人が子供のために作り出す文化）について知る。児童期の記憶をもとにマンガを描いてみる。意見交換と一部の者発表。 ■予習復習と課題：次回授業で予想されることや参考映像を見ての学びをノートに書き出す。次回授業でシャトルカードに書く。
9回	生活世界の環境変化と遊びの変化 ■授業内容：伝統的な遊び場（道、庭、空き地、原っぱ、神社、寺、校庭、小川…）について知る。児童期の記憶をもとに遊び場の絵図を描いてみる。意見交換と一部の者発表。 ■予習復習と課題：次回授業で予想されることや参考映像を見ての学びをノートに書き出す。次回授業でシャトルカードに書く。
10回	児童文化と食育 ■授業内容：給食の文化（パン、脱脂粉乳と牛乳、鯨肉、冷凍食品と食の画一化、米飯給食、先割れスプーンとお箸問題、ランチプレートと犬食い問題）について知る。児童期の記憶をもとに給食の図を描いてみる。意見交換と一部の者発表。 ■予習復習と課題：次回授業で予想されることや参考映像を見ての学びをノートに書き出す。次回授業でシャトルカードに書く。
11回	児童文学と語り・話し①　～神話・伝説・昔話の分析と解釈（前編）～ ■授業内容：文学を子どもに伝える方法（語りと話し、ストーリー・テリングなどの問題）について知る。児童期の記憶をもとに昔話を書き出してみる。意見交換と一部の者発表。 ■予習復習と課題：次回授業で予想されることや参考映像を見ての学びをノートに書き出す。次回授業でシャトルカードに書く。
12回	児童文学と語り・話し②　～神話・伝説・昔話の分析と解釈（中編）～ ■授業内容：文学を子どもに伝える方法（語りと話し、ストーリー・テリングなどの問題）について知る。児童期の記憶をもとに神話を書き出してみる。意見交換と一部の者発表。 ■予習復習と課題：次回授業で予想されることや参考映像を見ての学びをノートに書き出す。次回授業でシャトルカードに書く。
13回	児童文学と語り・話し③　～神話・伝説・昔話の分析と解釈（後編）～ ■授業内容：文学を子どもに伝える方法（語りと話し、ストーリー・テリングなどの問題）について知る。児童期の記憶をもとに伝説を書き出してみる。意見交換と一部の者発表。 ■予習復習と課題：次回授業で予想されることや参考映像を見ての学びをノートに下書きする。次回授業でシャトルカードに書く。
14回	児童文学とファンタジー①　～児童文学と深層心理学の問題（前編）～ ■授業内容：ファンタジー（空想と心の中の真実。象徴がいっぱい＝王家、姫・王子、騎士、剣、ドラゴンなど）について知る。児童期の記憶をもとに、ファンタジーを書き出してみる。意見交換と一部の者発表。 ■予習復習と課題：次回授業で予想されることや参考映像を見ての学びをノートに書き出す。次回授業でシャトルカードに書く。
15回	児童文学とファンタジー②　児童文学と深層心理学の問題（後編）～ ■授業内容：ファンタジーの見方（主人公の成長と象徴の解釈＝抜けない剣が抜けるようになること）について知る。児童期の記憶をもとに意見交換する。一部の者発表。 ■参考文献：グウィン原作、ジブリ製作、アニメ『ゲド戦記』（心理学の世界では古くから注目された作品。人間の成長過程における“影”との戦いに注目。） ■復習：授業全体を通じての疑問点をまとめ、試験までに質問しておく。

科目ナンバリングについて（岡山短期大学）

科目ナンバリングとは、授業科目に適切な番号を付し分類することで、学習の段階や順序等を表し、教育課程の体系性を明示するための仕組みです。

（例）教育心理学・・・CC23B1a201-AAA

CC	23	B	1a	201	－	A	A	A
①	②	③	④	⑤		⑥	⑦	⑧

①開講学部・学科

幼児教育学科	ＣＣ

②学問領域(科目区分)

基礎教育科目	Society5.0保育者養成	11
	公務員養成	12
	共通	13
	その他	10
専門教育科目	教職	21
	保育士	22
	教職・保育士	23
	その他	20

③授業形態

講義	A
演習	B
実験・実習・実技	C
その他	Z

④学習水準(配当年次)　学年+記号

前期	a
後期	b
通年（前期始まり）	c
通年（後期始まり）	d
その他	z

⑤識別番号

基礎教育科目	101～
専門教育科目	201～

⑥卒業必修／選択
⑦教職必修／選択
⑧保育士必修／選択

必修	A
選択必修	B
選択	C
本学規程による必修扱い	D
本学規程による選択必修扱い	E
実習規則による必修扱い	a
実習規則による選択必修扱い	b
該当なし	0

●基礎教育科目ナンバリング

	授業科目	必修	選択	計	科目ナンバー
基礎教育科目	ソサエティ5.0理解	10	2	2	CC11A1a101 - B00
	倉敷学		2	2	CC13A1a102 - B00
	グローバル研修		1	1	CC13B1b103 - B00
	日本国憲法		2	2	CC13A1b104 - BA0
	情報処理基礎		2	2	CC13A1a105 - BB0
	情報処理演習		1	1	CC13B1b106 - BB0
	ＩＣＴリテラシー（A）		1	1	CC13B2a107 - BB0
	ＩＣＴリテラシー（B）		1	1	CC13B2b108 - BB0
	キャリアガイダンス		2	2	CC13B1b109 - B00
	英語（A）		1	1	CC13B1a110 - BA0
	英語（B）		1	1	CC13B1b111 - BA0
	体育実技		1	1	CC13C1a112 - BAA
	体育理論		1	1	CC13A2b113 - BAA
	基礎音楽		1	1	CC13B1a114 - B00
	公務員講座（A）		1	1	CC12B1a115 - B00
	公務員講座（B）		1	1	CC12B1b116 - B00
	クラブ活動（A）		1	1	CC13B1a117 - B00
	クラブ活動（B）		1	1	CC13B1b118 - B00
	保育者基礎演習		2	2	CC13B1a119 - B00
		10	25	25	

●幼児教育学科専門教育科目ナンバリング

	授業科目	必修	選択	計	科目ナンバー
幼児教育学科専門教育科目	教育心理学	2		2	CC23B1a201 - AAA
	特別支援の方法と理解		1	1	CC21B1a202 - CA0
	発達心理学Ⅰ		2	2	CC22A1b203 - C0A
	臨床心理学（Ａ）		1	1	CC22B1a204 - C0E
	社会心理学		2	2	CC20A2b205 - C00
	教師論		2	2	CC21A1b206 - CA0
	教育原理	2		2	CC23A1a207 - AAA
	教育制度論		2	2	CC21A2a208 - CA0
	幼児理解及び保育相談		2	2	CC23A1a209 - CAA
	事前・事後指導		1	1	CC21C1d210 - CA0
	幼稚園教育実習		4	4	CC21C2a211 - CA0
	教職実践演習（幼稚園）		2	2	CC21B2b212 - CA0
	社会福祉		2	2	CC22A1a213 - C0A
	子ども家庭支援論		2	2	CC22A1b214 - C0A
	子育て支援		1	1	CC22B2a215 - C0A
	子ども家庭福祉		2	2	CC22A2b216 - C0A
	保育者論	2		2	CC22A1a217 - AbA
	保育原理Ⅰ	2		2	CC22A1b218 - AbA
	保育原理Ⅱ		2	2	CC22A2a219 - C0E
	乳児保育Ⅰ		2	2	CC22A2a220 - C0A
	乳児保育Ⅱ		1	1	CC22B2b221 - C0A
	社会的養護Ⅰ		2	2	CC22A2a222 - C0A
	障害児保育		2	2	CC22B2a223 - C0A
	社会的養護Ⅱ		1	1	CC22B2b224 - C0A
	保育実践演習		2	2	CC22B2b225 - C0A
	保育実習Ⅰ		4	4	CC22C2a226 - C0A
	保育実習指導Ⅰ		2	2	CC22B1d227 - C0A
	保育実習Ⅱ		2	2	CC22C2a228 - C0D
	保育実習指導Ⅱ		1	1	CC22B2a229 - C0D
	子どもの保健		2	2	CC22A1a230 - C0A
	子どもの健康と安全		1	1	CC22B1b231 - C0A
	子どもの食と栄養		2	2	CC22B2a232 - C0A
	保育内容総論	1		1	CC22B2b233 - A0A
	教育課程論及び教育方法・技術論	2		2	CC23A1b234 - AAA
	幼児と健康	1		1	CC23B1b235 - AAE
	「幼児と健康」の指導法	2		2	CC23B2a236 - AAA
	幼児と人間関係	1		1	CC23B2a237 - AAD
	「幼児と人間関係」の指導法	2		2	CC23B2b238 - AAA
	幼児と環境	1		1	CC23B2a239 - AAD
	「幼児と環境」の指導法	2		2	CC23B2b240 - AAD
	幼児と言葉	1		1	CC23B1a241 - AAE
	「幼児と言葉」の指導法	2		2	CC23B1b242 - AAD
	幼児と表現Ⅰ	1		1	CC23B1a243 - AAA
	「幼児と表現Ⅰ」の指導法	1		1	CC23B1b244 - AAD
	幼児と表現Ⅱ	1		1	CC23B1b245 - AAA
	「幼児と表現Ⅱ」の指導法	1		1	CC23B2a246 - AAA
	幼児と音楽Ⅰ（Ａ）		1	1	CC22B1a247 - CaE
	幼児と音楽Ⅰ（Ｂ）		1	1	CC22B1b248 - CCE
	幼児と音楽Ⅰ（Ｃ）	1		1	CC23B2a249 - AAA
	幼児と音楽Ⅰ（Ｄ）	1		1	CC23B2b250 - AAE
	幼児と音楽Ⅱ（Ａ）	1		1	CC23B1b251 - AAE
	幼児と音楽Ⅱ（Ｂ）		1	1	CC22B2a252 - CCE
	幼児と体育（Ａ）	1		1	CC23B2a253 - AAA
	幼児と体育（Ｂ）	1		1	CC23B2b254 - AAE
	幼児と図画工作		1	1	CC22B1a255 - CCE
	児童文化		2	2	CC22A1b256 - C0E
	卒業予備研究（Ｂ）		1	1	CC20B1b257 - C00
	卒業研究（Ａ）		1	1	CC20B2a258 - C00
	卒業研究（Ｂ）		1	1	CC20B2b259 - C00
	合計	32	61	93	